

特記仕様書

工事名称	本郷人権文化センター耐震改修等工事（建築主体工事）
工事場所	三原市本郷北三丁目
工事内容	本郷人権文化センター（昭和55年建築、平成12年一部増築改修）を増築し、改修する。 [工事概要] <ul style="list-style-type: none">・エレベーター棟増築<ul style="list-style-type: none">・鉄骨造2階建て・床面積 58.74㎡・内装改修工事・外装改修工事・屋上防水改修工事・付属等解体工事
準 則	公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、建築物解体工事共通仕様書（各 令和7年版 国土交通省官房官庁営繕部監修）に基づき施工する。
別途発注工事	<ul style="list-style-type: none">・本郷人権文化センター耐震改修等工事（電気設備工事）・本郷人権文化センター耐震改修等工事（機械設備工事）・三原市・本郷人権文化センター舗装改修工事
関係法令等	本工事については、次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。 <ul style="list-style-type: none">・建築基準法、同施行令、同施行規則・消防法、同施行令・廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法施行令、同法施行規則・労働安全衛生法、同法施行令、同法施行規則・建設業法、同施行令、同施行規則・建設工事公衆災害防止対策要綱・石綿障害予防規則・大気汚染防止法、振動規制法及び土壌汚染対策法・建設工事に係る再資源化等に関する法律、同法施行令・その他関係法令
疑義変更	本設計図書は、設計の概要を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。 施工に際して疑義が生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに監理者と協議後、監督員の指示により施工すること。ただし、これらに於いて請負金額の増減はなきものとする。 本設計図書と不整合が確認されて設計変更（増額）が必要な場合は、その変更数量が確認できる根拠としての写真などの記録が存在し、かつ監督員に承認されたもの以外は認められない。
提出書類	施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認を受けること。 商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督員の承諾を受けること。 設計図書に定める品質及び性能を有することについて、証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けること。
工 期	本工事は請負契約締結の後、令和9年1月28日をもって工期とする。 このうち検査期間として13日間を見込んでいる。（工事の完成通知予定日は令和9年1月15日。）
留意事項	<ul style="list-style-type: none">・入札に先立ち、現地調査を十分に行うこと。質疑がある場合は入札前に確認すること。・図面について、設計者からの設計意図等の説明が必要な場合は申し出ること。

- ・図面に明示されていない事項であっても、工地上必要とされる事は工事範囲とする。
- ・作業日は、原則、月曜日から金曜日とし、土曜日及び日曜日は休工日とすること。
- ・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。
- ・本工事は「発注者指定型」による週休2日適用工事の対象工事であり、「三原市週休2日適用工事等実施要領（建築工事）」（令和7年6月24日改定）により工事を行うこと。
- ・工事着手前までに「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」に取り組むことを工事打合せ簿にて提出すること。
- ・「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」である旨の表示を工事現場に設置すること。
- ・月単位の週休2日適用工事を達成できなくなった場合は、対象期間中の現場閉所（現場休息）の状況に応じた補正係数により労務費を減額する。
- ・デジタル化を積極的に推進すること。
- ・定例会議の頻度と方法は協議による。方法は現場事務所での現地開催を基本とし、一部Web会議（現場事務所と市役所を想定）併用とする。現場でのWeb会議の環境設定（受注者側がホスト。Web会議の使用料、現場の通信費等を含む。Web会議用カメラ、マイク、スピーカーなどの周辺機器を含む。）は、工事を含む。
- ・紙資料の削減を目的として、電子機器の利用を主とすること。
- ・定例会の資料は、電子データを原則とすること。
- ・受注者は各定例会の前日までに必要な資料を所定の場所に提出すること。
- ・受注者は各定例会後の5日以内に議事録を作成して、所定の場所に提出して出席者に内容を共有すること。
- ・現場事務所には、HDMI規格により出力できるモニター（50インチ以上）を設置すること。
- ・現場事務所内は、無線通信（会議にて同時接続10台以上）が可能な環境とすること。
- ・工事着手の10日より前に住民説明会を開催し、工事の概要を説明すること。日時や場所等については発注者との協議により決定する。
- ・着手にあたり、工事着手前の周辺道路や近隣敷地の状況を写真等により記録しておくこと。
- ・近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。苦情等が発生した場合には誠意をもってこれに対応すること。
- ・近隣において、その他の工事が行われている場合は、取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
- ・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音・振動・粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用すること。
- ・使用する建設機械については、原則、「低騒音型、低振動型建設機械」として国土交通省の指定を受けた機械を選定して使用すること。これが確認できる資料を施工計画書で示すこと。なお、事情により使用が難しい場合は監督員との協議を行うこと。
- ・解体工事・アンカー工事等の騒音・振動・粉じん等の発生が予想される工種については、施工時間及び施工方法等を最大限配慮した計画により作業を行うこと。
- ・粉塵の発生が予想される工事は、確実に散水を行う等して、周辺環境への粉塵飛散がないように作業をすること。
- ・施工箇所周囲の備品・機器等については、粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。養生や移動を行う場合は、事前に施設管理者または所有者に連絡すること。
- ・近隣家屋・敷地または周辺道路に対して、工事による汚れ・損傷・粉じん等を与えた場合は、受注者が責任をもって、速やかに清掃及び補修等を行うこと。誠意をもって対応し、原状復旧に努めること。
- ・周辺道路の保全及び清掃については常に注意を払って監視をし、定期的に清掃を行うこと。
- ・敷地境界付近には仮囲い（高さ3m以上）を設置すること。
- ・第三者災害防止及び飛散防止対策のために、必要に応じて監督員が指示する範囲にバリケード等を設置すること。
- ・工事期間中は、工事用出入口に交通誘導員を常時配置し、付近の交通の安全を図ること。その他、必要な場所に交通誘導員を配置し、事故及び危険防止に努めること。
- ・交通誘導員は本工事で見込んでいる。実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更（減額）の対象とする。
- ・工事車両の通行については、近隣住民及び通学児童等の安全を最優先すること。
- ・工事車両は、幅員の広い道路の通行を基本とし、住宅地内などの狭い道を抜け道として使用しないこと。工事車両の周辺の通行経路については、工事着手前に発注者の了承を得ること。
- ・特殊車両の搬出入の有無については、工事着手前に発注者と確認すること。
- ・特殊車両の搬出入を夜間や早朝に行う必要がある場合は、発注者との協議の上で、事前に近隣住民等へ案内文のポスティング等を行うこと。
- ・工事車両は、場内を5km/h以下で徐行すること。場内に注意喚起表示を行うこと。
- ・場内に喫煙所を設ける場合は、施設使用者と近隣住民へ配慮し、設置位置と使用方法を協議してから設けること。使用方法を作業員に周知徹底すること。

- ・工事区域内の残置する設備配管・配線等については、事前に位置を確認してから作業を行うこと。事前調査記録を作成すること。
- ・記念碑等の移設が必要な場合は、事前に関係者と移設場所・方法・時期等を協議の上で実施すること。
- ・監視カメラ・仮設照明・養生用鉄板を適切に設置すること。
- ・敷地の出入口付近には、敷鉄板（下部に砕石敷）を敷き、高圧洗浄機・水中ポンプ・ノッチタンク等を適切に設置すること。工事車両のタイヤ洗浄等により、道路を汚さないように配慮すること。
- ・工事中の雨水・湧水・洗浄水等の排水については、ノッチタンクによる汚泥等の処理を行う等した上で、適切に排水すること。定期的にpHを測定し、必要に応じて適宜中和を行うこと。
- ・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
- ・仮囲い、足場、山留、型枠支保工、構台等の仮設については、施工者が計算等により責任をもって決定し、計画通りに施工すること。仮設置期間は日常点検を行い、記録に残すこと。
- ・図面等に示されている仮設等についても、必ず受注者で安全性や施工性等を検証すること。受注者が責任をもって設置、施工すること。
- ・足場設置期間中は、シート等の飛散が無いように定期的に点検を行うこと。
- ・台風等の強風等異常気象が見込まれる場合は、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。また、必要に応じて現場巡視と災害防止対策を行うこと。
- ・足場については、交差筋交い及び外部シートとは別に、高さ15センチメートル以上の幅木を外部・内部の両側に設置すること。（※労働安全衛生法の基準以上の足場とし、安全に配慮する。）
- ・足場については「手すり先行工法等に関するガイドライン」における「手すり先行工法等に関する基準」、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する施工方法にて設置、解体をすること。（親綱は手摺とは扱わない。）
- ・外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
- ・工事に係る電気、水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
- ・工事の要求に必要な仮設は、工事に含むものとする。
- ・重機が転倒しないように事前検討を行い、安全に作業を行うこと。
- ・配筋検査は、受注者による自主検査を行ったうえ、監理者及び監督員による検査を受検すること。なお、これらの検査は、種類・径・数量についての全数検査を行うこと。
- ・配筋検査前に、上記内容はもとより、継手定着長さ・位置、かぶり厚さ、鉄筋のあき寸法など、設計図書通りに施工されていることを確認してから検査に臨むこと。
- ・コンクリートの調合は、標準仕様書に基づき構造体強度補正を見込む。（原則、外構工事を含む。無筋コンクリートは除く。）
- ・コンクリート打設後の所定期間中は、散水等による湿潤養生を適切に行うこと。
- ・木工事で使用する木材の産出地は、原則、広島県産材（可能な範囲で三原市産材）とすること。
- ・工事完了後に、木工事で使用する木材の産出地について、数量を整理して提出すること。
- ・家具については転倒防止対策のため、床及び壁へ固定すること。
- ・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、枠その他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については、引渡しの日の翌日から10年間責任を負うこと。このことについて、保証書を作成して提出すること。（改修工事については、本工事の範囲）
- ・機械的固定方法を行う施工箇所については、事前に引き抜き試験にて引き抜き強度を測定し、耐風圧性能の検証を行うこと。
- ・自動ドアについては、JIS4722に適合させること。（改修工事については、改修する自動ドアに限る。）
- ・鍵のプランについては、協議の上で同一キーとする箇所を確認すること。
- ・シリンダーキーについては、既存のグランドマスターキー及びマスターキーに取り込むこと。
- ・既存壁紙(クロス)撤去については、既存壁紙(クロス)の裏紙が残らないように処理し、完全に撤去すること。
- ・「①建築物を解体する作業を伴う建設工事であって、当該作業の対象となる床面積の合計が80㎡以上であるもの」、「②建築物を改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」、「③工作物を解体し、改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」については、事前調査結果を労働基準監督署及び広島県東部厚生環境事務所環境管理課に報告すること。
- ・石綿含有建材の調査（書面・目視調査、分析調査調査及び検体採取を含む）について、工事着手前までに一般建築物石綿含有建材調査者、または特定建築物石綿含有建材調査者が行うこと。
- ・その他石綿の飛散防止等については、改正大気汚染防止法及び施行令（令和3年4月1日施行）に基づくこと。
- ・石綿含有分析調査は試料採取と分析調査費を見込んでいる。分析は定性（JIS A 1481-1。含有の場合は、含有する層の判定も行う。）による。

- ・石綿含有塗材除去作業に当たっては、原則として事前に試験施工を行い、除去後の検体を採取することによって、石綿が除去されることを確認すること。分析調査費等は見込んでいる。
- ・作業員に対して、新規入場教育時に石綿含有建材の位置を確認させること。
- ・石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアル(最新版)に基づくこと。
- ・既存照明機器(安定器等)又はシーリング材等のPCB含有調査を見込んでいる。
- ・仮使用申請、道路使用、道路改築申請等の工事に必要な各種手続きは、受注者の負担により遅滞なく行うこと。
- ・昇降機その他の建築設備について、計画通知等の申請手続き等を行うこと。
- ・その他、工事に伴う官公庁等への手続きは、受注者により遅滞なく行うこと。この時、各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
- ・本工事は別途契約の工事と施工上密接に関連するため、本工事の受注者が調整を行うこと。
- ・工程計画、取り合い工事及び工事用車両の出入り等については、当該別途契約の工事関係者と互いに協力し合い、相互の工事を考慮した上で十分調整し、工事の円滑な施工に務めること。
- ・足場、交通誘導員、工事関係者駐車場用地等は、建築主体工事に見込んでいるが、別途発注工事業者も使用できるものとする。(維持管理上必要な費用は、各業者で協議の上分担すること。)
- ・品質について、社内検査員(当該工事に従事していない者)を定め、設計図書に基づき社内検査を実施し、書類等の記録に残すこと。
- ・大雨等の警報が発令した場合、また台風及び強風等による自然災害の発生が予測される場合は、現場代理人等は現場事務所等へ待機のうえ、現場及び周囲の巡回を行うとともに必要に応じて対策を講じ報告すること。
- ・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ理由を添えて発注者の承認を受けること。(理由については、三原市内三原市内に主たる営業所を有する業者に発注できない具体的な理由を明記すること。)
- ・熱中症対策として、従業員及び作業員が必要に応じて水分を補給できるよう作業所に給水設備を設置すること。
- ・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
- ・各工程の状況(写真、進捗率等を月2回程度)を工事中情報共有システムの連絡事項にて報告すること。
- ・書面での提出が必要なもの(建退共の掛金収納書、試験結果、保証書等)については、PDFを工事中情報共有システムで提出し、別に書面提出ファイルとしてまとめて提出すること。
(2部)にて提出すること。
- ・工期から10日以内に、製本図面(A3縮小版・二つ折り)として完成図を3部提出すること。
- ・以下の設計図面は、A2判をA3判に縮小している。(縮小率約70.7%)

本郷人権文化センター耐震改修等工事 (建築主体工事)

図面リスト

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
A-0	表紙・図面リスト	—	A-40	2階平面詳細図(改修後)	1/50	S-1	構造特記仕様書	—	E V-1	昇降機設備図(1)	—
A-1	建築改修工事特記仕様書(1)	—	A-41	展開図1(改修前)	1/50	S-2	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	—	E V-2	昇降機設備図(2)	1/30
A-2	建築改修工事特記仕様書(2)	—	A-42	展開図2(改修前)	1/50	S-3	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	—	E V-3	昇降機設備図(3)	1/30
A-3	建築改修工事特記仕様書(3)	—	A-43	展開図3(改修前)	1/50	S-4	鉄骨構造標準図(1)	—	E V-4	昇降機設備図(4)	1/50
A-4	建築改修工事特記仕様書(4)	—	A-44	展開図4(改修前)	1/50	S-5	鉄骨構造標準図(2)	—	E V-5	昇降機設備図(5)	1/30
A-5	建築改修工事特記仕様書(5)	—	A-45	展開図5(改修前)	1/50	S-6	ダイヤレンS設計・施工標準仕様	—			
A-6	建築改修工事特記仕様書(6)	—	A-46	展開図1(改修後)	1/50	S-7	スーパーデッキ設計・施工標準図	—			
A-7	建築改修工事特記仕様書(7)	—	A-47	展開図2(改修後)	1/50	S-8	HRC構法 設計施工標準図	—			
A-8	建築改修工事特記仕様書(8)	—	A-48	展開図3(改修後)	1/50	S-9	ボーリング柱状図	1/50			
A-9	建築改修工事特記仕様書(9)	—	A-49	展開図4(改修後)	1/50	S-10	伏図	1/100			
A-10	工事区分表	—	A-50	展開図5(改修後)	1/50	S-11	軸組図	1/100			
A-11	敷地案内図、配置図	1/200	A-51	1・2階天井伏図(改修前)	1/100	S-12	柱脚リスト・地中梁リスト 基礎スラブリスト・EVビット配筋図	1/40・1/30			
A-12	敷地求積図	1/200	A-52	1・2階天井伏図(改修後)	1/100	S-13	鉄骨リスト	1/30			
A-13	面積表及び求積図	1/200	A-53	1階建具位置図	1/100	S-14	鉄骨継手リスト	1/20			
A-14	仕上表(1)	—	A-54	2階建具位置図	1/100	S-15	鉄骨詳細図	1/30			
A-15	仕上表(2)	—	A-55	建具表(1)	1/100						
A-16	仕上表(3)	—	A-56	建具表(2)	1/100						
A-17	仕上表(4)	—	A-57	建具表(3)	1/100						
A-18	1階平面図	1/100	A-58	法規チェックリスト	—						
A-19	2階平面図	1/100	A-59	部分詳細図1	1/20						
A-20	3階平面図	1/100	A-60	部分詳細図2	1/20						
A-21	屋根伏図	1/100	A-61	1階・2階 中軽量棚・軽量棚 配置図	1/50						
A-22	立面図(改修前)	1/100	A-62	1階・2階 中軽量棚・軽量棚 姿図	1/30						
A-23	立面図(改修後)	1/100	A-63	1階・2階 中軽量棚 姿図	1/30						
A-24	断面図	1/100	A-64	解体建物詳細図(カーポート、車庫倉庫)	1/100						
A-25	矩計図(改修前)	1/50	A-65	解体建物詳細図(ほんごう子ども広場棟)	1/30, 1/50						
A-26	矩計図(改修後)	1/50	A-66	外構配置図(改修前)	1/50, 1/100						
A-27	断面詳細図1(改修前)	1/50	A-67	外構詳細図(改修前)	1/100						
A-28	断面詳細図1(改修後)	1/50	A-68	外構配置図(改修後)	1/30						
A-29	断面詳細図2(改修前)	1/50	A-69	外構詳細図(改修後)	1/100						
A-30	断面詳細図2(改修後)	1/50	A-70	(参考)仮設計画配置図							
A-31	断面詳細図3(改修前)	1/50									
A-32	断面詳細図3(改修後)	1/50									
A-33	断面詳細図4(改修前)	1/50									
A-34	断面詳細図4(改修後)	1/50									
A-35	1階便所廻り平面詳細図	1/50									
A-36	1階平面詳細図(改修前)	1/50									
A-37	1階平面詳細図(改修後)	1/50									
A-38	2階ホール廻り平面詳細図	1/50									
A-39	2階平面詳細図(改修前)	1/50									

3	① 降雨等に対する養生方法	※ 改修標準仕様書 3.1.3(5) (7)~(9)による。 [3.1.3]																																				
	② 既存防水の処理	既存保護層の除去 ・ 行う (範囲 ※ 図示) ○ 行わない 既存防水層の除去 ○ 行う (範囲 ※ 図示) ○ 行わない 既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去 (・ M4S ・ M4S1 ・ M4C ・ M4D1 ○ L4X) [3.1.4] [3.2.3、4、6]																																				
③	既存下地の処理	既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示 POS工法及びPOS1工法 (機械的固定工法) の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理 ※ 改修標準仕様書 3.2.6(4) (9) (10)~(13)による 設備機器架台、配管受部、パラベト、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、埋入出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ※ 図示。ただし、図示が無いものは監督職員と協議する [3.2.6]																																				
④	アスファルト防水	屋根保護防水 防水層の種類 [3.3.2~5]																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>断熱材</th> <th>絶縁用シート</th> <th>立上り部の保護</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ P 2 A</td> <td>・ A-1 ※ A-2 ・ A-3</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">※ポリエチレン フィルム 厚さ 0.15mm以上 又はフラット ヤーンクロス 70g/m²程度</td> <td rowspan="2">・ 乾式保護材 ・ コンクリート ・ れんが押入 ※ JIS R 1250</td> </tr> <tr> <td>・ B-1 ※ B-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ P 2 A I</td> <td>・ A I-1 ※ A I-2 ・ A I-3</td> <td rowspan="2">(材質) JISA9521に基づく押出法 ポリスチレンフォーム断 熱材3種 b A (スキン層 (厚さ) (mm) ※25・50</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">※フラット ヤーンクロス 70g/m²程度</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・ B I-1 ※ B I-2</td> </tr> </tbody> </table>			工法	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護	・ P 2 A	・ A-1 ※ A-2 ・ A-3			※ポリエチレン フィルム 厚さ 0.15mm以上 又はフラット ヤーンクロス 70g/m ² 程度	・ 乾式保護材 ・ コンクリート ・ れんが押入 ※ JIS R 1250	・ B-1 ※ B-2	・ P 2 A I	・ A I-1 ※ A I-2 ・ A I-3	(材質) JISA9521に基づく押出法 ポリスチレンフォーム断 熱材3種 b A (スキン層 (厚さ) (mm) ※25・50		※フラット ヤーンクロス 70g/m ² 程度		・ B I-1 ※ B I-2																
工法	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護																																	
・ P 2 A	・ A-1 ※ A-2 ・ A-3			※ポリエチレン フィルム 厚さ 0.15mm以上 又はフラット ヤーンクロス 70g/m ² 程度	・ 乾式保護材 ・ コンクリート ・ れんが押入 ※ JIS R 1250																																	
	・ B-1 ※ B-2																																					
・ P 2 A I	・ A I-1 ※ A I-2 ・ A I-3	(材質) JISA9521に基づく押出法 ポリスチレンフォーム断 熱材3種 b A (スキン層 (厚さ) (mm) ※25・50		※フラット ヤーンクロス 70g/m ² 程度																																		
	・ B I-1 ※ B I-2																																					
<p>改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書 3.3.3から表 3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書 3.3.3から表 3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>平場の保護コンクリートの厚さにて仕上げ こて仕上げ ※ 水下 80mm以上 床タイル張り ※ 水下 60mm以上</p> <p>乾式保護材 産業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形シートクレープ養生したものの。 金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したものの。</p> <p>(品質・性能)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類・規格</th> <th>産業系パネル I 類</th> <th>金属複合板</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寸法 (mm)</td> <td>厚さ (mm) 幅 (mm)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>寸法の許容差</td> <td colspan="2">厚さ：+10%、-5%、幅：±1%</td> </tr> <tr> <td>出荷時の含水率</td> <td colspan="2">出荷時において10%以下</td> </tr> <tr> <td>曲げ強さ・曲げモーメント (N・cm)</td> <td>標準時 550以上</td> <td>300以上</td> </tr> <tr> <td>凍結融解完了時 (スパン40cmにおける単位幅1cmあたりの曲げモーメント)</td> <td>400以上 (300)</td> <td>250以上 (300)</td> </tr> <tr> <td>吸水率 (%)</td> <td>20以下</td> <td>1以下</td> </tr> <tr> <td>吸水による長さ変化率 (%)</td> <td>0.07以下</td> <td>0.01以下</td> </tr> <tr> <td>難燃性</td> <td>不燃</td> <td>表面材は不燃</td> </tr> <tr> <td>耐凍結融解性能</td> <td>300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。 (明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)</td> <td>300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。 (明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)</td> </tr> <tr> <td>耐衝撃性能</td> <td>質量500g (産業系パネル I 類は1,000g) のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。</td> <td>質量500g (なす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。</td> </tr> <tr> <td>剛性 (E×I)</td> <td>—</td> <td>80,000N・cm²以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(試験方法) (1) 寸法の測定方法 (厚さ) 供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めパネルの厚さとする。 (幅) 供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央1箇所の幅寸法を、JIS B 7512「鋼巻尺」に規定する目量1mmの1級コンペックススルー尺又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する目量1mmの1級直尺を用いて測定する。 (2) 曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。(産業系パネル II 類は200サイクルまでとする。) なお、荷重を加える時の平均速度は、1~3分間で予想最大荷重に達する程度とする。 (3) 吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。 (4) 難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。</p>			分類・規格	産業系パネル I 類	金属複合板	寸法 (mm)	厚さ (mm) 幅 (mm)		寸法の許容差	厚さ：+10%、-5%、幅：±1%		出荷時の含水率	出荷時において10%以下		曲げ強さ・曲げモーメント (N・cm)	標準時 550以上	300以上	凍結融解完了時 (スパン40cmにおける単位幅1cmあたりの曲げモーメント)	400以上 (300)	250以上 (300)	吸水率 (%)	20以下	1以下	吸水による長さ変化率 (%)	0.07以下	0.01以下	難燃性	不燃	表面材は不燃	耐凍結融解性能	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。 (明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。 (明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)	耐衝撃性能	質量500g (産業系パネル I 類は1,000g) のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。	質量500g (なす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。	剛性 (E×I)	—	80,000N・cm ² 以上
分類・規格	産業系パネル I 類	金属複合板																																				
寸法 (mm)	厚さ (mm) 幅 (mm)																																					
寸法の許容差	厚さ：+10%、-5%、幅：±1%																																					
出荷時の含水率	出荷時において10%以下																																					
曲げ強さ・曲げモーメント (N・cm)	標準時 550以上	300以上																																				
凍結融解完了時 (スパン40cmにおける単位幅1cmあたりの曲げモーメント)	400以上 (300)	250以上 (300)																																				
吸水率 (%)	20以下	1以下																																				
吸水による長さ変化率 (%)	0.07以下	0.01以下																																				
難燃性	不燃	表面材は不燃																																				
耐凍結融解性能	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。 (明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。 (明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)																																				
耐衝撃性能	質量500g (産業系パネル I 類は1,000g) のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。	質量500g (なす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。																																				
剛性 (E×I)	—	80,000N・cm ² 以上																																				

<p>(5) 吸水による長さ変化率試験は、試験体 (幅40mm×長さ160mm×素材厚さ) を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム (試薬)」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥機」に規定する品目に適合するシリカゲルで調湿したデシケートに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の縦線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて縦線間の長さを測定し、それを基準 (L1) とする。次に試験片の長さ方向を水平にこぼ立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び縦線間の長さ (L2) を測る。 吸水による長さ変化率 (ΔL) は、次式によって求める。 (ΔL) = (L2 - L1) / L1 × 100 ΔL : 吸水による長さ変化率 (%) L1 : 乾燥時の縦線間の長さ (mm) L2 : 吸水時の縦線間の長さ (mm)</p> <p>(6) 耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「産業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。(産業系パネル II 類は200サイクルまでとする。) 凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5~35℃の清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、-20±3℃の気中で約2時間の凍結20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。</p> <p>(7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持方法による。 試験体の大きさは、4号 (長さ400mm、幅300mm) とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号 (W1-1000)、質量1,000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。</p>																																																		
<p>屋根露出防水 防水層の種類 [3.4.2、3]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">高日射反 射率の防 水</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">・ M4C</td> <td rowspan="4">・ C-1 ※ C-2 ・ C-3 ・ C-4</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">※製造所の仕様</td> <td rowspan="4">・ 適用する</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ M3D ・ POD</td> <td rowspan="3">・ D-1 ※ D-2</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">※製造所の仕様</td> <td rowspan="3">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ P0D1 ・ M3D1</td> <td rowspan="2">※ D1-1 ※ D1-2</td> <td rowspan="2">JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材 2種 2号 (厚さ) (mm) ※25・50</td> <td rowspan="2">・ 適用する</td> <td rowspan="2">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td>・ M4D1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書 3.3.3から表 3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書 3.3.3から表 3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>脱気装置の種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 脱気装置の設置数量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 (個)</p> <p>屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフトレンドリ回り及び立上り部周辺の断熱材の張り じまい位置 ※ 図示</p> <p>屋内防水</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ P 1 E</td> <td>・ E-1</td> <td rowspan="2">E-1の場合で工程3を行う部位 (※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位) 保護層 ・ 設ける (※ 図示) ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td>・ P 2 E</td> <td>※ E-2</td> </tr> </tbody> </table> <p>立上り部の押入金物の材質、形状及び寸法 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 屋上排水溝 ・ 図示</p>						工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反 射率の防 水	備考	種類	使用量	・ M4C	・ C-1 ※ C-2 ・ C-3 ・ C-4					※製造所の仕様	・ 適用する	・ M3D ・ POD	・ D-1 ※ D-2			※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない	・ P0D1 ・ M3D1	※ D1-1 ※ D1-2	JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材 2種 2号 (厚さ) (mm) ※25・50	・ 適用する	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設けない	・ M4D1				工法	種別	施工場所	・ P 1 E	・ E-1	E-1の場合で工程3を行う部位 (※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位) 保護層 ・ 設ける (※ 図示) ・ 設けない	・ P 2 E	※ E-2				
工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料						高日射反 射率の防 水	備考																																							
				種類	使用量																																													
・ M4C	・ C-1 ※ C-2 ・ C-3 ・ C-4					※製造所の仕様	・ 適用する																																											
								・ M3D ・ POD	・ D-1 ※ D-2			※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない																																					
														・ P0D1 ・ M3D1	※ D1-1 ※ D1-2	JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材 2種 2号 (厚さ) (mm) ※25・50	・ 適用する	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設けない																																
																			・ M4D1																															
工法	種別	施工場所																																																
・ P 1 E	・ E-1	E-1の場合で工程3を行う部位 (※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位) 保護層 ・ 設ける (※ 図示) ・ 設けない																																																
・ P 2 E	※ E-2																																																	
<p>5 改質アスファルトシート防水 [3.4.2、3]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">高日射反 射率の防 水</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・ M4S ・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-J2</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">※製造所の仕様</td> <td rowspan="3">・ 適用する</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ M3AS ・ AS-T3 ・ AS-T4</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">※製造所の仕様</td> <td rowspan="2">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td>・ POAS ○ AS-J1 事務室部屋根</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ S3AS ・ AS-J3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ M4S1 ・ M4S1 ・ POAS1</td> <td rowspan="3">・ ASI-T1 ・ ASI-J1</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材 2種 2号 (厚さ) (mm) ※25mm ・ 50mm</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">※製造所の仕様</td> <td rowspan="3">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない 防湿層 ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> </tbody> </table>						工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反 射率の防 水	備考	種類	使用量	・ M4S ・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-J2						※製造所の仕様	・ 適用する	・ M3AS ・ AS-T3 ・ AS-T4				※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない	・ POAS ○ AS-J1 事務室部屋根					○ S3AS ・ AS-J3								・ M4S1 ・ M4S1 ・ POAS1	・ ASI-T1 ・ ASI-J1		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材 2種 2号 (厚さ) (mm) ※25mm ・ 50mm			※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない 防湿層 ・ 設ける ・ 設けない
工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料						高日射反 射率の防 水	備考																																							
				種類	使用量																																													
・ M4S ・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-J2						※製造所の仕様	・ 適用する																																											
								・ M3AS ・ AS-T3 ・ AS-T4				※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない																																					
														・ POAS ○ AS-J1 事務室部屋根																																				
○ S3AS ・ AS-J3																																																		
・ M4S1 ・ M4S1 ・ POAS1	・ ASI-T1 ・ ASI-J1		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材 2種 2号 (厚さ) (mm) ※25mm ・ 50mm			※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない 防湿層 ・ 設ける ・ 設けない																																											

<p>6 合成高分子ルーフィングシート防水 [3.5.2~4] [表 3.5.1~3]</p> <p>改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書 3.4.1から表 3.4.3による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書 3.4.1から表 3.4.3による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書 3.4.1から表 3.4.3による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>脱気装置の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 脱気装置の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 (個)</p> <p>立上り部の押入金物の材質、形状及び寸法 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度</p> <p>絶縁断熱工法の防水シート ・ 設置する ・ 設置しない</p>																																																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">高日射反 射率防 水</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">・ POS ・ S4S</td> <td rowspan="4">・ S-F1</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">※製造所の仕様</td> <td rowspan="4">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ S-F2 ・ S-M1</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">※製造所の仕様</td> <td rowspan="3">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ S-M2</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td>・ S-F2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ M4S ・ S-M1</td> <td rowspan="2">・ S-M1</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">※製造所の仕様</td> <td rowspan="2">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td>・ S-M2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">・ POS1 ・ S3S1 ・ S4S1 ・ M4S1</td> <td rowspan="4">・ SI-F1</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">※製造所の仕様</td> <td rowspan="4">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ SI-F2 ・ SI-M1</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">※製造所の仕様</td> <td rowspan="3">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ SI-M2</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td>・ SI-M1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様 ※ 非歩行用 ・ 軽歩行用 S1-M1及びS1-M2における防湿用フィルムの設置 ※ 設置しない ・ 設置する S1-M2の絶縁用シートの材質 ※ 発泡ポリエチレンシート S-M2及びS1-M2の立上り部の工法 ※ 接着工法 (立ち上がり面のシートの厚さ ※ 1.5mm) ・ 機械的固定工法</p> <p>屋内防水 防水層の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">保護層</th> </tr> <tr> <th>平場のモルタル塗り</th> <th>立上り部の保護モルタルの塗厚</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ S-C1</td> <td></td> <td>塗厚 工法 ・ 床塗り ・ 下地モルタル塗り</td> <td>※ 7mm以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ 合成高分子ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書 3.5.1から表 3.5.3による ・ JIS A 6008に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの</p> <p>脱気装置の種類及び設置数量 接着工法の場合の脱気装置の種類 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 接着工法の場合の脱気装置の設置数量 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 (個) プレキャストコンクリート部材の目地処理 (接着工法の場合) ・ 行う (※ 図示) ・ 行わない プレキャストコンクリート部材の隅部の増張り (種別S-F1、SI-F1の場合) ・ 行う (※ 図示) ・ 行わない 機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け 1章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法</p>						工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反 射率防 水	備考	種類	使用量	・ POS ・ S4S	・ S-F1					※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない	・ S-F2 ・ S-M1				※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない	・ S-M2				脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない	・ S-F2					・ M4S ・ S-M1	・ S-M1					※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない	・ S-M2					・ POS1 ・ S3S1 ・ S4S1 ・ M4S1	・ SI-F1					※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない	・ SI-F2 ・ SI-M1				※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない	・ SI-M2				脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない	・ SI-M1					種別	施工箇所	保護層		平場のモルタル塗り	立上り部の保護モルタルの塗厚	・ S-C1		塗厚 工法 ・ 床塗り ・ 下地モルタル塗り	※ 7mm以下
工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料						高日射反 射率防 水	備考																																																																											
				種類	使用量																																																																																	
・ POS ・ S4S	・ S-F1					※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない																																																																															
								・ S-F2 ・ S-M1				※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない																																																																									
														・ S-M2				脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない																																																																				
																			・ S-F2																																																																			
・ M4S ・ S-M1	・ S-M1					※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない																																																																															
								・ S-M2																																																																														
・ POS1 ・ S3S1 ・ S4S1 ・ M4S1	・ SI-F1					※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない																																																																															
								・ SI-F2 ・ SI-M1				※製造所の仕様	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない																																																																									
														・ SI-M2				脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない																																																																				
																			・ SI-M1																																																																			
種別	施工箇所	保護層																																																																																				
		平場のモルタル塗り	立上り部の保護モルタルの塗厚																																																																																			
・ S-C1		塗厚 工法 ・ 床塗り ・ 下地モルタル塗り	※ 7mm以下																																																																																			

7	塗膜防水	防水層の種類 [3.6.2、3]																													
	⑧ シーリング	シーリング改修工法の種類 ・ シーリング充填工法 ○ シーリング再充填工法 ・ 拡幅シーリング再充填工法 ・ プリッジ工法 ボンドブローカー張り ・ 適用する ・ 適用しない エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない シーリング材の種類、施工箇所 下表以外は、改修標準仕様書 3.7.1による 施工箇所 シーリング材の種類 (記号)																													
9	⑨ とい	<p>といの材質 ・ 配管用鋼管 [3.8.2.3] ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・ ルーフドレン ・ 表面処理鋼板 (表面及び裏面の塗膜の種類)</p> <p>ルーフトレンドレン</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ろく屋根用 (・ 縦型 ・ 横型)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ バルコニー用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ バルコニー中継用</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>とい受け金物及び足金物の材質、形状及び取付け間隔 ※ 改修標準仕様書 3.8.2により、溶融亜鉛めっきを行ったもの 多雪地域 ・ 適用する 防露材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ 既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※ 図示 鋼管製といの防露巻き ※ 改修標準仕様書 3.8.4による ・ たてとい受金物の取付け ※ 図示</p>	種別	施工箇所	・ ろく屋根用 (・ 縦型 ・ 横型)		・ バルコニー用		・ バルコニー中継用																						
	種別	施工箇所																													
・ ろく屋根用 (・ 縦型 ・ 横型)																															
・ バルコニー用																															
・ バルコニー中継用																															
10	アルミニウム製窓木	<p>種類 ・ オープン形式 (・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形) ・ 板材折曲げ形 (・ オープン形式 ・ シール形式) 本体幅 () mm 板厚 (※ 2.0mm) mm 表面処理 種類 () 種 色合等 ・ 標準色 () ・ 特注色 () 既存窓木等の撤去 ・ 行う (範囲 ※ 図示) ・ 行わない 下地補修の工法 ※ 図示 板材折曲げ形の窓木の取付方法 ※ 図示 窓木の固定金具の工法等 1章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 [3.9.2、3]</p> <p>防水改修フロー及び数量 ・ 既存保護層の補修及び処置</p> <p>防水面調査 (施工数量調査)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">ひび割れ部補修</th> <th>欠損部改修</th> <th>浮き部補修</th> <th>ぜい弱部補修</th> <th>既存目地欠損部補修</th> <th>既存目地欠損部補修 (脱気に利用する場合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスファルト防水工事用シール材 (幅2mm未満)</td> <td>リカットのうえポリウレタン系シーリング材 (幅2mm以上)</td> <td>ポリマーセメントモルタル補修</td> <td>ポリマーセメントモルタル補修</td> <td>撤去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修</td> <td>ケレン等のうえ、ポリマーセメントモルタル補修</td> <td>アスファルト防水工事用シール材</td> </tr> <tr> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m2</td> <td>0m2</td> <td>0m2</td> <td>0m</td> </tr> </tbody> </table> <p>シーリング改修 シーリング再充填工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">mm × mm</th> <th colspan="2">mm × mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> </tr> </tbody> </table>	ひび割れ部補修		欠損部改修	浮き部補修	ぜい弱部補修	既存目地欠損部補修	既存目地欠損部補修 (脱気に利用する場合)	アスファルト防水工事用シール材 (幅2mm未満)	リカットのうえポリウレタン系シーリング材 (幅2mm以上)	ポリマーセメントモルタル補修	ポリマーセメントモルタル補修	撤去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修	ケレン等のうえ、ポリマーセメントモルタル補修	アスファルト防水工事用シール材	0m	0m	0m	0m2	0m2	0m2	0m	mm × mm		mm × mm		0m	0m	0m	0m
ひび割れ部補修		欠損部改修	浮き部補修	ぜい弱部補修	既存目地欠損部補修	既存目地欠損部補修 (脱気に利用する場合)																									
アスファルト防水工事用シール材 (幅2mm未満)	リカットのうえポリウレタン系シーリング材 (幅2mm以上)	ポリマーセメントモルタル補修	ポリマーセメントモルタル補修	撤去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修	ケレン等のうえ、ポリマーセメントモルタル補修	アスファルト防水工事用シール材																									
0m	0m	0m	0m2	0m2	0m2	0m																									
mm × mm		mm × mm																													
0m	0m	0m	0m																												

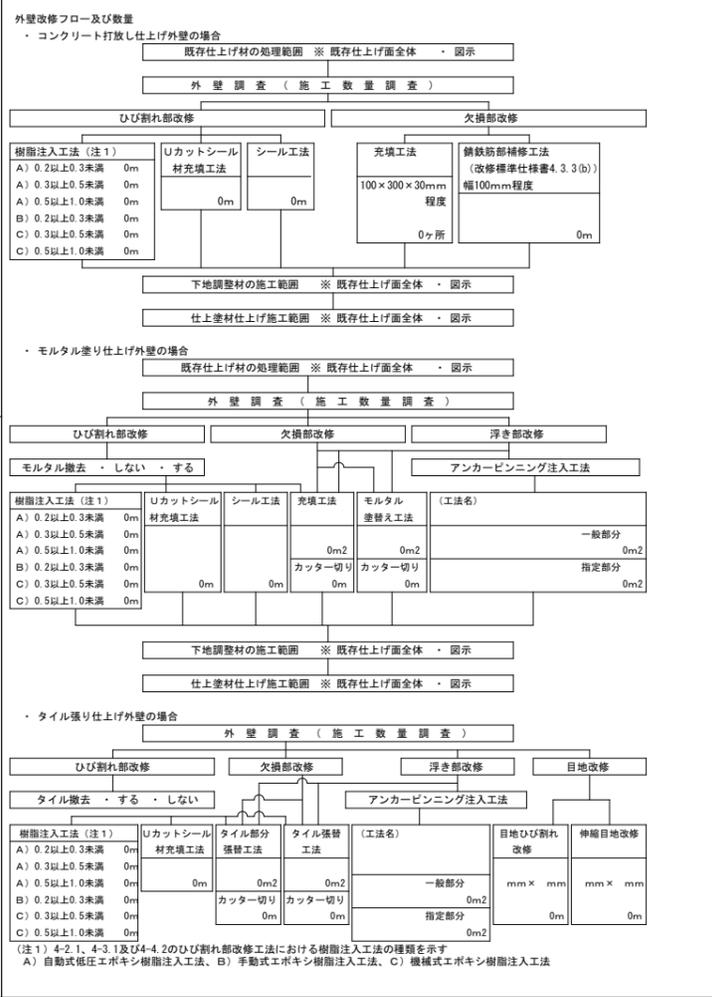
4-1 外壁改修工事 (共通事項)	① ポリマーセメントモルタル	(品質・性能) [4.2.2] 項目 品質・性能 だれ 下がり量 (mm) 5以内 表面の状態 ひび割れの発生が無いこと。 曲げ強さ (N/mm ²) 6以上 圧縮強さ (N/mm ²) 20.0以上 接着強さ (N/mm ²) 標準条件 1.0以上 特殊条件 遅延時 0.0以上 低温時 0.5以上 透水性 裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。 その他 1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルジョンは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。
	② ポリマーセメントスラリー	(品質・性能) [4.2.2] 広がり速度 (cm/s) 長さ変化率 (収縮) (%) 引張接着性 (材齢28日) (N/mm ²) 曲げ性能 (材齢28日) (N/mm ²) 吸水性 (%) (劣化曲げ強さ) (N/mm ²) 耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm ²) 3以上 3以下 0.5以上 5.0以上 15以下 5.0以上 保水係数 0.35~0.55 粘弾係数 0.50~1.00
	③ 吸水調整材	改修標準仕様書表4.3.2による [4.3.5]
	④ 既調合モルタル	モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 [4.3.5] (品質・性能) 項目 品質・性能 項目 品質・性能 保水率 70.0%以上 長さ変化率 0.20%以下 単位容積質量 1.80 g/L以上 曲げ強さ 4.0N/mm ² 以上 接着強さ 標準時 0.60N/mm ² 以上 遅延時 0.40N/mm ² 以上 (試験方法) (1) 試験の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばらに留意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 (2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦150mm、横150mm、厚さ5mm) の上にJIS P3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径11cm) をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型を (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(1) で調製した試料を平滑に詰め込む。 その後、直ちにリング型を上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分経過した後にじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さ±0.5mmを用いて、1mmの単位まで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率=50/平均値×100 (注) 50: リング型の内径 mm (3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 (4) 接着強さ (標準時) の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による形状の「50角ユニットタイル (外の寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A 6909「建築用仕上塗材」の10.付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さを試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全て0.6N/mm ² 以上を確保していること) また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。 T : タイルの母材破断 TM : 既調合モルタルとタイルの界面破断 M : 既調合モルタルの母材破断 MG : 既調合モルタルと下地板の界面破断 G : 下地板の母材破断 ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1) で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による形状の「小口タイル 108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 (5) 接着強さ (遅延時) の試験方法 (試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4) 接着強さ (標準時) の試験方法の「試験体」と同様とする。 (遅延時) の試験方法 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11遅延時試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰り返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及びぬれの有無を目視によって調べる。 (遅延時) の試験方法 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々遅延時試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全て0.4N/mm ² 以上を確保していること) (6) 長さ変化率の試験方法 JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスページョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。 (7) 曲げ強さの試験方法 JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。 試験室の状態: 試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。

4-2 外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上外壁)	1 ひび割れ部改修工法	※ 樹脂注入工法 [4.1.4] [4.2.4、5、6、7] 工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入間隔 (mm) 注入量 (mL/m) ※ 自動式低圧エポキシ樹脂 0.2以上0.3未満 ※40 - 注入工法 0.3以上0.5未満 200~300 ※40 - 0.5以上1.0未満 ※70 - ・ 自動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50~100 ※40 - ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100~200 ※70 - 0.5以上1.0未満 150~250 ※130 - 注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料 ※ 1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない ※ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 ※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂
	2 欠損部改修工法	※ 充填工法 [4.1.4] [4.2.4、8] ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル
	3 浮き部改修工法	※ モルタルを撤去しないで改修 [4.1.4] [4.3.5、6、7、8] ※ 樹脂注入工法 工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入間隔 (mm) 注入量 (mL/m) ※ 自動式低圧エポキシ樹脂 0.2以上0.3未満 ※40 - 注入工法 0.3以上0.5未満 200~300 ※40 - 0.5以上1.0未満 ※70 - ・ 自動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50~100 ※40 - ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100~200 ※70 - 0.5以上1.0未満 150~250 ※130 - 注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料の種類 ※ 1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない ※ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 ※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 モルタルを撤去して改修 モルタル撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上外壁) による モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による
	4 外壁改修工法	※ 充填工法 (欠損部の面積が0.25m ² /箇所程度以下の場合) [4.1.4] [4.3.9、10] 充填材の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル ・ モルタル塗替え工法 モルタルの材料 ※ 現場調査材料 ・ 既調合材料 既製目地材 ・ 使用する (形状) ・ 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示

4-3 外壁改修工事 (モルタル塗仕上外壁)	1 ひび割れ部改修工法	※ モルタルを撤去しないで改修 [4.1.4] [4.3.5、6、7、8] ※ 樹脂注入工法 工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入間隔 (mm) 注入量 (mL/m) ※ 自動式低圧エポキシ樹脂 0.2以上0.3未満 ※40 - 注入工法 0.3以上0.5未満 200~300 ※40 - 0.5以上1.0未満 ※70 - ・ 自動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50~100 ※40 - ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100~200 ※70 - 0.5以上1.0未満 150~250 ※130 - 注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料の種類 ※ 1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない ※ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 ※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 モルタルを撤去して改修 モルタル撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上外壁) による モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による
	2 欠損部改修工法	※ 充填工法 (欠損部の面積が0.25m ² /箇所程度以下の場合) [4.1.4] [4.3.9、10] 充填材の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル ・ モルタル塗替え工法 モルタルの材料 ※ 現場調査材料 ・ 既調合材料 既製目地材 ・ 使用する (形状) ・ 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示
	3 浮き部改修工法	※ モルタルを撤去しないで改修 [4.1.4] [4.3.11~16] ・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
	4 外壁改修工法	平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4-4 外壁改修工事 (タイル張り仕上外壁)	1 タイルの形状、寸法等	タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法用接着剤の種類 ・ JIS A 5557による一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系 タイルの形状、寸法等 施工 形状/寸法 再生材料 吸水率による区分 うわぐすり 役物 色 耐凍害性 耐汚濁性 耐塩害性 耐酸性 備考 箇所 (mm) の適用 I 期 II 期 III 期 ぬり/ぬり/ぬり 有 無 標準 特注 有 無 有 無 有 無 耐汚濁性: JIS A 1509-12 (セラミックタイル試験方法-第12部: 耐汚濁性試験方法) で規定する C.S.値は0.4~1.0とする。 役物の使用箇所 内装 出隅 天端 外装 出隅、窓台、マガサ (標準一体成型品以外は接着成型品とする) 見本焼き 行う (施工箇所:) ※行わない 試験後 ・ 行う (施工箇所:) ※行わない
	2 ひび割れ部改修工法	※ タイルを撤去して改修 下地モルタルまで撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上外壁) による モルタルを撤去した場合のモルタル部分の改修は、4-3 外壁改修工事 (モルタル塗仕上外壁) による タイル撤去後のタイル欠損部の補修は、3 欠損部改修工法による ・ タイルを撤去しないで改修
	3 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	① 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整 [4.5.4] 工法 処理範囲 下地面の補修 ○ サンダー工法 ※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示 4-2 外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上外壁)、 ・ 高圧水洗工法 ※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示 4-3 外壁改修工事 (モルタル塗仕上外壁) による ・ 塗膜はく離剥離工法 ※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示 ・ 水洗工法 ※ サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離剥離工法以外の既存仕上げ面全体 ・ 図示 ○ 泡噴出・集じん装置付き型式 ディスクグラインダーケレン工法 石綿含有仕上塗材の除去は、9 環境配慮改修工事による
	4 下地調整材	※ 下地調整材 ・ ポリマーセメントモルタル [4.5.2]

③	仕上塗材仕上げ	[4.1.5] [4.5.2] [表4.5.1] 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放放量 ※ F☆☆☆☆ 仕上塗材の種類 ○ 薄付け仕上塗材 呼び名 仕上げの形状 工法 防火材料 ※ 外装薄塗材 E 砂壁状 吹付け ・ ・ ・ 厚付け仕上塗材 呼び名 仕上げの形状 工法 上塗り材の種類 耐火性 防火材料 ・ ・ ・ ○ 覆層仕上塗材 呼び名 仕上げの形状 工法 上塗り材の種類 耐火性 防火材料 ※ 覆層塗材 E 凹凸模様 吹付け 溶媒 ※ 水系 ※ 耐候形 3種 ・ ・ ・ 樹脂 ※ アクリル系 ・ ・ 外観 ※ つやあり ・ 軽量骨材仕上塗材 呼び名 防火材料 ・ ・ ・
	4 マスク塗塗材塗り	[4.1.5] [4.6.2] [表4.6.1] 種類 ・ A種 ・ B種
	5 外壁用塗膜防水材塗り	[4.1.5] [4.7.2、3] [表4.7.1] 工法及び仕上げの形状 ・ 吹付け (・ 凹凸状 ・ 凸部処理 ・) ・ ローラー塗り (・ ゆず肌状 ・) 仕上げ塗料の耐候性 ・ 耐候性1種 ・ 耐候性2種 ・ 耐候性3種 下地準拠樹脂材の適用 ・ 適用する ・ 適用しない コンクリート面のひび割れ部及び欠損部の処理は、改修特記仕様書4-2章外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上外壁改修) による。 モルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処理は、改修特記仕様書4-3章外壁改修工事 (モルタル塗り仕上外壁改修) による。 吹付け工法の仕様材の種類 (・ 所要量 (kg/m ²)) 外壁用仕上塗料の種類 (・ 所要量 (kg/m ²))
	5 外壁用塗膜防水材塗り	[4.1.5] [4.7.2、3] [表4.7.1] 工法及び仕上げの形状 ・ 吹付け (・ 凹凸状 ・ 凸部処理 ・) ・ ローラー塗り (・ ゆず肌状 ・) 仕上げ塗料の耐候性 ・ 耐候性1種 ・ 耐候性2種 ・ 耐候性3種 下地準拠樹脂材の適用 ・ 適用する ・ 適用しない コンクリート面のひび割れ部及び欠損部の処理は、改修特記仕様書4-2章外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上外壁改修) による。 モルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処理は、改修特記仕様書4-3章外壁改修工事 (モルタル塗り仕上外壁改修) による。 吹付け工法の仕様材の種類 (・ 所要量 (kg/m ²)) 外壁用仕上塗料の種類 (・ 所要量 (kg/m ²))



5	改修工法	[5. 1. 3]			
		建具の種類	かかせ工法	撤去工法	適用箇所
2	防火戸	[5. 1. 4]			
		・適用する 指定箇所(※ 建具による)			
3	見本の製作等	[5. 1. 5]			
		建具見本の製作 ・ 行う(建具符号:)			○行わない
4	防犯建物部品	[5. 1. 7]			
		・適用する 適用箇所(※ 建具による)			
5	アルミニウム製建具	[5. 2. 2~5] [表 5. 2. 2]			
		性能値等 (建具符号:)			
6	網戸等	[5. 2. 3] [5. 3. 3]			
		種類	材質	線径	網目
7	樹脂製建具	[5. 2. 2] [5. 3. 2~5]			
		性能値等 (建具符号:)			
8	鋼製建具	[5. 2. 2] [5. 4. 2~4] [表 5. 4. 2]			
		性能値等 (建具符号:)			

9	鋼製軽量建具	[5. 2. 2] [5. 6. 2~4]			
		性能値等 (建具符号:)			
10	ステンレス製建具	[5. 2. 2] [5. 4. 2] [5. 6. 2~5]			
		性能値等 (建具符号:)			
11	建具用金物	[5. 7. 2. 3]			
		性能値等 (建具符号:)			

12	鍵	[5. 8. 4]			
		マスターキー ※ 製作する (組)			○ 既存に組込む
13	自動ドア開閉装置	[5. 9. 2. 3]			
		引き戸用駆動装置			
14	自閉式上吊り引戸装置	[5. 10. 3]			
		性能値等 ※ 標準仕様書 5. 10. 11による			

15	重量シャッター	[5. 11. 2. 3]			
		シャッターの種類			
16	軽量シャッター	[5. 12. 2~4]			
		閉開方式の種類			
17	オーバーヘッドドア	[5. 13. 2. 3]			
		セクション材料	耐風圧性能	閉開方式	収納方式
18	木製建具	[5. 7. 2~4]			
		建具材の加工、組立時の含水率			

22	合成樹脂塗床	[6. 1. 0. 2. 3]			
		種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
23	防じん用塗床	※ 厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床 ※ 厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床 ※ 薄膜型塗床材			
		※ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ つや消し仕上げ ・ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ ※ 平滑仕上げ			
24	フローリング張り	材料 水性アクリル系樹脂塗材とし、製造所の指定する製品とする 工法 製造所の指定する工法とする なお、上塗りは2回塗りとし、総塗布量は0. 25 kg/m ² 以上とする 仕上げの種類(※ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ) (※ 標準色) JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆			
		[6. 1. 1. 2～6]			
25	畳敷き	単層フローリング			
		種類	工法	樹種	厚さ (mm)
26	畳敷き	複合フローリング			
		種類	工法	樹種	厚さ (mm)
27	畳敷き	フロアリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標準仕様書6. 11. 2(2)による 各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ 接着工法の場合の裏面緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上げ ・ 行う ※ ウレタン樹脂ワニス塗り ・ オイルステインの上、ワックス塗り ・ 生地のままワックス塗り ・ 行わない			
		[6. 1. 2. 2]			
28	せっこうボードその他ボード及び合板張り	MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ 合板のホルムアルデヒド放散量 ※ 標準仕様書19. 7. 2(2) (イ) (a)～(d)のいずれか			
		種別	A種 ・ B種 ・ C種 ※ D種 (畳床) ・ KT-I ・ KT-II ※ KT-III ・ KT-K ・ KT-N)	[6. 1. 3. 2. 3]	

29	壁紙張り	[6. 1. 4. 2. 3]			
		施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考
30	モルタル塗り	ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外			
		種別	壁紙の種類	防火性能	備考
31	モルタル張り	[6. 1. 5. 3. 5. 6]			
		種別	壁紙の種類	防火性能	備考
32	タイル張り	[6. 1. 6. 2～4]			
		種別	壁紙の種類	防火性能	備考

33	セルフレベリング材塗り	[6. 1. 7. 2. 3]			
		種別	壁紙の種類	防火性能	備考

7	① 材料	[7. 1. 3]			
		種別	壁紙の種類	防火性能	備考
7	② 下地調整、素地ごしらえ	[7. 2. 1～7]			
		種別	壁紙の種類	防火性能	備考
7	③ 錆止め塗料塗り	[7. 4. 2. 3]			
		種別	壁紙の種類	防火性能	備考
7	④ 仕上げ塗料塗り	[7. 5. 2～7. 1. 2. 2]			
		種別	壁紙の種類	防火性能	備考

9	床点検口	材種	寸法 (mm)	形式	備考	
		・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ※ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 鍵付き
		密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。 (品質・性能)				
		部材名	材質	屋内外用	屋内用	
		受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出成形材	JIS H 4100のA6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15		
			ステンレス製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B	JIS G 4305のSUS430	仕上げ程度
			鋼製	—	—	標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
		二重蓋の中蓋	鋼製	JIS G 5501のFC150、FC200		
			その他	塩化ビニル樹脂製等		
		目地材	貴銅	JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604		
	ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304				
底板材コーナーステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1	JIS G 4305のSUS430				
ピース底板補強材	アルミニウム板	JIS H 4000(A1100P H24) 表面処理：陽極酸化被膜 合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	—			
	鋼材	—	鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの			
パッキン材	塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等軟の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの					
アンカー材	鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの					
取手	貴銅鋼製、貴銅製、アルミニウム押出成形材・合金鋼製、ステンレス鋼製、ステンレス製	ステンレス鋼材、アルミニウム押出成形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする				
鍵	貴銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする					
蓋の耐荷重性能	蓋中央部が荷重P=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の半径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPの2倍以上であること。					
	受け枠寸法の許容差 ±0.5mm以下 蓋付寸法の許容差 ±0.5mm以下 受け枠と蓋枠のクリアランス 片側2.0mm以内 (試験方法) 耐荷重試験 試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。 試験は、蓋枠の四角を支持せ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。 本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。 本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返した後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。 測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。					
10	手すり	材質	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	
		・ 集成材 ・ ステンレスパイプ ・ 鋼製パイプ	・ クリアラッカー ・ HL程度 ・ SOP ・ EPG	・ 35 ・ 45		
		○ ビニル製ハンドレール				
11	天井見切り縁等	壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁(天井見切縁、下がり壁見切縁)の材種 ・ アルミニウム既製品 ○ ビニル既製品				
12	視覚障害者用床 タイル (視覚障害者誘導用ブロック)	(11.2.2、19.2.2)				
		施工箇所	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	
	屋内	玄関・ホール	○ 塩化ビニル製 ・ セラミックタイル ・ レジンコンクリート製 ・ コンクリート製	※ 300×300 ※ 300×300 ※ 300×300	○ 7.0 ・ ・	
	屋外		・ セラミックタイル ・ レジンコンクリート製 ・ コンクリート製	※ 300×300 ※ 300×300	・ ・	
	突起の形状、配列及び寸法は JIS T 9251による					
13	鉄筋	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)				
		種類の記号	呼び名	備考		
		※ S D 2 9 5 A	※ D 1 6 以下			
		※ S D 3 4 5	※ D 1 9 以上			
14	溶接金網	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)				
		種類	網目寸法、鉄線の径 (mm)	備考		
		※ 溶接金網				
		・ 鉄筋格子				
15	鉄筋の継手及び定着	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)				
		鉄筋の継手の方法等 ※ 重ね継ぎ手 鉄筋の重ね継ぎ手の長さ ※ 40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継ぎ手の長さのうち大きい値とする 鉄筋の定着長さ ※ 柱に取り付ける梁の引継ぎ鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による 機械式定着工法 ・ 適用する 適用箇所 ・ 図示による 種類 ・ 摩擦圧接合 ・ 縦合グラウト固定 ・ 嵌合グラウト固定				

16	コンクリートの気乾 単位容積質量による 種類及び強度等	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.2.1~4)		
		※ 普通コンクリート	設計基準強度 (F _c)	スランプ (cm)
		[N/mm ²]		適用箇所
		※ 24		※ コンクリート全て (無筋コンクリートを除く)
17	セメント	種類 (6.3.1)		
		※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種		
18	型枠	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.8.2)		
		せき板の材料 ※ 合板 厚さ (※ 12mm) ・ メッシュ型枠 ・ 断熱材を兼用した型枠 厚さ25mm以下かつ熱抵抗値1m ² h ² °C/kCa1以上		
19	無筋コンクリート	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.14.1)		
		種類	設計基準強度 (F _c)	スランプ (mm)
		[N/mm ²]		施工箇所
		※ 普通コンクリート	※ 18	※ 標準仕様書6.14.1(4)(7)~(8)による
20	床コンクリート 直均し仕上げ	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (8.1.4)(表8.1.5)		
		仕上げの平たんさは、図示以外は下記による 改修標準仕様書表8.1.5に よる平たんさの種類		
	a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、 フリーアクセスフロア (置敷式) ()		
	b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材張り ()		
	c種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア (支柱調整式) ()		
21	あと施工アンカー	6章内装改修工事 軽鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (14.1.3)		
		あと施工アンカー施工後の確認試験 ※ 行う ・ 行わない		
22	トイレベース	(2.0.2.5)		
		表面材の材料	脚部 形状	ドアエッジ 材質
		※ メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※ 幅木タイプ ・	※ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材
	(品質・性能) (1) パネル			
	項目	品質・性能		
	表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。		
	裏打ち材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。		
	心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。		
	枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき		
	エッジ材	処理を施した材料とする。		
	小口	防水処理を施す。		
	(2) 構造金物			
	項目	品質・性能		
	脚部	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、 (脚部、幅木) SUS443J1とし、仕上げはHL程度とする。		
	(3) 付属金物			
	項目	品質・性能		
	ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。		
	ラッチセット	戸当り部は、JIS A 6512「可動間仕切」の表5.bによる。		
	戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。		
	(4) 外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の表5.bによる。			
	(5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひたつき性・開閉耐久性			
	項目	品質・性能		
		耐薬品性及び耐汚染性	耐ひたつき性	
	メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化板」の表8品質による耐汚染性 (B法)の規定を満足していること。	—	
	低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧板MDF、ポリエステル樹脂系化粧板パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。	—	
	ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。 平均値が10μm以内であること。	特殊加工化粧板に示された耐引ひたつき性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。	
	ポリエステル樹脂系化粧板MDF	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	—	
	ポリエステル樹脂系化粧板パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	—	
	(試験方法)			
	(1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法-第2部: ドア用金物」に規定する試験による。			
	(2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。			
	パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上			

23	ALCパネル	(8.4.2~5)							
		パネルの区分	単位荷重 (N/m ²)	厚さ (mm)	長さ (mm)	幅 (mm)	耐火性能	表面加工	構造の種類
		○ 外壁パネル		○ 100			有 (1) 時間	○ 平 ・ 意匠	○ A種 ・ B種
		○ 間仕切壁 パネル		○ 100			○ 有 (1) 時間 ・ 無	○ 平 ・ 意匠	○ C種 ・ D種 ・ E種
		・ 屋根パネル		・ 100			有 (0.5) 時間	平	F種
		・ 床パネル		・ 100			・ 有 () 時間 ・ 無		
	パネルの相互の接合部に充填する耐火目地材 ※ パネル製造所の仕様 外壁、屋根パネルの構造 1章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した構造 パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合 ※ 図示 外壁、間仕切パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部目地幅 (mm) ※ 10~20 外壁、間仕切パネルの伸縮調整目地への耐火目地材の充填 ・ 適用する ・ 適用しない 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による								
24	折板鋼	(13.2.2) (13.3.2.3) (表13.2.1)							
		施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	鮮表面積	耐火性能
		EV屋根根	○ 重ね形 ・ はげ締め形 ・ かん合形	≒ 90	≒ 300	(3) 種	※ 鋼板製 ・ アルミニウム合金板製	0.8	○ 有り ・ 無し
									○ 30分 ・ 無し
	材料 板及びコイルの種類 (JIS G 3322の屋根用3種) 塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 (2種, AZ150) タイトフレームにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気の影響を受けない室内で使用する場合の表面処理 ※ 標準仕様書表14.2.2のF種								
	断熱材張り ○ 行う (断熱材の種類: ガラス繊維 厚さ: 5mm 耐火性能: 時間) ・ 行わない								
	工法 1章 15 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 折板のねばり ※ ねばりによる方法								
25	移動間仕切	(2.0.2.4)							
		走行方向	操作方法による種類	圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上げ材	遮音性		
	・ 平行方向移動式 ○ 2方向移動式	※ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式	○ プッシュ式 ・ ハンドル式	≒ 60	※ 鋼板 ・	・ メラミン樹脂板 又ははアルクリン樹脂焼付塗装 ○ 連続張り ・	○ 16未満 ・ 36以上		
	表面仕上げ材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による 遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする ハンガーレールの取付け下地の補強 ※ 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。 ・ 図示 パネルをランナーに取り付ける部品 ※ ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの ハンガーレール及びランナー ※ パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に對し、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする。 ・ 図示 (品質・性能及び試験方法) (1) パネル (表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材) 及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとす。 (2) 吊りボルト JIS B 1051「炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質-第一部: ボルト、ネジ及び種込みボルト」による。 (3) パネルの外観 JIS A 6512「可動間仕切」の表5.a) ~ c) による。 (4) ホルムアルデヒド等 JIS等の材料規定において放散量が規定されているものについては、F☆☆☆☆とする。 (5) パネルの操作性 パネル操作の初動力は98N以下とする。 (6) 耐衝撃性 質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく表面の割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。 (7) 遮音性能 JIS A 6512に規定する透過損失単位に基づく区分ごとに、500Hzの音について透過損失の既定値に適合すること。遮音性能試験は、JIS A 1416「実験室における建築物の空気音遮断性能の測定方法」に規定する試験方法又はJIS A 1441-1「音響-音響インテンシティ法による建築物及び建築部材の空気音遮断性能の測定方法-第1部: 実験室における測定」による。 (8) パネル圧接装置の耐久性 パネル圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。 (9) レールの耐久性 レールは普通パネルで、吊り車の通過回数が30,000回以上で異常がないものとする。 (10) 吊り車の耐久性 吊り車は、走行距離60kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。 (11) 吊りボルトの引張強度 一本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があるものとする。 (12) ランナーの引張強度 引張試験を実施し、普通パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナーの数								
	材料及び仕上げ (2.0.2.12) ○ ステンレス製 SUS304 (表面処理 ※ 研磨なし) ・ 鋼製 (表面処理 ※ 亜鉛亜鉛めっき 種別C種)								
26	タラップ	(2.0.2.12)							
		路面標示用塗料はJIS K 5665による。	種類	施工	適用色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	適用部位	
		※ 3種1号	溶融	粉体状	○ 白 ・ 100	○ 1.0 ・ 100	○ 白線 ○ 車椅子駐車場ライン、マーク ・		
		・ 1種	常温	液状	・	・	・		
		・ 2種	加熱	・	・	・	・		
		低揮発性有機溶剤型の路面標示用塗料							
27	路面標示用塗料	(2.0.2.12)							
		種類	施工	適用色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	適用部位		
		※ 3種1号	溶融	粉体状	○ 白 ・ 100	○ 1.0 ・ 100	○ 白線 ○ 車椅子駐車場ライン、マーク ・		
		・ 1種	常温	液状	・	・	・		
		・ 2種	加熱	・	・	・	・		
		低揮発性有機溶剤型の路面標示用塗料							

建築非構造部材の耐震性能に係る標準的な特記事項		項目		特記事項		RC壁に設置する特定窓等及び避難経路の扉		その他の建築非構造部材		フリーアクセスフロア		20章 フリーアクセスフロアの特記事項による										
建築設計基準	外壁	構造	CW (メタルPCa)	CW工事 取付方法、性能等		ガラス	ガラス	ガラス	RC壁に設置する特定窓等及び避難経路の扉 ・耐震ドア 面内変形追随性の等級 () (建具符号: ※建具表による)	フリーアクセスフロア	フリーアクセスフロア	フリーアクセスフロア	フリーアクセスフロア	フリーアクセスフロア								
				地震力に対する安全性											重量がある扉 以下の設計用震度の地震力に対して、脱落が生じないものとする。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度 (K _H) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (K _V) ※ 0.5 (建具符号: ※建具表による)							
				構造体の層間変形に対する追従性												範囲 ※図示 特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。 特定天井告示 (平成25年国土交通省告示第771号) による特定天井の設計用震度 検証ルート ()						
				層間変形角																		
ALCパネル	外壁	パネル	ALCパネル	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性		天井	特定天井	軽量鉄骨天井 地下 (特定天井)	天井	天井	天井	天井	天井									
				設計用震度										天井	天井	天井	天井	天井				
				構造体の層間変形に対する追従性															天井	天井	天井	天井
				層間変形角																		
押出成形材 板 (ECP)	外壁	成形材	ECP	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性		天井	特定天井	軽量鉄骨天井 地下 (特定天井)	天井	天井	天井	天井	天井									
				設計用震度										天井	天井	天井	天井					
				構造体の層間変形に対する追従性														天井	天井	天井	天井	
				層間変形角																		
外壁	仕上げ	石工事	石工事	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性		天井	特定天井	軽量鉄骨天井 地下 (特定天井)	天井	天井	天井	天井	天井									
				設計用震度										天井	天井	天井	天井					
				構造体の層間変形に対する追従性														天井	天井	天井	天井	
				層間変形角																		

材質	階区分	建築物間のクリアランス (mm)	変位追随量 (mm)	耐火性能	断熱性能	備考
○アルミ ニウム製 ○ステン レス製	(1)階 ~ (2)階	・50 ○100 ・150	(避難経路の床等) ○30以上 (その他) ○30以上	○有り (12.5) ・無し	・有り () ○無し	
・アルミ ニウム製 ・ステン レス製	()階 ~ ()階	・50 ・100 ・150	(避難経路の床等) ・無し (その他) ・以上	・有り () ・無し	・有り () ・無し	

室名	階	設計用水平震度 (K _H)	設計用鉛直震度 (K _V)	クリアランス (mm)

以下の特記事項は、固定家具に生じる応力が所定の応力以内であることを確認する。ただし、所定の応力以内にあたる事の確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値とする。

設計用水平震度 (K_H) ※ 1.0
設計用鉛直震度 (K_V) ※ 0.5

家具名称	設置場所	備考
・	・	・
・	・	・
・	・	・
・	・	・

・軽量鉄骨壁下地等への補強 (※図示)
※収納物の取付防止措置 (ラッチ機構、ロック機構等) を講ずる。

工事区分表 区分は○印を適用する。●印が有る場合は●印を適用する。

項目		建築	電気	機械	昇降機	備考	項目		建築	電気	機械	昇降機	備考	項目		建築	電気	機械	昇降機	備考						
躯体関係						仕上り関係						屋外排水設備・外構						電気配線配管								
1. RC造 (梁・壁・床)の 貫通孔・開口部	貫通スリーブ	○	○	○	○	各工事の開口用	1. 軽鉄天井 ・壁下地	補強を要するボードの切込み及び下地の補強	○					1. 雨水	屋外雨水排水設備	○	○				機器付属の制御盤以降の配管配線(接地線共)	○	○	○	2次側	
	貫通スリーブの補強	○				各工事の開口用		補強を要しないボードの切込み	○							樹及び樹蓋	○	○				機器付属の制御盤への電源供給配管配線	○			1次側
	開口補強を要する型枠材及び取付け	○	○	○				開口部の墨出し	○	○	○					ルーフトレン	○					自動制御と動力盤との電源供給の渡り配管配線	○			
	開口部の補強	○						リブ天井仕上げ材の器具廻り取合い	○							たてとい及び横走り管	○					自動扉への電源供給	○			
	開口補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○				切込み及び補強	○							雨水利用配管(ストレーナーまで)	○					自動扉キースイッチ及び キースイッチまでの配管	○			
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○	○			位置ボックス		○	○					雨水利用配管(ストレーナー以降)		○				自動扉本体及びキースイッチ以降の配線	○			
スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○	○		衛生器具類・機器類取付用の壁補強	○						2. 雑排水・汚水	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○			電動シャッター電源供給	○					
2. S・SRC造 (梁・壁・床)の 貫通孔・開口部	S・SRC造鉄骨貫通鋼管スリーブ・補強	○				各工事の開口用	3. 吊りボルト及び インサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用	○	○				3. 煙突	樹及び樹蓋			○			電動シャッター操作スイッチ用 位置ボックス及び配管	○				
	開口補強を要する型枠材及び取付け	○	○	○				S造の場合の設備吊りボルト用構造部材							化粧マンホール上蓋及び蓋の仕上げ	○					電動シャッター本体・操作スイッチ及び その間の配線	○				
	開口部の補強	○						4. 外壁廻り	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	○						煙突	○					室内機と屋外機の渡り(連絡)配線	○			エアコン、湯沸器等
	開口補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○				ウエザーカー、ベントキャップ				○				発電機室から煙突までの排気管						機器と付属操作スイッチの 位置ボックスとその渡り配管	○			エアコン、 全熱交換器等
	貫通スリーブ(工場施工部分)	○				各工事の開口用		換気扇及び換気扇用枠				○				煙道接続用スリーブ	○					機器と操作スイッチの渡り配線	○			
	貫通スリーブ(工場施工部分以外)	○	○	○				5. 湯沸室廻り	流し台・吊戸棚・水切り棚・コンロ台	○						湯沸器							小便器用節水装置への電源供給	○		
貫通孔・開口部の墨出し	○						湯沸器				○			4. 浄化槽	現場施工の土工事・山留め・杭・地盤改良 躯体工事	○					注油口内アース端子よりのアース用配管配線	○				
スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○	○	防火区画・防煙区画		既製品レンジフード換気扇				○			ユニット形の本体設置工事			○			防火戸の運動制御器・煙感知器・吸着板 ラッチ受座の取付け	○					
予備スリーブの穴埋め	○				防火区画・防煙区画		現場製作SUSフード	○						ユニット形の山留め・杭・地盤改良・躯体工事	○					上記の配線	○					
3. 設備機器の基礎	屋上設置の基礎	○					ミニキッチン本体	○						ユニット形の土工事(根切り)	○						防火・防煙シャッター及び二次側配線	○				
	屋上基礎で保護コンクリートに アンカーしない軽微なもの	○	○				ミニキッチン用換気送風機・ダクト				○			ユニット形の土工事(埋戻し)			○				上記運動制御器・煙感知器の取付け及び 配管配線	○				
	室内設置のコンクリート基礎で軽微なもの	○	○				ミニキッチン用衛生配管				○			5. 地下貯油槽 (タンク室を 設ける場合)	タンク室の躯体(山留め工事関係を含む)	○					防煙ダンパー	○				
	室内設置のコンクリート基礎で軽微なもの以外	○					6. 便所廻り	洗面カウンター(既製品)				○			タンク室の乾燥砂充填	○					上記運動制御器・煙感知器の取付け及び 配管配線	○				
	屋外設置の基礎	○				個別エアコン 基礎を除く	洗面カウンター(既製品以外)	○						鏡(W600×H900まで)				○			排煙口	○				
	機器取り付け用アンカー・架台	○	○				鏡(W600×H900を超えるもの)	○						鏡(W600×H900を超えるもの)	○						上記運動制御器・煙感知器の取付け及び 配管配線	○				
4. 昇降機関連	昇降路及び機械室の築造	○					衛生陶器及び水栓類				○			6. その他	駐車場ガソリントラップ			○			電気錠への電源供給	○				
	昇降路内又は機械室天井のフック	○					手すり・ペーパーホルダー	○	○			手すりは建築工事	タンク室のタンク本体及び配管	○	○					避雷導体間の接続工事	○					
	ビットの防水仕上げ	○					オストメイト対応水洗器具				○			タンク室を設けない場合のタンク及び設置工事	○	○										
	各階出入口三方枠及び位置表示器 乗場ボタン取付け用口部の板枠穴開け	○					大型ベッド				○			7. 浴室廻り	ユニットバス・ユニットシャワー			○								
	三方枠・出入口扉				○		乳幼児用いす				○			同上、出入口壁取合い部枠	○											
	乗り場敷居受け	○					収納式着替え台				○			既製品浴槽(風呂蓋含む)			○									
	乗場機器取付け後の壁・床・天井仕上げ	○					ユニークバス・ユニットシャワー				○			浴槽・洗い場の排水金物			○									
	昇降路がRC造の時の軌条・中間ビーム ・ブラケット他昇降路内の鉄製部材一式				○		8. 事務室廻り	ドアガラリ及びアンダーカット	○					洗濯機パン			○									
	昇降路がS造の時の中間ビーム ブラケット受けピース、ファスナー	○					フリーアクセスフロアの切込み及び補強	○						9. その他	2重ビット及びトレンチのマンホール蓋	○										
	昇降路がS造の時のブラケット受け、中間ビーム ・ファスナー以外の昇降路内の鉄製部材一式				○		フリーアクセスフロア用マーカ	○						機器搬入用フック、ビーム	○											
	電源及び接地線工事	○					化粧マンホール上蓋及び蓋の仕上げ	○				屋外を除く		点検口(天井・床下・壁)	○											
	機械室・ビットの点検用コンセント	○					排煙口等の天井仕上材の取付け				○			自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切込み補強	○											
	煙感知器設置工事	○					消火器BOX	○				消火器取付工事		厨房用グリーストラップ			○									
	停電時非常電源識別接点引込み工事	○					トラフ・ビット類(蓋を含む)	○						地下各水槽躯体及び防水 マンホール・タラップ	○											
火災時識別リレー接点引込み工事	○					ALC、押出成形セメント板(ＥＣＰ)壁 の開口補強	○						油サービスタンク及びポンプの防油堤	○												
放送用信号線引込み工事	○					油サービスタンク及びポンプの防油堤	○						フリーアクセスフロア内の防水堤	○												
エレベーター監視盤への電源引込み工事	○					電気錠本体	○																			
インターホン・エレベーター監視盤の 昇降路外配管工事	○																									
同上配線工事	○	○																								
ビット点検用タラップ				○																						
機械室の配管用コンクリート及び床用防塵塗料	○																									
機械室床の機器搬入口の仮枠・補強及び復旧	○																									
機械室床のロープ用穴等の仮枠穴開け	○																									
機械室マシニング受け梁	○																									
機械室換気設備工事				○																						
機械室照明設備工事				○																						
設備機器メンテナンス歩廊	○																									



出典：国土地理院
No Scale

敷地案内図

	用途/規模	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	備考 (申請履歴等)
(申請建物)	本郷人権文化センター (エレベーター棟) (今回増築部分) 鉄骨造 2階建	29.37	58.74	新築当初時 確認済： 昭和55年9月16日 第7078号 検査済： 無し 増築時 確認済： 平成12年 8月 2日 第H12認建三土000361号 検査済： 平成12年12月14日 第H12証建三土000433号
	本郷人権文化センター (既存部分) 鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造 3階建	254.01	392.30	
	合計	283.38	451.04	
(既存建物)	カーポート アルミ製 平家建て	6.80	6.80	10㎡以下の増築で申請していない
	自転車置場 鉄骨造 平家建て	9.01	9.01	
	ほんごう子ども広場棟 木造 平家建て	18.45	18.45	
	合計 (既存部分)	288.27	426.56	
合計		299.19	466.85	

隣地斜線について 建物高さが20mを超えていない為、検討不要
日影について 建物高さが10mを超えていない為、検討不要

建築物概要

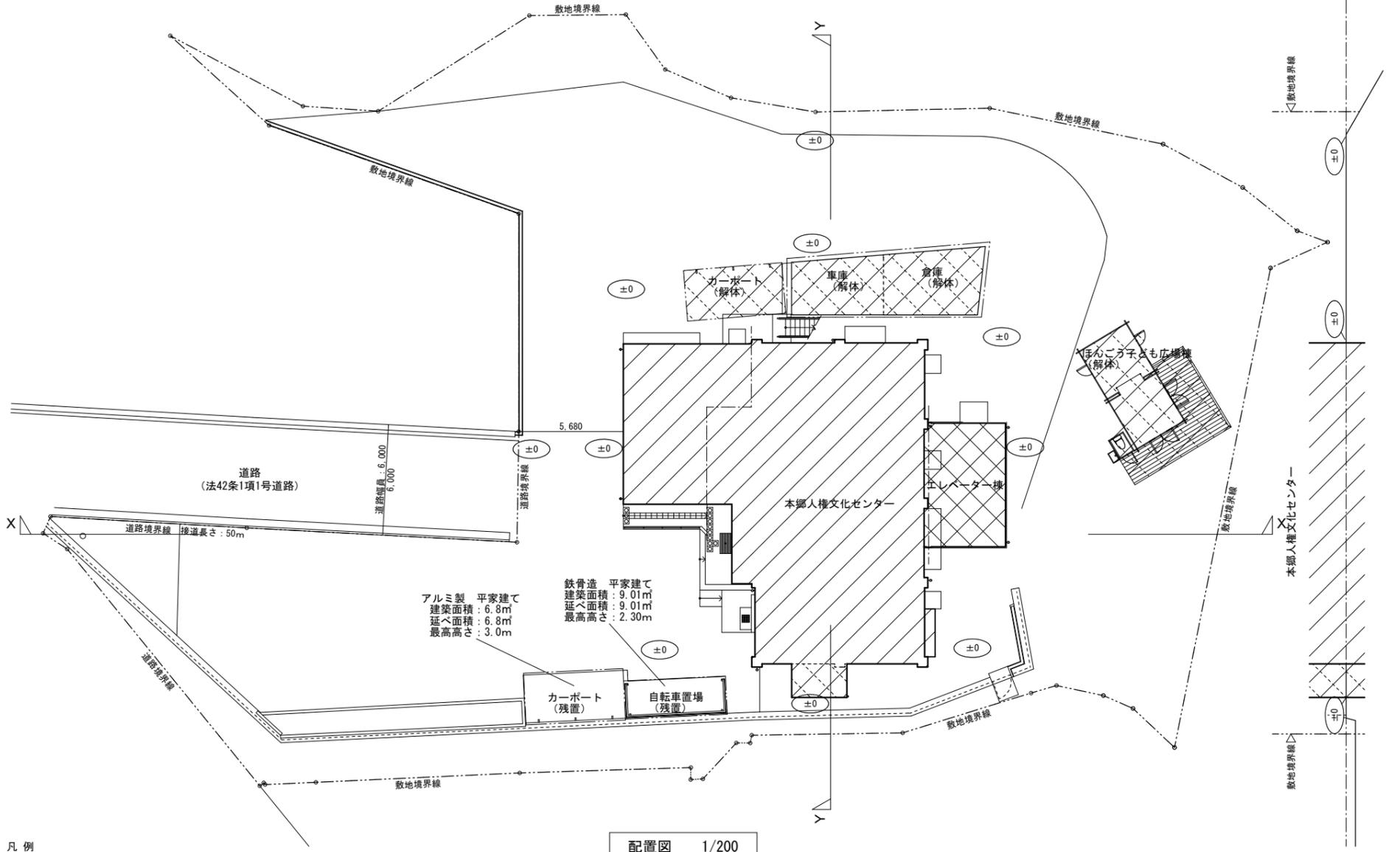
- 施設名称 本郷人権文化センター (集会所：1室の床面積が200㎡未満)
- 施設用途 人権文化センター
- 構造・規模 既存部分 今回増築部分 合計
鉄筋コンクリート造 鉄骨造 2階建
一部 鉄骨造、地上3階建
建築面積 254.01㎡ 29.37㎡ 283.38㎡
延べ面積 392.30㎡ 58.74㎡ 451.04㎡
- 耐火性能 その他建築物

敷地概要

- 工事場所 本郷北三丁目
- 敷地面積 1,677.36㎡
- 都市計画区域 区域内 (区域区分非設定)
- 用途地域 第二種中高層住居専用地域
- 防火地域等 法22条指定区域
- その他の地域地区 なし
- 建ぺい率 60%
- 容積率 200%

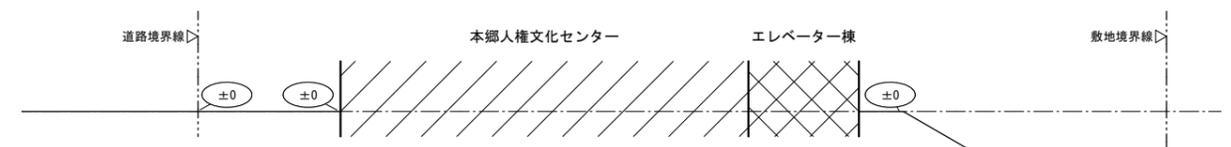
工事内容

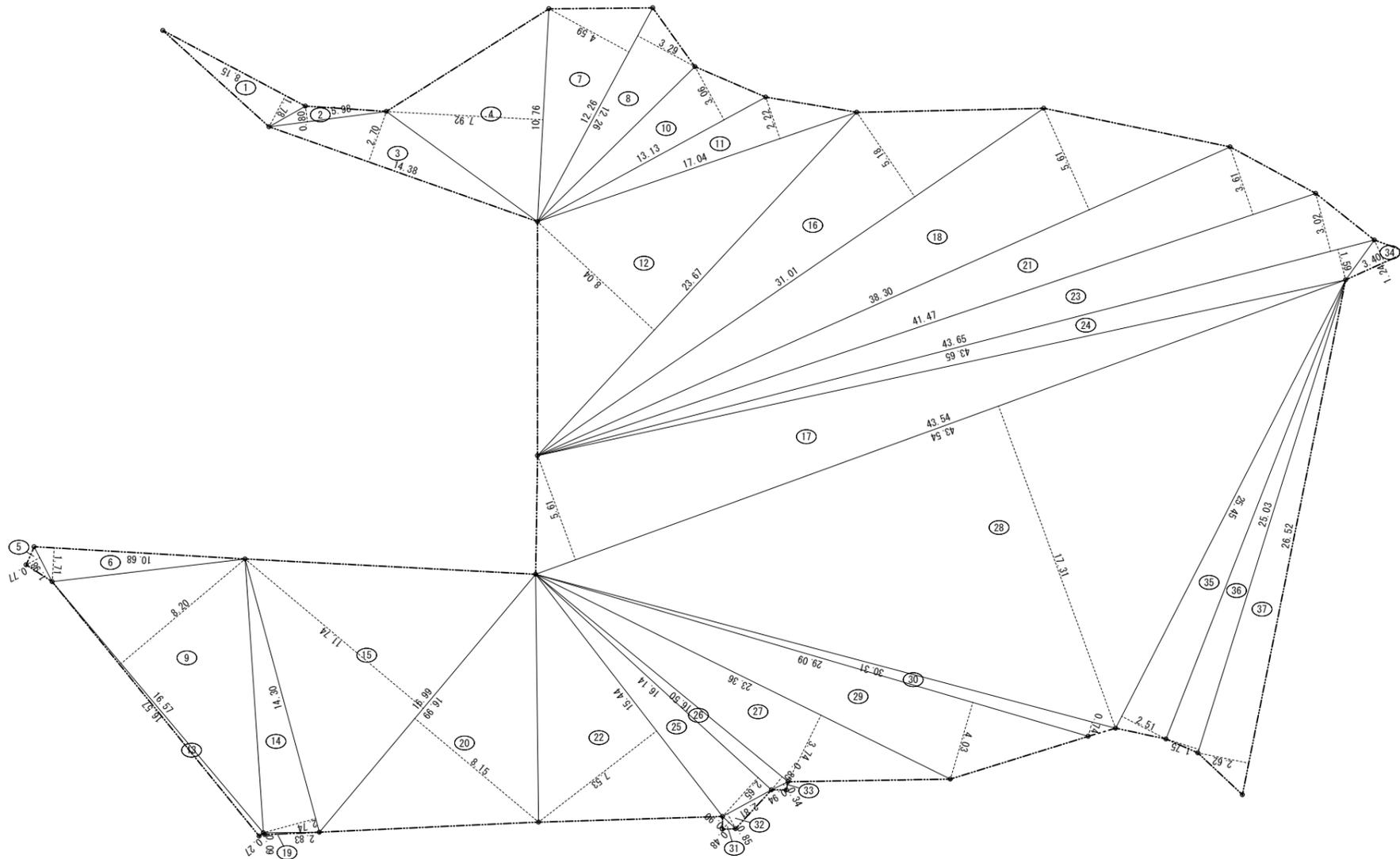
- エレベーターの設置
- エレベーター棟の増築
- 上記に伴う内部改修
- 1階便所廻り並びに2階多目的便所及び湯沸室新設改修
- 外壁改修
- 屋上防水改修
- 耐震改修 (1階女子便所 (増築) 部分、倉庫車庫棟、ほんごう子ども広場棟の解体)
- 既存階段昇降機の撤去



- 凡例
- 工事建物
 - 今回増築部分
 - 今回解体撤去部分
 - 設計G.Lからの高低差を示す

配置図 1/200





敷地 求積図 1/250

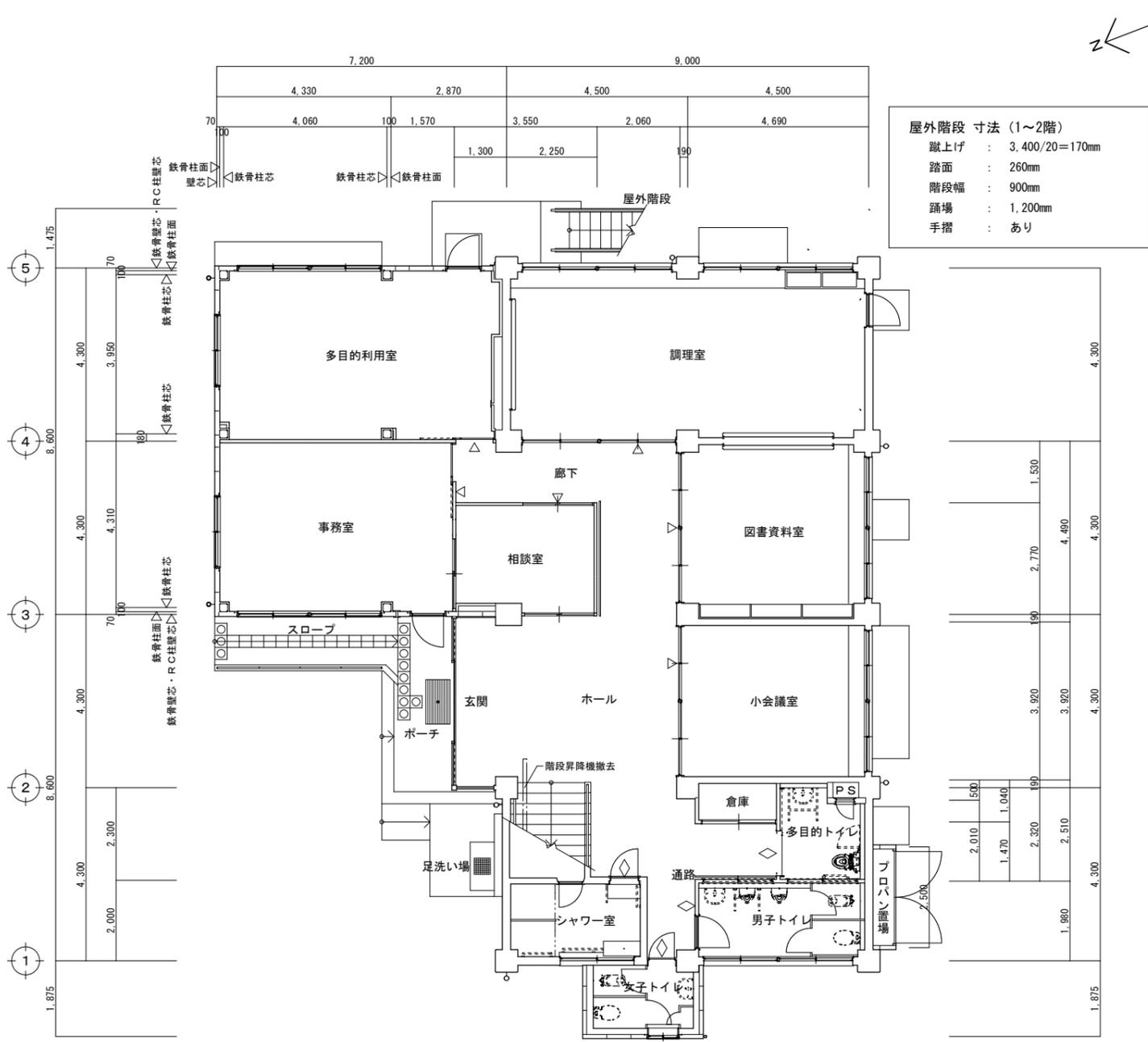
敷地求積表

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	8.15	1.78	14.5070	7.25350
2	5.98	0.80	4.7840	2.39200
3	14.38	2.70	38.8260	19.41300
4	10.76	7.92	85.2192	42.60960
5	1.98	0.77	1.5246	0.76230
6	10.68	1.71	18.2628	9.13140
7	12.26	4.59	56.2734	28.13670
8	12.26	3.29	40.3354	20.16770
9	16.57	8.20	135.8740	67.93700
10	13.13	3.06	40.1778	20.08890
11	17.04	2.22	37.8288	18.91440
12	23.67	8.04	190.3068	95.15340
13	16.57	0.27	4.4739	2.23695
14	14.30	2.74	39.1820	19.59100
15	16.99	11.74	199.4626	99.73130
16	31.01	5.18	160.6318	80.31590
17	43.54	5.61	244.2594	122.12970
18	38.30	5.61	214.8630	107.43150
19	2.83	0.09	0.2547	0.12735
20	16.99	8.15	138.4685	69.23425
21	41.47	3.61	149.7067	74.85335
22	15.44	7.53	116.2632	58.13160
23	43.65	3.02	131.8230	65.91150
24	43.65	1.59	69.4035	34.70175
25	16.14	2.65	42.7710	21.38550
26	16.50	0.85	14.0250	7.01250
27	23.36	3.74	87.3664	43.68320
28	43.54	17.31	753.6774	376.83870
29	29.09	4.03	117.2327	58.61635
30	30.31	0.74	22.4294	11.21470
31	0.90	0.48	0.4320	0.21600
32	2.81	0.85	2.3885	1.19425
33	0.94	0.34	0.3196	0.15980
34	3.40	1.24	4.2160	2.10800
35	25.45	2.51	63.8795	31.93975
36	25.03	1.75	43.8025	21.90125
37	26.52	2.62	69.4824	34.74120
合計				1,677.36725
敷地面積				1,677.36 m ²

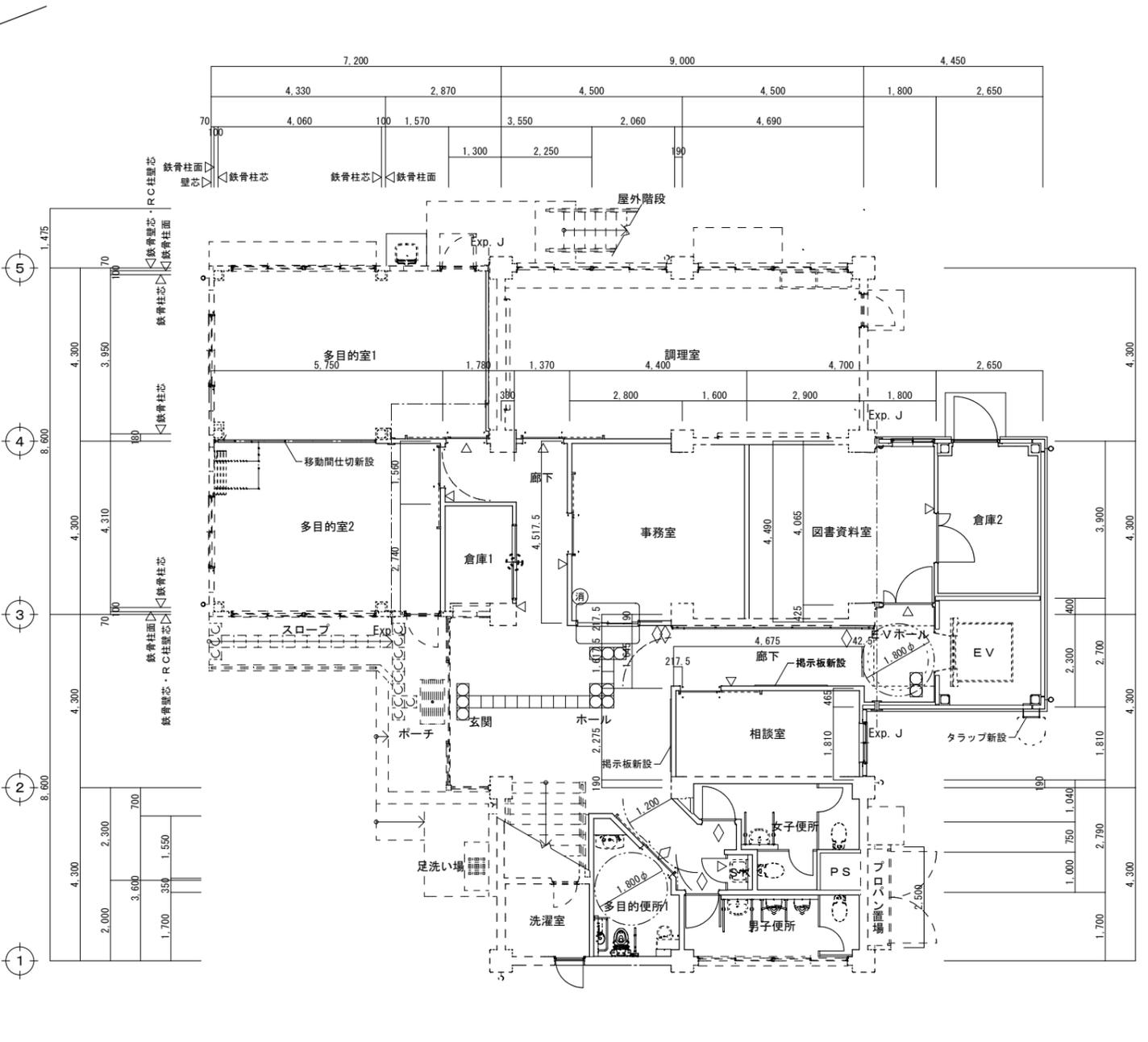
内部仕上表 (既存改修部)

階	室名	改修種別	床		幅木・腰		壁		天井				化学物質の濃度測定 (測定箇所数)	備考
			下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	廻縁	天井高		
1階	図書資料室	改修前	C 一部撤去	モルタルの上 ビニル床タイル t=2.0 [石綿含有] 撤去	C 一部撤去	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去	C 一部撤去	モルタル VE 撤去	S 撤去	化粧せつこうボード (トラバーチン) t=9.5 [石綿含有] 撤去	塩ビ製 撤去	2.600		
		改修後	C 一部新設	モルタルの上 ビニル床タイル t=2.0 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま S新設	モルタル EP-G 新設 せつこうボード t=12.5+12.5 EP-G 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.390 2.140 1.890 2.440	○ (1)	
	事務室	改修後	C 既存のまま	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.390 2.140 1.890	○ (1)	
	小会議室	改修前	C 一部撤去	モルタルの上 ビニル床タイル t=2.0 [石綿含有] 撤去	C 一部撤去	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去	C 一部撤去	モルタル VE 撤去	S 撤去	化粧せつこうボード (トラバーチン) t=9.5 [石綿含有] の上 EP 撤去	塩ビ製 撤去	2.600		
	廊下	改修後	C 一部新設	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.390		
	相談室	改修後	C 一部新設	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.390 2.140	○ (1)	
	ホール	改修前	C	モルタルの上 ビニル床シート t=2.8 撤去	C	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去	C	モルタルの上 壁紙 撤去	S 撤去	化粧せつこうボード (トラバーチン) t=9.5 [石綿含有] 撤去	塩ビ製 撤去	2.390		可動間仕切: 鋼製 撤去
		改修後	C 既存のまま	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.390		
	玄関	改修前	C	モルタルの上 ビニル床シート t=2.8 撤去	C ALC	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去 ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去	C ALC	モルタルの上 壁紙 撤去 せつこうボード t=12.5 (直張り工法) の上 壁紙 撤去	S 撤去	化粧せつこうボード (トラバーチン) t=9.5 [石綿含有] 撤去	塩ビ製 撤去	2.390		
		改修後	C 既存のまま	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	C 既存のまま ALC 既存のまま	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま ALC 既存のまま	モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5 (直張り工法) の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.390		
	廊下	改修前	C	モルタルの上 ビニル床シート t=2.8 撤去	C	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去	C	モルタルの上 壁紙 撤去	S 撤去	化粧せつこうボード (トラバーチン) t=9.5 [石綿含有] 撤去	塩ビ製 撤去	2.390 2.290		可動間仕切: 鋼製 撤去
		改修後	C 既存のまま	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.140		
	事務室	改修後	C 既存のまま	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.390 2.140 1.890		受付カウンター新設
	相談室	改修前	C	モルタルの上 ビニル床シート t=2.8 撤去	C S	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去 ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去	C S	モルタルの上 壁紙 撤去 せつこうボード t=12.5 [石綿含有] の上 壁紙 撤去	S 撤去	化粧せつこうボード (トラバーチン) t=9.5 [石綿含有] 撤去	塩ビ製 撤去	2.390		
	事務室	改修後	C 既存のまま	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	S新設	ビニル幅木 H=75 新設	S新設	せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.390 2.140 1.890		
	廊下	改修後	C 既存のまま	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま S新設	モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.140		
	倉庫1	改修後	C 既存のまま	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	C 既存のまま S 既存のまま S新設	モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	C 既存のまま S 既存のまま S新設	モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5の上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5の上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.390		
	事務室	改修前	C	モルタルの上 ビニル床シート t=2.8 撤去	ALC 柱	ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去 モルタルの上 ビニル幅木 H=75 [石綿含有] 撤去	ALC 柱	せつこうボード t=12.5 (直張り工法) の上 壁紙 撤去 モルタルの上 壁紙 撤去	S 撤去	化粧せつこうボード (トラバーチン) t=9.5 [石綿含有] 撤去	塩ビ製 撤去	2.440		可動間仕切: 鋼製 撤去
多目的室2	改修後	C 既存のまま	モルタルの上 ビニル床シート t=2.0 新設	ALC 既存のまま 柱 既存のまま S新設	ビニル幅木 H=75 新設 モルタルの上 ビニル幅木 H=75 新設 ビニル幅木 H=75 新設	ALC 既存のまま 柱 既存のまま S新設	せつこうボード t=12.5 (直張り工法) の上 壁紙 新設 モルタルの上 壁紙 新設 せつこうボード t=12.5+12.5の上 壁紙 新設	S 新設	化粧せつこうボード (スクエア) t=9.5 新設	塩ビ製 新設	2.440 2.140	○ (1)	移動間仕切: 鋼製 新設	

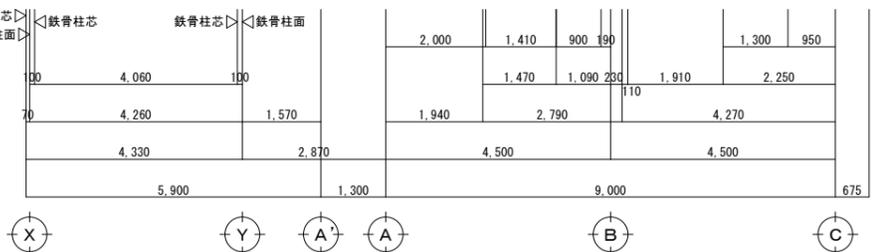




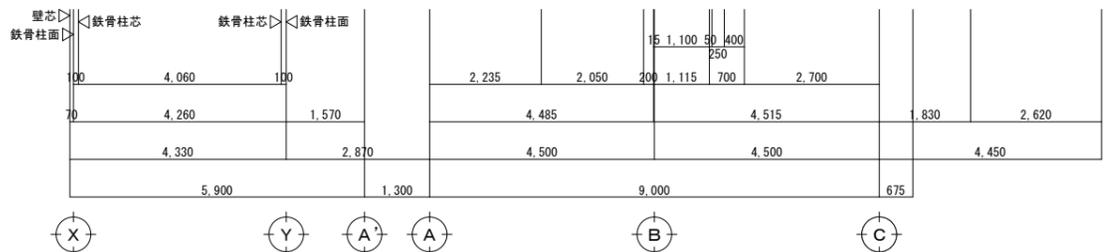
屋外階段 寸法 (1~2階)
 蹴上げ : 3.400/20=170mm
 踏面 : 260mm
 階段幅 : 900mm
 踊場 : 1.200mm
 手摺 : あり



屋内階段 寸法 (1~2階)
 蹴上げ : 3.030/18=168.33mm
 踏面 : 260mm
 階段幅 : 1.670mm
 踊場 : 1.720mm
 手摺 : あり

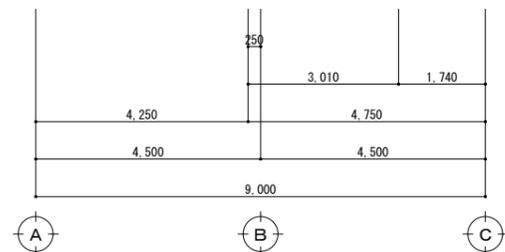
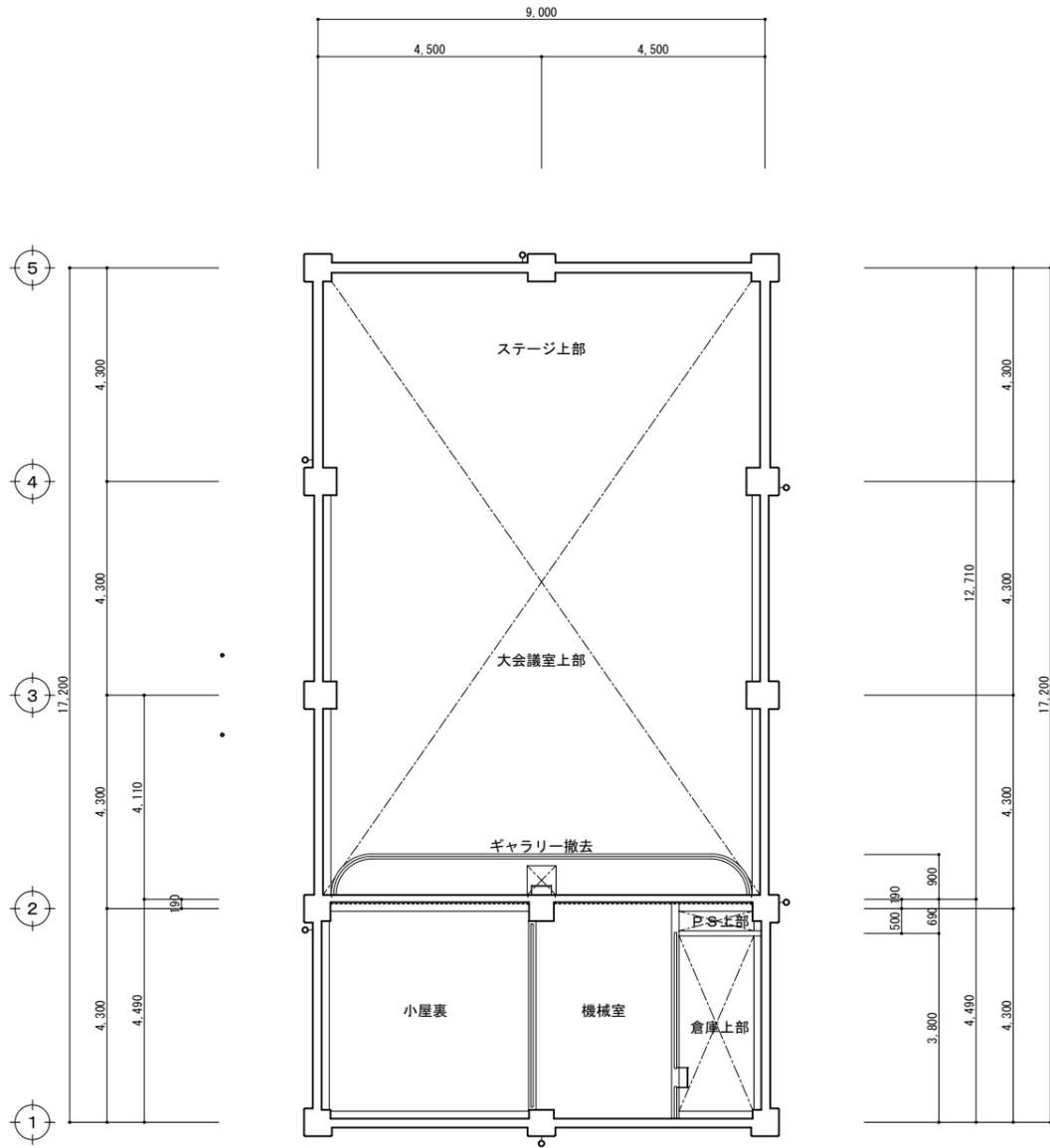


1階平面図 (改修前) 1/100

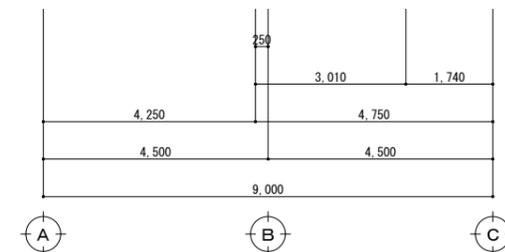
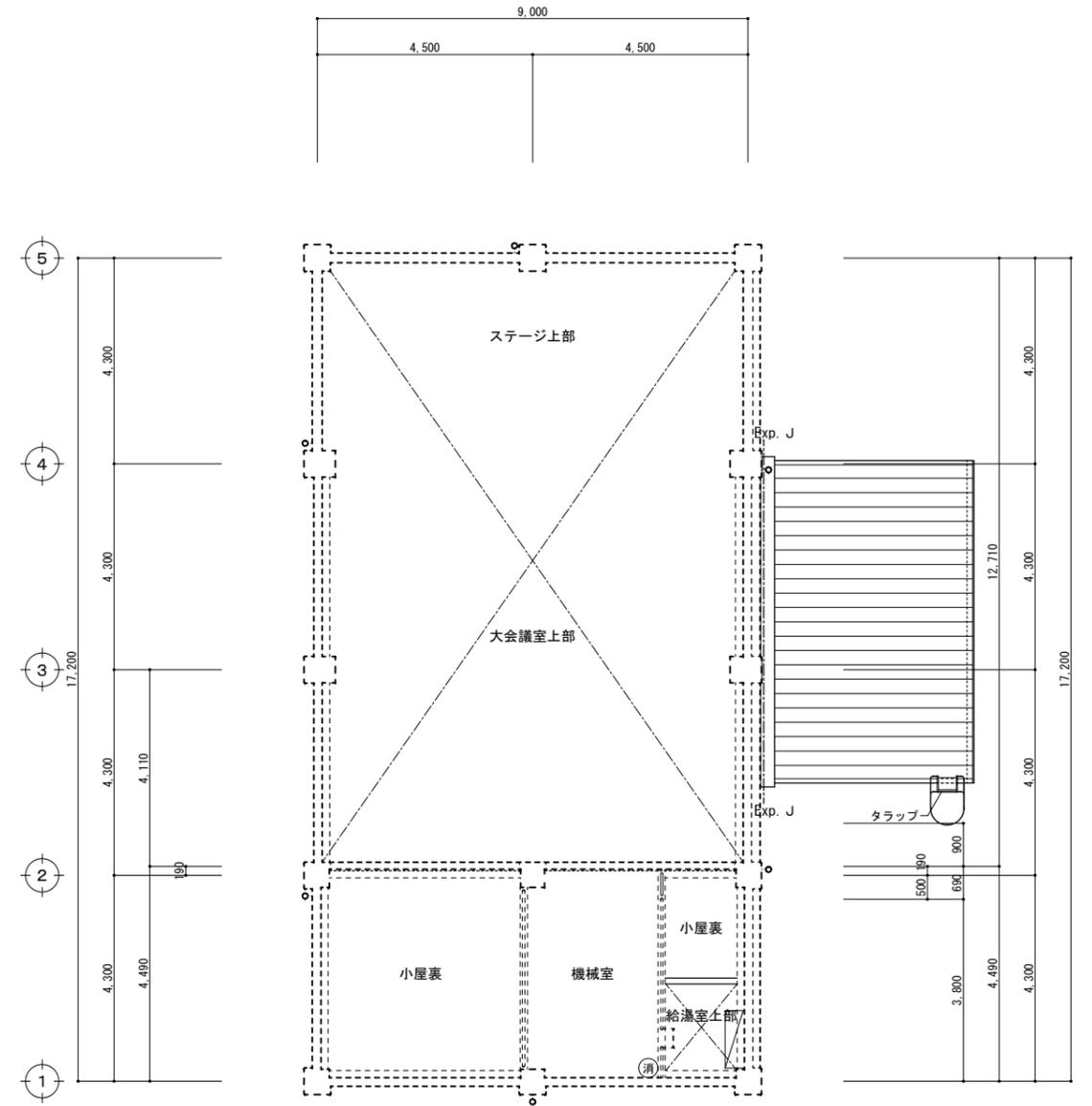


1階平面図 (改修後) 1/100

- 凡例
- 消火器 ABC10型
 - △ 室名札 (平付け型) : (改修前) アクリル板 250x50 撤去、(改修後) アクリル板 250x50 UV印刷 新設 (建築工事標準詳細図による)
 - ◇ ピクトグラム (平付け型) : (改修前) アクリル板 200x200 撤去、(改修後) アクリル板 200x200 UV印刷 新設 (建築工事標準詳細図による)

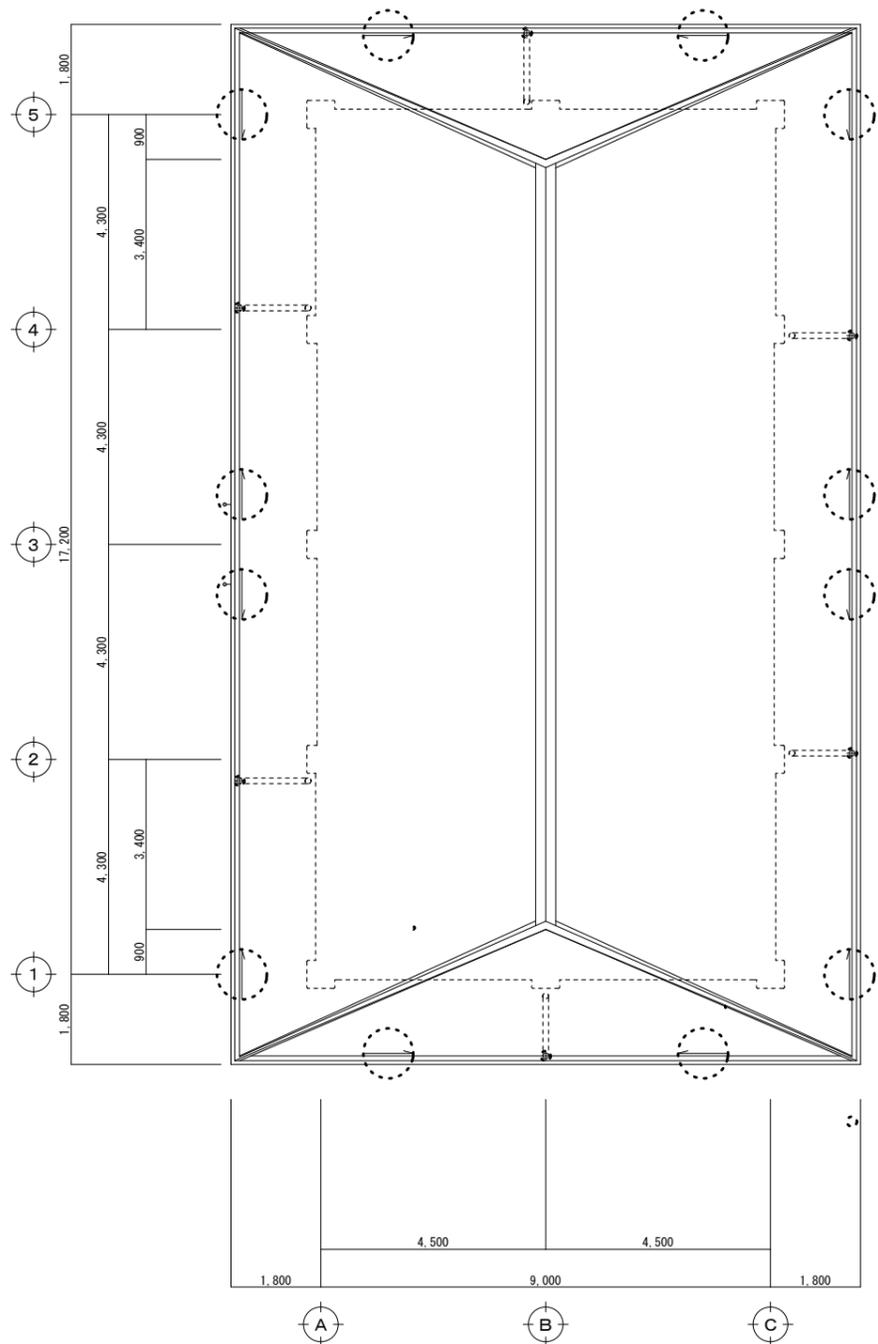
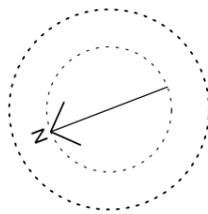


3階平面図 (改修前) 1/100



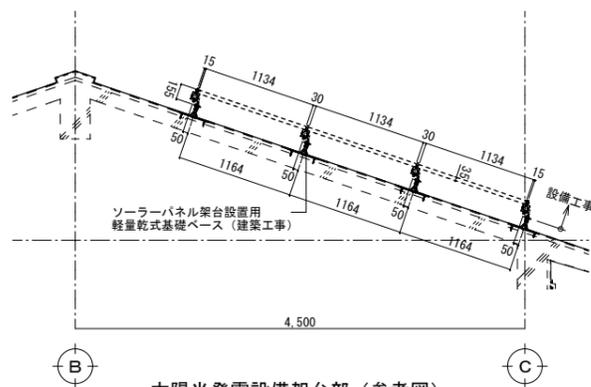
3階平面図 (改修後) 1/100

凡例
 (消) 消火器 ABC10型

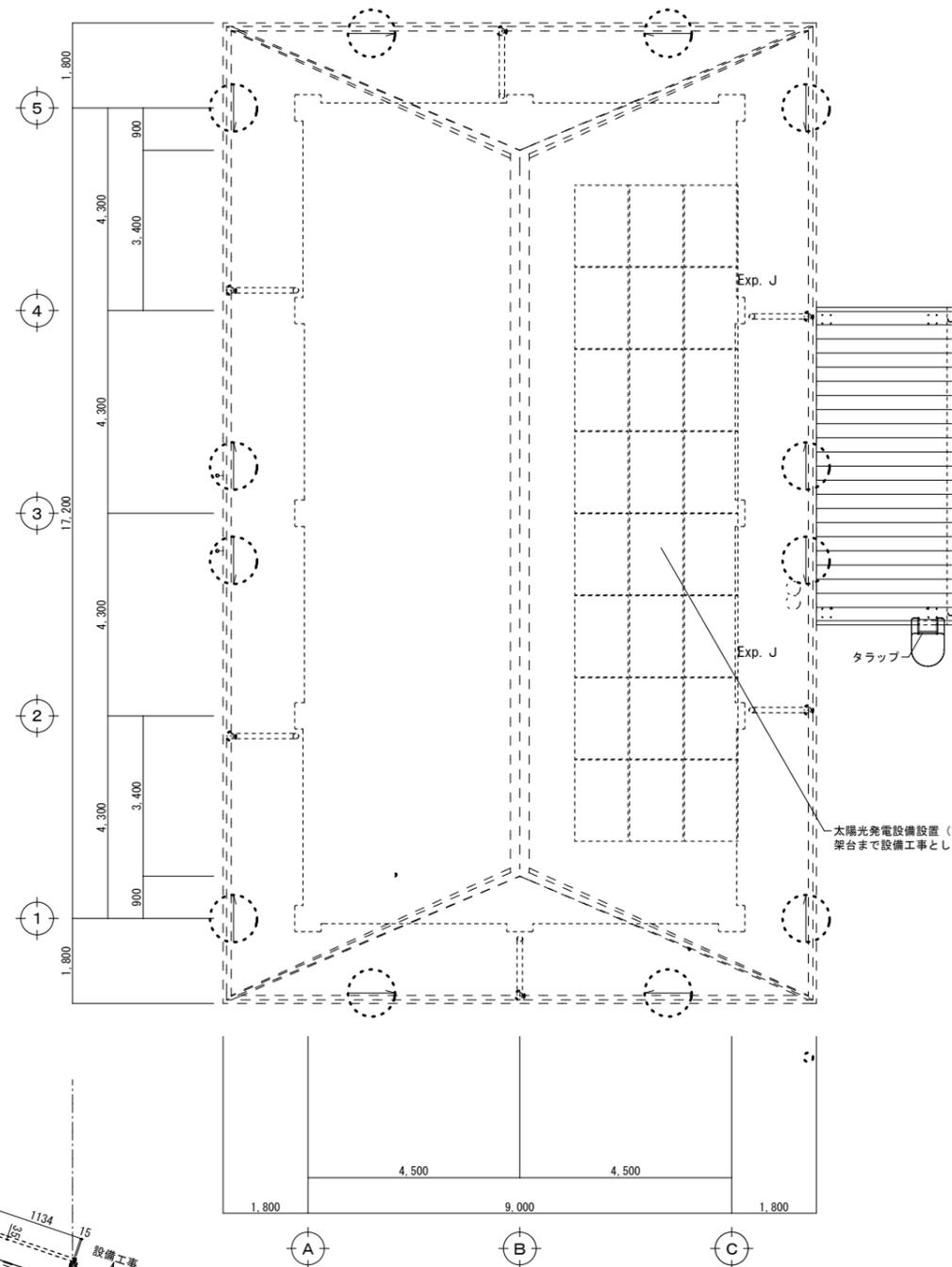


屋根伏図 (改修前) 1/100

【建築工事】
 ソーラーパネル架台設置用 軽量乾式基礎
 【別途電気設備工事】
 太陽電池モジュール : 410W×24枚
 太陽電池アレイ重量 : 21.5kg×24枚(516kg)
 太陽電池架台 : 横型(3段×8列-1基)
 太陽電池架台傾斜角度 : 0°
 太陽電池架台重量 : 180kg



太陽光発電設備架台部 (参考図)

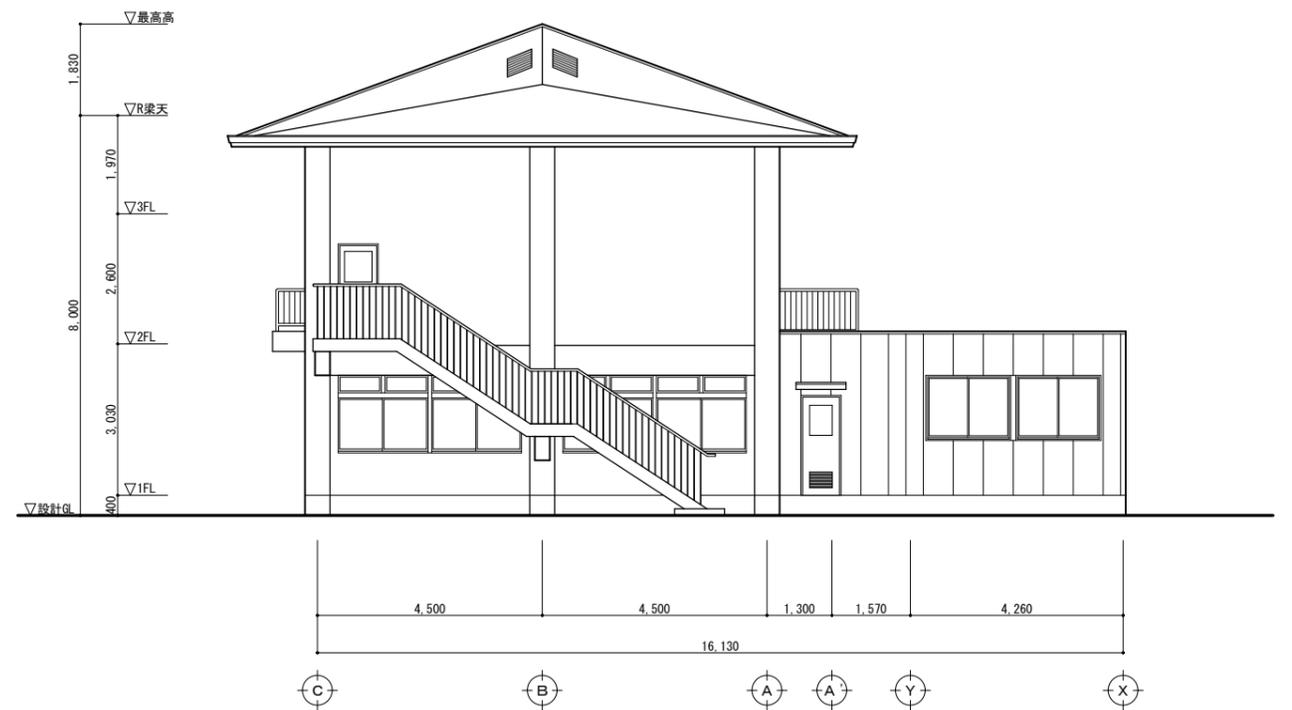


太陽光発電設備設置 (設備工事)、
 架台まで設備工事とし、ベースは建築工事とする

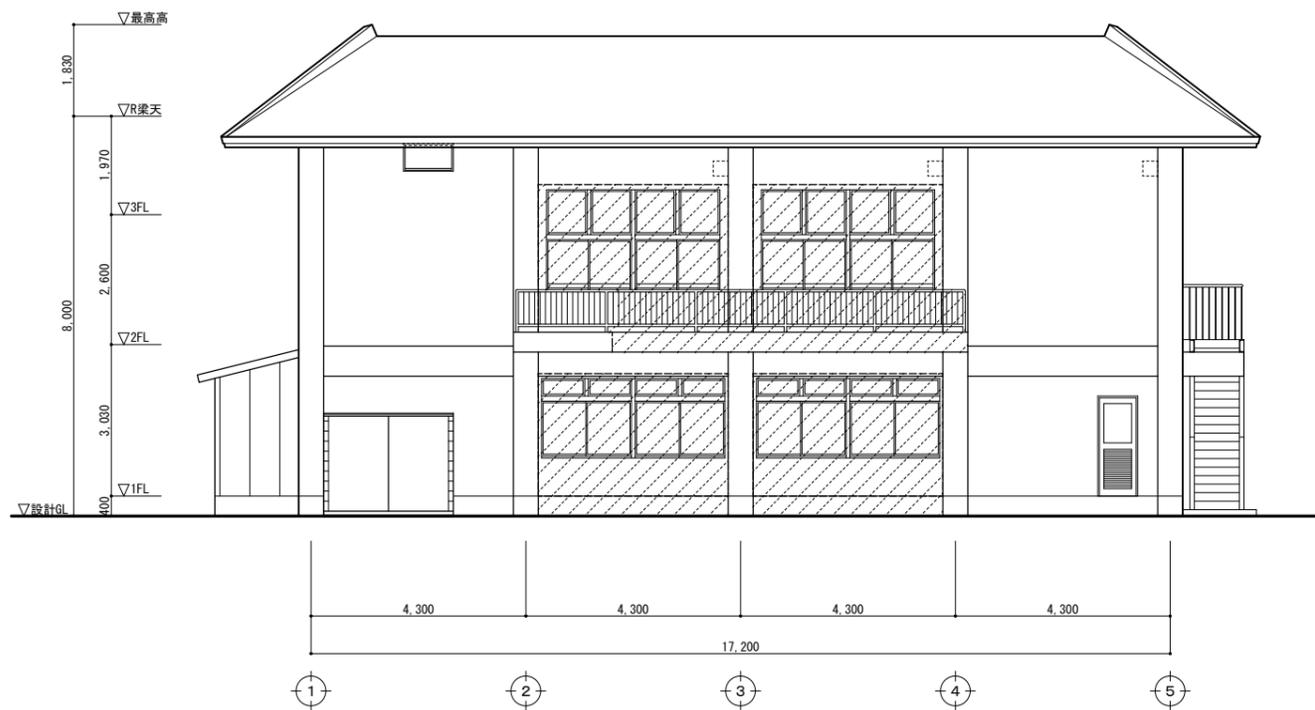
屋根伏図 (改修後) 1/100



北立面図 1/100



東立面図 1/100



南立面図 1/100



西立面図 1/100

凡例
 撤去部分



有限会社 元廣建築設計事務所
 一級建築士事務所 広島県登録 23(1) 第 0951 号

一級建築士登録 第 223245 号
 元廣 匡伸

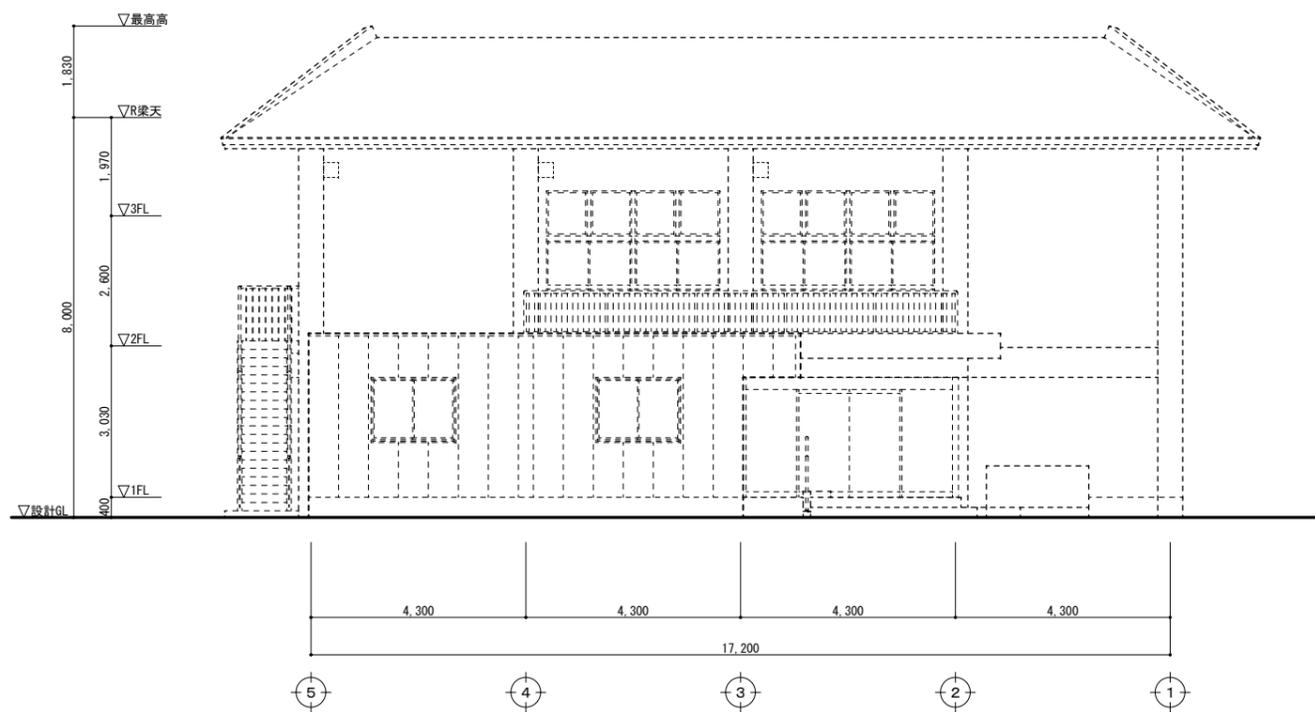
工事名：
 本郷人権文化センター耐震改修等工事

図面名：
 立面図（改修前）

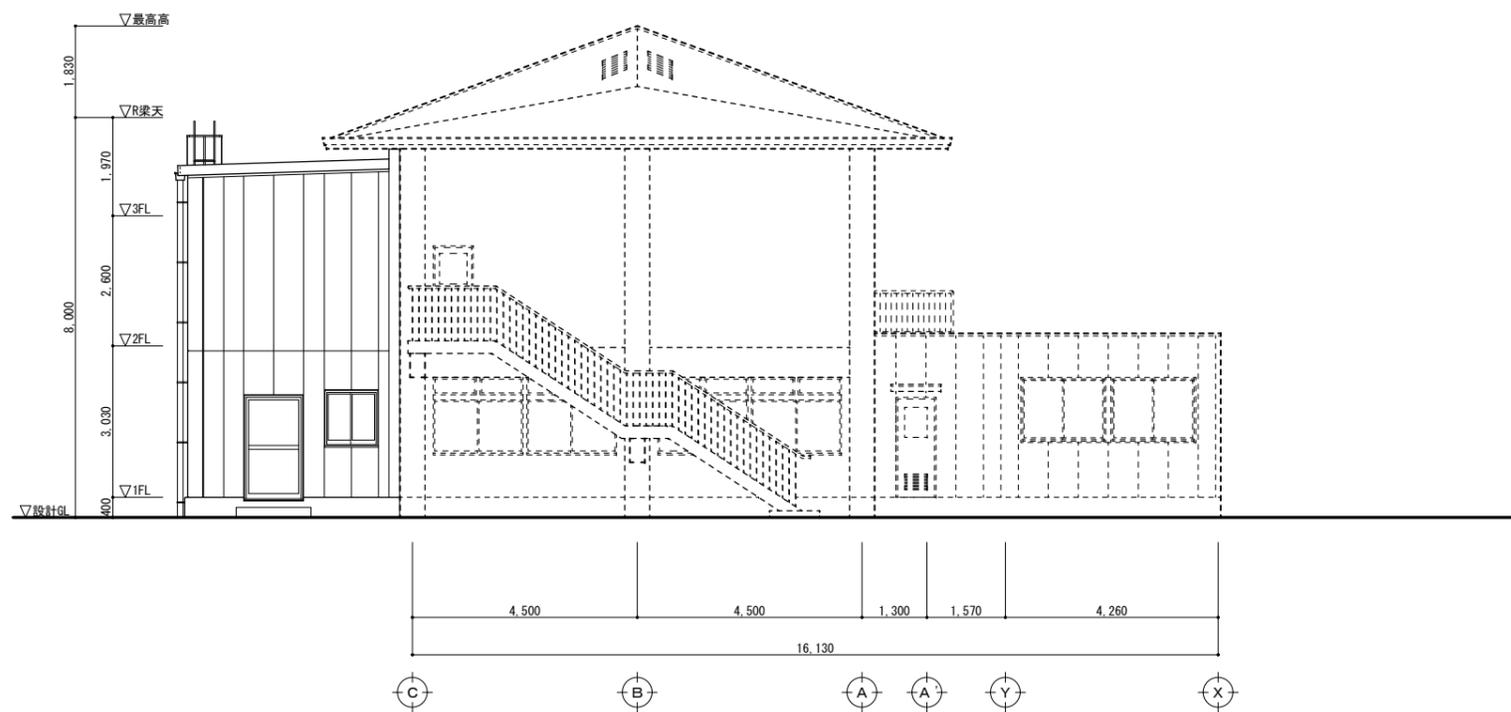
縮尺：
 1/100
 A2版：100%
 A3版：71%

査図： 部長： 課長： 主任： 担当：

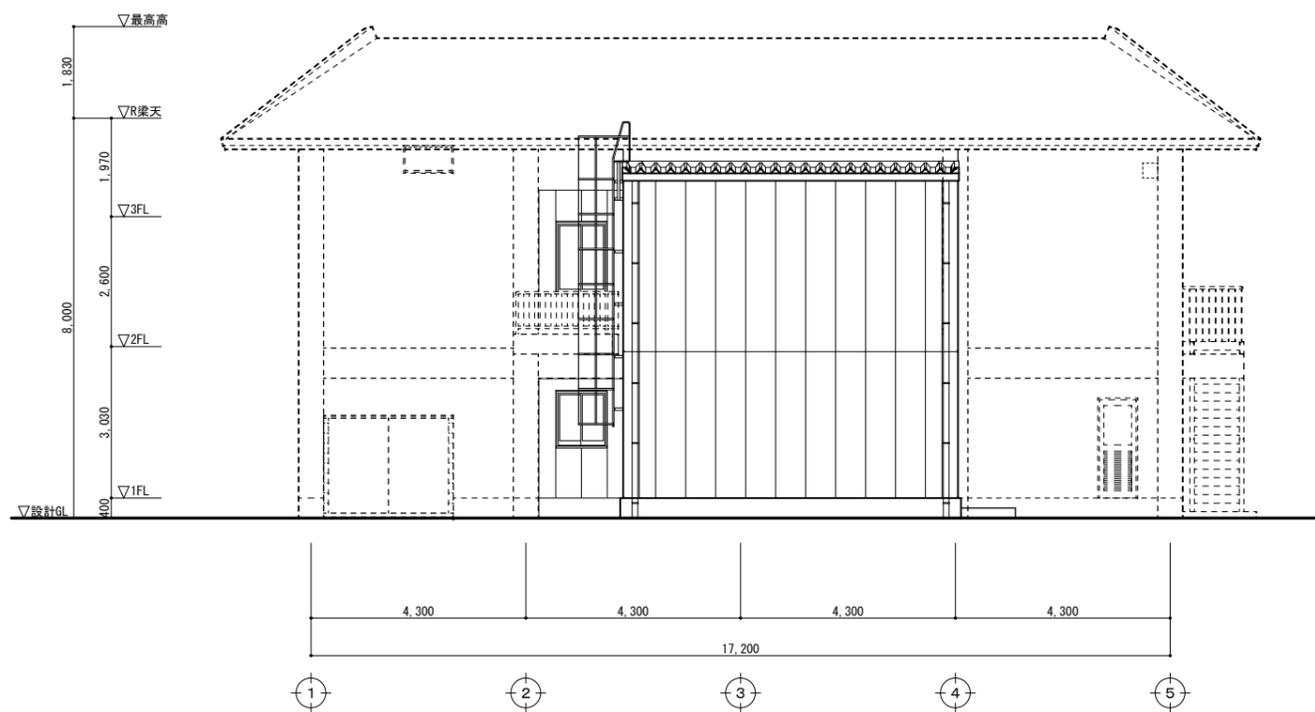
日付：
 R7年
 図番：
 A - 22



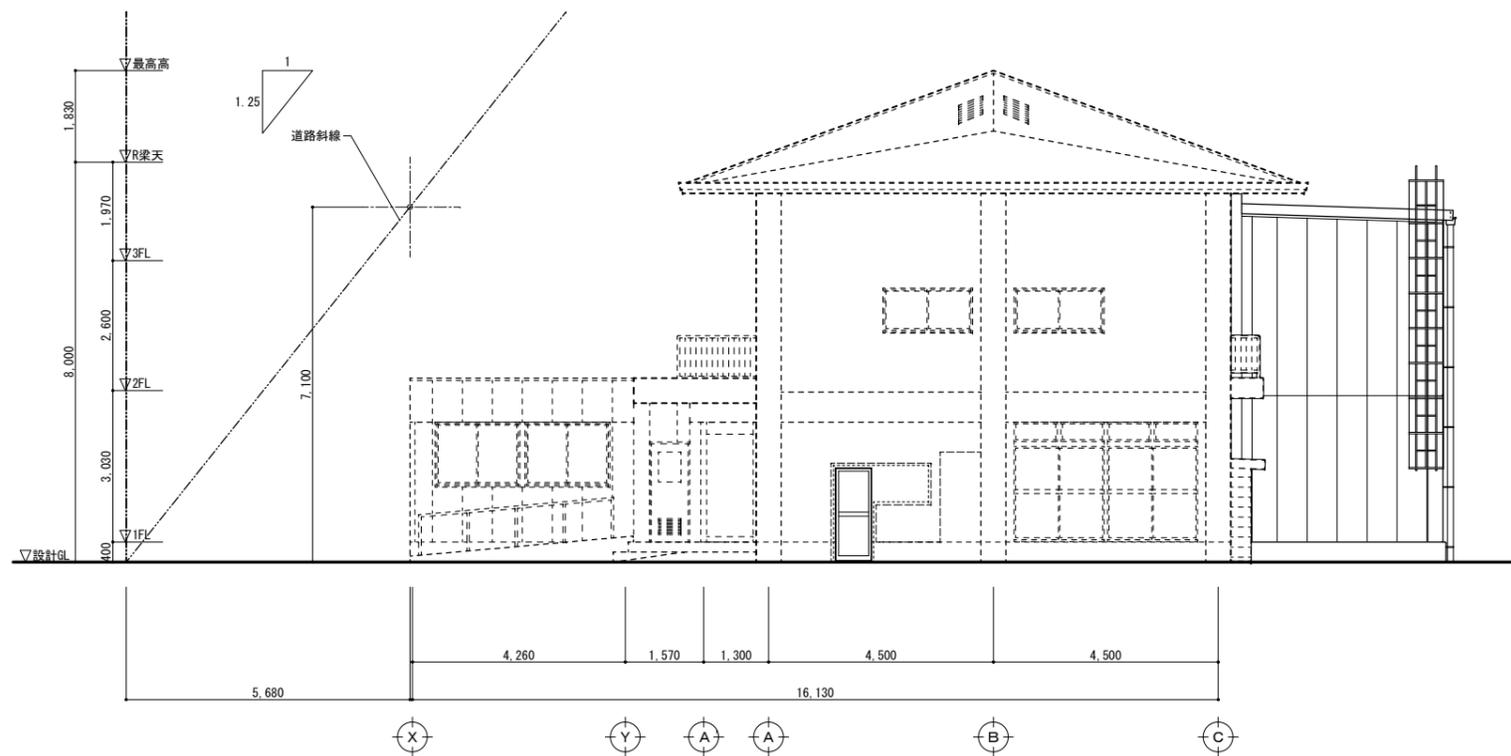
北立面図 1/100



東立面図 1/100

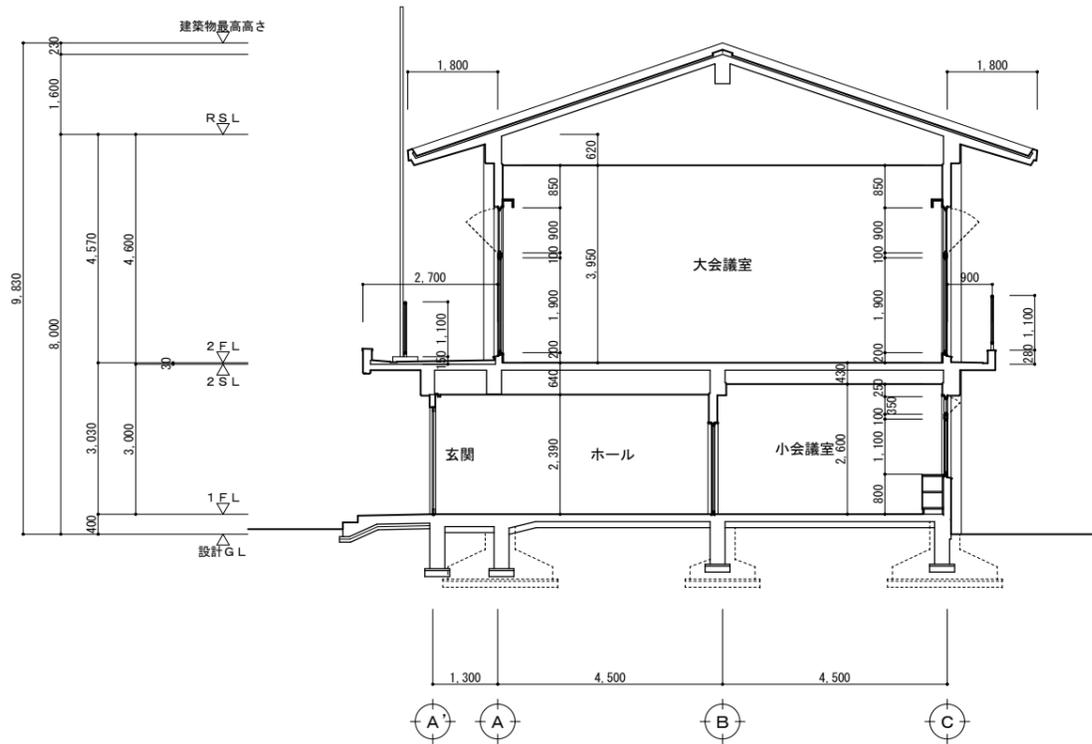


南立面図 1/100

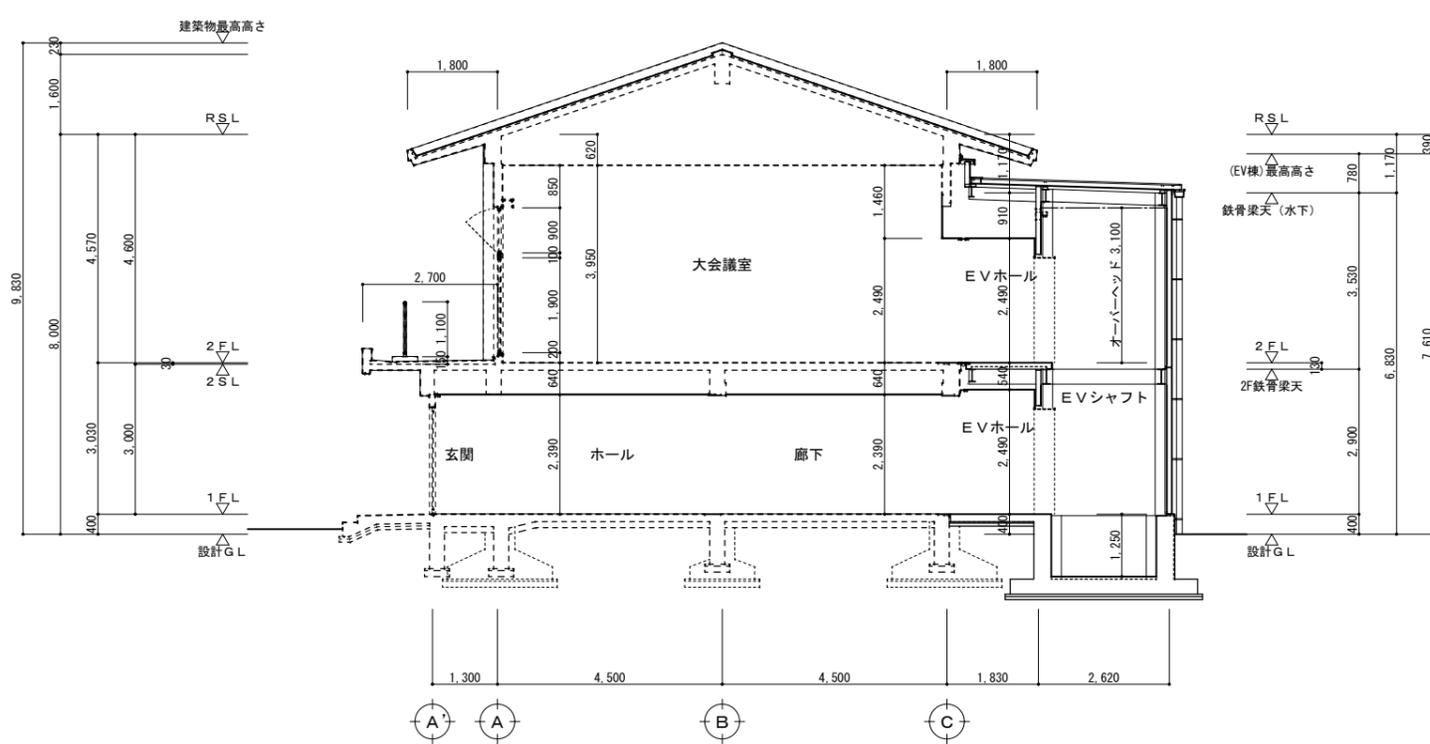


西立面図 1/100

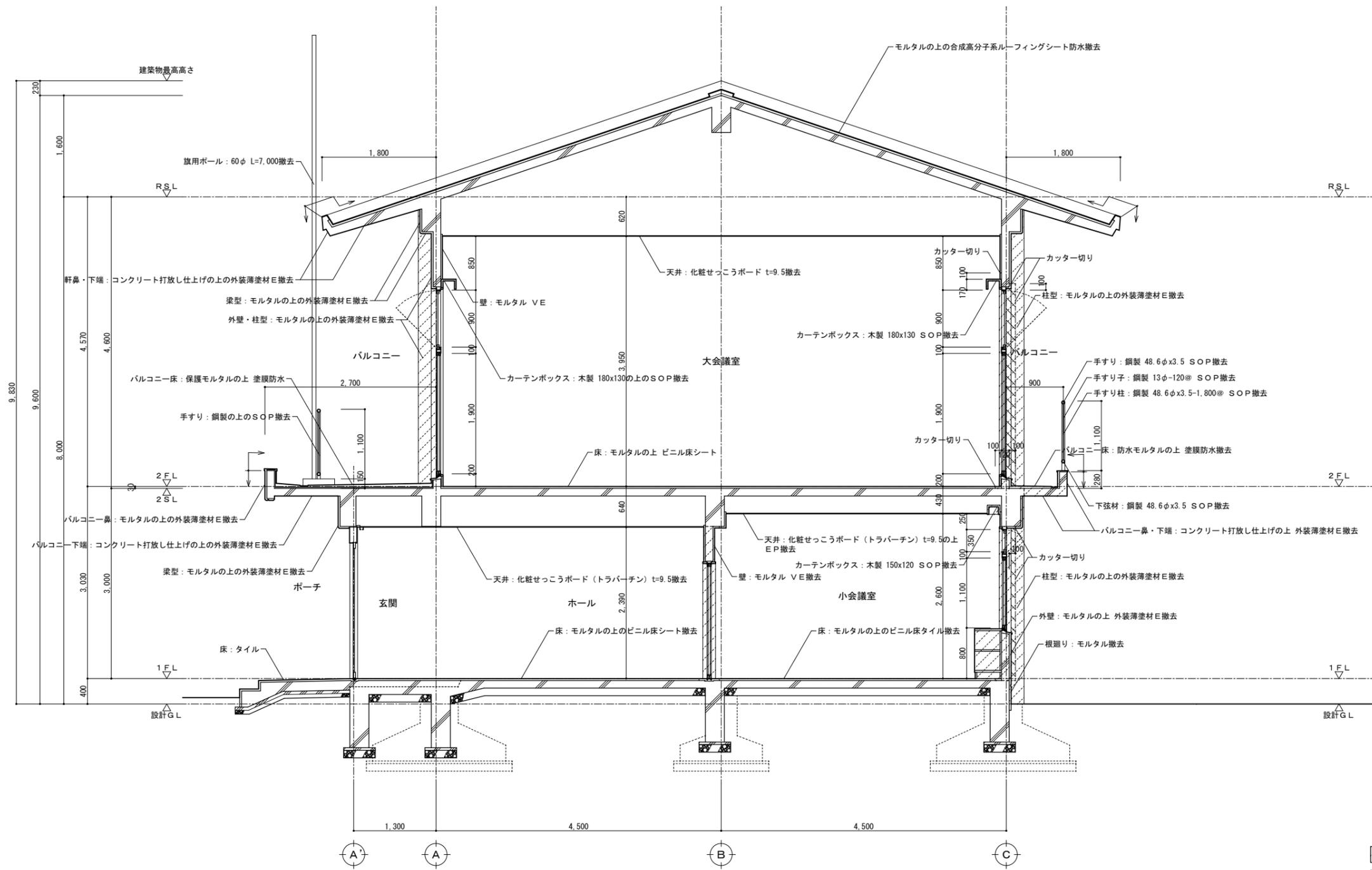




断面図 (改修前) 1/100

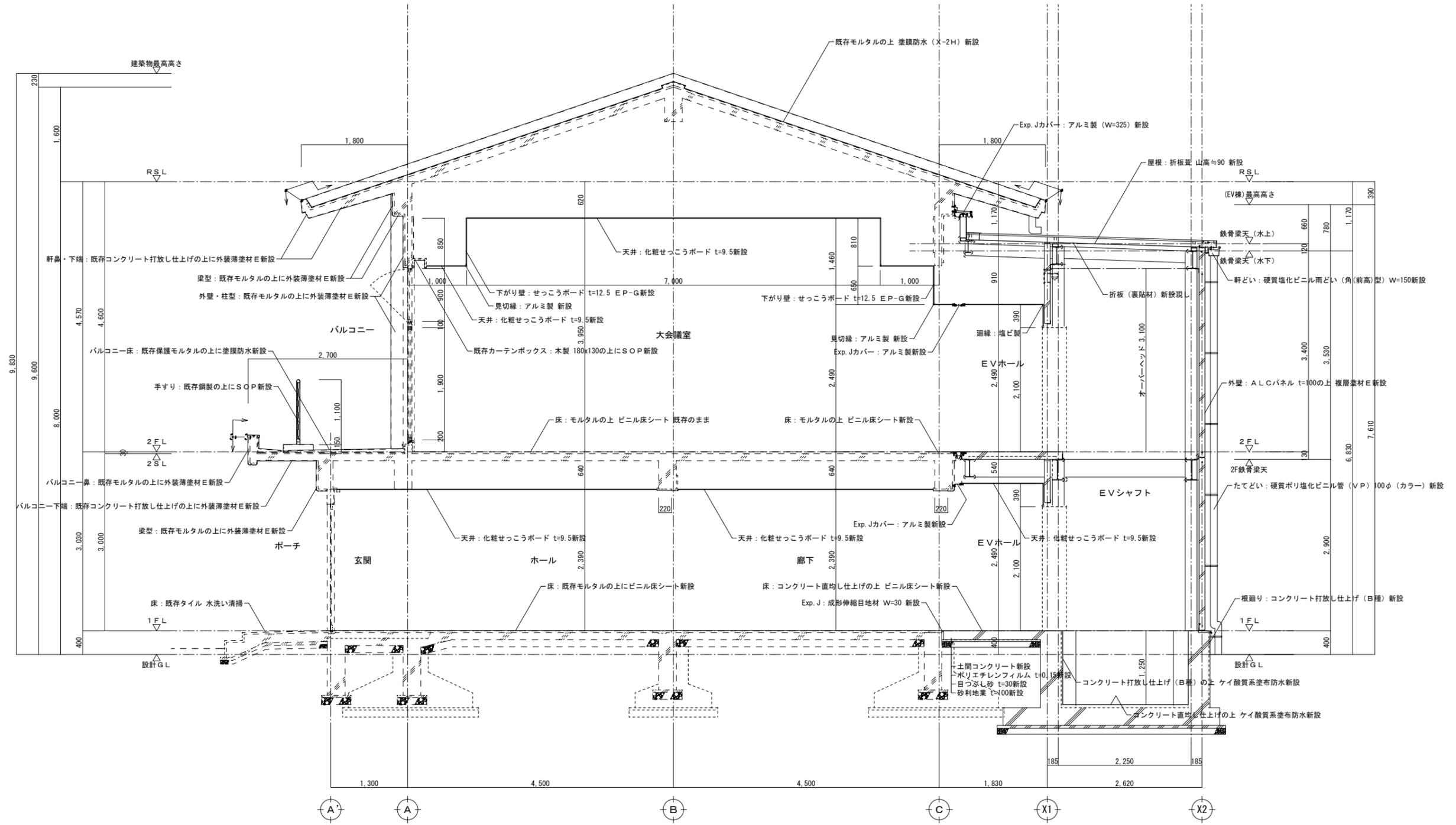


断面図 (改修後) 1/100

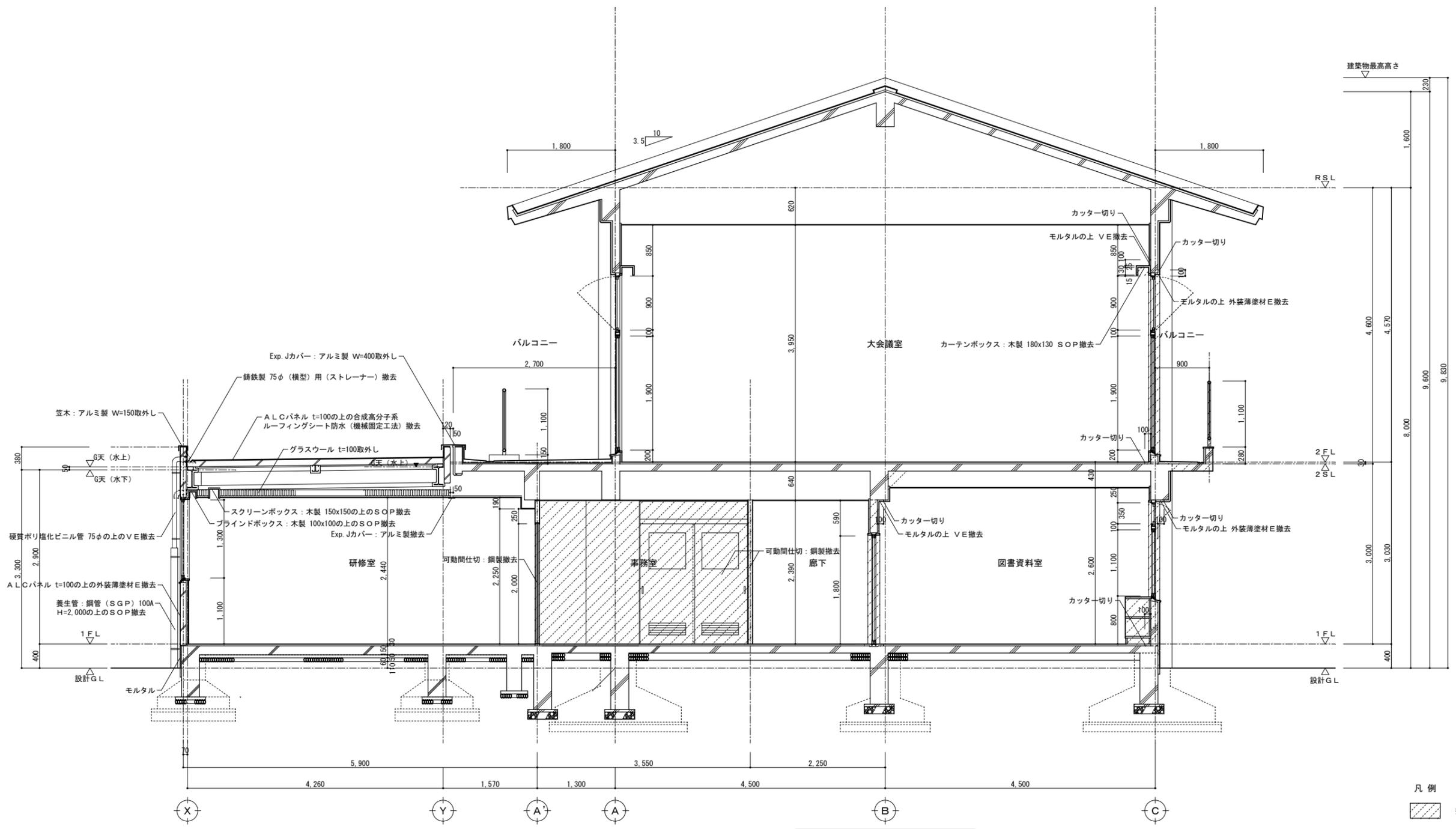


矩計図 (改修前) 1/50

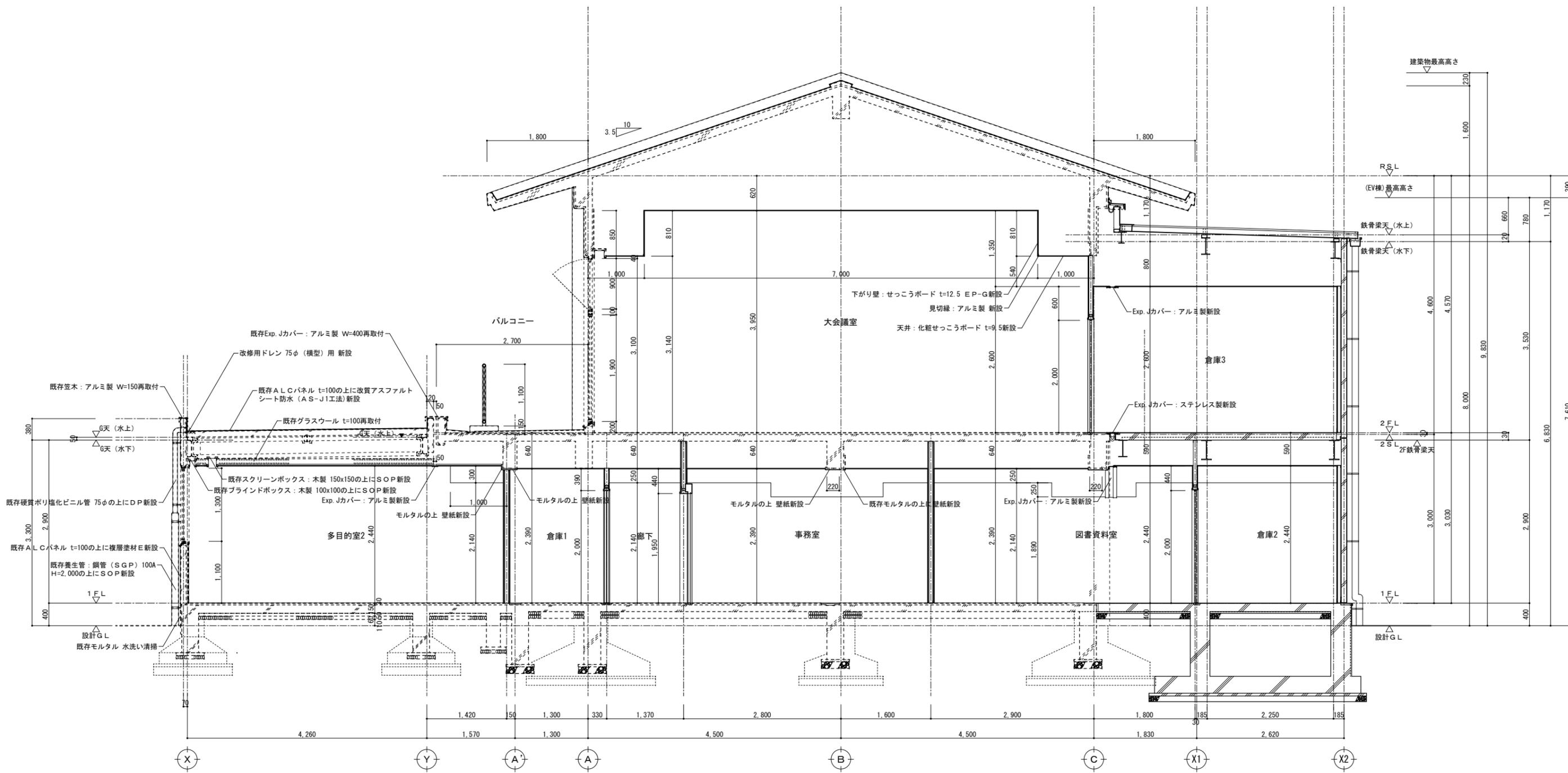
- 凡例
- 撤去部分
 - モルタル共撤去部分



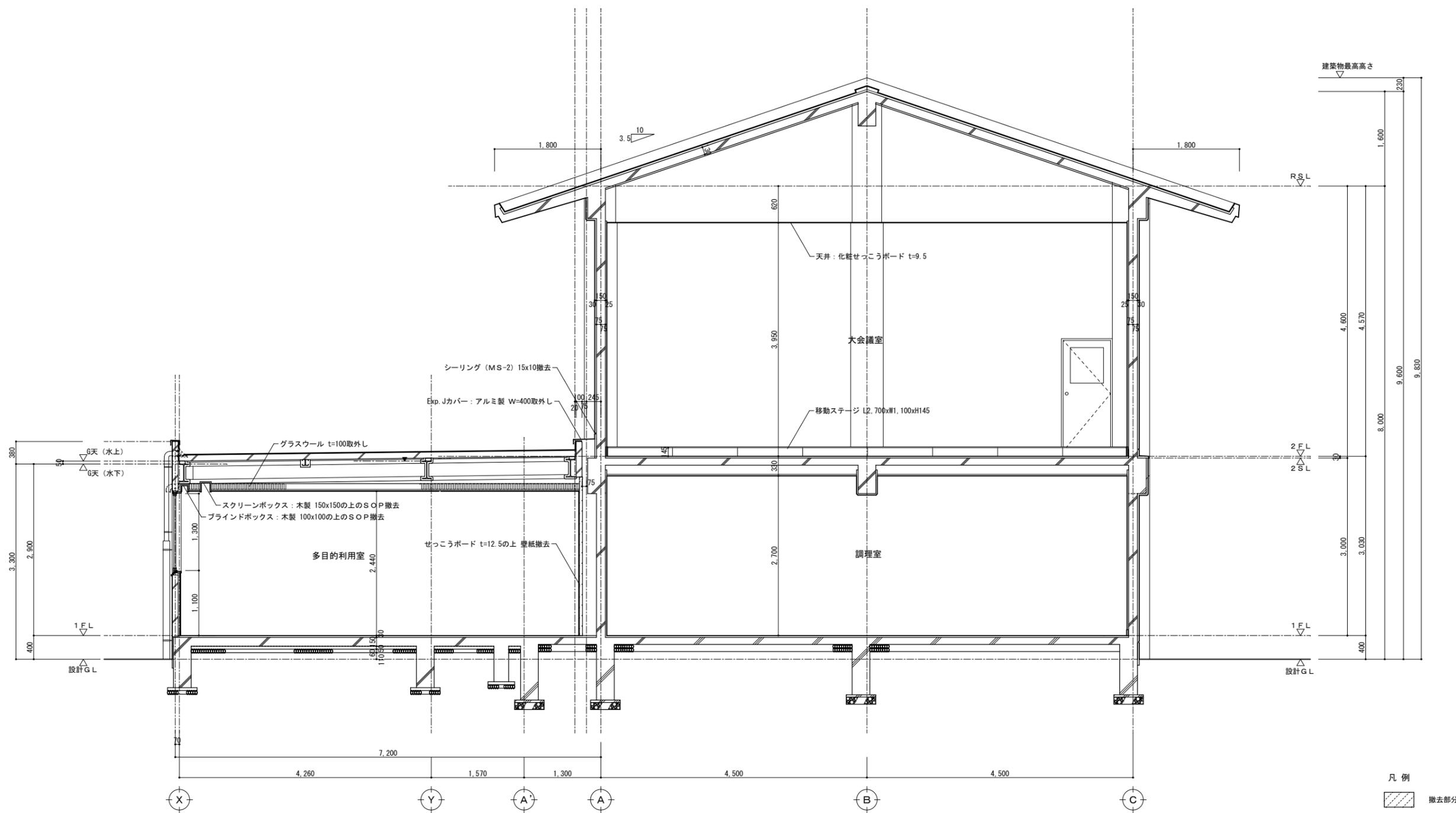
矩計図 (改修後) 1/50



断面詳細図 (改修前) 1/50

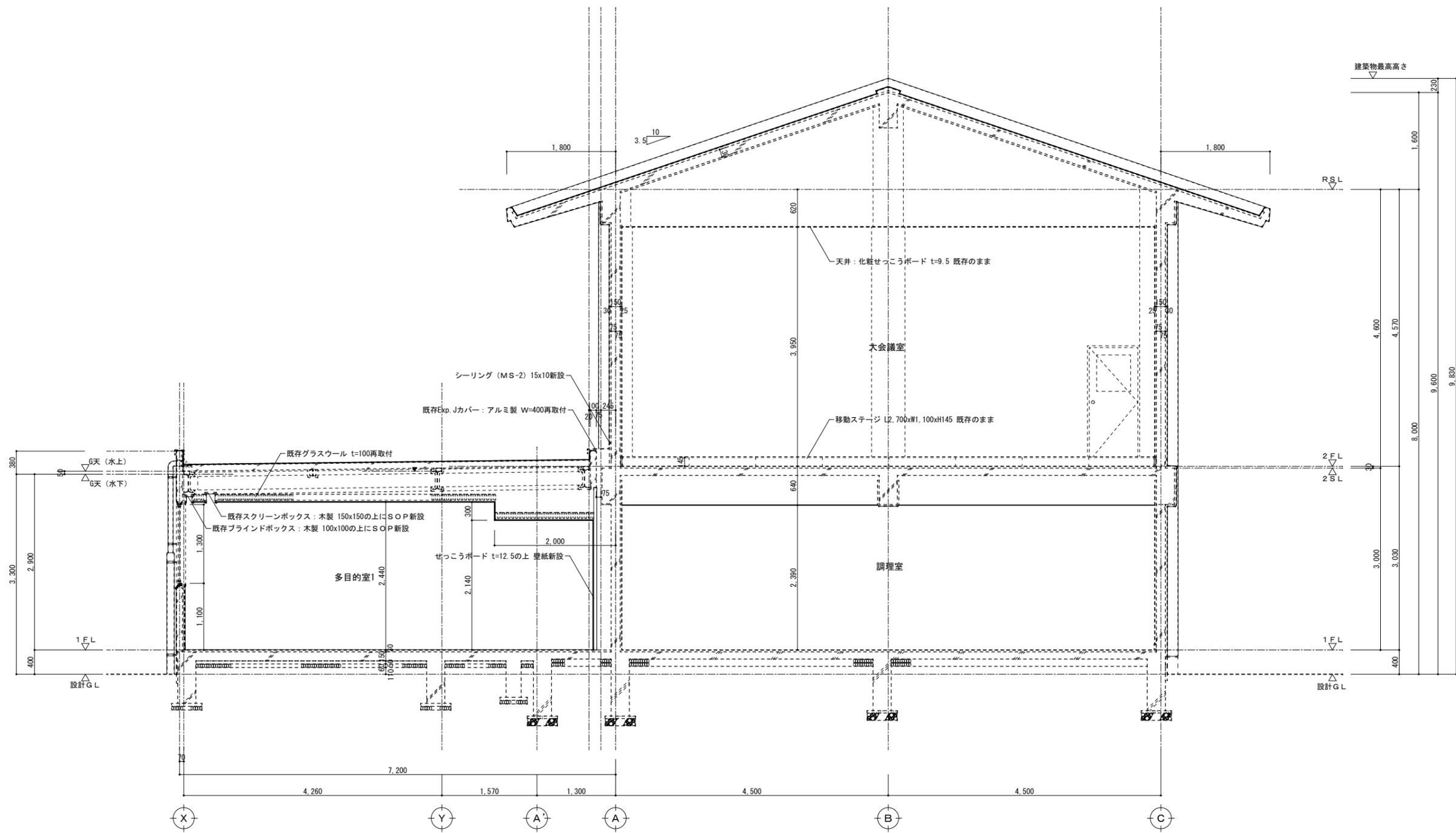


断面詳細図 (改修後) 1/50

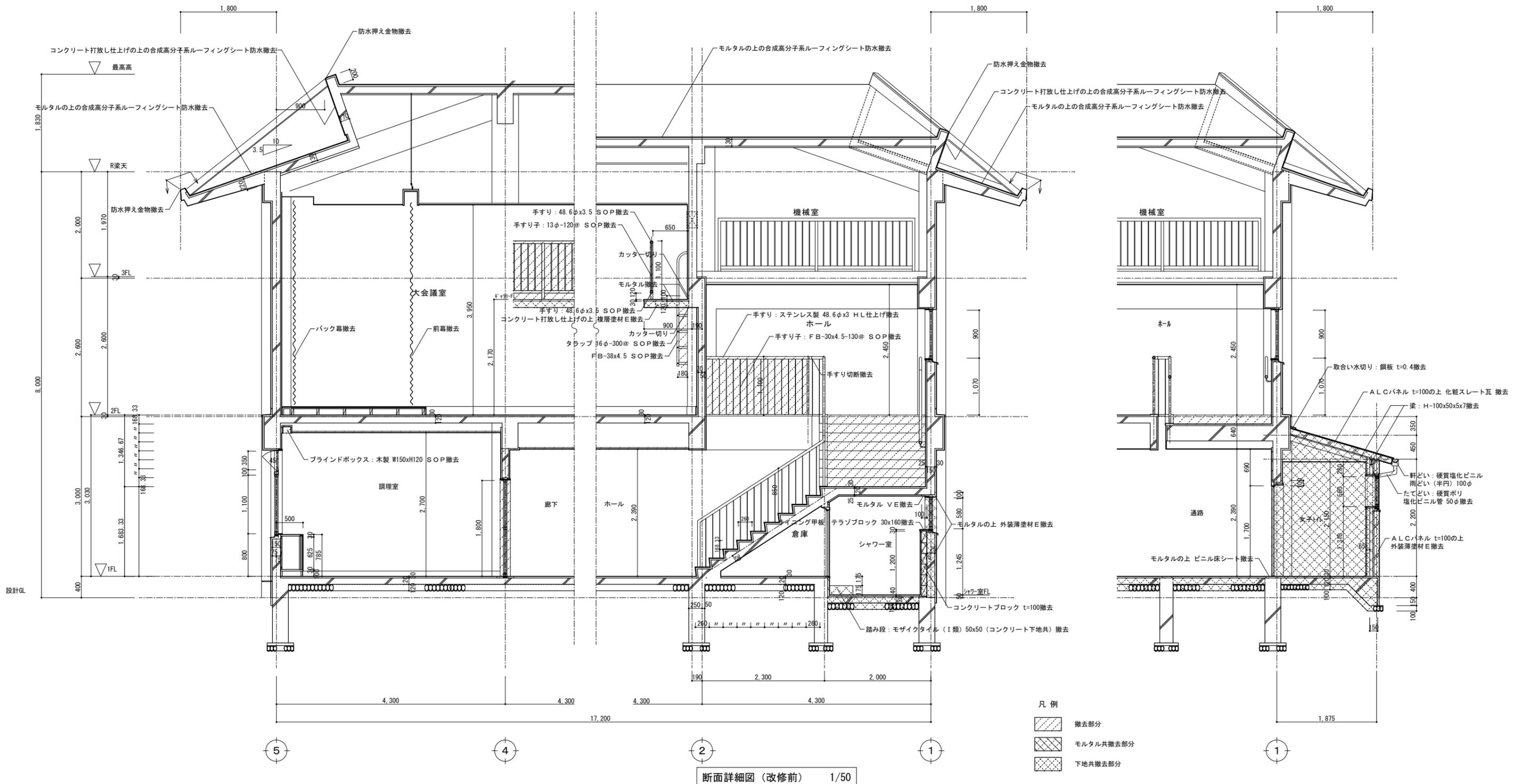


断面詳細図 (改修前) 1/50

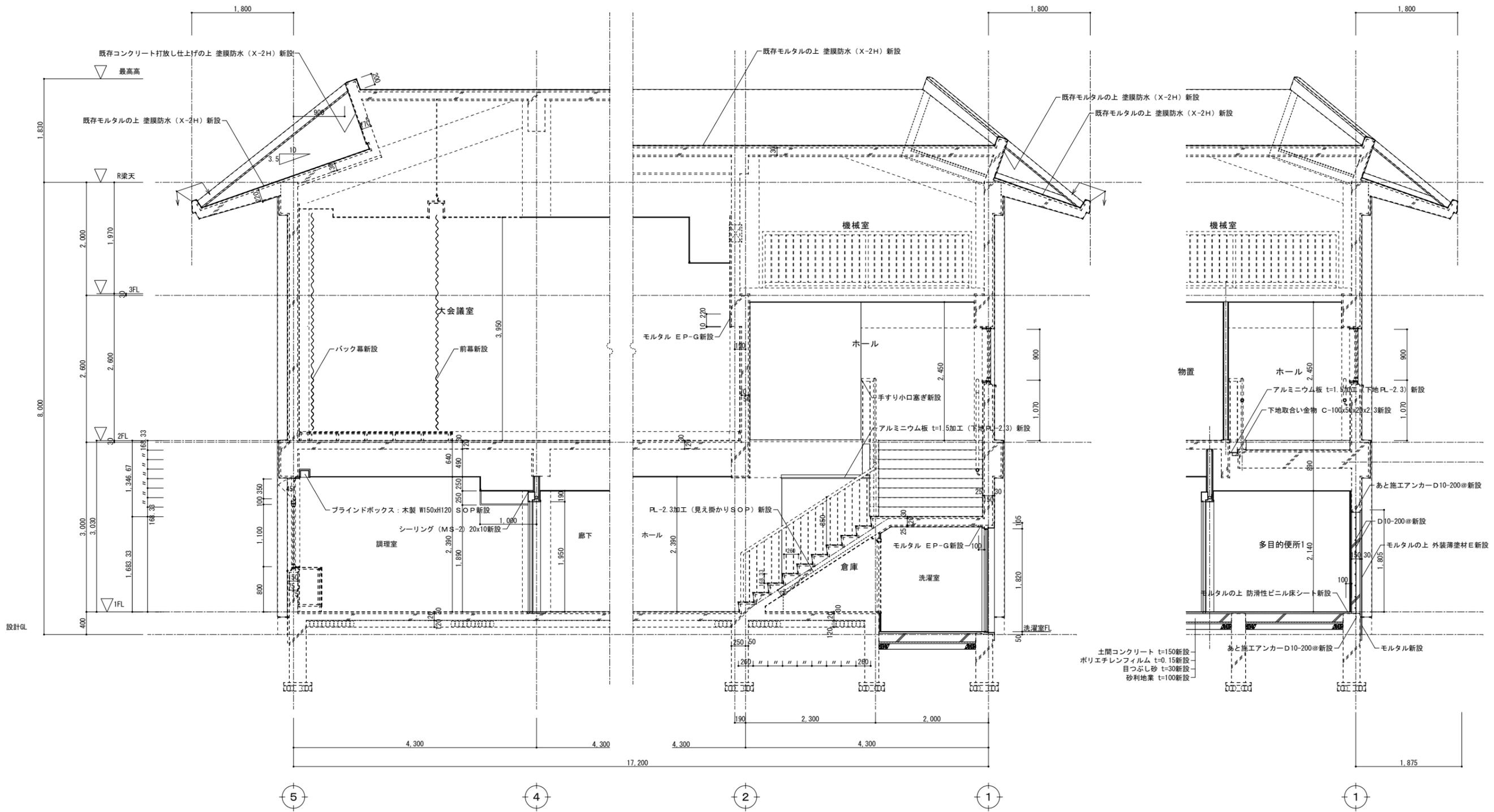




断面詳細図 (改修後) 1/50

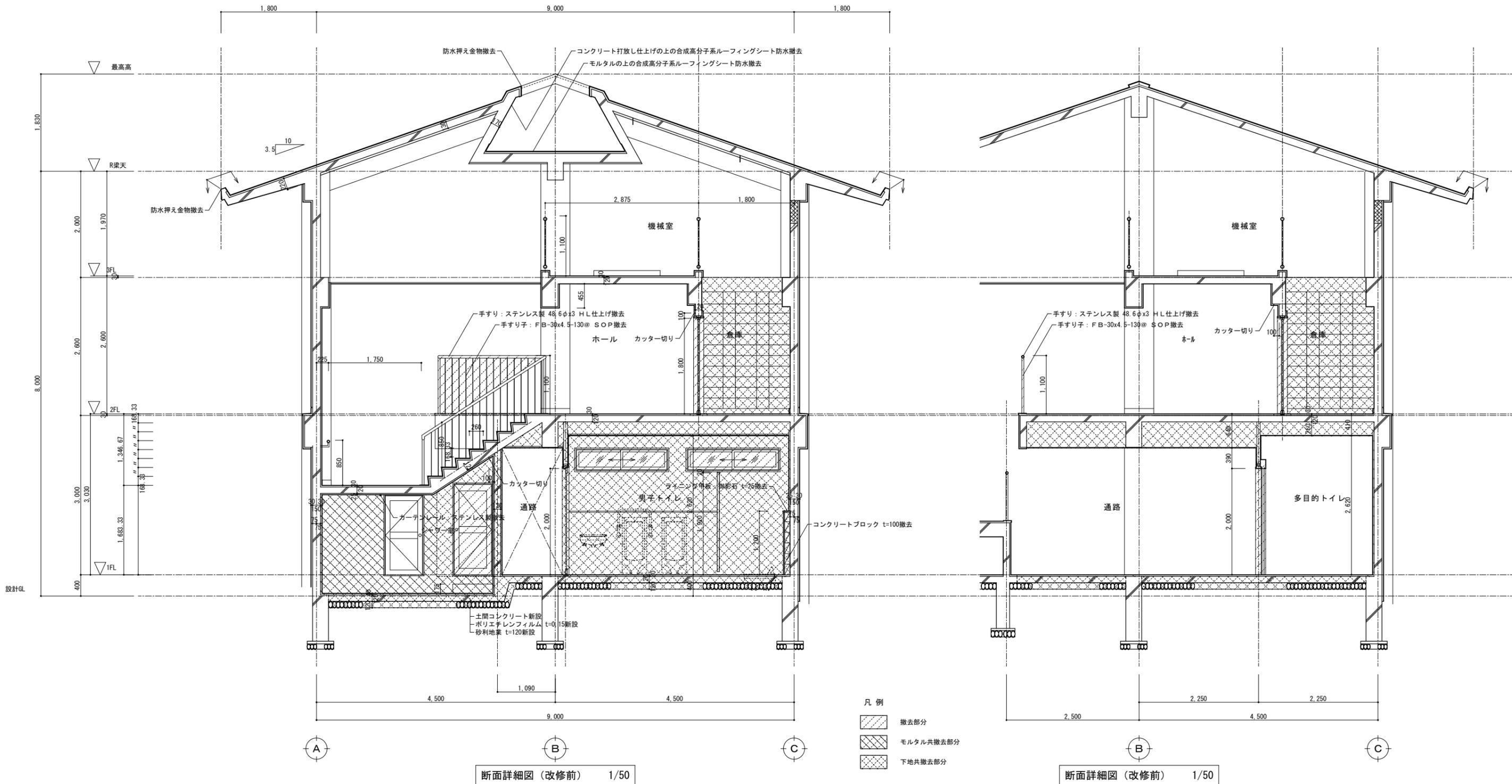


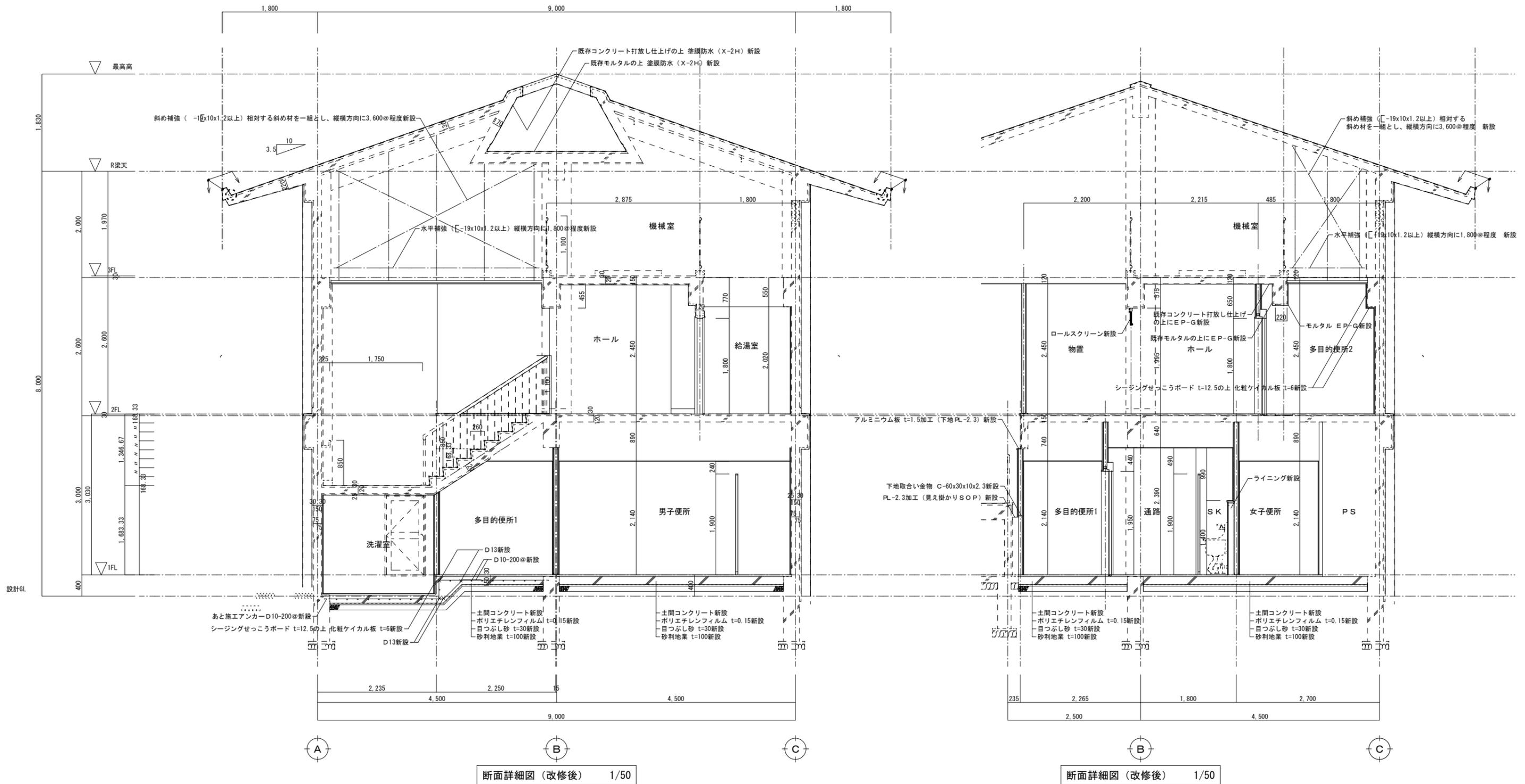
断面詳細図 (改修前) 1/50

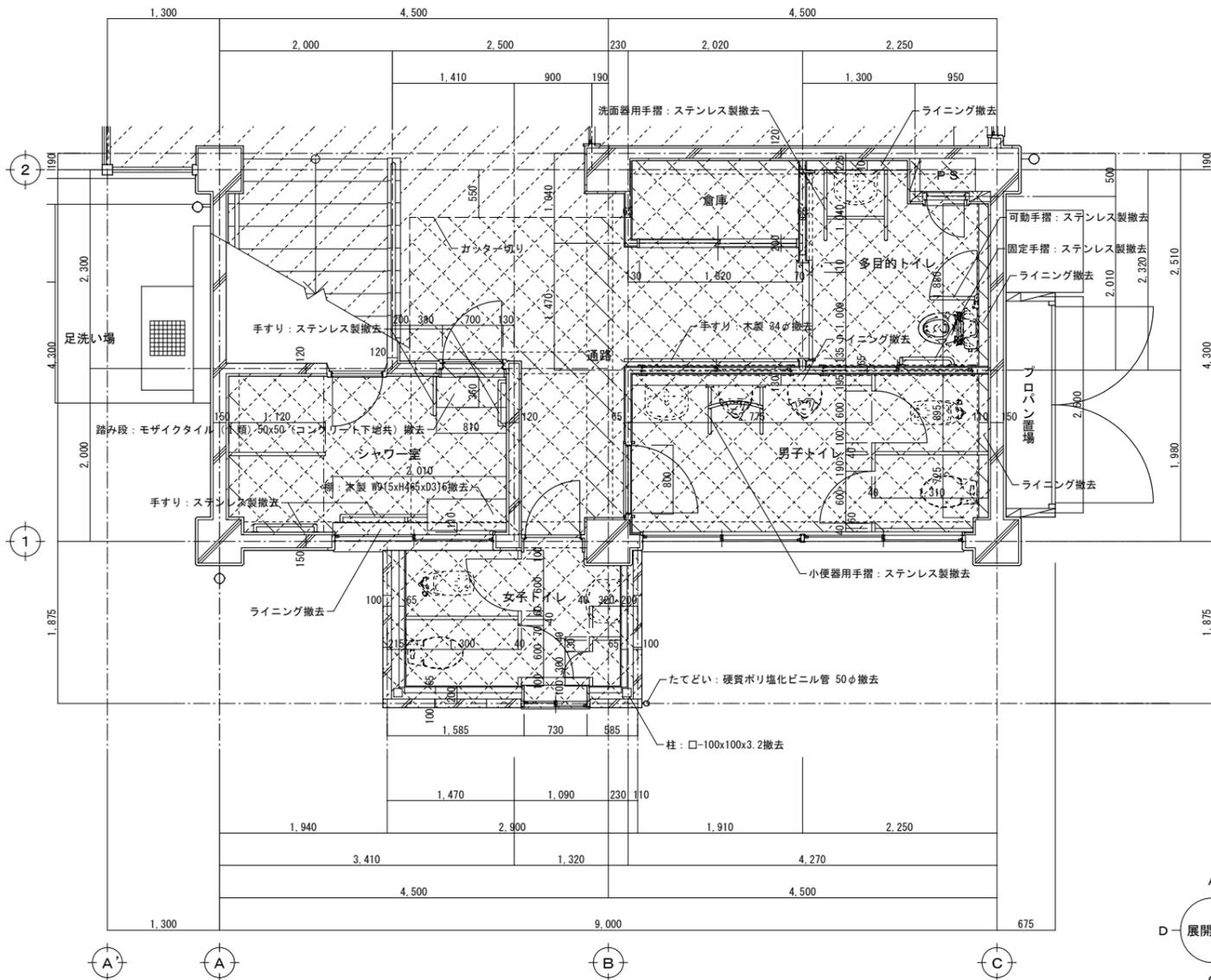


断面詳細図 (改修後) 1/50

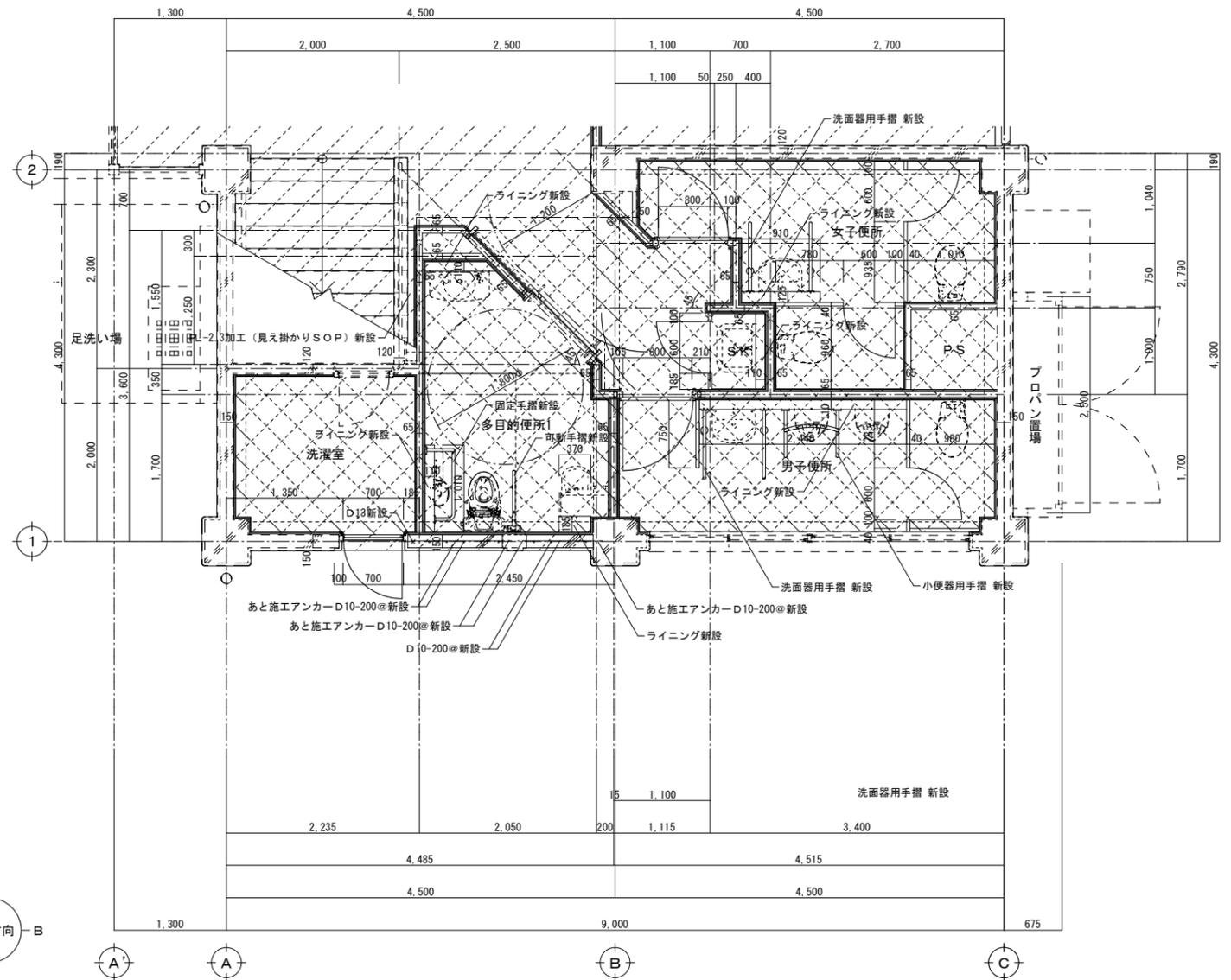








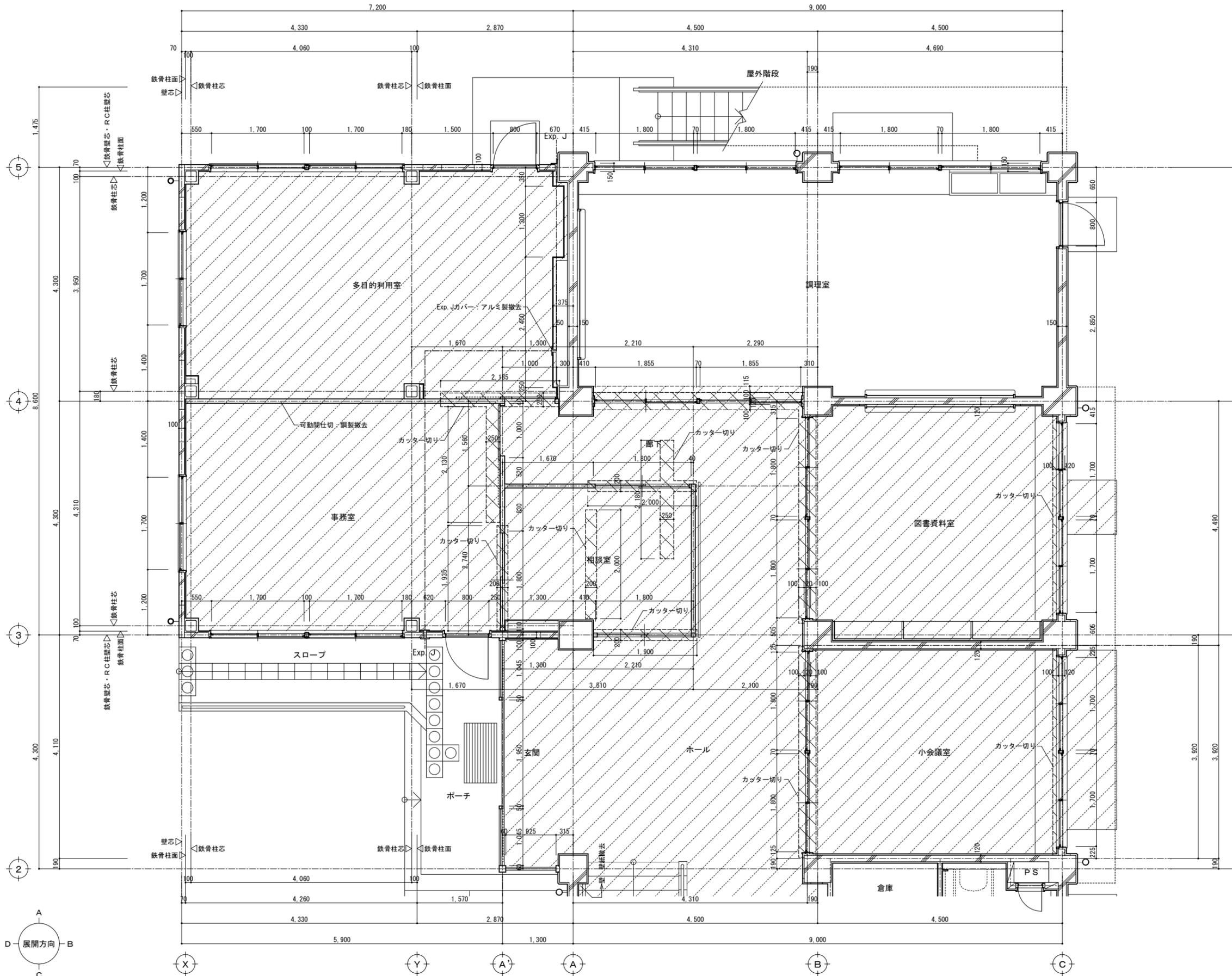
1階平面詳細図 (改修前) 1/50



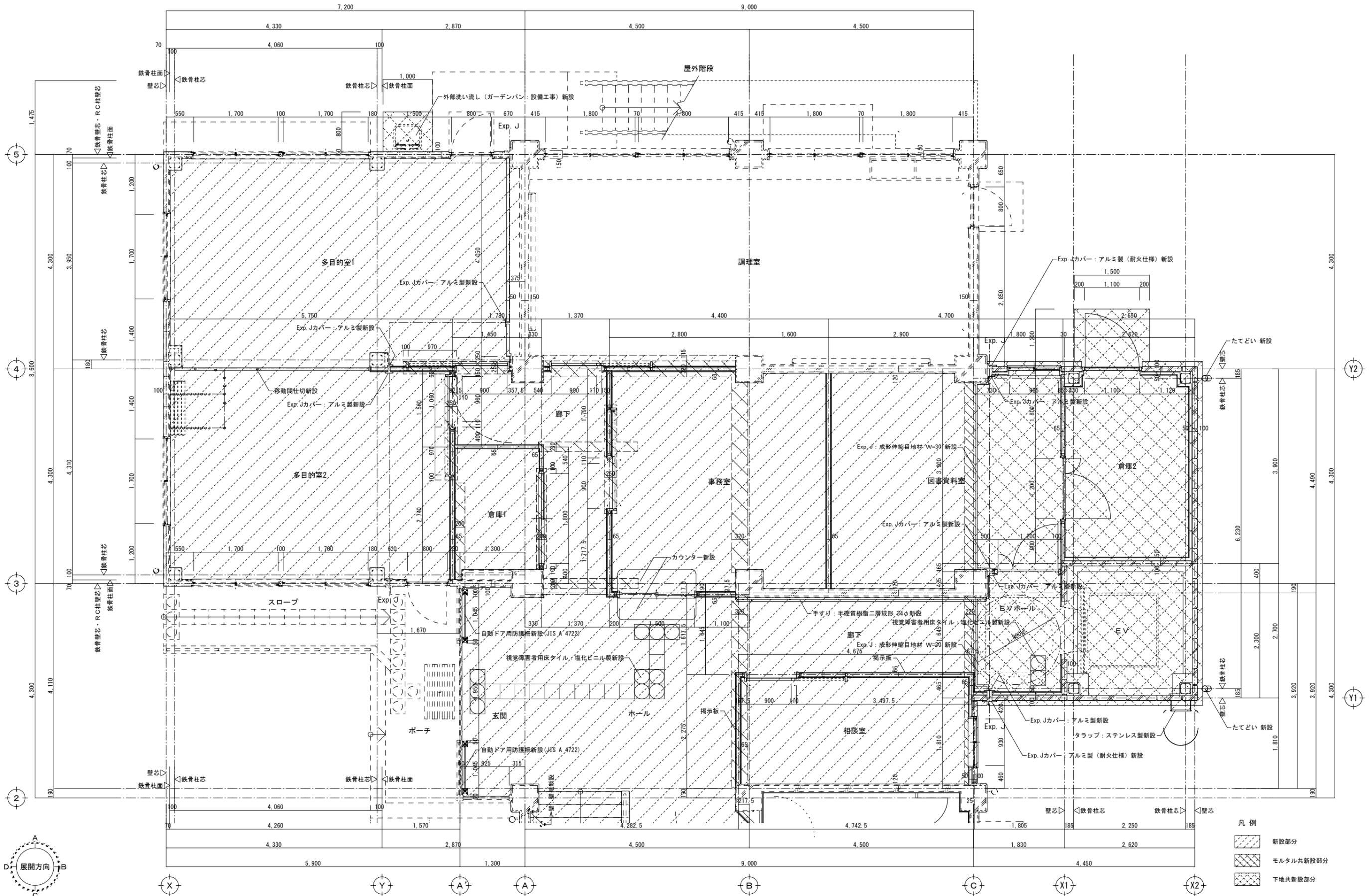
1階平面詳細図 (改修後) 1/50

- 凡例
- 撤去又は新設部分
 - モルタル共撤去又は新設部分
 - 下地共撤去又は新設部分

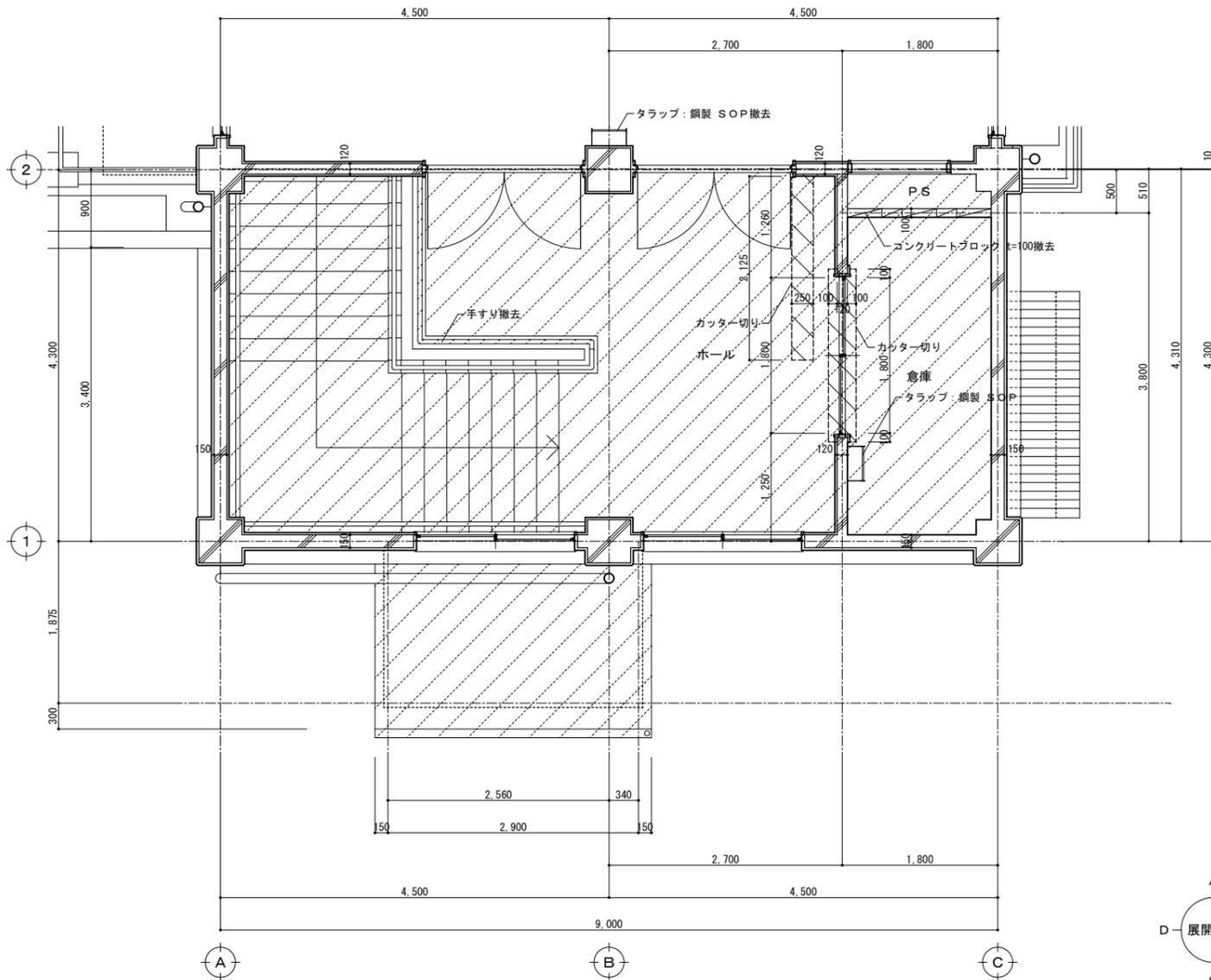
※ 土間コンクリート新設部は、厚さ150、鉄筋 D10-200@シングルクロスとし、既存部との取り合いはあと施工アンカーを入れ、土間コンクリート下部は、ポリエチレンフィルム t=0.15、目つぶし砂 t=30、砂利地業 t=100を行うこと。



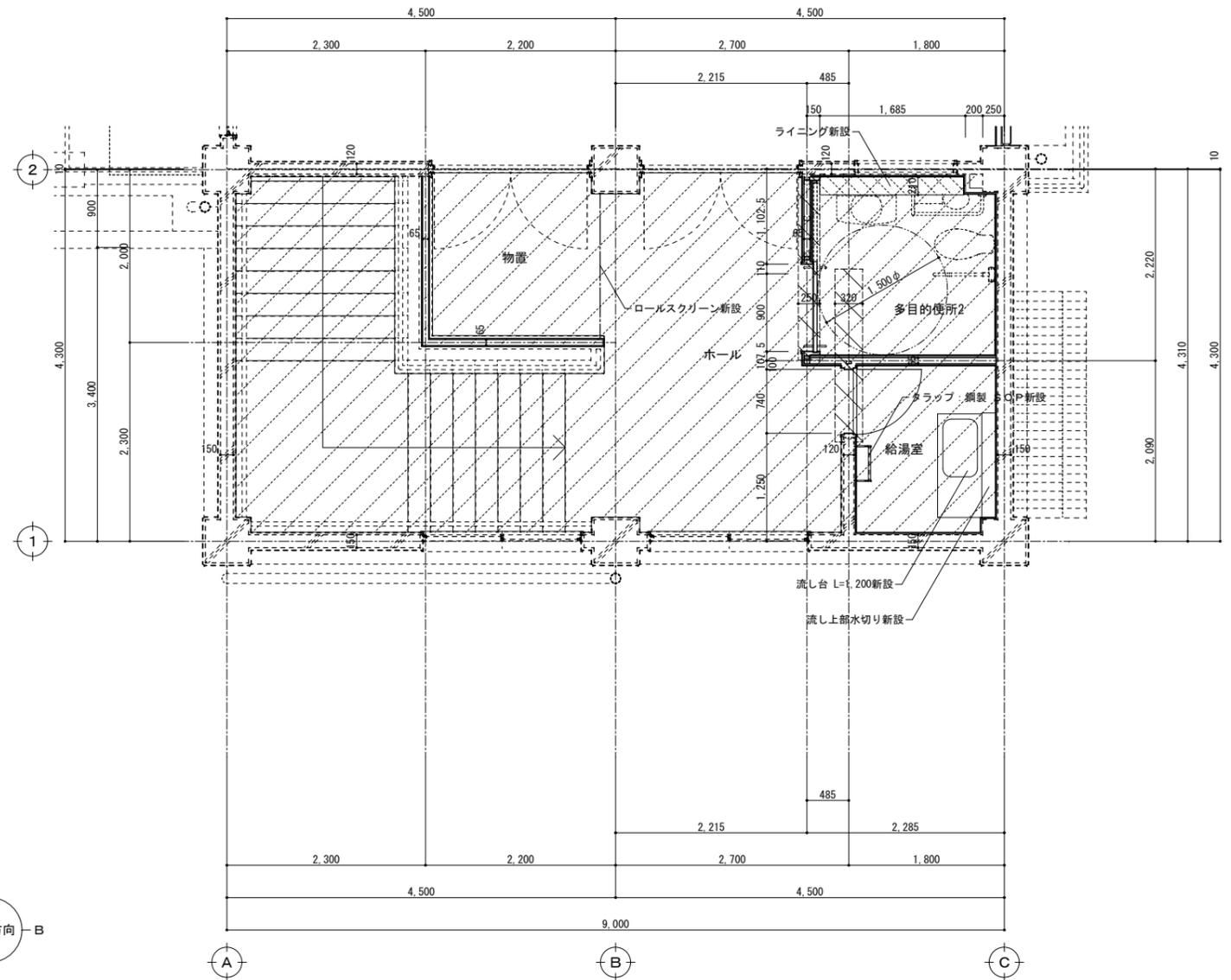
1階平面詳細図 (改修前) 1/50



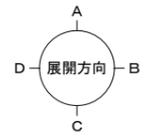
1階平面詳細図 (改修後) 1/50



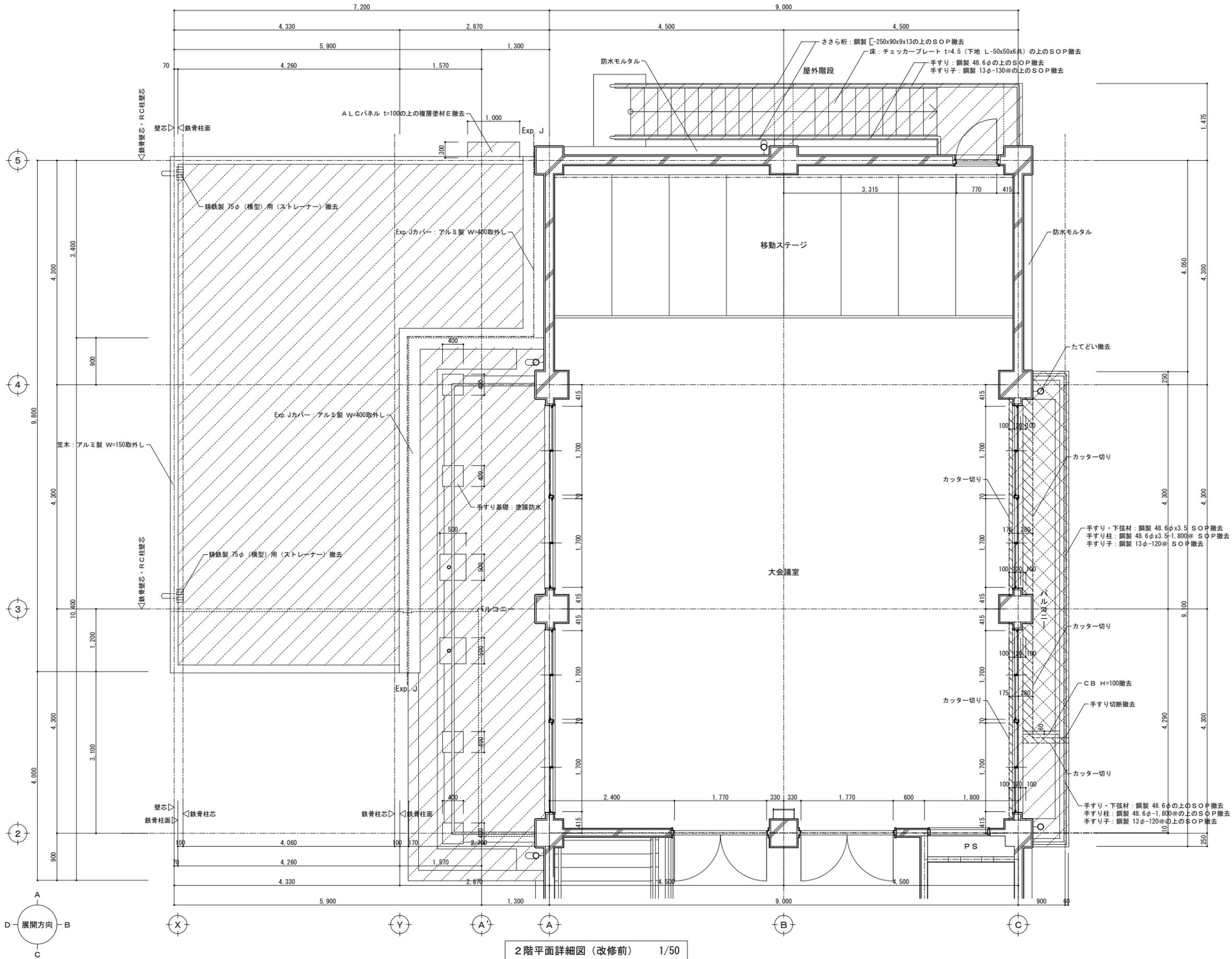
2階平面詳細図 (改修前) 1/50



2階平面詳細図 (改修後) 1/50

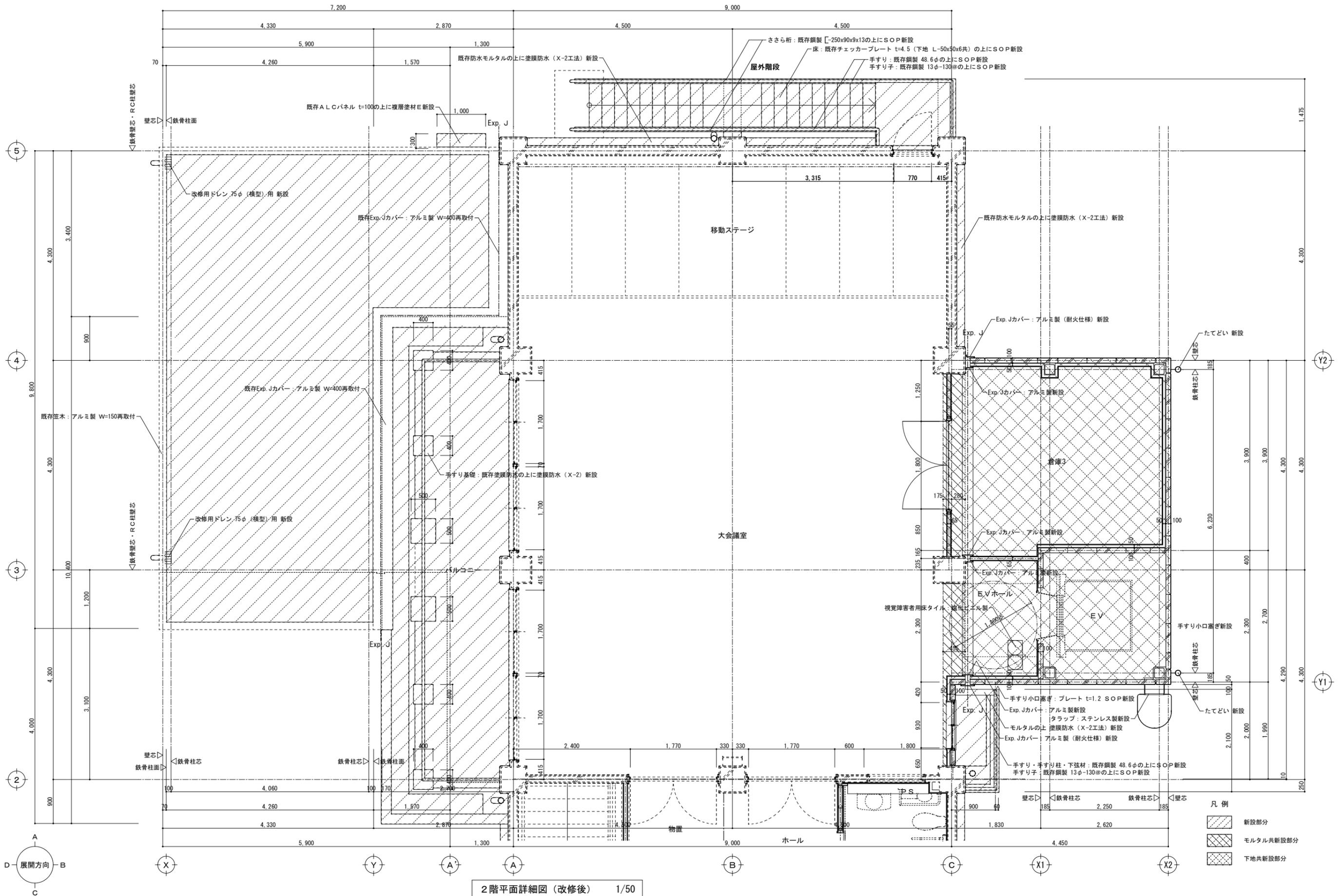


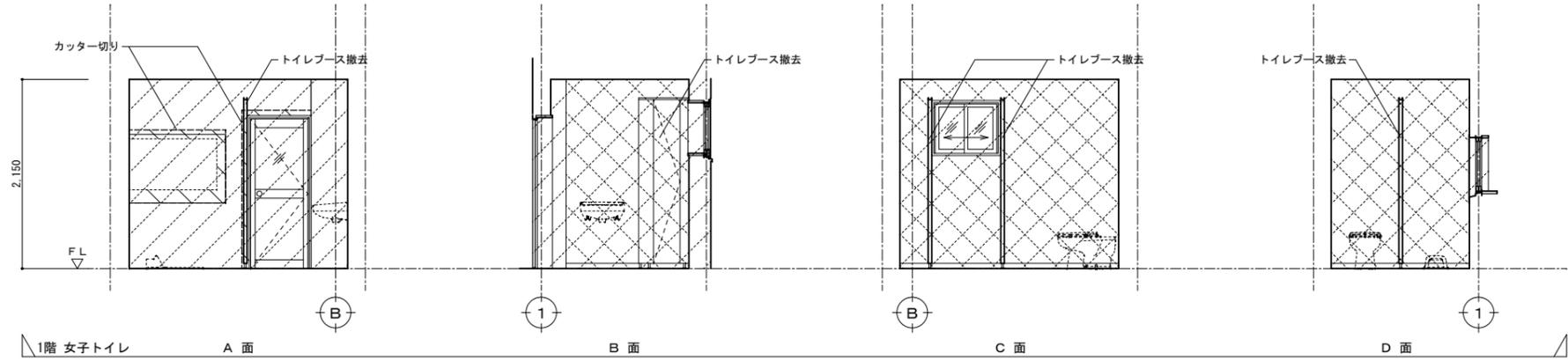
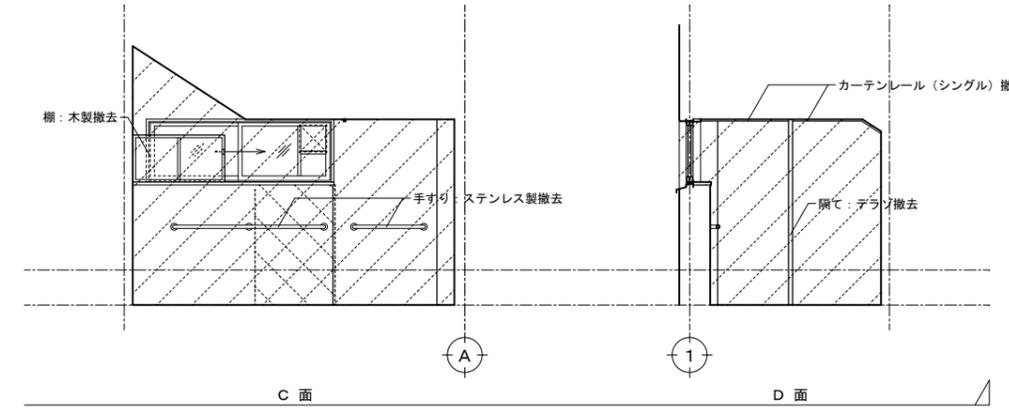
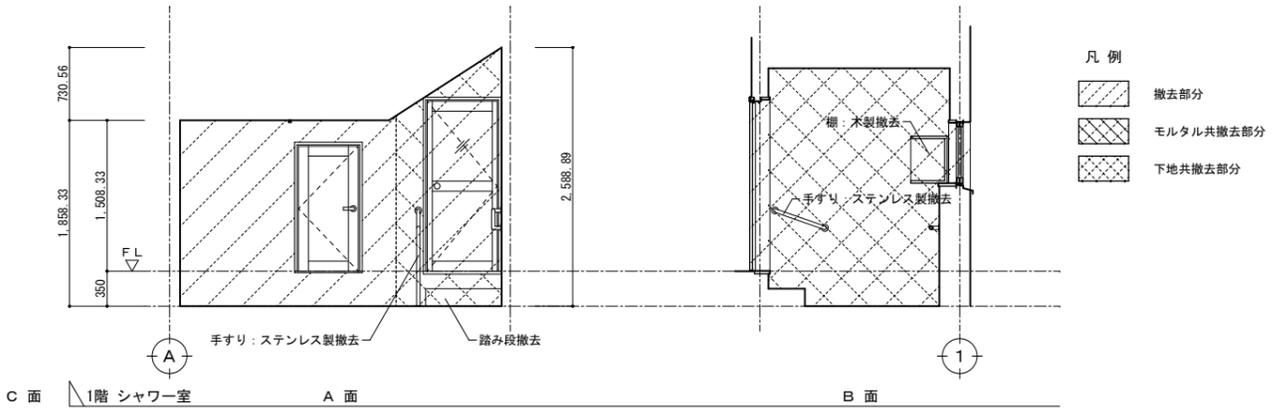
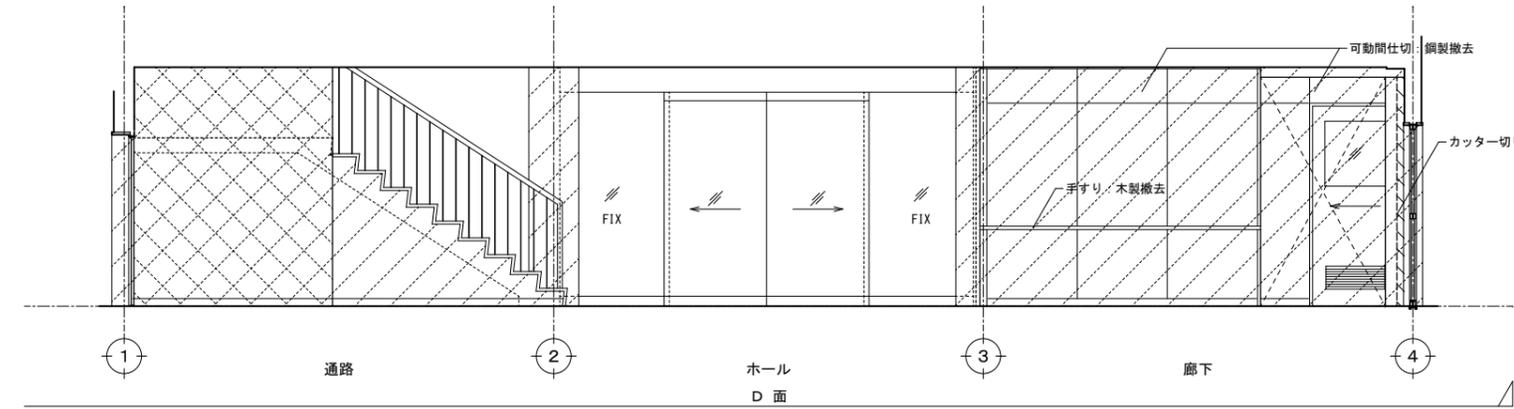
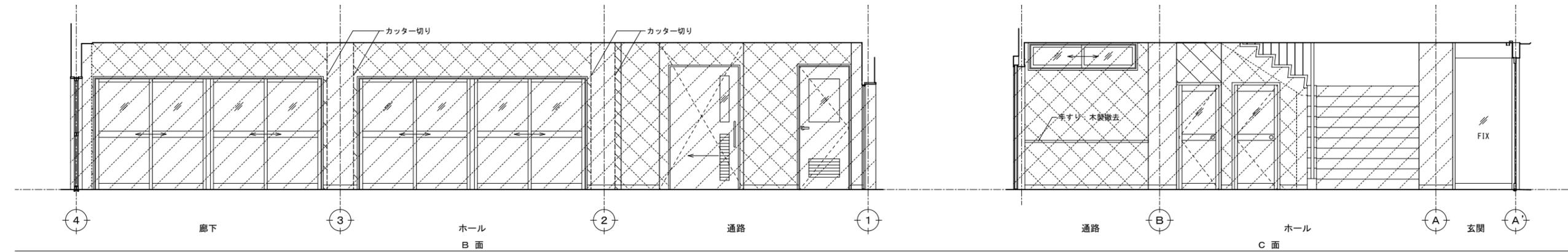
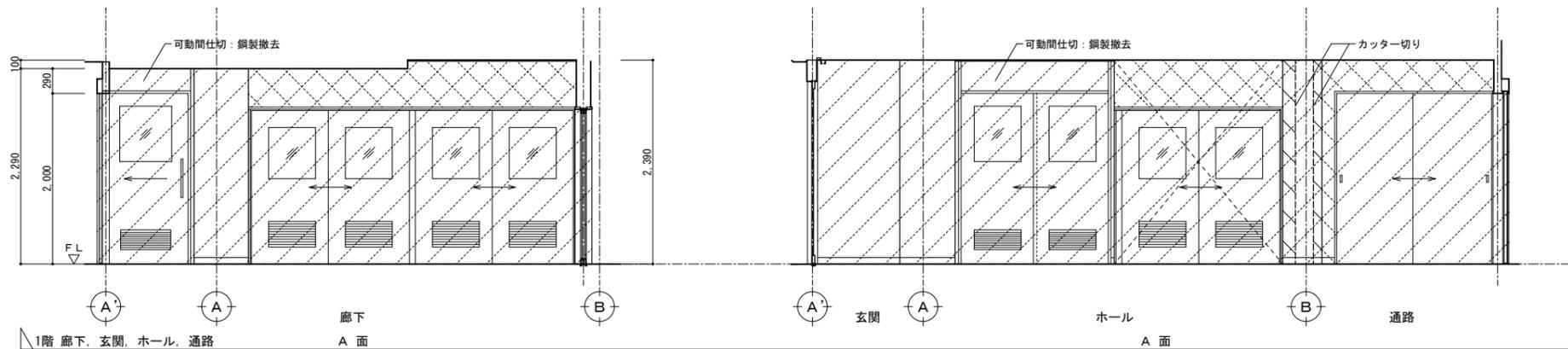
- 凡例
- 撤去又は新設部分
 - モルタル共撤去又は新設部分
 - 下地共撤去又は新設部分



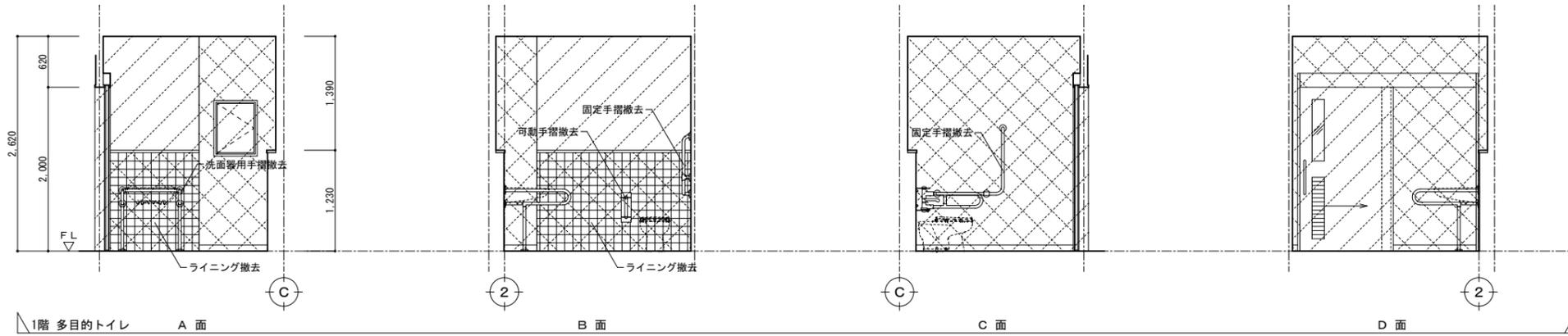
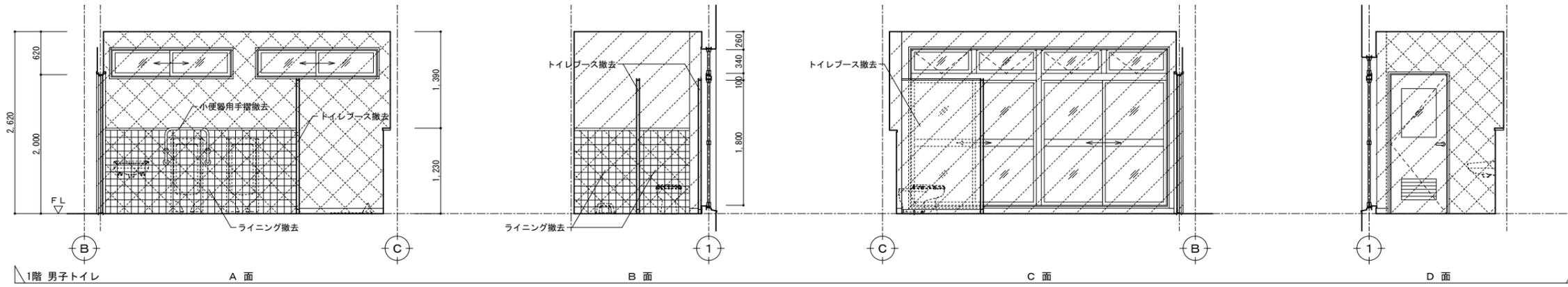
2階平面詳細図 (改修前) 1/50

- 凡例
- 撤去部分
 - モルタル共撤去部分
 - 下地共撤去部分

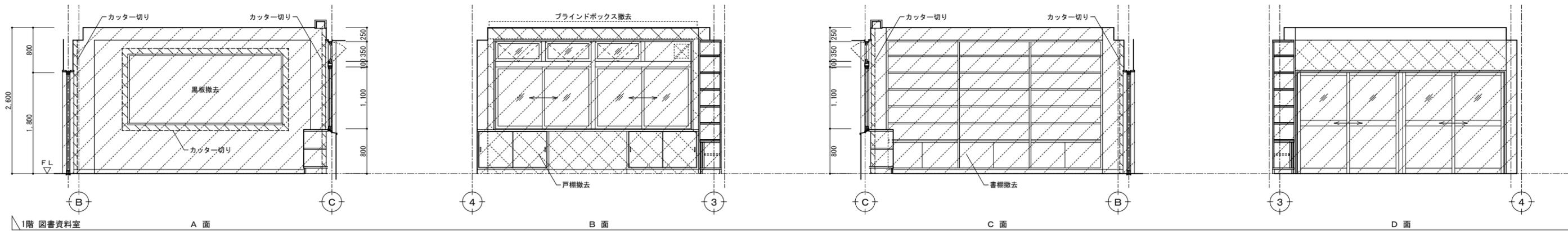
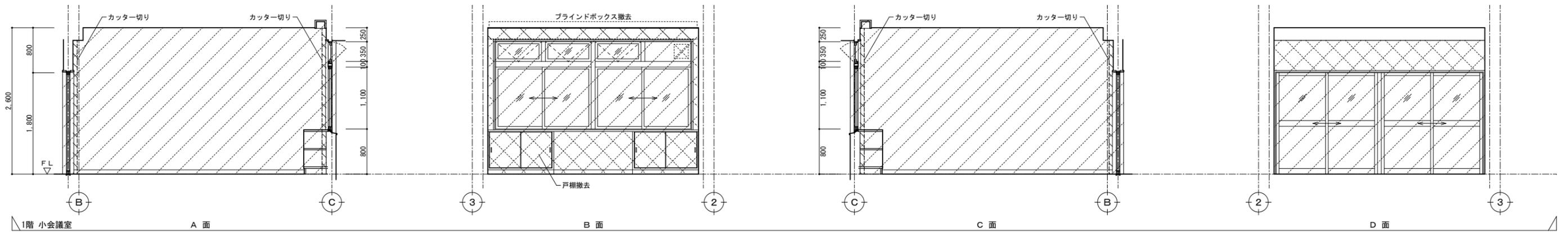




展開図 1/50

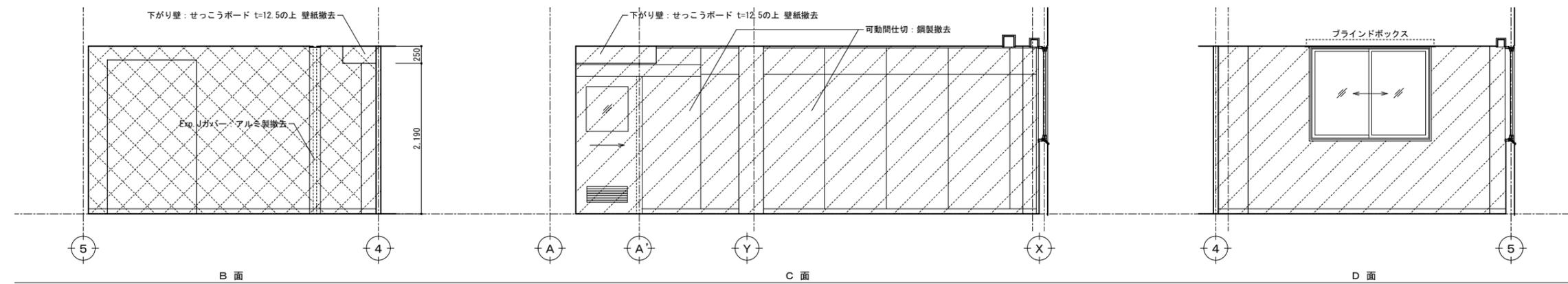
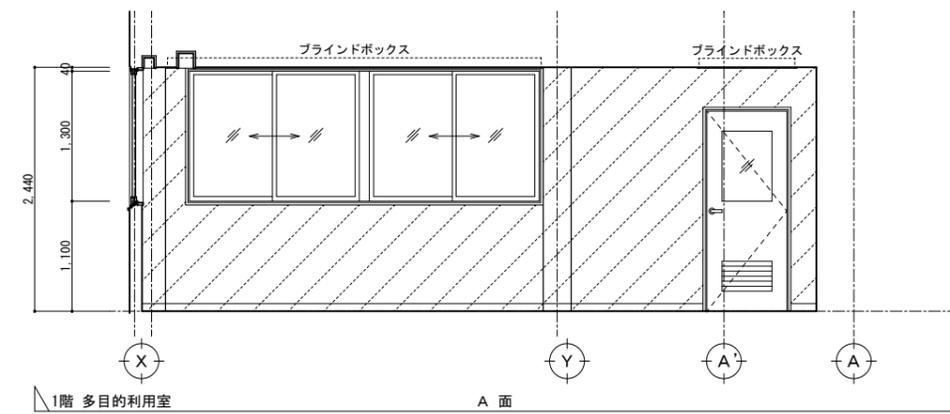
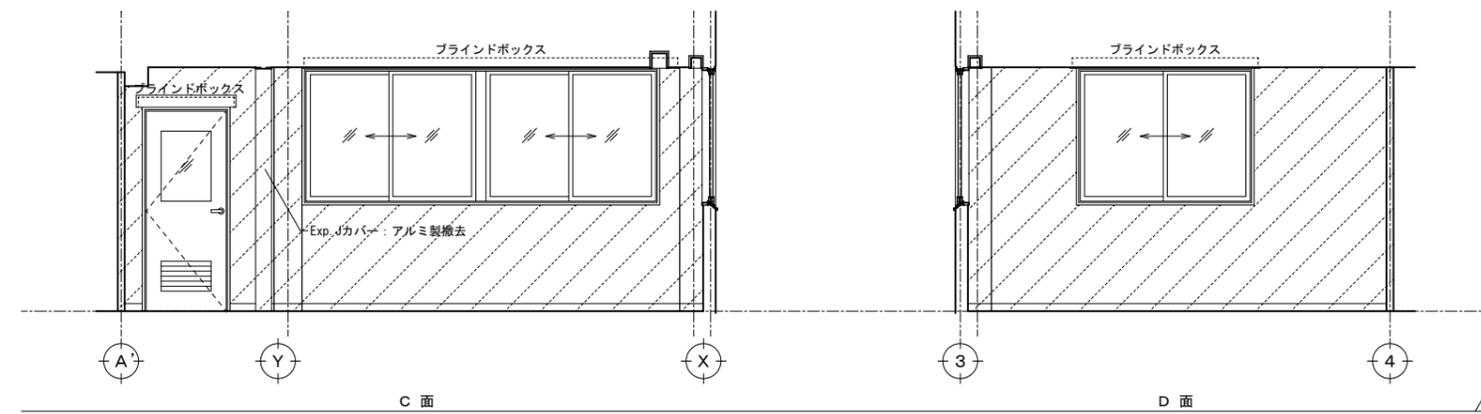
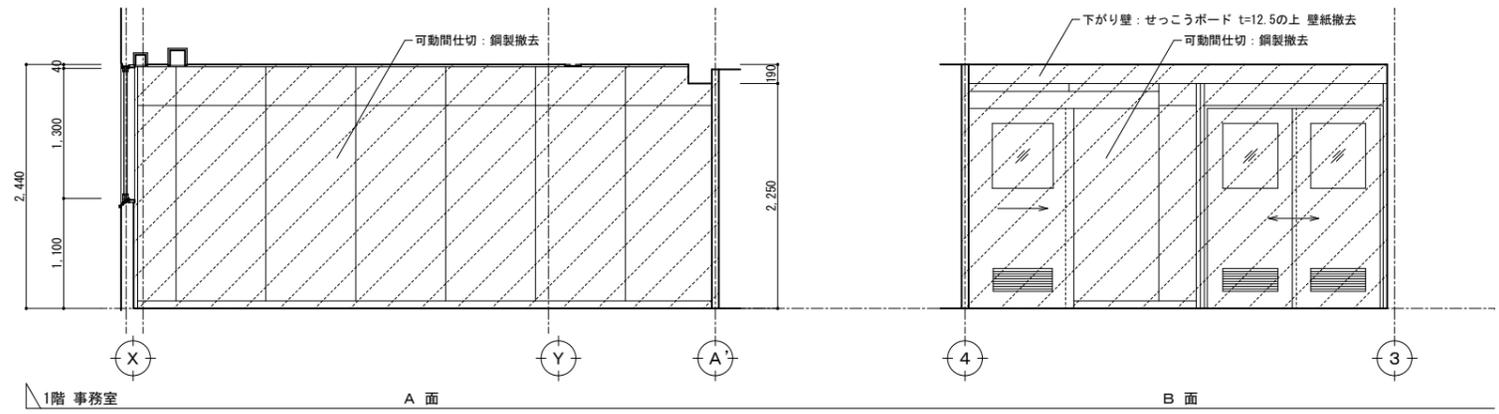
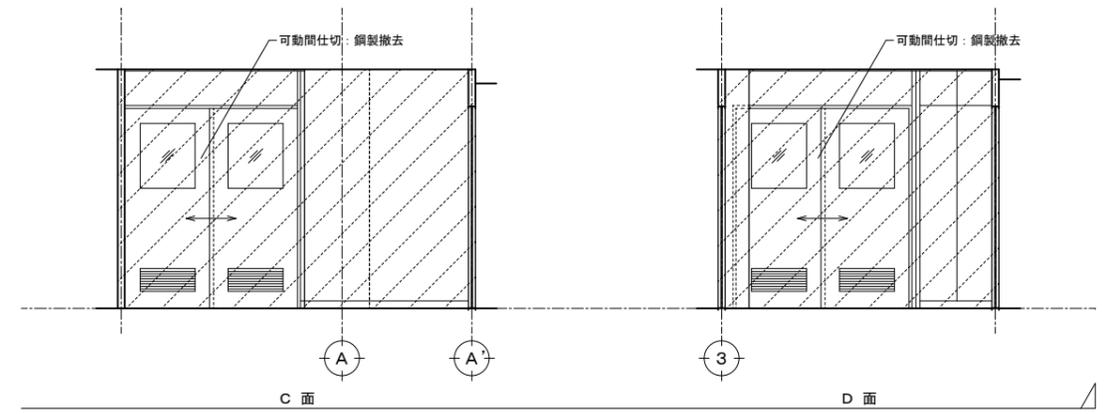
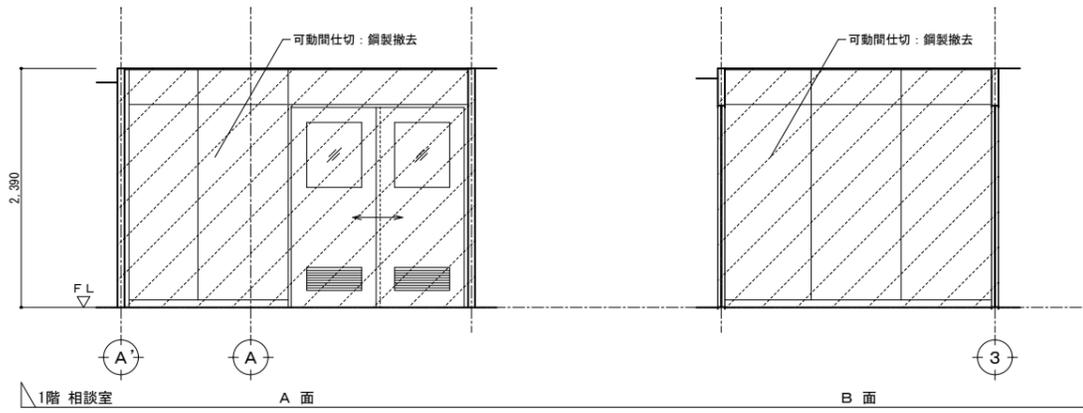
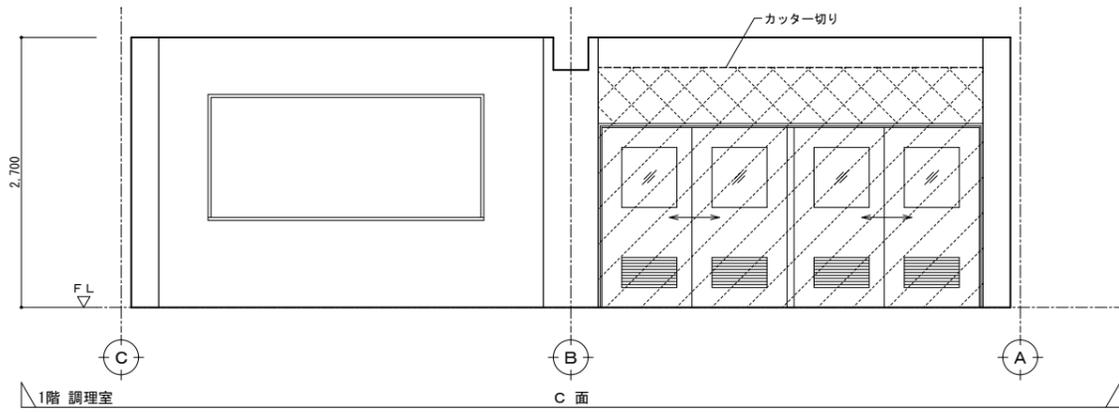


- 凡例
- 撤去部分
 - モルタル共撤去部分
 - 下地共撤去部分



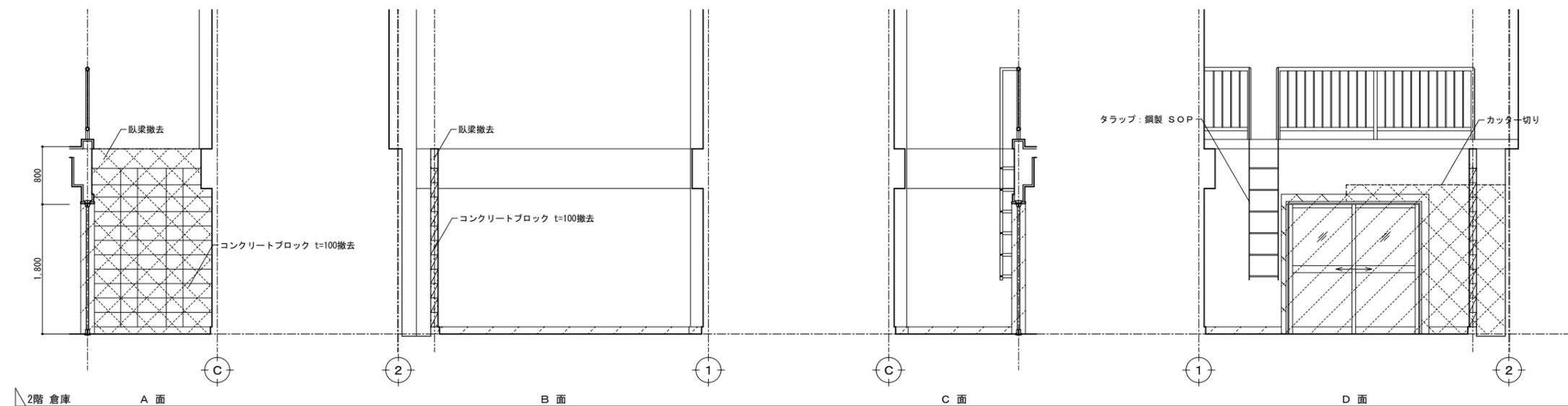
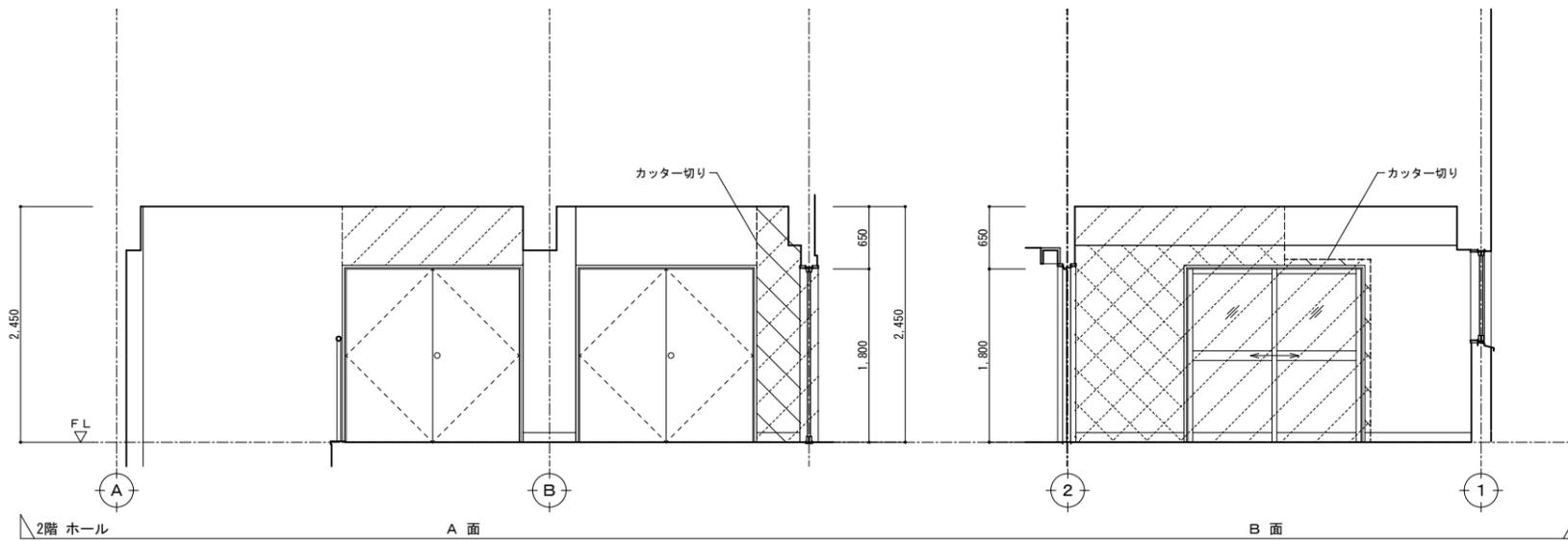
展開図 1/50



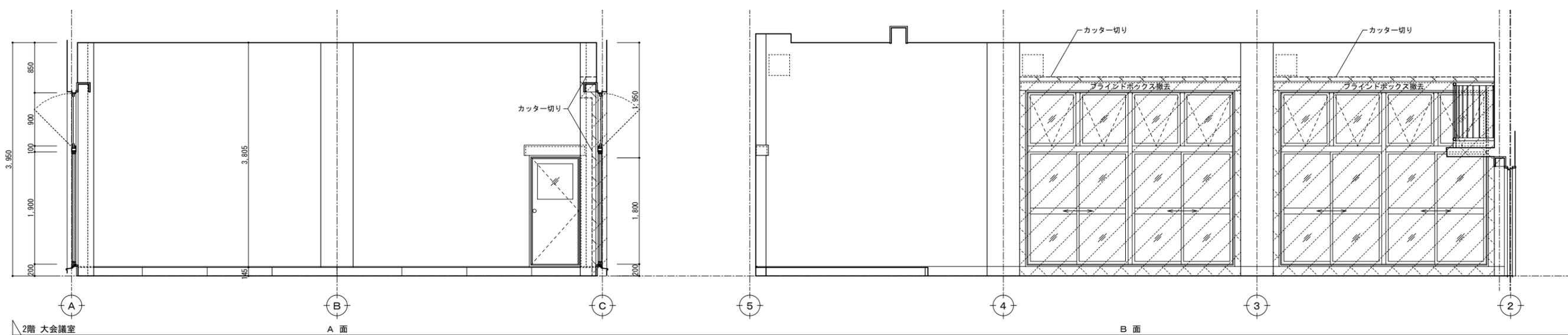


- 凡例
- 撤去部分
 - モルタル共撤去部分
 - 下地共撤去部分

展開図 1/50

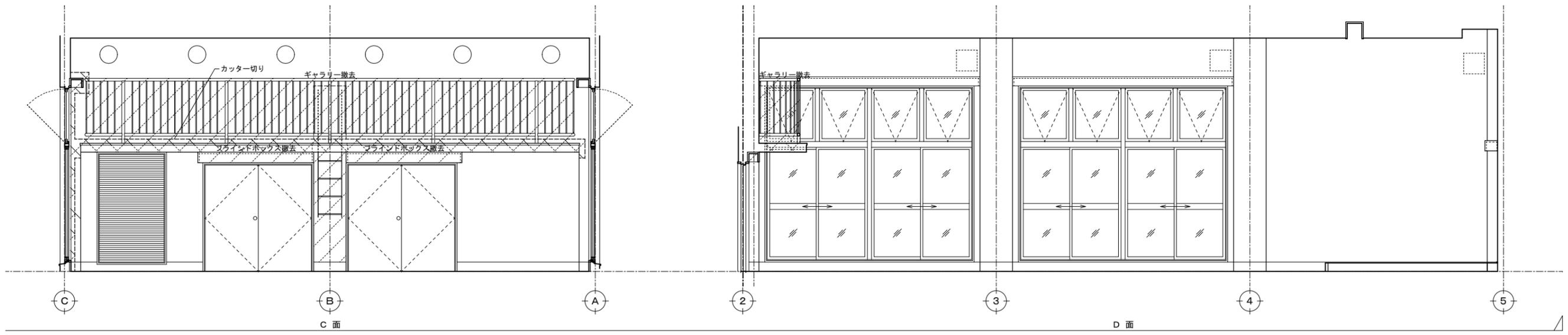


- 凡例
- 撤去部分
 - モルタル共撤去部分
 - 下地共撤去部分



展開図 1/50





展開図 1/50

- 凡例
-  撤去部分
 -  モルタル共撤去部分
 -  下地共撤去部分



有限会社 元廣建築設計事務所
一級建築士事務所 広島県登録 23(1) 第 0951 号

一級建築士登録 第 223245 号
元廣 匡伸

工事名:

本郷人権文化センター耐震改修等工事

図面名:

展開図5 (改修前)

縮尺:

1/50
A2版: 100%
A3版: 71%

査図:

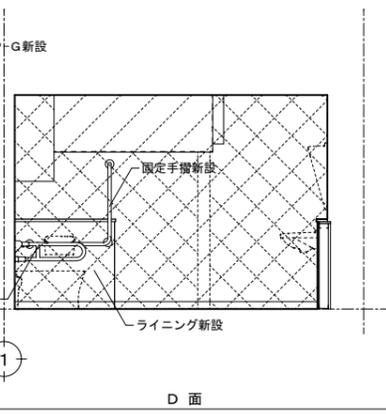
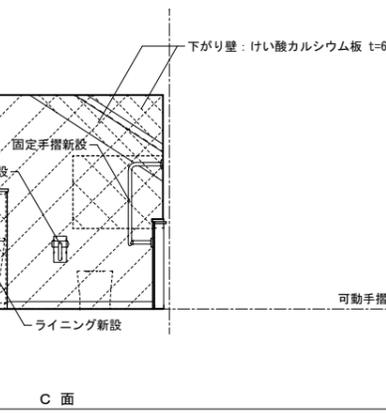
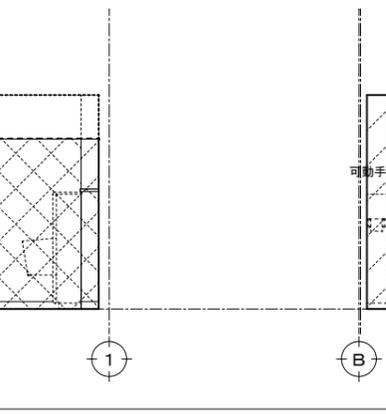
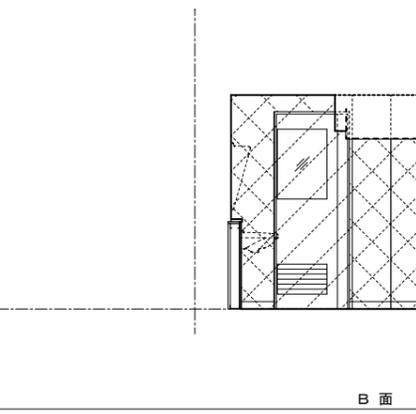
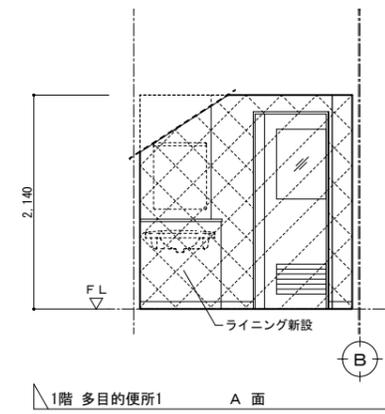
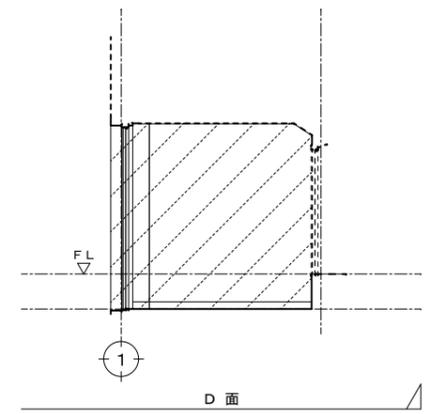
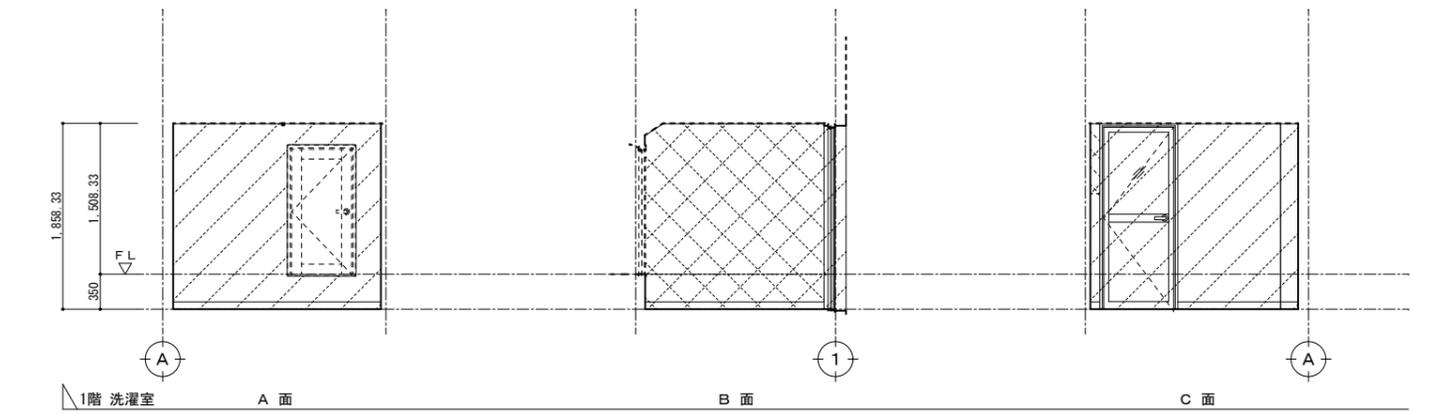
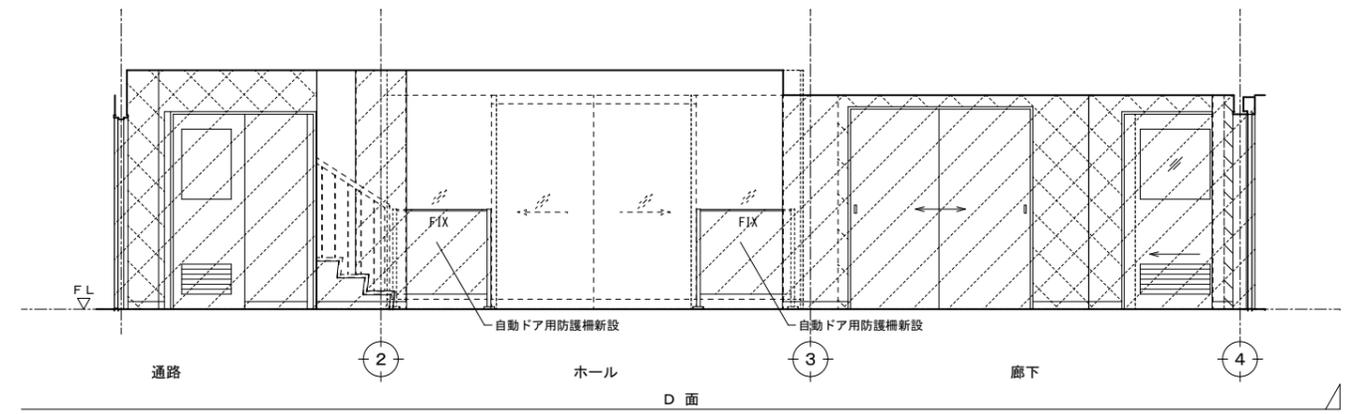
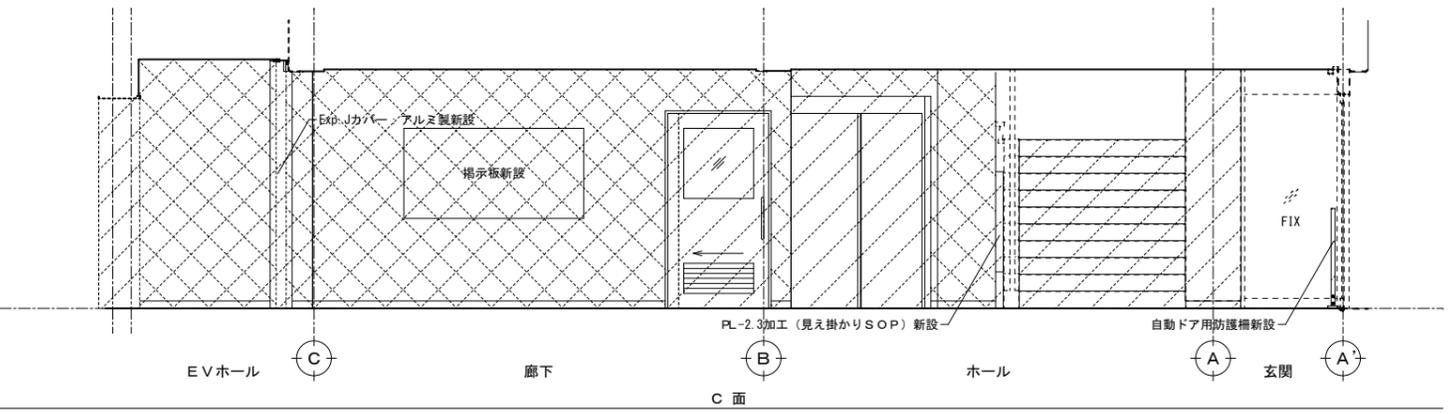
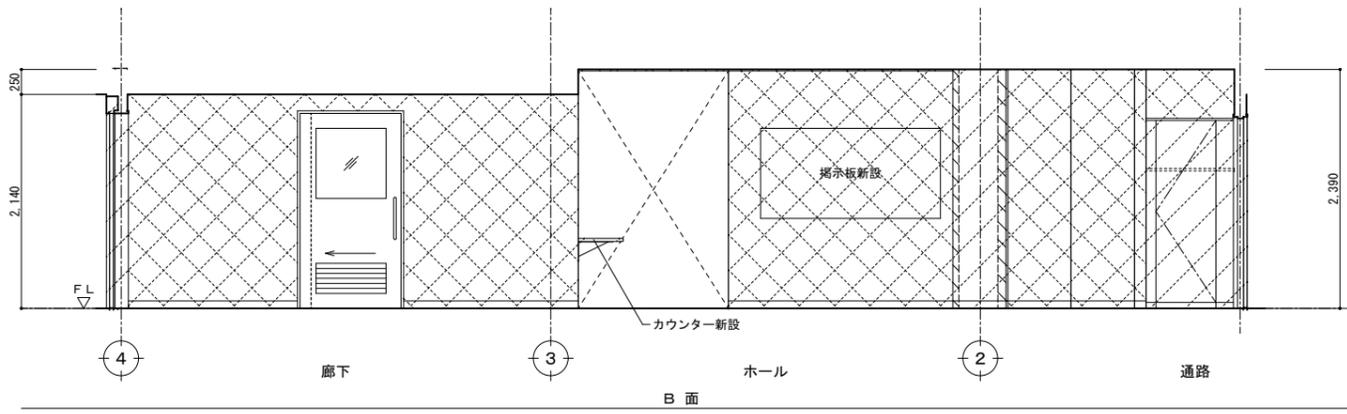
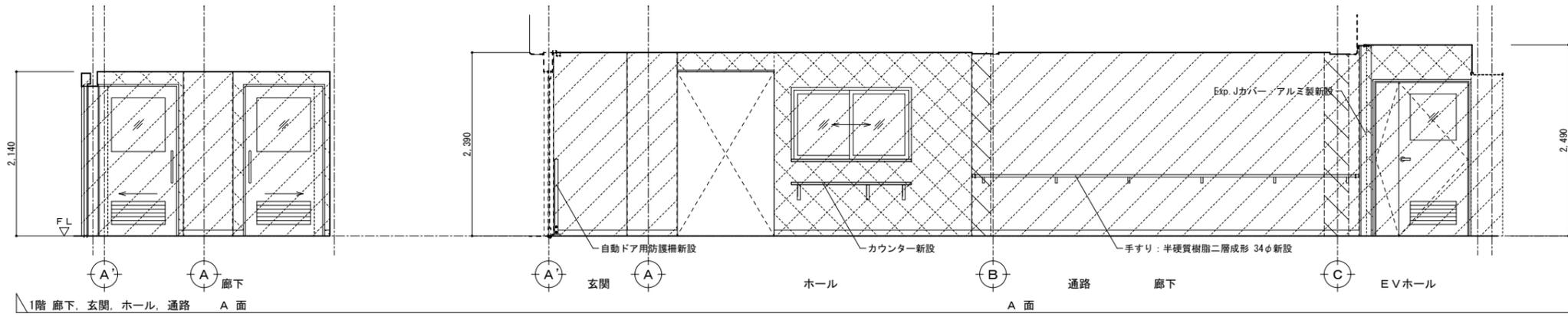
部長: 課長: 主任: 担当:

日付:

R7年

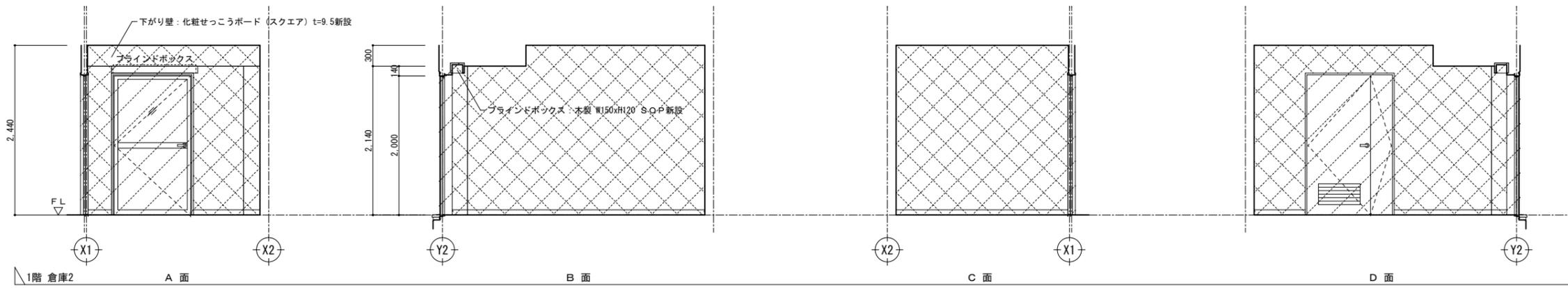
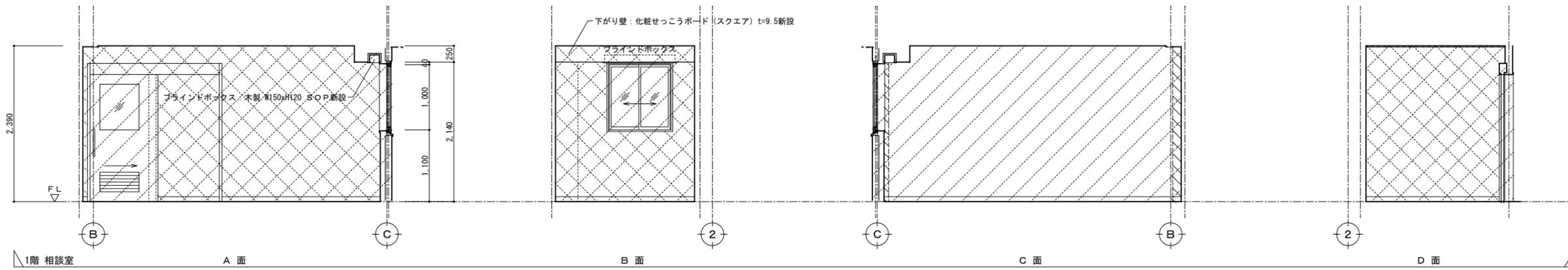
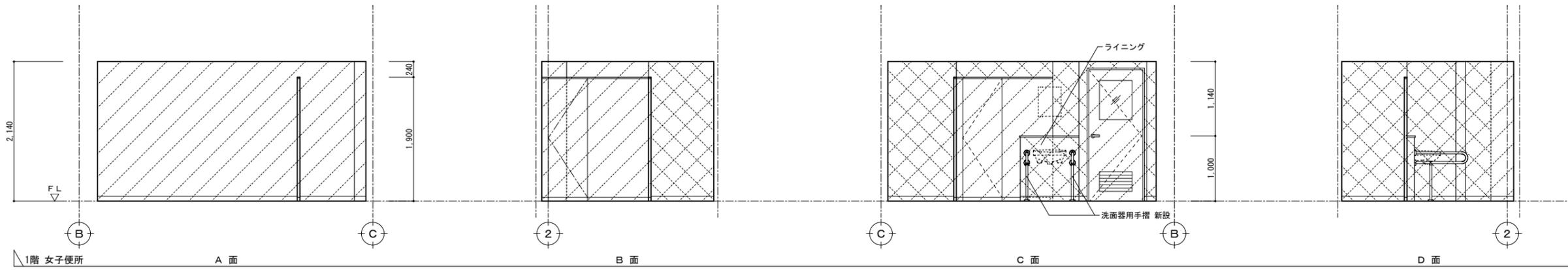
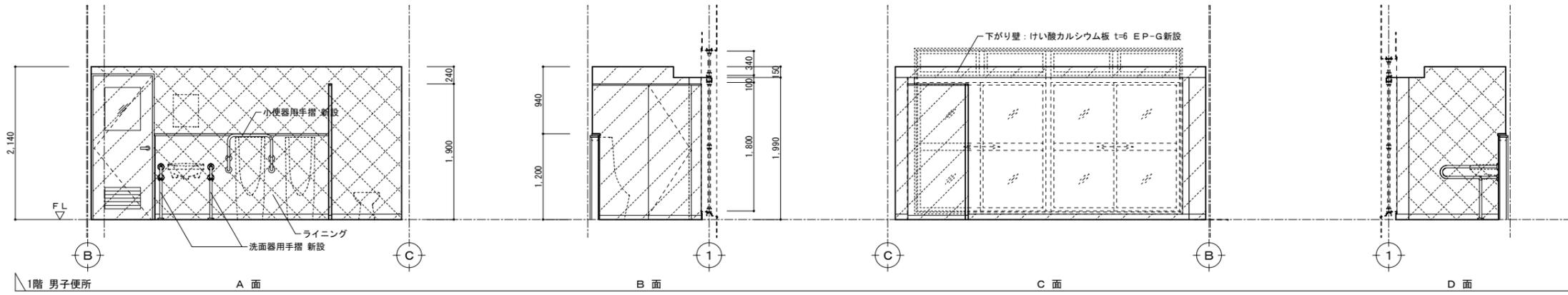
図番:

A - 45



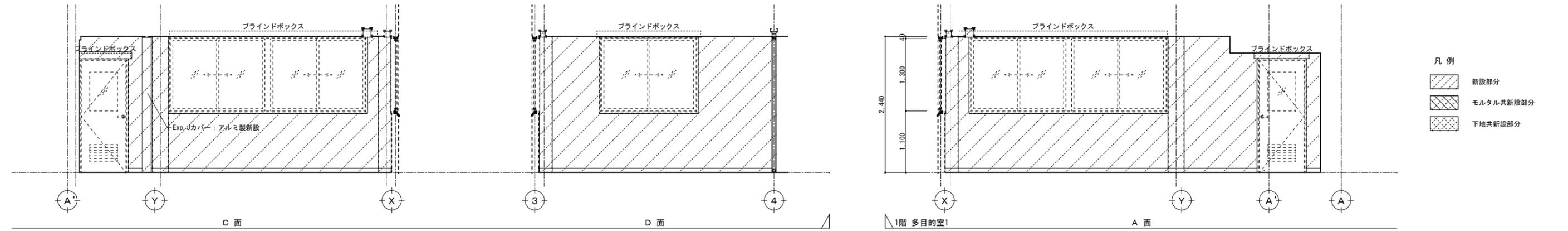
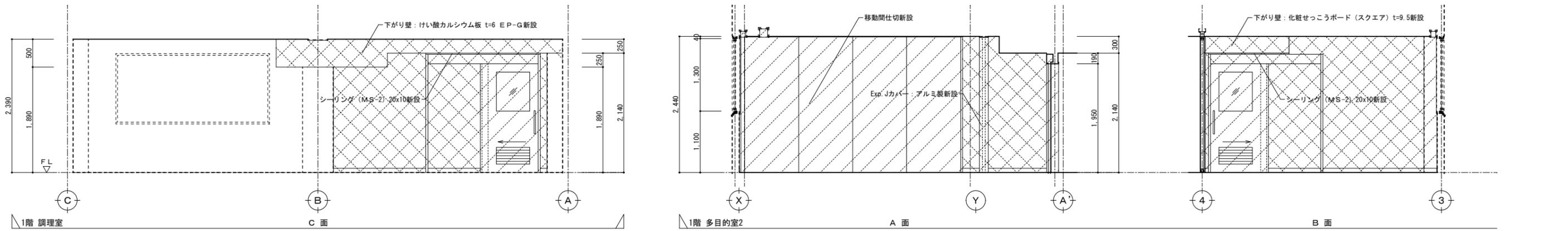
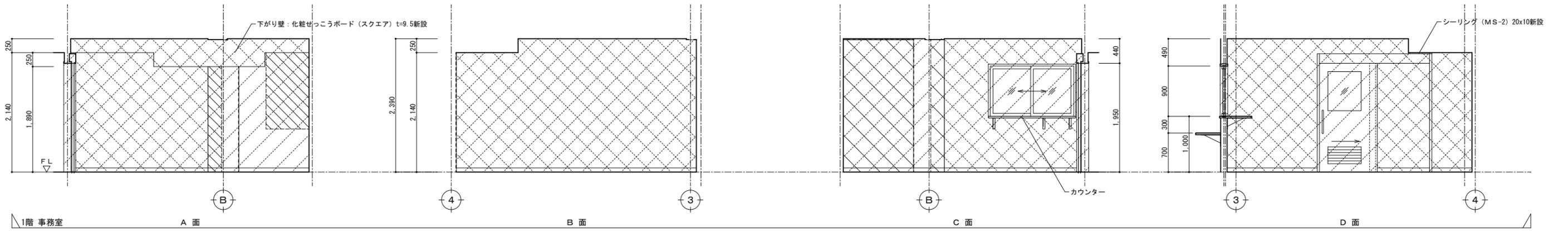
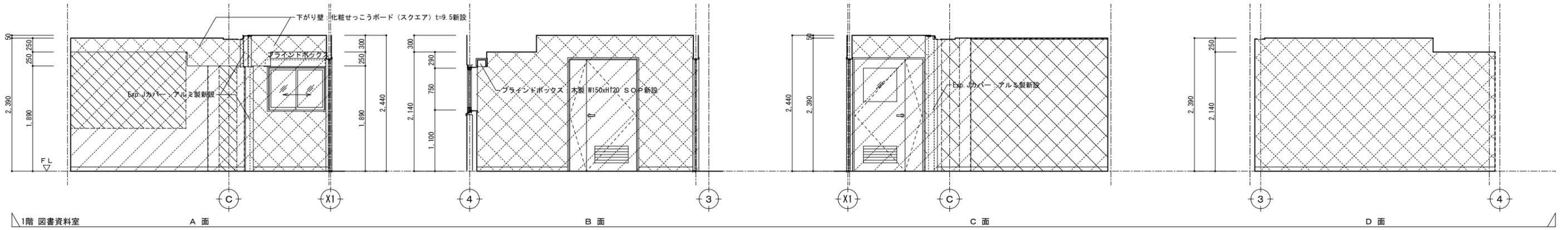
- 凡例
- 新設部分
 - モルタル共設部分
 - 下地共設部分

展開図 1/50



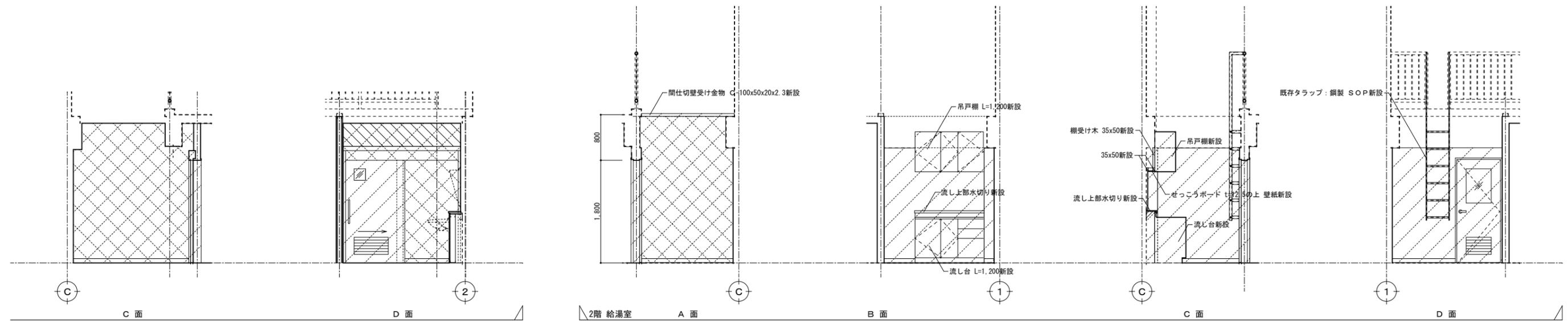
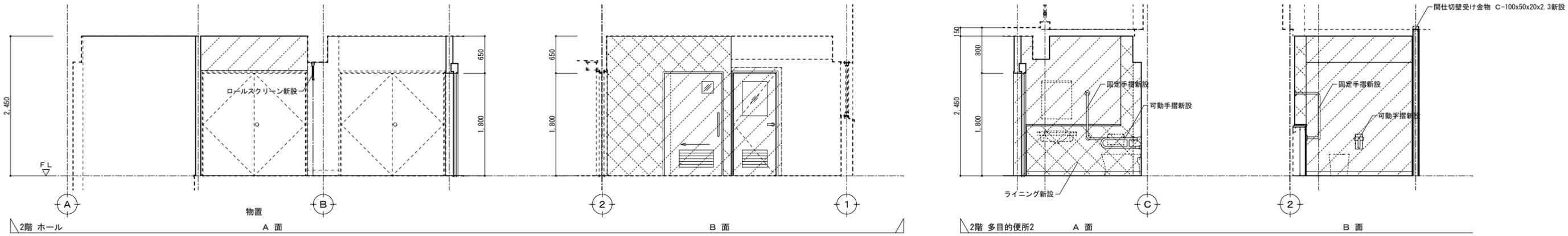
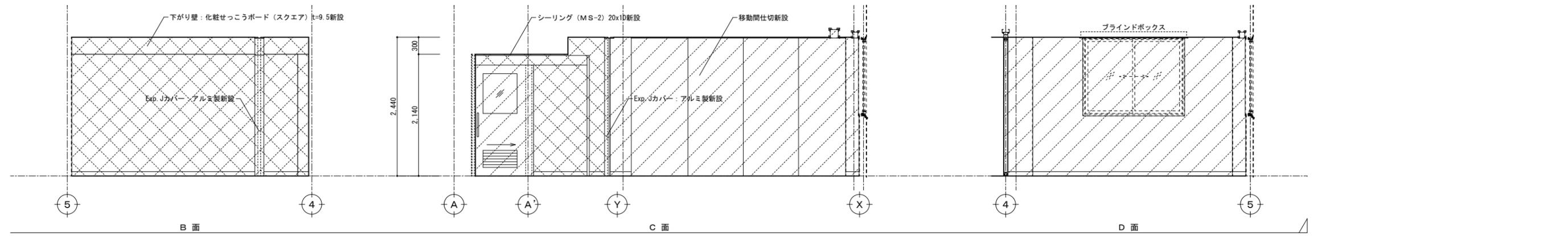
- 凡例
- 新設部分
 - モルタル共新設部分
 - 下地共新設部分

展開図 1/50



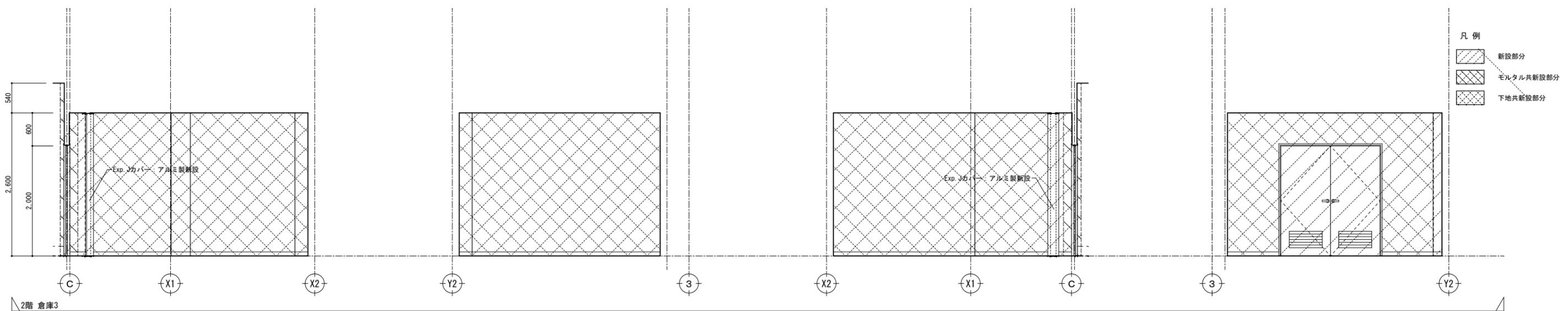
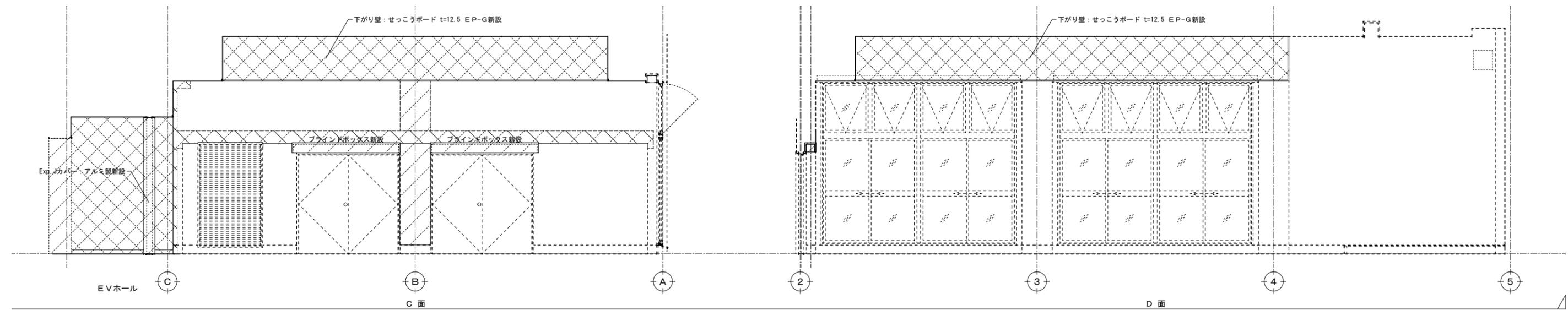
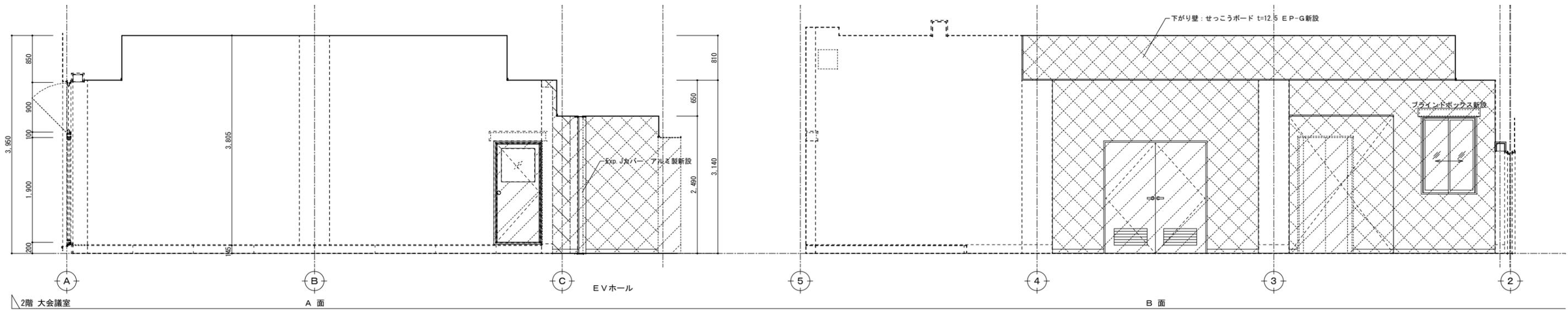
- 凡例
- 新設部分
 - モルタル共新設部分
 - 下地共新設部分

展開図 1/50



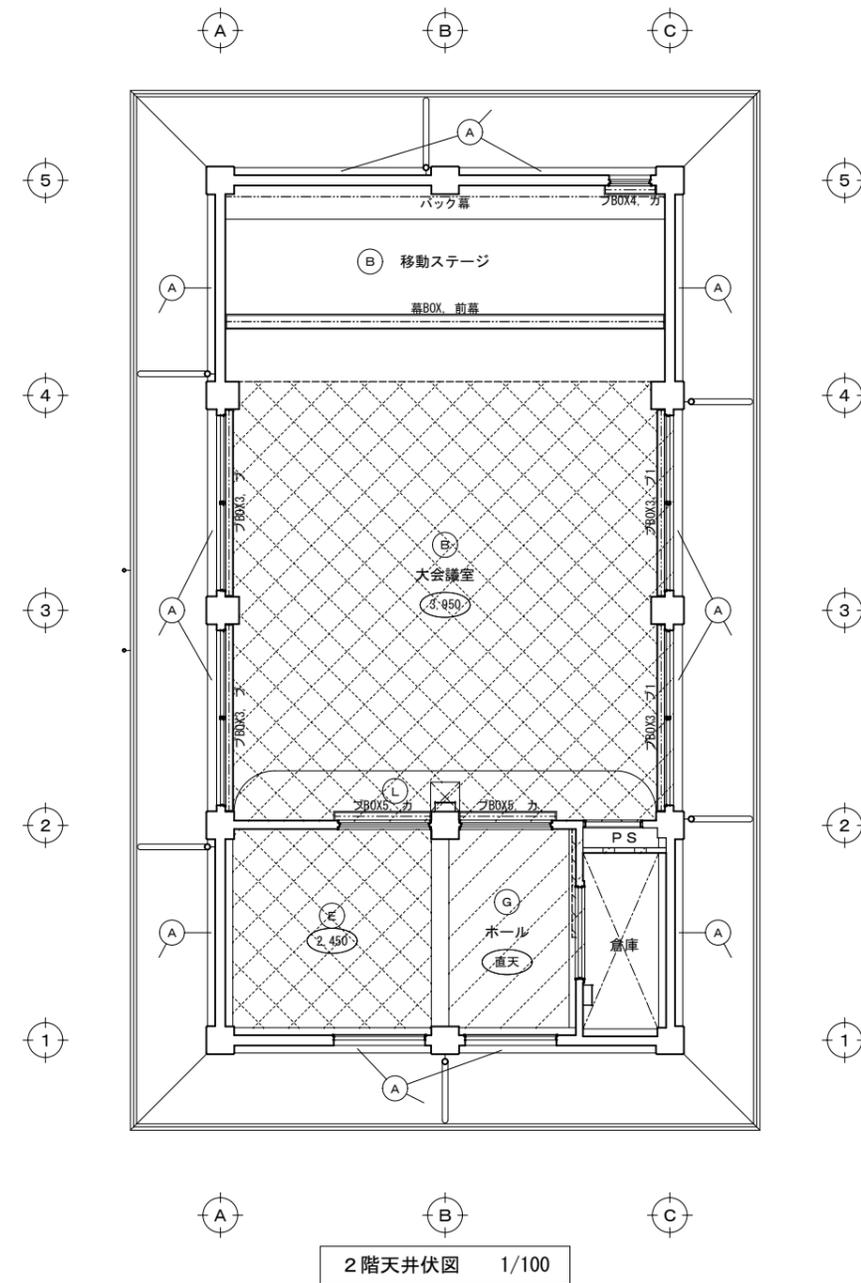
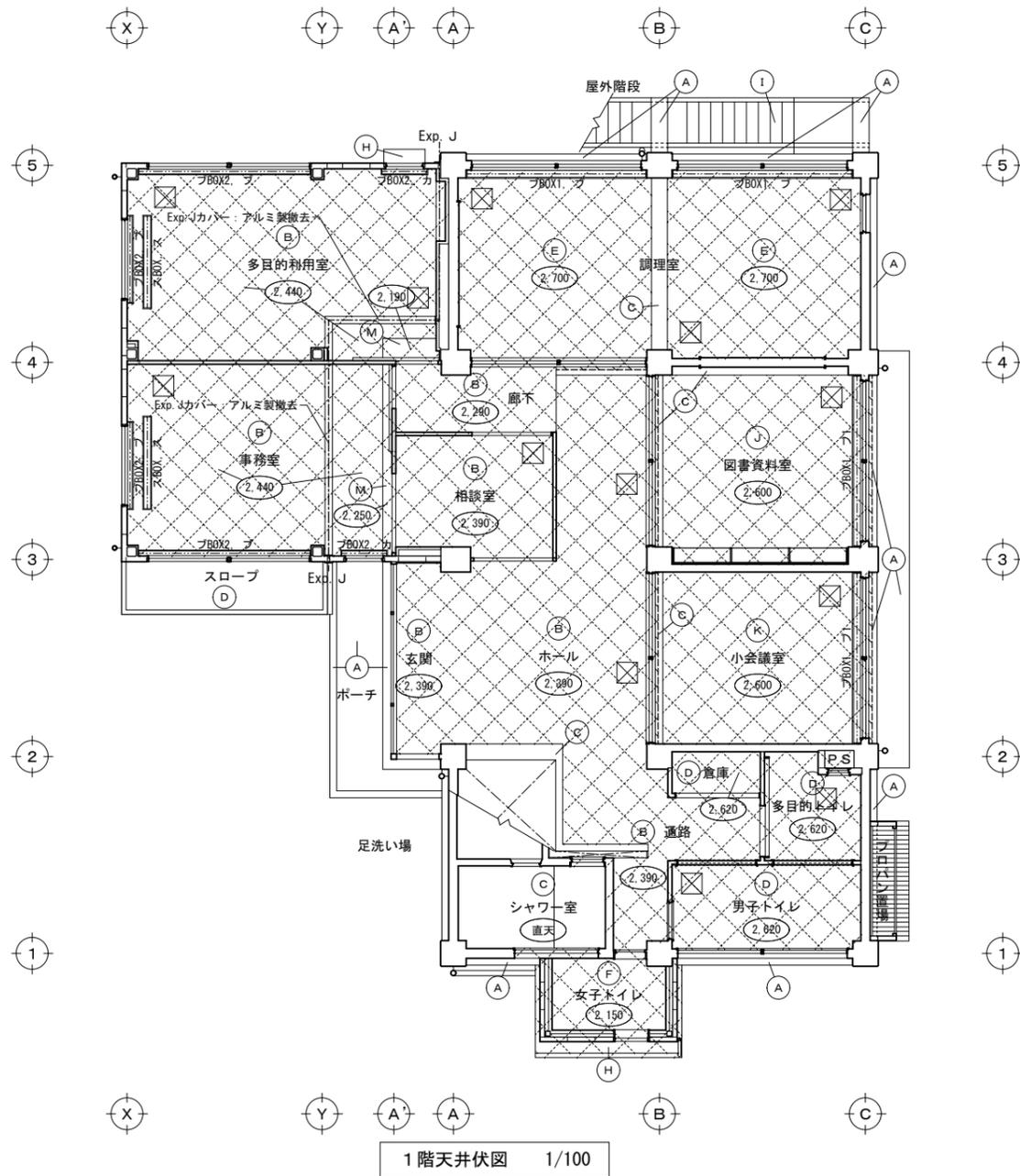
- 凡例
- 新設部分
 - モルタル共新設部分
 - 下地共新設部分

展開図 1/50



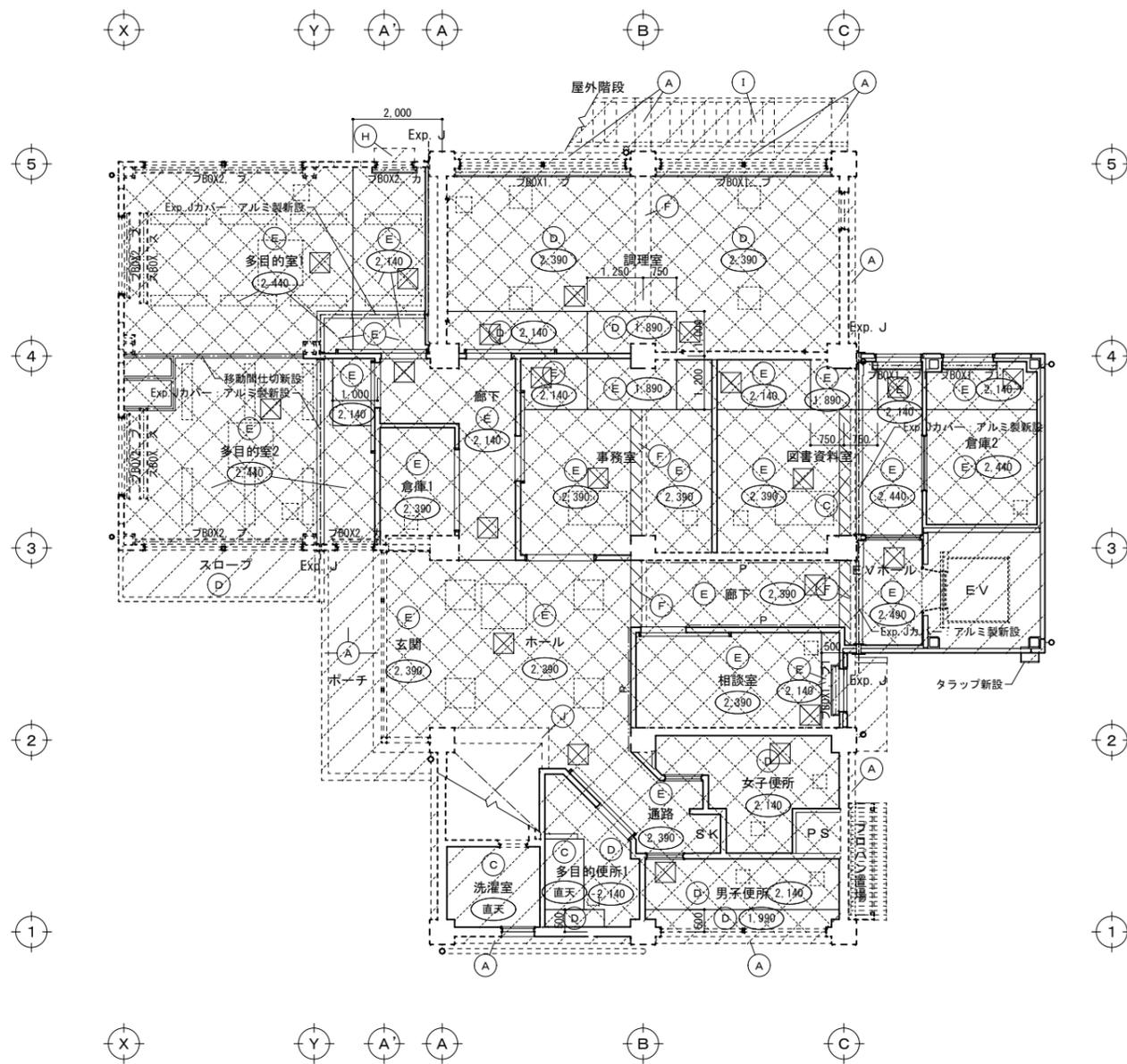
- 凡例
- 新設部分
 - モルタル共新設部分
 - 下地共新設部分

展開図 1/50

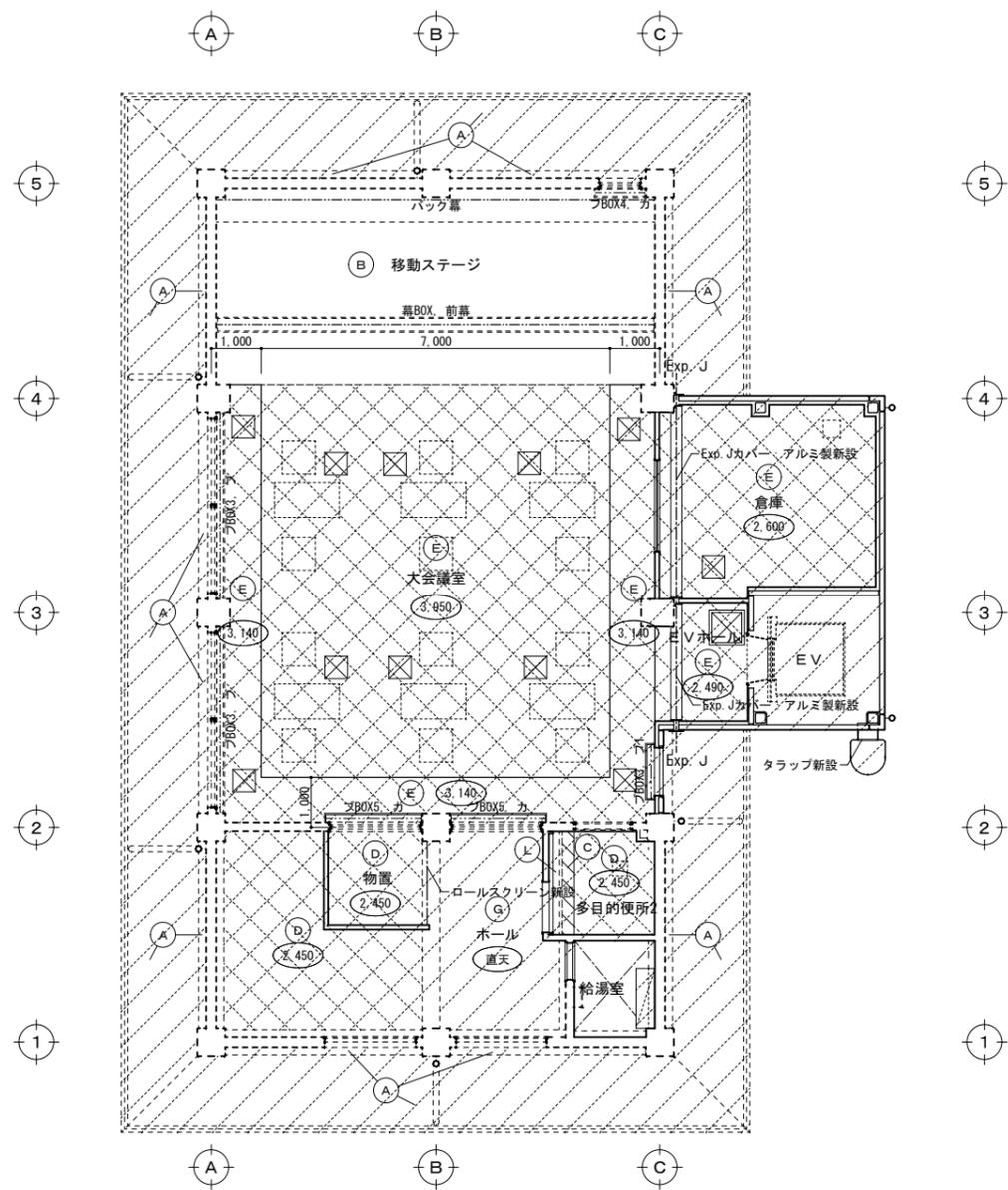


凡例

(A)	コンクリート打放し仕上げの上 外装薄塗材E	(J)	化粧せっこうボード (トラバーチン) t=9.5 (石綿含有)	ブBOX1	ブラインドボックス: 木製 W150xH120 SOP	...カ...	カーテン及びカーテンレール (シングル) 取外し	
(B)	化粧せっこうボード (トラバーチン) t=9.5	(K)	化粧せっこうボード (トラバーチン) t=9.5 (石綿含有) の上 EP	ブBOX2	ブラインドボックス: 木製 W100xH100 SOP	...カ1...	カーテン及びカーテンレール (シングル) 撤去	
(C)	モルタル VE	(L)	コンクリート打放し仕上げの上 複層塗材E	ブBOX3	ブラインドボックス: 木製 W180xH130 SOP	...ブ...	ブラインド取外し	
(D)	けい酸カルシウム板 t=6 (目透し工法) VE	(M)	せっこうボード t=12.5の上 壁紙	ブBOX4	ブラインドボックス: 木製 W180xH150 SOP	...ブ1...	ブラインド撤去	
(E)	大平板 t=5 (目透し工法) EP			ブBOX5	ブラインドボックス: 木製 W150xH140 SOP	...ス...	スクリーン取外し	
(F)	スレートボード t=5 VE			スBOX	スクリーンボックス: 木製 W150xH150 SOP	...前幕...	前幕撤去	
(G)	コンクリート打放し仕上げの上 パーライト			幕BOX	ステージ幕ボックス: 木製 W250xH250 SOP	バック幕	バック幕撤去	撤去部分
(H)	ALCパネル t=100の上 外装薄塗材E	(○)	FLからの天井高					モルタル共撤去部分
(I)	鉄骨等鉄部 SOP	(⊠)	アルミ製天井点検口 450x450					下地共撤去部分



1階天井伏図 1/100



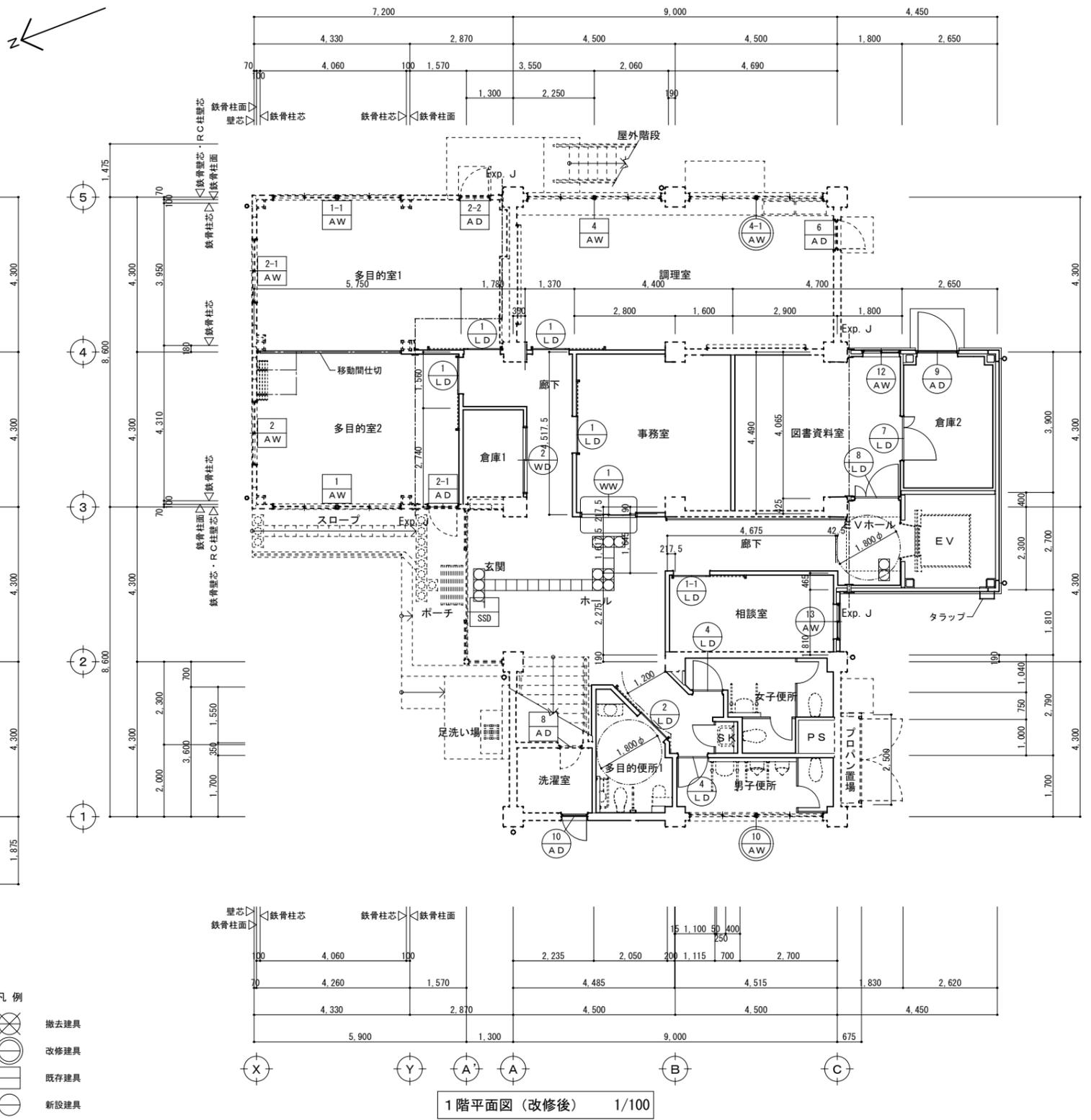
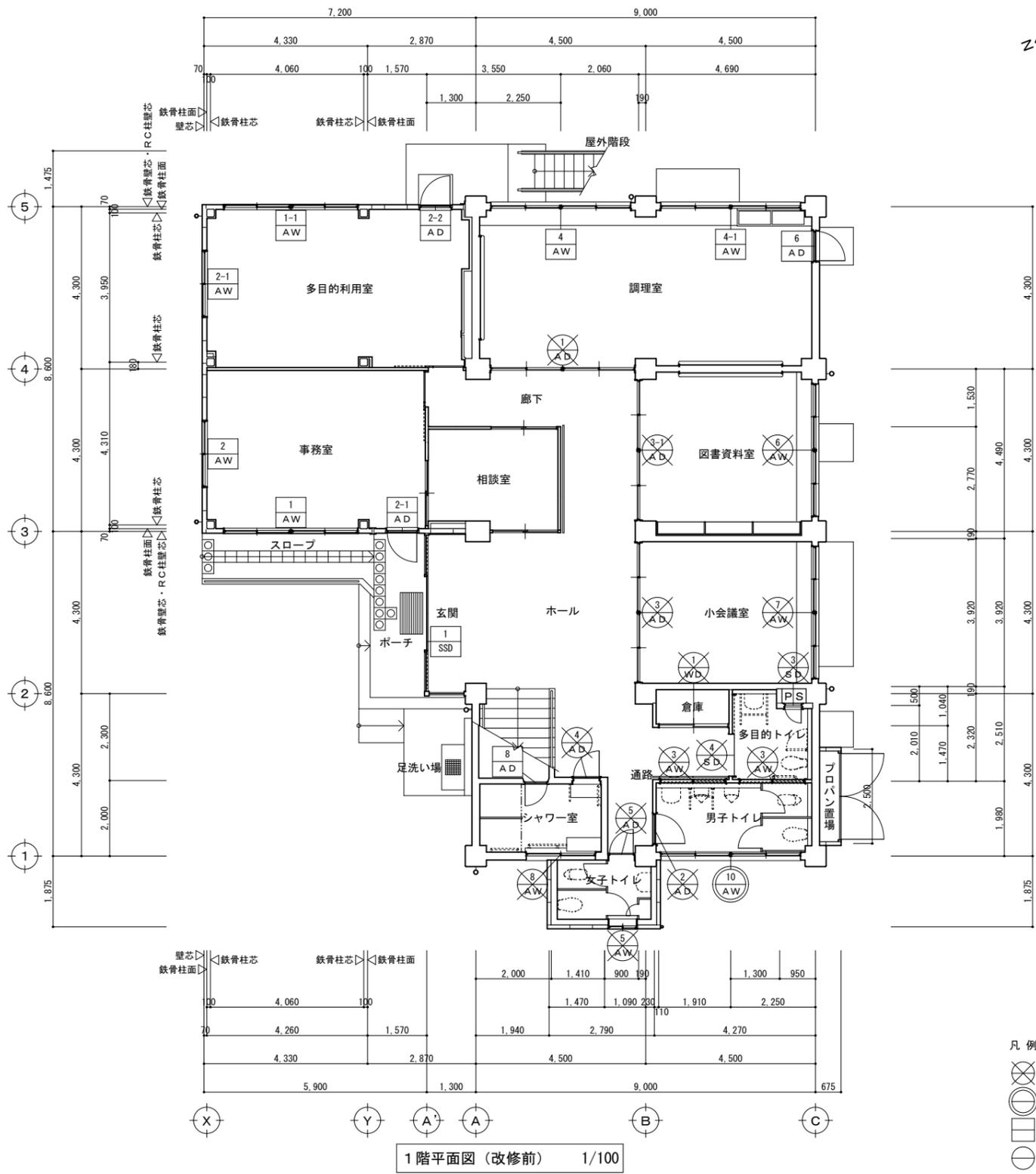
2階天井伏図 1/100

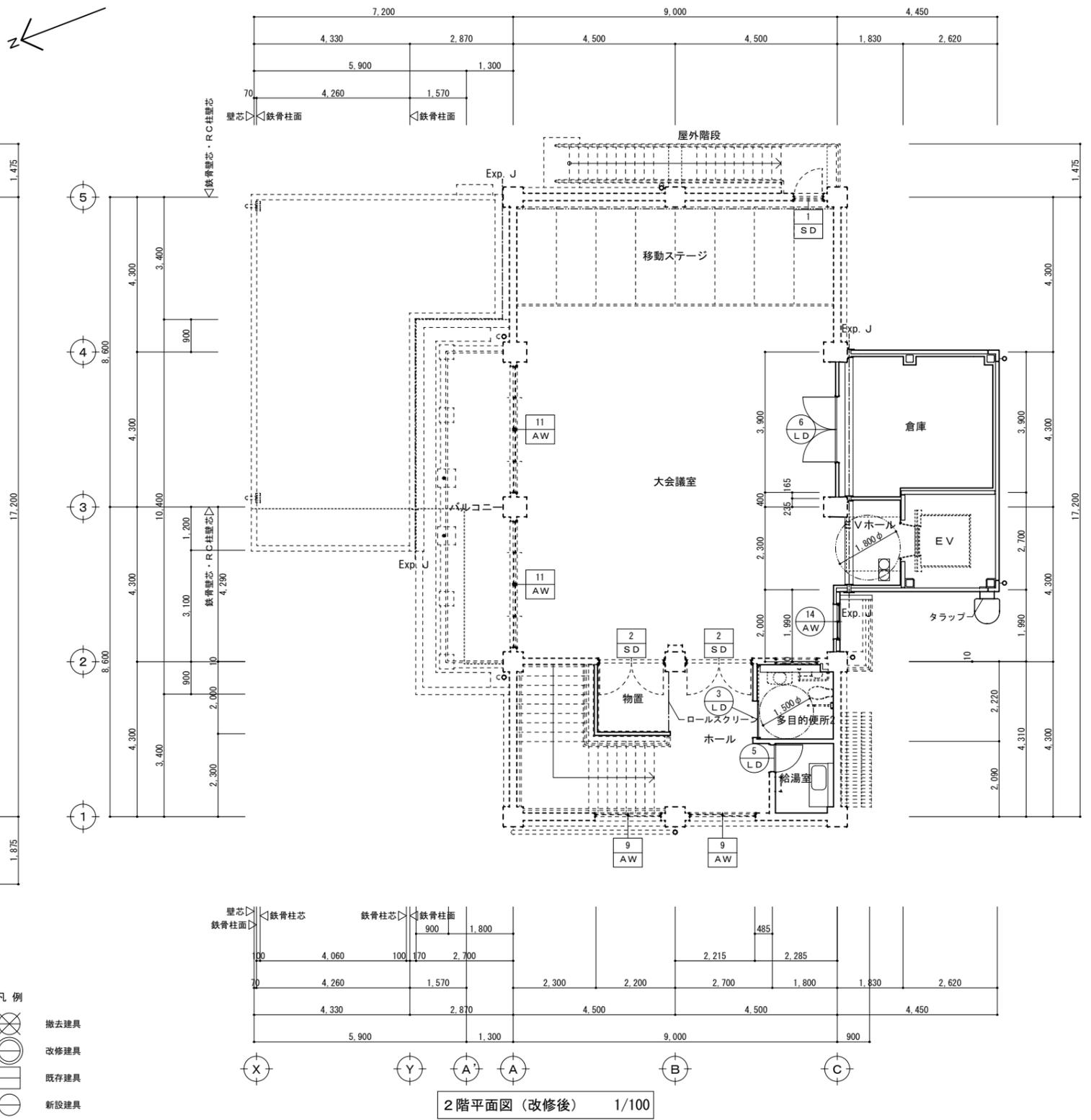
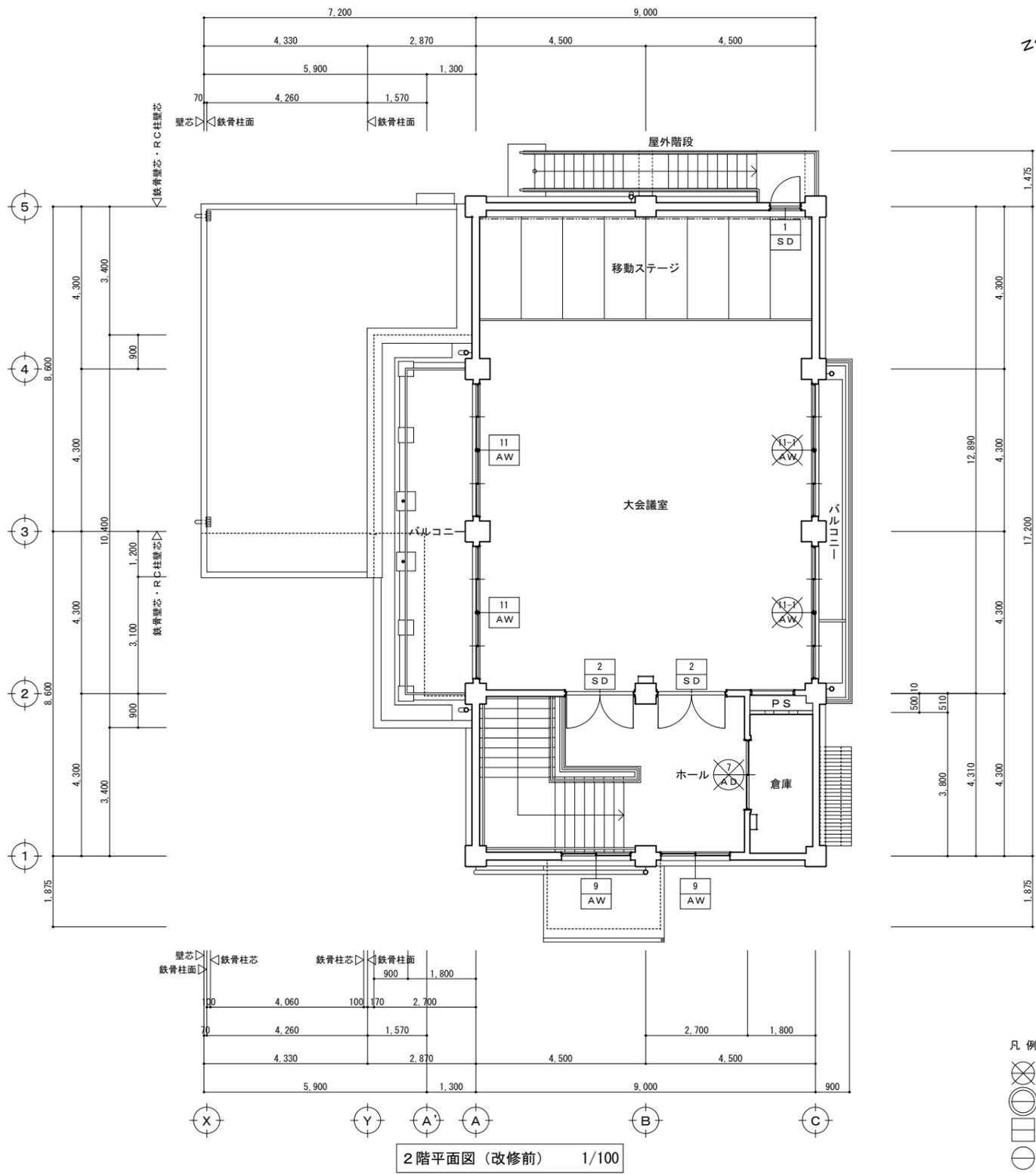
凡例

(A)	コンクリート打放し仕上げの上 外装薄塗材E	(L)	コンクリート打放し仕上げ E-P-G	ブBOX1	ブラインドボックス：木製 W150xH120 SOP	...カ...	カーテン及びカーテンレール（シングル）再取付		
(B)	化粧せっこうボード（トラバーチン）t=9.5	(M)	せっこうボード t=12.5の上 壁紙	ブBOX2	ブラインドボックス：木製 W100xH100 SOP	...カ1...	カーテン及びカーテンレール（シングル）新設		
(C)	モルタル E-P-G			ブBOX3	ブラインドボックス：木製 W180xH130 SOP	...ブ...	ブラインド再取付		
(D)	けい酸カルシウム板 t=6（目透し工法）E-P-G			ブBOX4	ブラインドボックス：木製 W180xH150 SOP	...ブ1...	ブラインド新設		
(E)	化粧せっこうボード（スクエア）t=9.5			ブBOX5	ブラインドボックス：木製 W150xH140 SOP	...ス...	スクリーン再取付		
(F)	モルタルの上 壁紙			スBOX	スクリーンボックス：木製 W150xH150 SOP	...前幕...	前幕新設		
(G)	コンクリート打放し仕上げの上 内装薄塗材E	○	FLからの天井高	幕BOX	ステージ幕ボックス：木製 W250xH250 SOP	バック幕	バック幕新設		
(H)	ALCパネル t=100の上 複層塗材E	⊗	アルミ製天井点検口 450x450			__P__	ビクチャーレール新設		
(I)	鉄骨等鉄部 SOP	⊗	アルミ製天井点検口 600x600					新設部分	
(J)	モルタル VE	▨	吊戸棚					モルタル共新設部分	
(K)	せっこうボード t=12.5の上 壁紙	▨	設備の照明器具等を示す					下地共新設部分	

設備との取合い新設開口補強表

種類	分類	開口寸法（約）	個数		
			1階	2階	計
照明器具用 （天井）	S下地	220 x 1,235	14	—	14
	S下地	639 x 639	4	12	16
空調・換気扇用 （天井）	S下地	250 x 250	1	—	1
	S下地	300 x 300	7	1	8
	S下地	320 x 320	2	—	2
	S下地	350 x 350	3	1	4
	S下地	500 x 500	4	—	4
	S下地	1,000 x 1,000	3	—	3
	S下地	1,300 x 700	—	6	6
天井点検口	S下地	450 x 450	21	11	32
	S下地	600 x 600	—	1	1





符号・名称	1 A/B	2 A/D	2-1 A/D	2-2 A/D	3 A/B	2-1 A/B	4 A/B	5 A/B	5 A/B
符号・名称	アルミ製引違いフラッシュ戸 (改修前) (撤去)	アルミ製片開きフラッシュ戸 (改修前) (撤去)	アルミ製片開きフラッシュ戸 (改修前・後) (既存のまま)	アルミ製片開きフラッシュ戸 (防火設備) (改修前・後) (既存のまま)	アルミ製引違いガラス戸 (改修前) (撤去)	アルミ製引違いガラス戸 (改修前) (撤去)	アルミ製片開きガラス戸 (既存枠残しの上 カバー外付) (改修前) (撤去)	アルミ製片開きガラス戸 (改修前) (撤去)	アルミ製片開きガラス戸 (改修前) (撤去)
位置・数量	1階調理室 1か所	1階男子便所 1か所	1階事務室 1か所	1階多目的利用室 1か所	1階小会議室 2か所	1階図書資料室 2か所	1階シャワー室 1か所	1階女子便所 1か所	
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 既存枠 70の上 40	アルミ製 40	
仕上	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1
金物	引戸用錠、引手、標準金物一式	シリンダー箱錠 (片面サムターン)、丁番、ドアクローザー (ストップ付)、標準金物一式	シリンダー箱錠 (片面サムターン)、丁番、ドアクローザー (ストップ付)、標準金物一式	シリンダー箱錠 (片面サムターン)、丁番、ドアクローザー (ストップ付)、標準金物一式	引戸用錠、引手、標準金物一式	引戸用錠、引手、標準金物一式	本締め付きモノロック、丁番、ドアクローザー (ストップ付)、標準金物一式	本締め付きモノロック、丁番、戸当り、ドアクローザー (ストップ付)、標準金物一式	
硝子	フロート板ガラス t=5	フロート板ガラス t=5	フロート板ガラス t=5 UV7i&M (新設)	網入磨板ガラス t=6.8 UV7i&M (新設)	フロート板ガラス t=5	型板ガラス t=4	型板ガラス t=4	型板ガラス t=4	
備考	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (内外側共)、アルミがらり	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (内外側共)、アルミがらり	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (内側)、アルミがらり (ステンレス製防虫網付)	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (内側)、アルミがらり (ステンレス製防虫網付)	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (木製額縁)	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (木製額縁)	テラゾクつずり、3方アルミ製額縁 (木製額縁)	(3方木製額縁)	
符号・名称	6 A/D	7 A/D	8 A/D	9 A/D	10 A/D		1 A/W	1-1 A/W	
符号・名称	アルミ製片開きガラス戸 (防火設備) (改修前・後) (既存のまま)	アルミ製引違いガラス戸 (改修前) (撤去)	アルミ製片開きガラス戸 (改修前・後) (既存のまま)	アルミ製片開きフラッシュ戸 (改修後) (新設)	アルミ製片開きフラッシュ戸 (改修後) (新設)		アルミ製引違いガラス窓 (改修前・後) (既存のまま)	アルミ製引違いガラス窓 (防火設備) (改修前・後) (既存のまま)	
位置・数量	1階調理室 1か所	2階倉庫 1か所	1階階段下倉庫 1か所	1階倉庫2 1か所	1階洗濯室 1か所		1階事務室 1か所	1階多目的利用室 1か所	
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70		アルミ製 70	アルミ製 70	
仕上	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1		BB-1	BB-1	
金物	本締め付きモノロック、丁番、ドアクローザー (ストップ付)、標準金物一式	標準金物一式	シリンダー箱錠 (片面サムターン)、丁番、標準金物一式	シリンダー箱錠 (片面サムターン)、丁番、ドアクローザー (ストップ付)、標準金物一式	シリンダー箱錠 (片面サムターン)、丁番、ドアクローザー (ストップ付)、標準金物一式		標準金物一式	標準金物一式	
硝子	網入型板ガラス t=6.8 UV7i&M (新設)	型板ガラス t=4		型板ガラス t=4 UV7i&M (新設)	型板ガラス t=4 UV7i&M (新設)		フロート板ガラス t=5 UV7i&M (新設)	網入磨板ガラス t=6.8 UV7i&M (新設)	
備考	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (内側)、アルミがらり (防火ダンパー付)	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (内外側共) (木製額縁)	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (内側)、アルミがらり (防火ダンパー付)	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (内外側共) (木製額縁)	ステンレス製 (フラット) レール、3方アルミ製額縁 (内外側共) (木製額縁)		アルミ製水切、4方アルミ製額縁、網戸付	アルミ製水切、4方アルミ製額縁、網戸付	
符号・名称	2 A/W	2-1 A/W	3 A/W	4 A/W	4-1 A/W		5 A/W		
符号・名称	アルミ製引違いガラス窓 (改修前・後) (既存のまま)	アルミ製引違いガラス窓 (防火設備) (改修前・後) (既存のまま)	アルミ製引違いガラス窓 (改修前) (撤去)	アルミ製外倒し窓付き引違いガラス窓 (防火設備) (改修前・後) (既存のまま)	アルミ製外倒し窓付き引違いガラス窓 (防火設備) (改修前・後) (ガラス改修)		アルミ製引違いガラス窓 (防火設備) (改修前) (撤去)		
位置・数量	1階事務室 1か所	1階多目的利用室 1か所	1階男子便所 2か所	1階調理室 1か所	1階調理室 1か所	1階女子トイレ 1か所			
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70			
仕上	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1			
金物	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式			
硝子	フロート板ガラス t=5 UV7i&M (新設)	網入磨板ガラス t=6.8 UV7i&M (新設)	型板ガラス t=4	網入型板ガラス t=6.8 UV7i&M (新設)	網入型板ガラス t=6.8 UV7i&M (新設)	網入型板ガラス t=6.8			
備考	アルミ製水切、4方アルミ製額縁、網戸付	アルミ製水切、4方アルミ製額縁、網戸付	4方アルミ製額縁、網戸付	アルミ製水切、3方アルミ製額縁 (木製額縁)、網戸付	アルミ製水切、3方アルミ製額縁 (木製額縁)、網戸付	アルミ製水切、4方アルミ製額縁 (木製額縁)、網戸付			
位置・数量	1階調理室 1か所	1階多目的利用室 1か所	1階男子便所 2か所	1階調理室 1か所	1階調理室 1か所	1階女子トイレ 1か所			
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70			
仕上	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1			
金物	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式			
硝子	フロート板ガラス t=5 UV7i&M (新設)	網入磨板ガラス t=6.8 UV7i&M (新設)	型板ガラス t=4	網入型板ガラス t=6.8 UV7i&M (新設)	網入型板ガラス t=6.8 UV7i&M (新設)	網入型板ガラス t=6.8			
備考	アルミ製水切、4方アルミ製額縁、網戸付	アルミ製水切、4方アルミ製額縁、網戸付	4方アルミ製額縁、網戸付	アルミ製水切、3方アルミ製額縁 (木製額縁)、網戸付	アルミ製水切、3方アルミ製額縁 (木製額縁)、網戸付	アルミ製水切、4方アルミ製額縁 (木製額縁)、網戸付			

特記事項

- ・建具製作にあたってはよく現地を調査し、施工図作成のうえ監督員の承諾を得た後製作すること。
- ・引き違い建具は全て網戸レールを具備してあるものとし、落下防止又はハズレ防止付とする。
- ・シリンダー錠は、全て既存マスターキーに合わせる。
- ・ドアクローザーの取付は室内側を原則とする。
- ・クレセントの高さは1,500mm以下、オペレーター装置の高さは800mmから1,500mmとする。
- ・扉の把手はレバーハンドルとする。
- ・扉のレバーハンドル、把手類の取付位置は床面から1,000mmとする。
- ・引違い窓の内鍵はクレセントとする。

凡例

- ⊗ 撤去建具
- ⊕ 改修建具
- 既存建具
- 新設建具

符号・名称	⑥ AW アルミ製外倒し窓付き引違いガラス窓 (防火設備) (改修前・後) (既存のまま)	⑦ AW アルミ製外倒し窓付き引違いガラス窓 (防火設備) (改修前・後) (既存のまま)	⑧ AW アルミ製引違いガラス窓 (改修前) (撤去)	⑨ AW アルミ製引違いガラス窓 (防火設備) (改修前・後) (既存のまま)	⑩ AW アルミ製外倒し窓付き引違いガラス窓 (改修前・後) (ガラス改修)	⑪ AW アルミ製外倒し窓付き引違いガラス窓 (改修前・後) (既存のまま)	⑪-1 AW アルミ製外倒し窓付き引違いガラス窓 (改修前) (既存のまま)	⑫ AW アルミ製引違いガラス窓 (改修後) (新設)
図								
位置・数量	1階図書資料室 1か所	1階小会議室 1か所	1階シャワー室 1か所	2階ホール 2か所	1階男子便所 1か所	2階大会議室 2か所	2階大会議室 2か所	1階図書資料室 1か所
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70
仕上	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1	BB-1
金物	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式
硝子	網入型板ガラス t=6.8	網入型板ガラス t=6.8	型板ガラス t=4	網入型板ガラス t=6.8 UV744(新設)	型板ガラス t=4 既存のまま UV744(新設) らんま: フロート板ガラス t=5撤去の上 アルミパネル t=3新設	型板ガラス t=4, フロート板ガラス t=3 UV744(新設)	網入型板ガラス t=6.8, 網入磨板ガラス t=6.8	型板ガラス t=4 UV744(新設)
備考	アルミ製水切, 3方アルミアングル (木製額縁), 網戸付	アルミ製水切, 3方アルミアングル (木製額縁), 網戸付	アルミ製水切, 3方アルミアングル (木製額縁), 網戸付	アルミ製水切, 3方アルミアングル (木製額縁), 網戸付	アルミ製水切, 3方アルミアングル (木製額縁), 網戸付	アルミ製水切, 3方アルミアングル (木製額縁), 網戸付	アルミ製水切, 3方アルミアングル (木製額縁), 網戸付	アルミ製水切, 4方アルミ製額縁, 網戸付
符号・名称	⑬ AW アルミ製引違いガラス窓 (改修後) (新設)	⑭ AW アルミ製引違いガラス窓 (改修後) (新設)		① SSD ステンレス製はめこし窓付き両引きガラス戸 (自動ドア) (改修前・後) (既存のまま)		① SD 鋼製片開きフラッシュ戸 (改修前・後) (既存のまま)	② SD 鋼製両開きフラッシュ戸 (改修前・後) (既存のまま)	③ SD 鋼製片開きフラッシュ戸 (改修前) (撤去)
図								
位置・数量	1階相談室 1か所	2階大会議室 1か所		1階玄関 1か所		2階大会議室 1か所	2階大会議室 2か所	1階多目的トイレ 1か所
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70		ステンレス製 120		鋼製 86	鋼製 86	鋼製 86
仕上	BB-1	BB-1		ヘアライン		SOP	SOP	SOP
金物	標準金物一式	標準金物一式		引戸用本締め錠 (片面サムターン), 標準金物一式		本締め付きモノロック, 丁番, ドアクローザー (ストップ無), 標準金物一式	本締め付きモノロック, 丁番, フランス落し, ドアクローザー (ストップ無), 標準金物一式	シリンダー本締め錠, ピボットヒンジ, 標準金物一式
硝子	型板ガラス t=4 UV744(新設)	フロート板ガラス t=5 UV744(新設)		強化ガラス (透明) t=12 UV744(新設)		網入型板ガラス t=6.8 UV744(新設)		
備考	アルミ製水切, 4方アルミ製額縁, 網戸付	アルミ製水切, 4方アルミ製額縁, 網戸付		自動ドア開閉装置		ステンレス製くつずり, 3方鋼製アングル (木製額縁)	ステンレス製くつずり, 3方鋼製アングル (内外側共), (木製額縁)	4方アルミ製額縁
符号・名称	④ SD 鋼製片引きフラッシュ戸 (改修前) (撤去)		① LD 鋼製軽量片引きフラッシュ戸 (改修後) (新設)	①-1 LD 鋼製軽量片引きフラッシュ戸 (改修後) (新設)	② LD 鋼製軽量片引きフラッシュ戸 (改修後) (新設)	③ LD 鋼製軽量片引きフラッシュ戸 (改修後) (新設)	④ LD 鋼製軽量片引きフラッシュ戸 (改修後) (新設)	⑤ LD 鋼製軽量片引きフラッシュ戸 (改修後) (新設)
図								
位置・数量	1階多目的トイレ 1か所		1階多目的室1・2, 調理室, 事務室 4か所	1階相談室 1か所	1階多目的便所1 1か所	2階多目的便所2 1か所	1階男子便所, 女子便所 2か所	2階給湯室 1か所
材質・見込	鋼製 200		鋼製 枠210, 扉40	鋼製 枠210, 扉40	鋼製 枠215, 扉40	鋼製 枠215, 扉40	鋼製 枠140, 扉36	鋼製 枠140, 扉36
仕上	化粧鋼板		SOP	SOP	SOP	SOP	SOP	SOP
金物	引戸表示錠, ステンレス製取手, 上吊車, 振止め, 標準金物一式		引戸錠, ステンレス製取手, 上吊車, 振止め, 標準金物一式	引戸錠, ステンレス製取手, 上吊車, 振止め, 標準金物一式	引戸錠, ステンレス製取手, 上吊車, 振止め, 標準金物一式	引戸錠, ステンレス製取手, 上吊車, 振止め, 標準金物一式	丁番, シリンダー箱錠 (片面サムターン), ドアクローザー (ストップ付き), 標準金物一式	丁番, シリンダー箱錠 (片面サムターン), ドアクローザー (ストップ付き), 標準金物一式
硝子	型板ガラス t=4		フロート板ガラス t=5	型板ガラス t=4	型板ガラス t=4	型板ガラス t=4	型板ガラス t=4	フロート板ガラス t=5
備考	自動閉鎖式, アルミ製ガラリ		ステンレス製くつずり, 自動閉鎖式, 鋼製ガラリ	ステンレス製くつずり, 自動閉鎖式, 鋼製ガラリ	ステンレス製くつずり, 自動閉鎖式, 鋼製ガラリ	ステンレス製くつずり, 自動閉鎖式, 鋼製ガラリ	ステンレス製くつずり, 鋼製ガラリ	ステンレス製くつずり, 鋼製ガラリ

符号・名称	⑥ LD 鋼製軽量両開きフラッシュ戸 (改修後) (新設)	⑦ LD 鋼製軽量親子開きフラッシュ戸 (改修後) (新設)	⑧ LD 鋼製軽量親子開きフラッシュ戸 (改修後) (新設)	① WD 木製引違いフラッシュ戸 (改修前) (撤去)	② WD 木製引違いフラッシュ戸 (改修後) (新設)	① WW 木製引違いガラス窓 (改修後) (新設)
姿 図						
位置・数量	2階倉庫 1か所	1階倉庫 1か所	1階図書資料室 1か所	1階倉庫 1か所	1階倉庫1 1か所	1階事務室 1か所
材質・見込	鋼製 枠110, 扉36	鋼製 枠110, 扉36	鋼製 枠110, 扉36	木製 36	木製 36	木製 30
仕 上	SOP	SOP	SOP	SOP	SOP	SOP
金 物	丁番, シリンダー箱錠 (片面サムターン), フランス落としドアクローザー (ストップ付き), 標準金物一式	丁番, シリンダー箱錠 (片面サムターン), フランス落としドアクローザー (ストップ付き), 標準金物一式	丁番, シリンダー箱錠 (片面サムターン), フランス落としドアクローザー (ストップ付き), 標準金物一式	戸車, 引手, 標準金物一式	引違い錠, 戸車, 引手, 標準金物一式	戸車, 引手, シリンダー本錠錠, 標準金物一式
硝 子	—	—	型板ガラス t=4	—	—	フロート板ガラス t=5
備 考	ステンレス製くつずり, 鋼製ガラリ	ステンレス製くつずり, 鋼製ガラリ	ステンレス製くつずり, 鋼製ガラリ	ステンレス製レール	ステンレス製レール	ステンレス製 (フラット) レール
符号・名称						
姿 図						
位置・数量						
材質・見込						
仕 上						
金 物						
硝 子						
備 考						
符号・名称						
姿 図						
位置・数量						
材質・見込						
仕 上						
金 物						
硝 子						
備 考						

階	室名	床面積	採光面積計算						換気面積計算						排煙面積計算						備考
			必要面積		有効面積				必要面積		有効面積				必要面積		有効面積				
			1/20	対象建具	計算式	採光補正係数	有効	判定	1/20	対象建具	計算式	有効	判定	1/50	対象建具	計算式	有効	判定			
1階	多目的室1	7.2 x 4.3 = 30.96	1.54	AW1-1	1.7 x 1.3 x 2	採光補正係数は水平距離7m以上あり1.0とした	4.42	OK	1.54	AW1-1	(1.7 x 1/2) x 1.3 x 2	2.21	OK	0.61	AW1-1	(1.7 x 1/2) x 0.76 x 2	1.29	OK			
	多目的室2	5.75 x 4.3 = 24.72	1.23	AW1	1.7 x 1.3 x 2	採光補正係数は水平距離7m以上あり1.0とした	4.42	OK	1.23	AW1	(1.7 x 1/2) x 1.3 x 2	2.21	OK	0.49	AW1	(1.7 x 1/2) x 0.76 x 2	1.29	OK			
	調理室	9.0 x 4.3 = 38.70	1.93	AW4-1	1.8 x 1.1 x 2	採光補正係数は水平距離7m以上あり1.0とした	3.96	OK	1.93	AW4-1	(1.8 x 1/2) x 1.1 x 2	1.98	OK	0.77	AW4-1	0.865 x 0.35 x 3	0.90	OK			
	事務室	2.8 x 4.5175 = 12.64 1.6 x 4.49 = 7.18 計 19.82	0.99			(壁及び天井を不燃区画とする) 非常用照明設置	→	OK	0.99		機械換気による	→	OK	0.39		建設省告示第1436号1項四号へ(五)適用	→	OK			
	図書資料室	2.9 x 4.49 = 13.02 1.8 x 4.065 = 7.31 計 20.33	1.01	AW12	0.985 x 0.75 x 1	10 / 8.0 x 6 - 1.4 = 6.10 (水平距離10m以上あり10mとして計算) 3.00 採用	2.21	OK	1.01	AW12	(0.985 x 1/2) x 0.75 x 1 0.65m不足分は機械換気による	0.36 →	NG OK	0.40	AW12	(0.985 x 1/2) x 0.21 x 1 建設省告示第1436号1項四号へ(五)適用	0.10 →	NG OK			
	相談室	4.7175 x 1.81 = 8.53 4.675 x 0.465 = 2.17 計 10.70	0.53	AW13	0.93 x 1.0 x 1	採光補正係数は水平距離7m以上あり1.0とした	0.93	OK	0.53	AW13	(0.93 x 1/2) x 1.0 x 1 0.07m不足分は機械換気による	0.46 →	NG OK	0.21	AW13	(0.93 x 1/2) x 0.51 x 1	0.23	OK			
2階	大会議室	9.0 x 12.89 = 116.01	5.80	AW11	1.7 x 1.9 x 4	採光補正係数は水平距離7m以上あり1.0とした	12.92	OK	5.80	AW11	(1.7 x 1/2) x 1.9 x 4	6.46	OK	2.32	AW11	建設省告示第1436号1項三号口適用 天井高 3.95 x 1/2 = 1.97 < 2.1 0.815 x 0.9 x 4	2.93	OK			

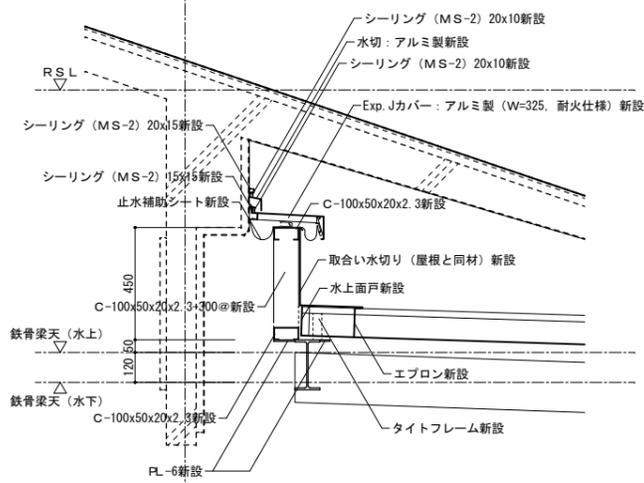
消防法の無窓階の判定

階数	床面積	必要面積	有効面積				判定	階数	床面積	必要面積	有効面積				判定	階数	床面積	必要面積	有効面積				判定
			1/30	対象建具	計算式	有効					1/30	対象建具	計算式	有効					1/30	対象建具	計算式	有効	
1階	253.36	8.44	AW1	(1.7 x 1/2) x 1.3 x 2	2.21	普通階	2階	184.17	6.13	AW11	(1.7 x 1/2) x 1.9 x 4	6.46	普通階										
			AW1-1	(1.7 x 1/2) x 1.3 x 2	2.21																		
			AW2	(1.7 x 1/2) x 1.3 x 1	1.10																		
			AW2-1	(1.7 x 1/2) x 1.3 x 1	1.10																		
			AD2-1	0.8 x 2.0 x 1	1.60																		
			AD2-2	0.8 x 2.0 x 1	1.60																		
					9.82																		



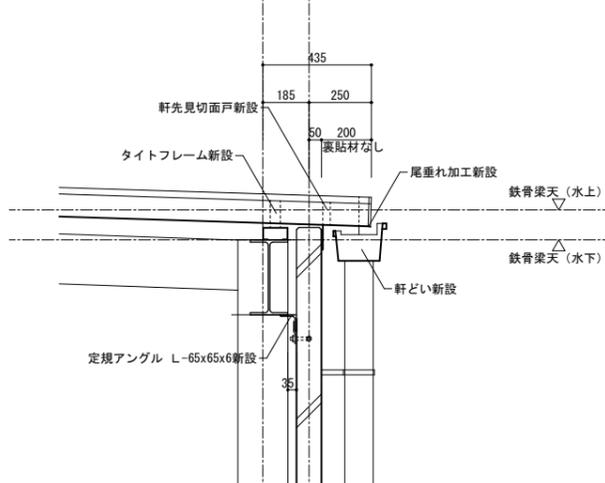
既存・新設屋根取合い断面詳細図

1/20



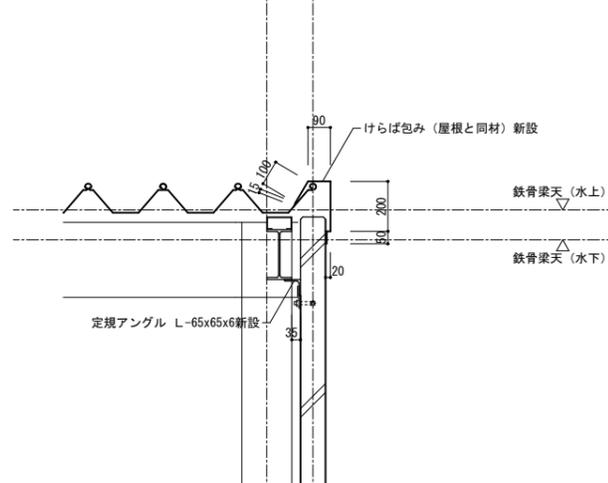
新設屋根水下軒先断面詳細図

1/20



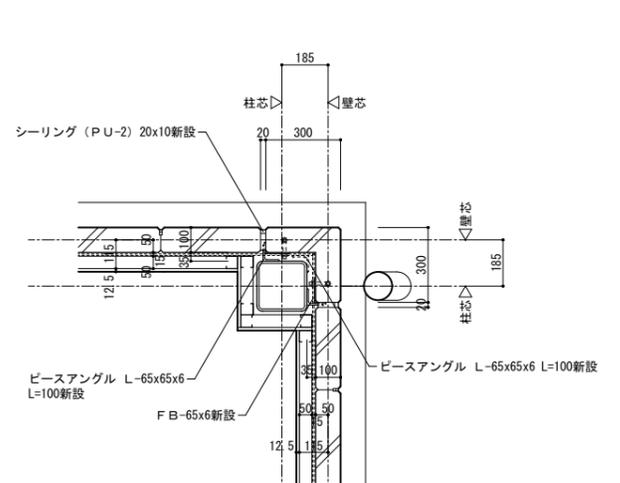
新設屋根けらば断面詳細図

1/20



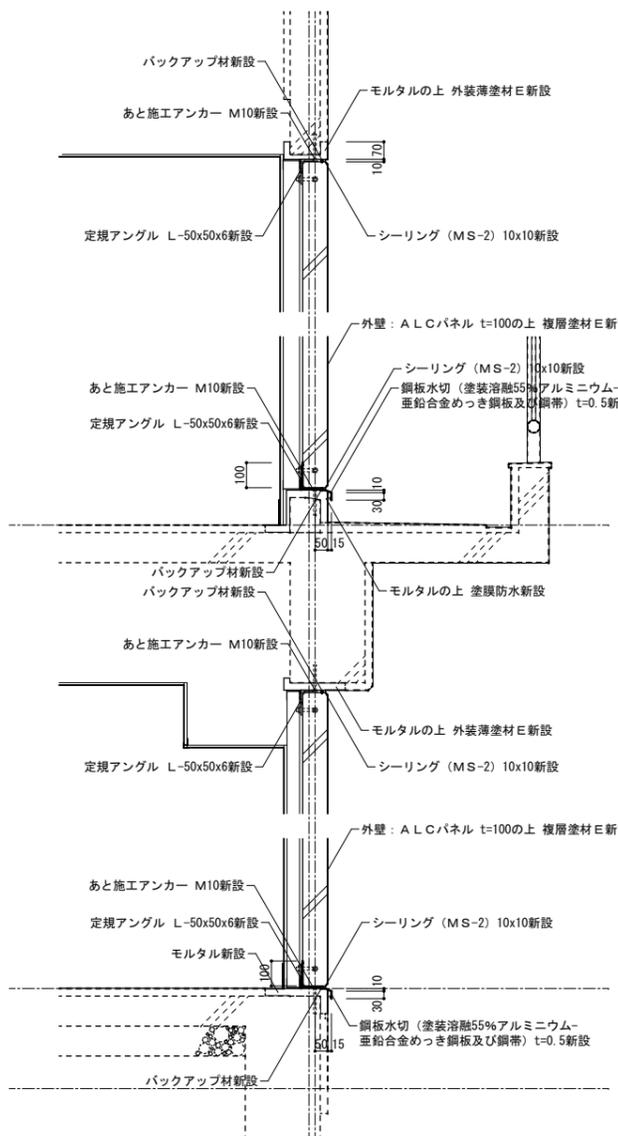
新設壁ALCコーナー部平面詳細図

1/20



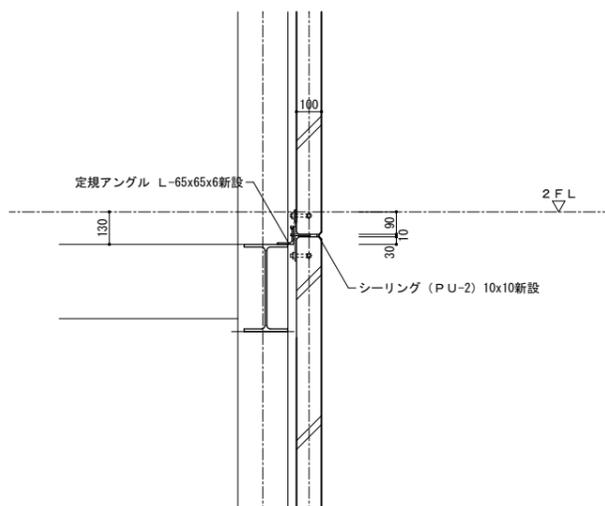
既存壁撤去部・新設壁ALC部取合い断面詳細図

1/20



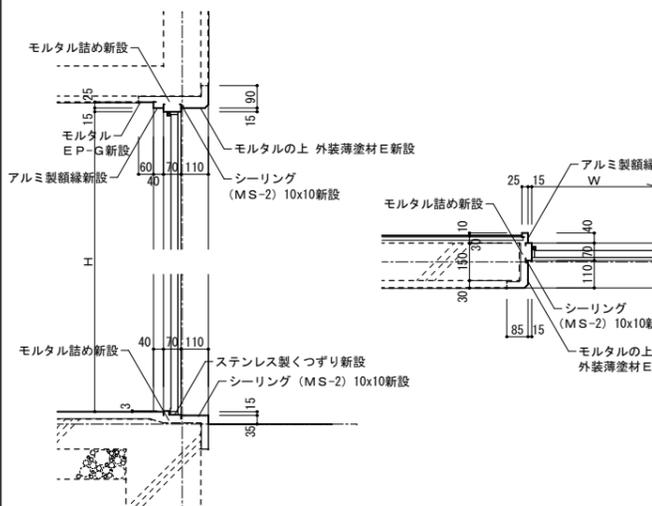
新設壁ALC中間部取合い断面詳細図

1/20



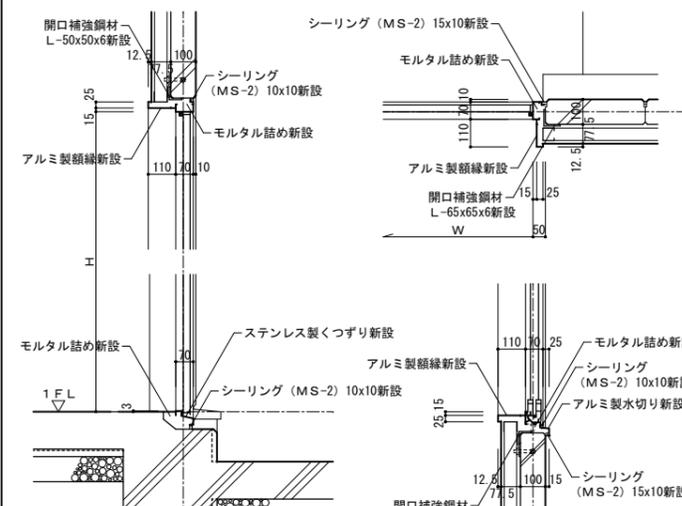
アルミ製建具 (既存建物部) 詳細図

1/20



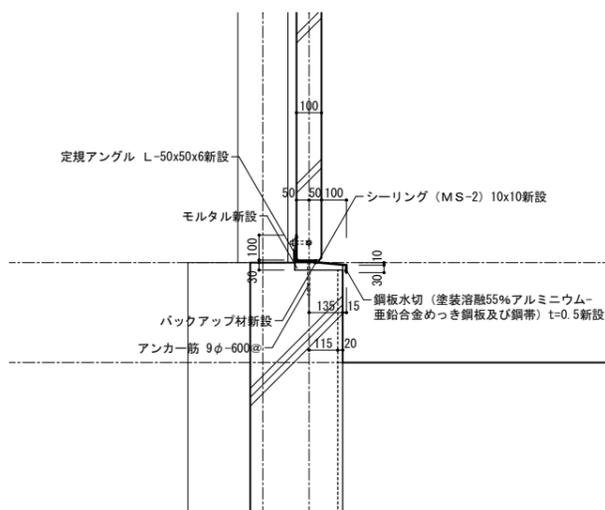
アルミ製建具 (ALC新設部) 詳細図

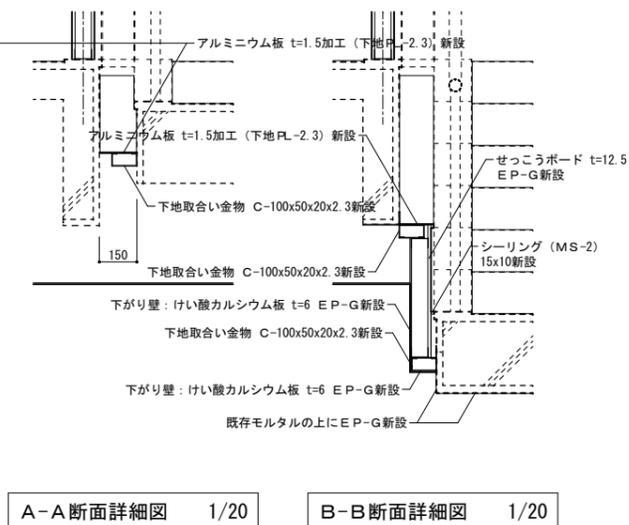
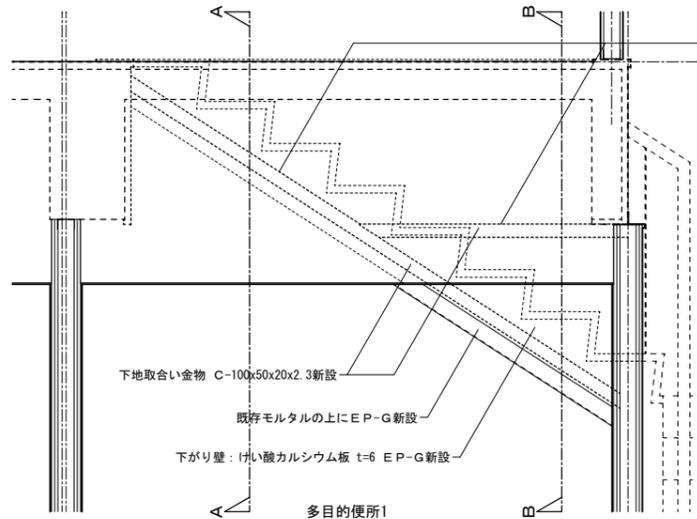
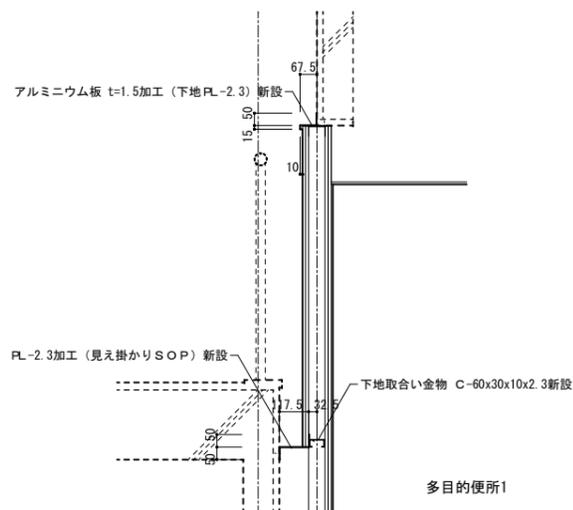
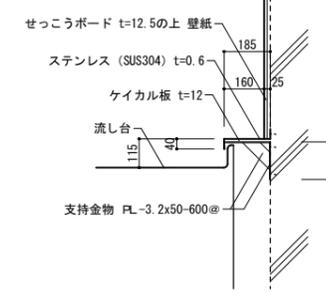
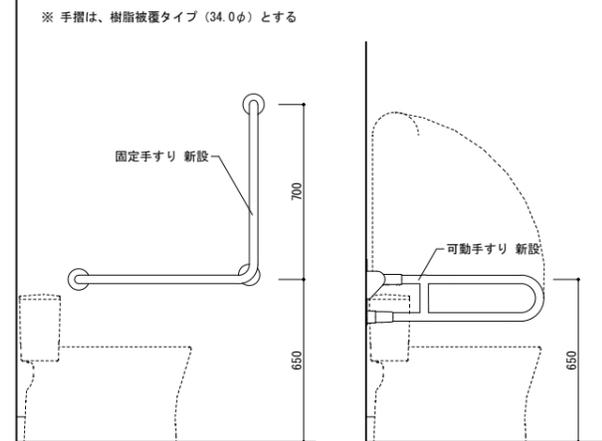
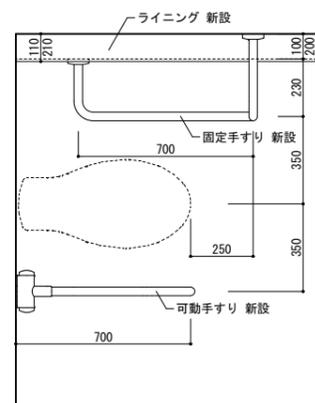
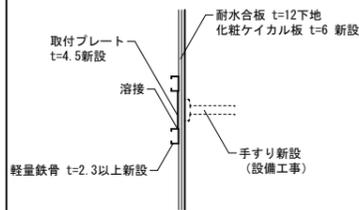
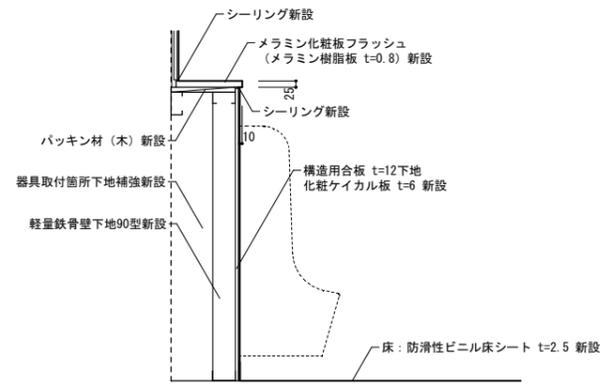
1/20



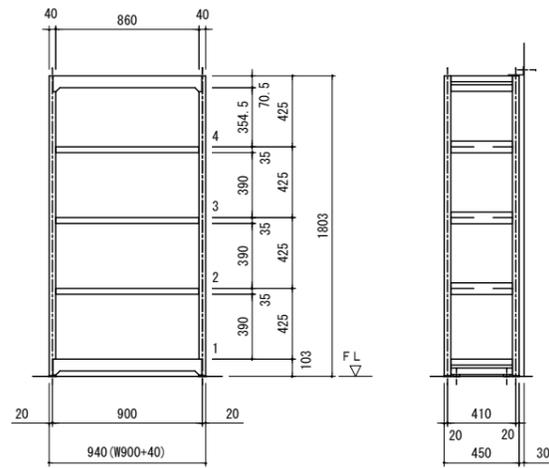
新設壁ALC下部取合い断面詳細図

1/20





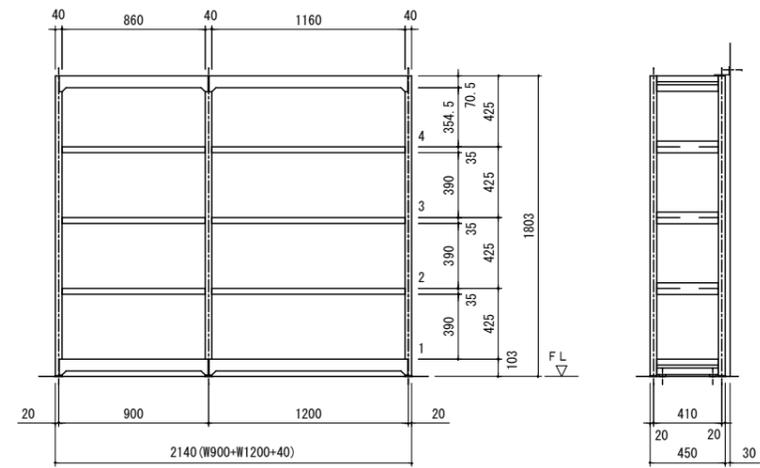
K-1	1階 倉庫1 スチールラック (中軽量棚)	金剛 株式会社	BLM 361-455SOR	1 台	S=1/30	K-2	1階 倉庫1 スチールラック (中軽量棚)	金剛 株式会社	BLM(361+461)-455SOR	1 台	S=1/30
-----	-----------------------	---------	----------------	-----	--------	-----	-----------------------	---------	---------------------	-----	--------



1階 倉庫1 中軽量棚 K-1 仕様

参考型式	: 金剛株式会社製 BLM 361-455SOR
寸法	: W940xD450xH1803 以上
固定	: 床固定・壁固定
棚構造	: 支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないポルトレス構造
棚板可動ピッチ	: 25mm

支柱	: 形状はC-40×40、複柱式とし、単式棚は2本柱
棚板積載条件	: 1段あたり 200kg/段
間口積載条件	: 1000kg/単式1連
塗装	: ホワイート色 (F☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場

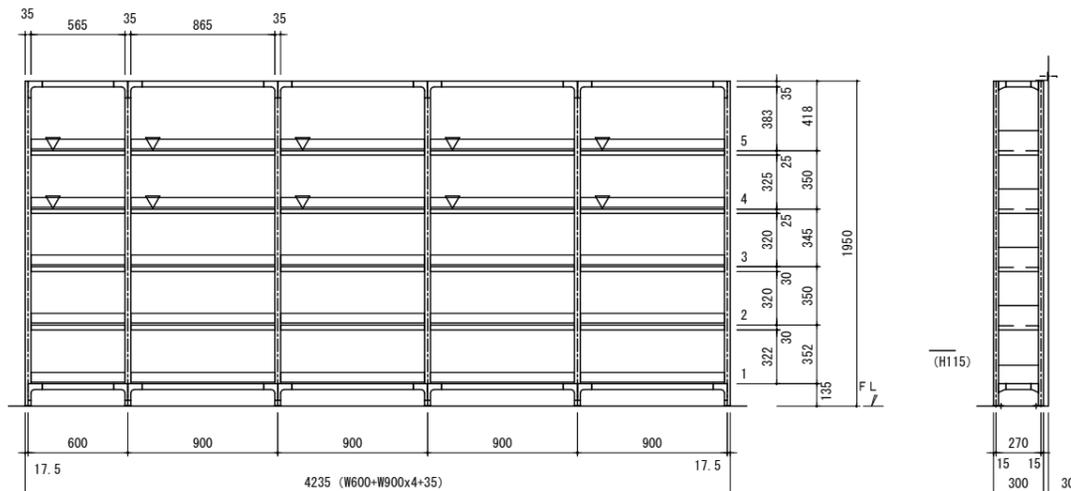


1階 倉庫1 中軽量棚 K-2 仕様

参考型式	: 金剛株式会社製 BLM(361+461)-455SOR
寸法	: W2140xD450xH1803 以上
固定	: 床固定・壁固定
棚構造	: 支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないポルトレス構造
棚板可動ピッチ	: 25mm

支柱	: 形状はC-40×40、複柱式とし、単式棚は2本柱
棚板積載条件	: 1段あたり 200kg/段
間口積載条件	: 1000kg/単式1連
塗装	: ホワイート色 (F☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場

K-3	1階 図書資料室 スチールラック (軽量棚)	金剛 株式会社	KU (261+364)-306SOR/D2	1 台	S=1/30
-----	------------------------	---------	------------------------	-----	--------



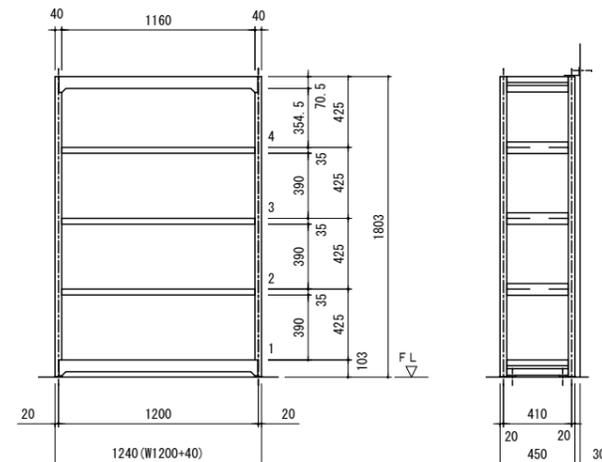
1階 図書資料室 軽量棚 K-3 仕様

参考型式	: 金剛株式会社製 KU (261+364)-306SOR
寸法	: W4235xD300xH1950 以上
附属品	: 背受、側受 (H115・最下段のみ)、傾斜スライド棚 (4~5段目)
固定	: 床固定・壁固定
棚構造	: 天地板、支柱によるフレーム構造とし、ブレースを用いない耐震ガセット方式
棚板可動ピッチ	: 25mm

支柱	: 形状はC-35×30、複柱式とし、単式棚は2本柱
棚板積載条件	: 1段あたり 40kg/段
間口積載条件	: 300kg/単式1連
塗装	: ホワイート色 (F☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場

K-4	1階 倉庫2 スチールラック (中軽量棚)	金剛 株式会社	BLM 461-455SOR	1 台	S=1/30
-----	-----------------------	---------	----------------	-----	--------

K-8	2階 倉庫3 スチールラック (中軽量棚)	金剛 株式会社	BLM 461-455SOR	2 台	S=1/30
-----	-----------------------	---------	----------------	-----	--------



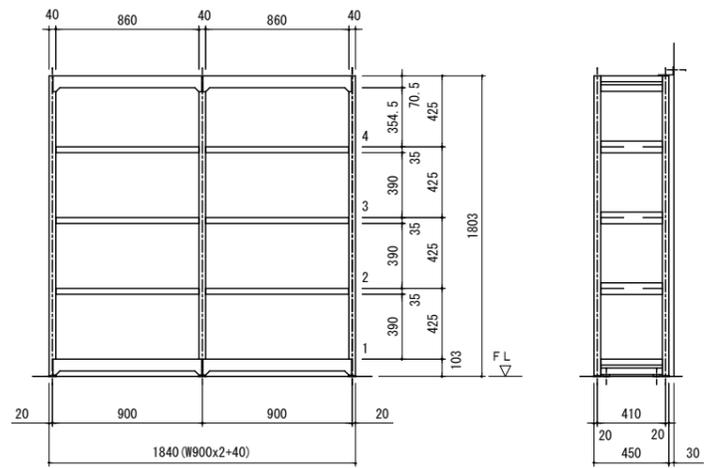
1階 倉庫2 中軽量棚 K-4・2階 倉庫3 中軽量棚 K-8 仕様

参考型式	: 金剛株式会社製 BLM 461-455SOR
寸法	: W1240xD450xH1803 以上
固定	: 床固定・壁固定
棚構造	: 支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないポルトレス構造
棚板可動ピッチ	: 25mm

支柱	: 形状はC-40×40、複柱式とし、単式棚は2本柱
棚板積載条件	: 1段あたり 200kg/段
間口積載条件	: 1000kg/単式1連
塗装	: ホワイート色 (F☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場



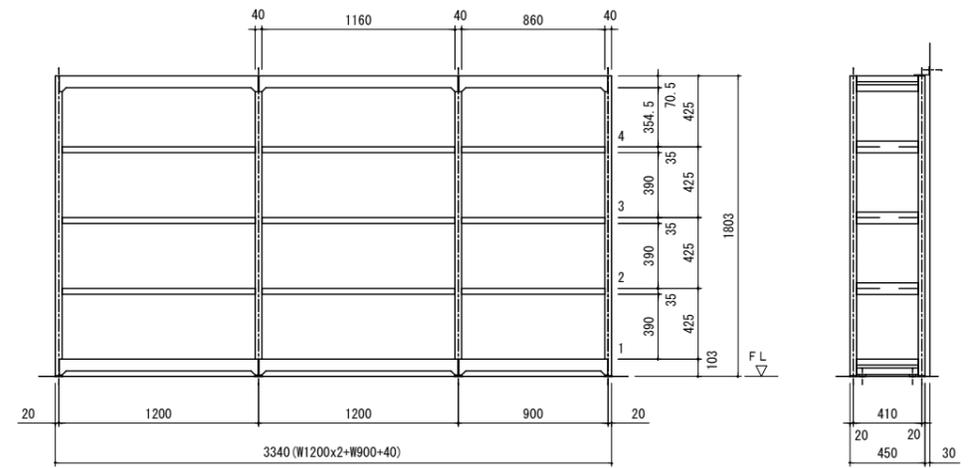
K-5	1階 倉庫2 スチールラック (中軽量棚)	金剛 株式会社	BLM 362-455SOR	1 台	S=1/30	K-6	1階 倉庫2 スチールラック (中軽量棚)	金剛 株式会社	BLM(462+361)-455SOR	1 台	S=1/30
-----	-----------------------	---------	----------------	-----	--------	-----	-----------------------	---------	---------------------	-----	--------



1階 倉庫2 中軽量棚 K-5 仕様

参考型式	: 金剛株式会社製 BLM 362-455SOR
寸法	: W1840xD450xH1803 以上
固定	: 床固定・壁固定
棚構造	: 支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないポルトレス構造
棚板可動ピッチ	: 25mm

支柱	: 形状はC-40×40、複柱式とし、単式棚は2本柱
棚板積載条件	: 1段あたり 200kg/段
間口積載条件	: 1000kg/単式1連
塗装	: ホワイト色 (F☆☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場

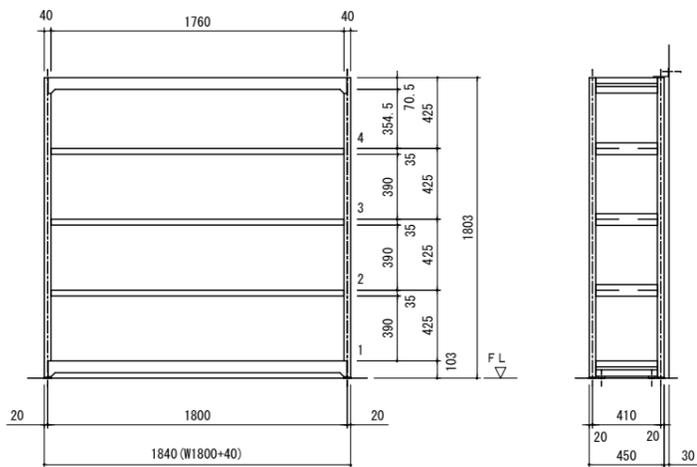


1階 倉庫2 中軽量棚 K-6 仕様

参考型式	: 金剛株式会社製 BLM(462+361)-455SOR
寸法	: W3340xD450xH1803 以上
固定	: 床固定・壁固定
棚構造	: 支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないポルトレス構造
棚板可動ピッチ	: 25mm

支柱	: 形状はC-40×40、複柱式とし、単式棚は2本柱
棚板積載条件	: 1段あたり 200kg/段
間口積載条件	: 1000kg/単式1連
塗装	: ホワイト色 (F☆☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場

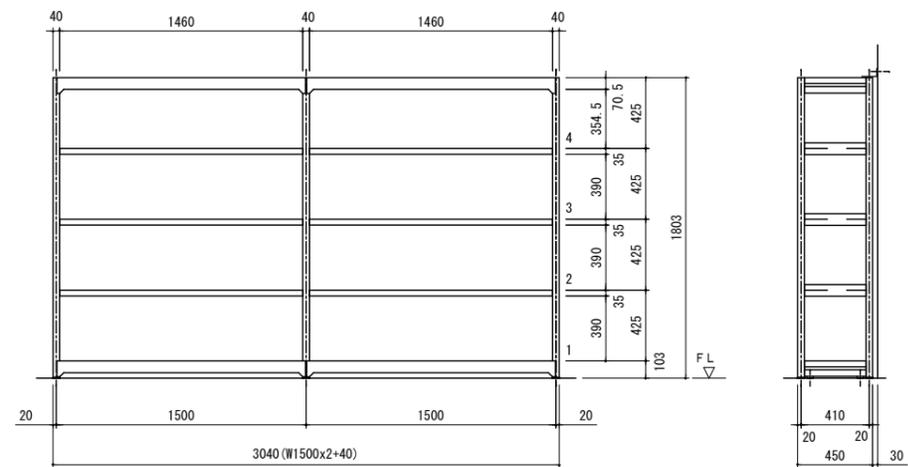
K-7	2階 物置 スチールラック (中軽量棚)	金剛 株式会社	BLM 661-455SOR	1 台	S=1/30	K-10	2階 倉庫3 スチールラック (中軽量棚)	金剛 株式会社	BLM 562-455SOR	1 台	S=1/30
K-9	2階 倉庫3 スチールラック (中軽量棚)	金剛 株式会社	BLM 661-455SOR	2 台	S=1/30						



2階 物置 中軽量棚 K-7・2階 倉庫3 中軽量棚 K-9 仕様

参考型式	: 金剛株式会社製 BLM 661-455SOR
寸法	: W1840xD450xH1803 以上
固定	: 床固定・壁固定
棚構造	: 支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないポルトレス構造
棚板可動ピッチ	: 25mm

支柱	: 形状はC-40×40、複柱式とし、単式棚は2本柱
棚板積載条件	: 1段あたり 200kg/段
間口積載条件	: 1000kg/単式1連
塗装	: ホワイト色 (F☆☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場



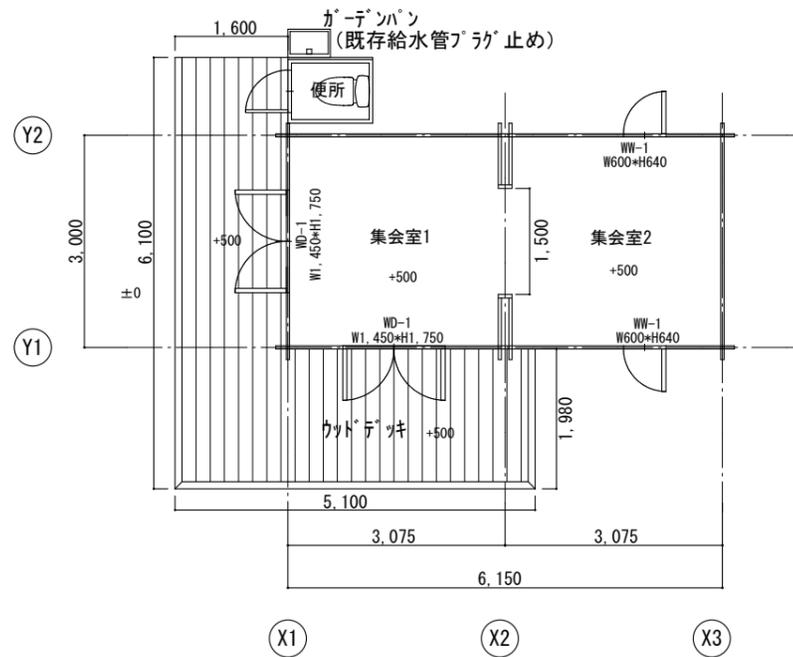
2階 倉庫3 中軽量棚 K-10 仕様

参考型式	: 金剛株式会社製 BLM 562-455SOR
寸法	: W3040xD450xH1803 以上
固定	: 床固定・壁固定
棚構造	: 支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないポルトレス構造
棚板可動ピッチ	: 25mm

支柱	: 形状はC-40×40、複柱式とし、単式棚は2本柱
棚板積載条件	: 1段あたり 200kg/段
間口積載条件	: 1000kg/単式1連
塗装	: ホワイト色 (F☆☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場



解体対象建物：ほんごう子ども広場棟



平面図 1/100

解体撤去後、真砂土による埋め戻し・整地を行う

外部仕上表

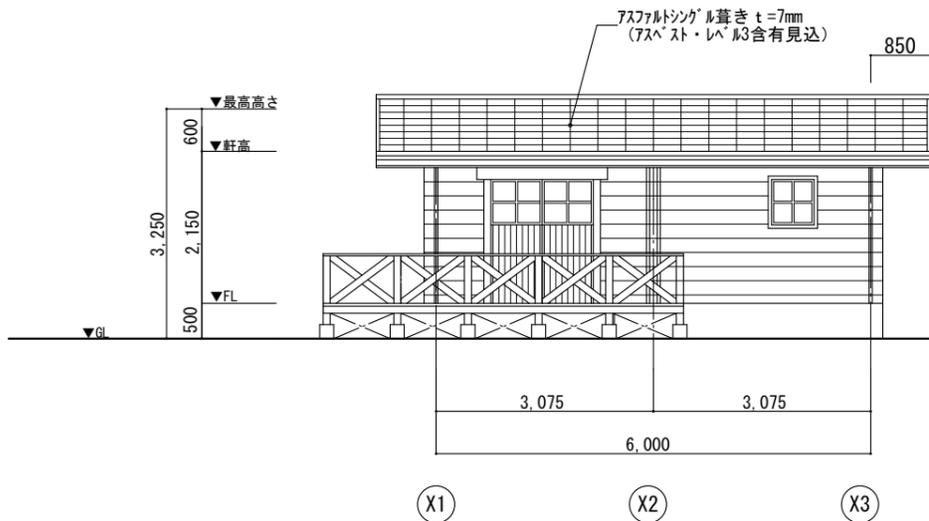
屋根	アスファルトシングル葺き t=7mm ゴムアスファルトシングル (7スベ・スト・レベ R3含有見込)
軒裏	—
外壁	板材組 (松材・W45×H200mm・ロケ)
基礎	コンクリートベタ基礎 モルタル仕上げ
建具	小窓付き木製建具 (ガラスFL4mm 600×600mm)
ガーデンパシ	流し600型、水栓柱

内部仕上表

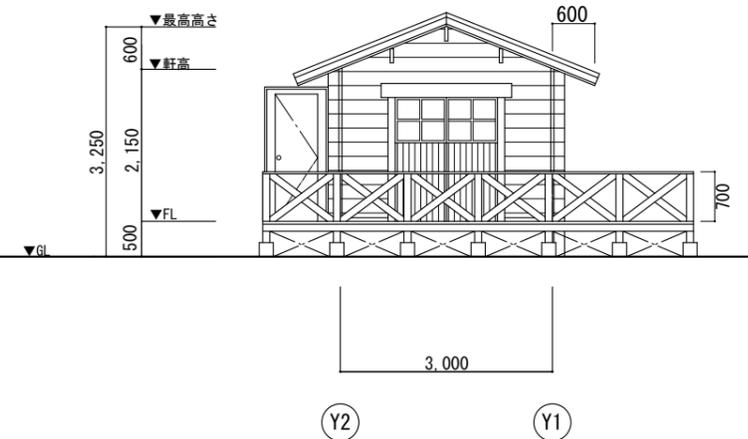
階	室名	床	巾木・腰	壁	天井	天井高	備考
1	集会室1	フローリング張り (h'イン材) t 45mm	木製巾木 H75mm	板材組 (松材・W45×H200mm・ロケ)	—	2.150 ~ 2.750	
	集会室2	フローリング張り (h'イン材) t 45mm	同上	板材組 (松材・W45×H200mm・ロケ)	—	2.150 ~ 2.750	
	ユニット便所	—	—	—	—	1.900	洋便器 紙巻器

面積表

1階床面積	6.15×3.00=18.4500㎡	18.45㎡
延床面積	6.15×3.00=18.4500㎡	18.45㎡
建築面積	6.15×3.00=18.4500㎡	18.45㎡



南側立面図 1/100



西側立面図 1/100

三原市役所

三原市港町3丁目5番1号 TEL (0848) 64-2111

課長	係長	設計	校閲

日付

工事名	本郷人権文化センター耐震改修等工事 (建築主体工事)
図面名称	解体建物詳細図 (ほんごう子ども広場棟)

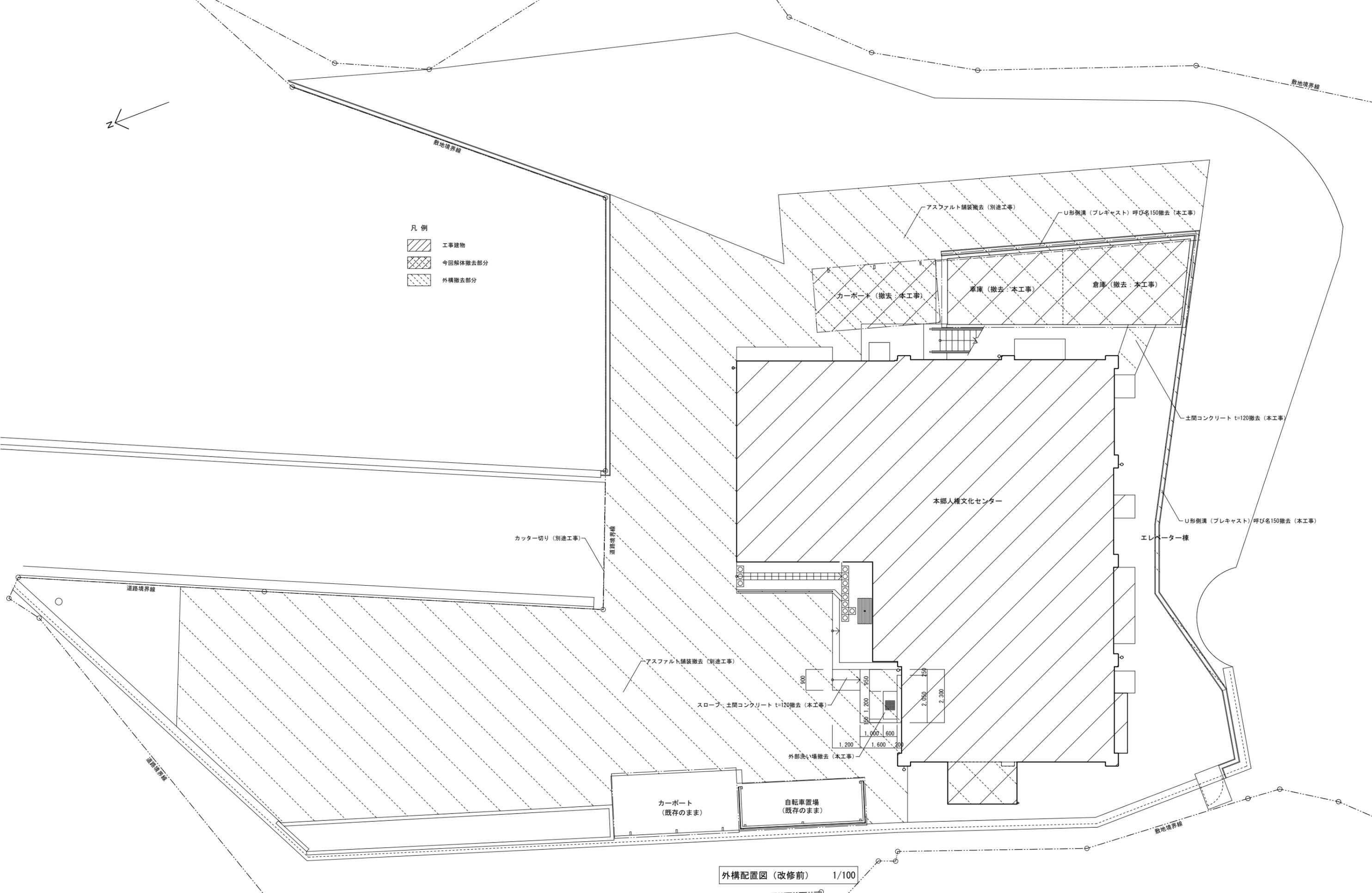
備考	
備	

平面図 立面図 外・内部仕上表 面積表	縮尺	1/100
---------------------------	----	-------

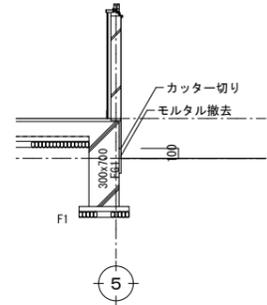
図番	A-65
----	------



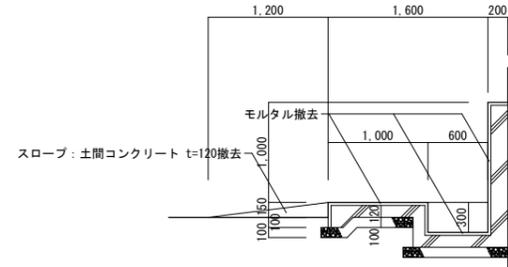
- 凡例
-  工事建物
 -  今回解体撤去部分
 -  外構撤去部分



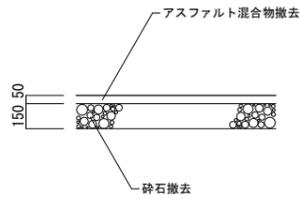
外構配置図 (改修前) 1/100



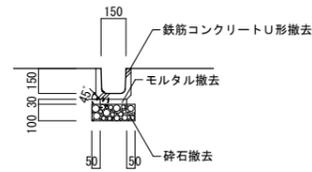
外部洗い流し新設部 撤去 断面詳細図 1/50
(本工事)



外部洗い場撤去断面詳細図 1/50
(本工事)

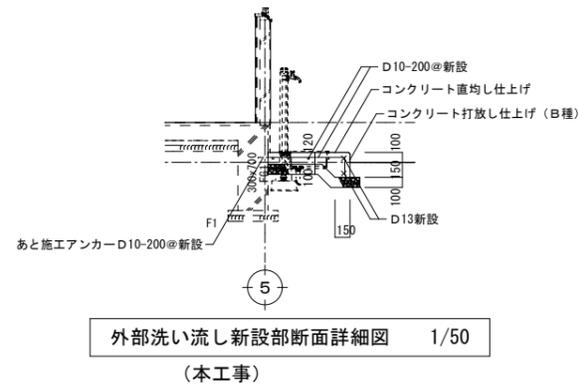


アスファルト舗装撤去詳細図 1/30
(※別途工事)



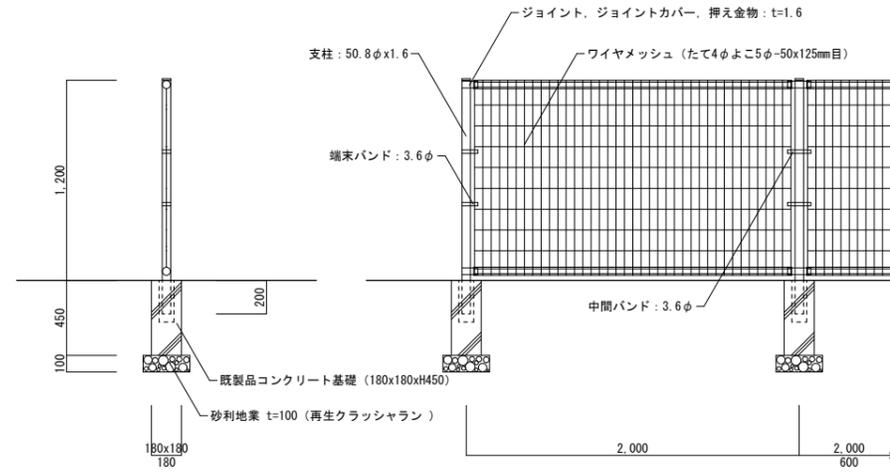
U形側溝(プレキャスト)撤去詳細図 1/30
(本工事)





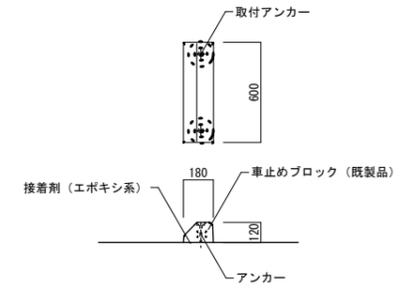
外部洗い流し新設部断面詳細図 1/50

(本工事)



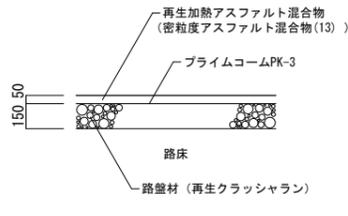
メッシュフェンス新設詳細図 1/30

※ フェンスは溶融亜鉛めっき製とする。
(別途工事)



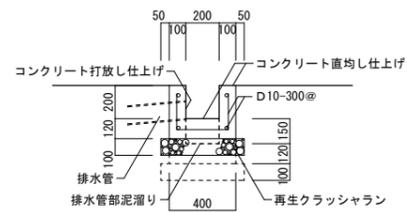
車止め新設詳細図 1/30

(別途工事)



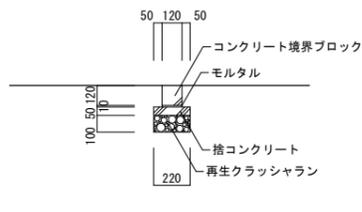
アスファルト舗装新設詳細図 1/30

(別途工事)



U形側溝 (現場打ち) 新設詳細図 1/30

(本工事)



縁石詳細図 1/30

(別途工事)



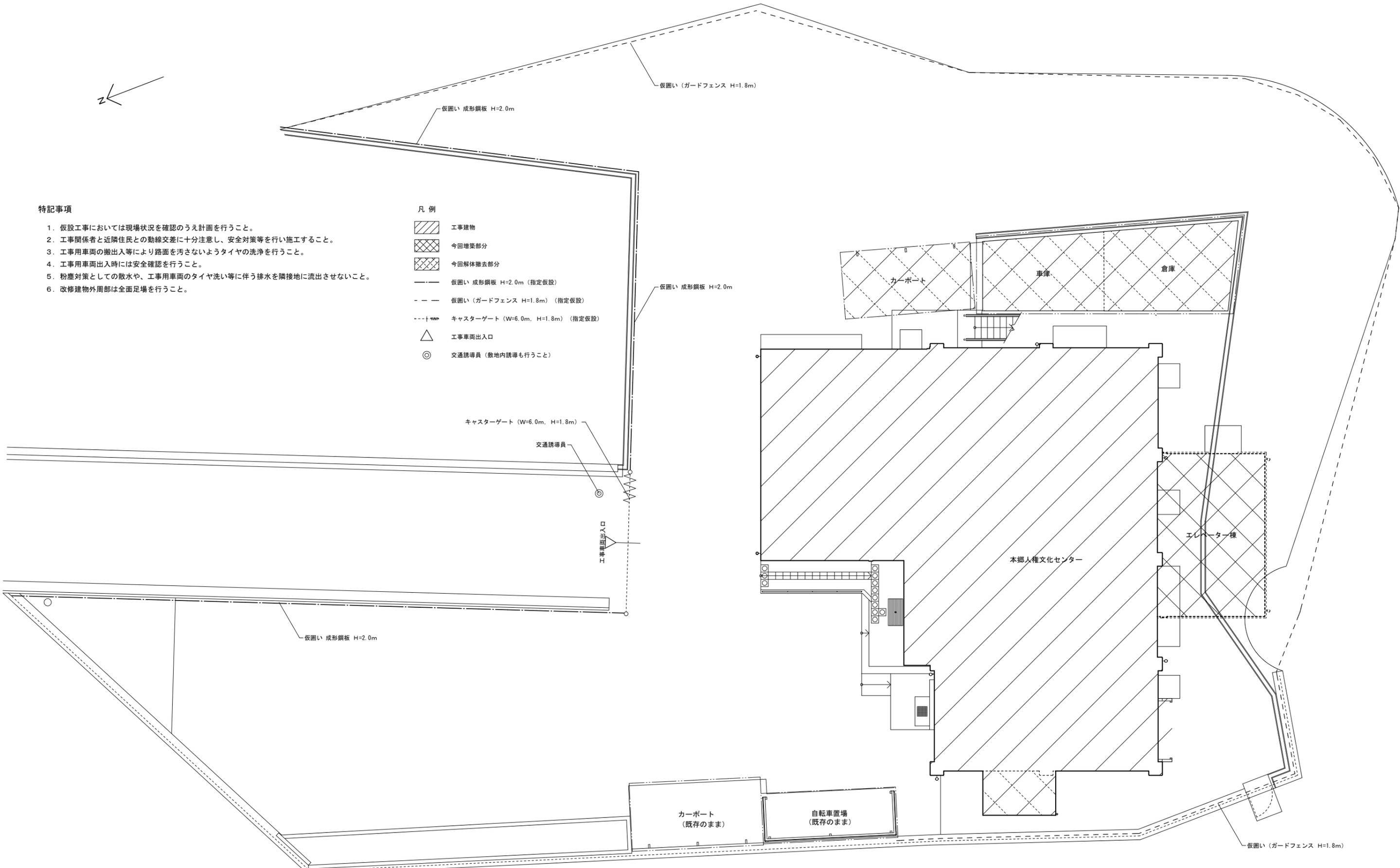


特記事項

1. 仮設工事においては現場状況を確認のうえ計画を行うこと。
2. 工事関係者と近隣住民との動線交差に十分注意し、安全対策等を行い施工すること。
3. 工事用車両の搬出入等により路面を汚さないようタイヤの洗浄を行うこと。
4. 工事用車両出入時には安全確認を行うこと。
5. 粉塵対策としての散水や、工事用車両のタイヤ洗い等に伴う排水を隣接地に流出させないこと。
6. 改修建物外周部は全面足場を行うこと。

凡例

-  工事建物
-  今回増築部分
-  今回解体撤去部分
-  仮囲い 成形鋼板 H=2.0m (指定仮設)
-  仮囲い (ガードフェンス H=1.8m) (指定仮設)
-  キャスターゲート (W=6.0m, H=1.8m) (指定仮設)
-  工事車両出入口
-  交通誘導員 (敷地内誘導も行うこと)



仮設計画配置図 1/100

 有限会社 元廣建築設計事務所 一級建築士事務所 広島県登録 23(1) 第 0951 号	一級建築士登録 第 223245 号 元廣 匡伸	工事名： 本郷人権文化センター耐震改修等工事	図面名： (参考) 仮設計画配置図	縮尺： 1/100 A2版：100% A3版：71%	査図： 部長： 課長： 主任： 担当：	日付： R7年	図番： A-70

構造設計標準仕様

通用は、■印を記入する

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 本郷人権文化センター耐震改修等工事（建築主体工事）
建築場所 広島県三原市本郷北三丁目
- (2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築
- (3) 構造種別
 鉄筋コンクリート造（RC） 鉄骨造（S） 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）
- (4) 階数 地下 一階 地上 2階 塔屋 一階
- (5) 主要用途 エレベーター棟
- (6) 屋上付属物
 高架水槽 kN 屋上看板 煙突 ソーラーパネル
- (7) 特別な荷重
 エレベーター 11人 乗り（ロープ式 油圧式） リフト kN
 天井クレーン kN 基 受水槽 kN
- (8) 付帯工事
 門扉 換気 機械式駐車場
- (9) 増築計画 有 無
- (10) 構造計算ルート X・Y方向共ルート3

2. 使用構造材料

適用箇所	種類	設計基準強度 f _c (N/mm ²)	スラブ厚 cm	水セメント比 (%以下)	単位水量 (kg/m ³ 以下)	備考
捨てコン	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	15又は18	75	185	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	15	65	185	
ラップルCON	<input type="checkbox"/> 普通	18	15	75	185	
躯体コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	21	18以下	65	185	デッキプレート上
	<input checked="" type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	24	18以下	55	185	基礎・地中梁
	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	27	18以下			
	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	30	21以下			
割増し考慮後のコンクリート強度が36を超える場合						→ 175
押えコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	18	15	65	185	軽量1種 γ=18kN/m ³
混和剤	AE減水剤(■標準型 □遅延型 □促進型) 高性能AE減水剤(■Fc24以上のコンクリートに使用)					

コンクリートはJASS5（最新版）に基づいて適切な品質管理及び厳正な検査を行う事。
空気量 4%~6%
捨て・土間・押えコンクリートは構造体強度補正値Sを不要として良い

- (2) コンクリートブロック（CB）
 A種 B種 C種 厚 100 120 150 190

種類	径	使用箇所	継手工法	
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> SD295A	D10~D16	引Hによる	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 D16以下
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19・D22	引Hによる	
	<input type="checkbox"/> SD390	D29以上	引Hによる	<input checked="" type="checkbox"/> ガス圧継手 D19以上
	<input type="checkbox"/> SD345	D32		
高強度せん断補強筋 (NSRB-0036)	<input type="checkbox"/> KSS785	S13	引Hによる	<input type="checkbox"/> 特殊継手
丸鋼	<input type="checkbox"/>			()
溶接金網 (JIS G3551)	<input checked="" type="checkbox"/> SR235	4φ、5φ	図面による	

種類	使用箇所	現場溶接	備考
鋼材	<input checked="" type="checkbox"/> S400 <input type="checkbox"/> S400 <input type="checkbox"/> S400 欠	大梁・小梁	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> S400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	<input checked="" type="checkbox"/> S400S <input type="checkbox"/> S400S <input type="checkbox"/>	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	<input type="checkbox"/> S400A <input type="checkbox"/> S400B <input checked="" type="checkbox"/> S400C <input type="checkbox"/>	ベースプレート・ダイヤフラム	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
<input type="checkbox"/> S400 <input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

S400S : 認定番号 丸1-Q14
S10T : 認定番号 丸1-Q15
●使用箇所の詳細については別途図示とする。

- (5) ボルト
 高力ボルト
 普通、F10T 特殊、S10T 認定品 (M12、 M16、 M20、 M22、 M24)
 中ボルト M12 高力ボルトすべり係数試験 要 否
高力ボルト導入張力確認試験 要 否
- アンカーボルト SNR400B M4 L=500mm ナット (シングル、 ダブル)
上記以外はISベースの仕様による。
- 頭付スタッドボルト φ=16 L=80mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)
φ=19 L=100mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

- (6) 屋根、床、壁
 中空押出成形セメント板 メース (同等品) 厚 60 キーストプレート 型式 厚
 屋根 折板 山高90 t=0.8 外壁 ALC板 t=100
 床 型式 スーパーデッキE250 厚 1.0mm
- (7) 鉄骨に溶融亜鉛メッキ処理を施す場合、高力ボルトはF8Tとする。
- (8) 外部に露出する鉄骨は溶融亜鉛メッキ処理を行う事。

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料 スウェーデン式サウンディング調査
 有 (敷地内 近隣) ボーリング調査 平板載荷試験 孔内水平載荷試験
 液状化判定 現場透水試験 土質試験 (一軸圧縮試験)
- 無 (調査予定 有 無)

- (2) 地盤調査計画
 ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 水平地盤反力係数の測定
 土質試験 物理探査 平板載荷試験 試験掘 (支持層の確認)

- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成

深度	土質	N値	標準貫入試験					○調査地番	○位置図
			10	20	30	40	50		
1									○調査地番 GL - m ○近隣データの調査地番と設計地番とは約 mの距離がある
2									○備考

4. 地業工事

- (1) 直接基礎 独立基礎 布基礎 ベタ基礎 試験掘 有 無
支持層- 強風花崗岩 載荷試験 有 無

基礎深さ 設計GL-1.20m
長期許容地耐力 300 kN/m²
地盤改良 ラップルコンクリート 固化材混入 地盤改良柱1000φ

- (2) 杭基礎 支持層- 杭先端位置 設計GL - m

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PC	PRC (<input type="checkbox"/> 種 <input type="checkbox"/> 種 <input type="checkbox"/> 種) PHC (<input type="checkbox"/> 種 <input type="checkbox"/> 種 <input type="checkbox"/> 種)	<input type="checkbox"/> 打ち込み <input type="checkbox"/> 埋込み (セメントミルク工法)	評定工法 一評定工法
<input type="checkbox"/> 鋼管 埋設杭	HB (<input type="checkbox"/> 種 <input type="checkbox"/> 種 <input type="checkbox"/> 種)	<input type="checkbox"/> HBM工法	
<input type="checkbox"/> 鋼管	鋼材 <input type="checkbox"/> S400 <input type="checkbox"/> TK490	<input type="checkbox"/> G-ECSパイル工法	
<input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭	コンクリート Fc=27N/cm ² スラブ 18	<input type="checkbox"/> 全旋回オールケーシング工法 <input type="checkbox"/> アースドリル式掘削工法	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> HOOP SD295A 鋼材 <input type="checkbox"/> SKK400 SKK400	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 礎 <input type="checkbox"/> アスオーガー工法 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション	

5. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事
- (a) 工事監理者の承認を必要とするもの
 製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書 社内検査表
 建設省告示第1103号による認定工場 (大臣認定 Rグレード以上)
 材料規格証明書または試験成績書 (鋼材 高力ボルト 頭付スタッド)
- (b) 工事監理者に検査事項を連絡し確認を受けるもの
 現寸検査 組立、開先検査 製品検査 建方検査
- (c) 溶接及び接合部を検査し工事監理者に報告すること
 溶接部及び接合部の検査報告

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			特記事項
		自主	第三者	工事監理者	
<input checked="" type="checkbox"/> 突合せ溶接部	超音波探傷試験	100 %	30 %	—	溶接の採取率は工事共通仕様書最新版の 758 「溶接完了後の検査」による。
<input checked="" type="checkbox"/> ビート、われ、アンダーカット オバラップ、余盛、サイズ、他	外観 (目視) 検査	100 %	%	100 %	

注) 第三者検査とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が 受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

- (2) 防錆塗装
 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは JIS K5621 又は JIS K5622 を2回塗りを標準とする。
 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

6. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
 コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5 (最新版)による。
 耐久設計基準強度

計画供用期間の級	耐久設計基準強度 F _d (N/mm ²)
<input checked="" type="checkbox"/> 短期 (大規模補修不要予定期間としておよそ30年、供用限界期間として65年)	18
<input type="checkbox"/> 標準 (大規模補修不要予定期間としておよそ65年、供用限界期間として100年)	24
<input type="checkbox"/> 長期 (大規模補修不要予定期間としておよそ100年)	30
<input type="checkbox"/> 超長期 (大規模補修不要予定期間としておよそ200年)	36

コンクリートの調合管理強度 F_m=max(F_o, F_d)+S 構造体強度補正値S=3~6
材齢28日の調合強度 Fは下記の両式を満足するものとする。
F_d≥F_m+1.73σ
F_d≥0.85F_m+3σ

- セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
 寒中、雪中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
 スラブ・空気量・塩化物量の受入れ時検査を行う。
フレッシュコンクリートの塩化物測定について

原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた塩化物量測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一材料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
※コンクリート中に含まれる塩化物の含有量の基準
鉄筋コンクリート造などの構造耐力上主要な部分に用いられるコンクリートについては、原則として塩化物量は0.3kg/m³以下(塩素イオン換算)とする。

- 構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体(JASS5 T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150mをこえる場合は150mごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。(但し、設計基準強度F_c27以上F_c36以下は100mに読み換える。)
一回に採取する供試体は、適切な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。供試体の作り方、型枠の取り外し時期及び、養生方法についてはJIS A 1132による。圧縮強度試験方法についてはJIS A 1108による。

- ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
 コンクリートの養生は、令75条に適合の事。

- (2) 鉄筋
 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
 高強度せん断補強筋はJIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。
 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「配筋標準図(1)」、「(2)」による。

- D16以下は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
 ガス圧接は、JIS Z3881による2種有資格者以上による事。
 ガス圧接業者は(社)日本鉄筋継手協会「優良圧接会社認定制度」による認定業者である事。
 圧接面は冷間直角切断機により切断すること。
 ガス圧接完了後の検査 ※1ロット=1組の作業班が1日に行った圧接箇所
 外観検査 (全数検査)
 引張試験 (抜き取り検査 : 1ロットにつき3本)
 超音波探傷試験 (抜き取り検査 : 1ロットにつき30箇所)
 柱の帯筋(HOOP)の加工法は、 H型(タガ型) W型(溶接型) S型(スパイラル型)とする。
 コンクリート及び鉄筋の試験は、公的機関又はプラントの試験場で行うこと。

- 高力ボルトは「S10T認定品」または「JIS B1186高力ボルト」を標準とする。
摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あさが60S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

- 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

(3) 型枠
 材料 合板厚 12mmを標準とする。 施工は、JASS5による。
 型枠存置期間

種類 部位 セメント の 種類 平均 気温 の 温	せき板				支柱				
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下注)3		スラブ下		はり下		
コンクリートの 圧縮強度	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
	5℃以上	3	5	6	10	12	25	28	
	0℃以上	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの 圧縮強度	5.0 N/mm ²	2	設計標準強度の50%		設計標準強度の 65%		100%		

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはり及びスラブの場合も原則として行わない。
注) 3 スラブ下、はり下のせき板は原則として支柱を取り外した後に取り外す。
注) 4 支柱は2層受けを原則とする。
注) 5 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注) 6 支柱の盛りかえは、小はりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注) 7 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

- (4) パーサポート・スパーサー
使用材料は、原則として鋼製またはコンクリート製とする。
スラブのスパーサーは原則として鋼製とし、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。
数量及び配置の標準

部位	数量または配置	備考
① 基礎	面積 : 4m ² 程度 8個 面積 : 16m ² 程度 20個	
② 基礎梁	間隔 : 1.5m程度 端部 : 1.5m以内	上・下及び側面に設置
③ 壁・地下外壁	上段 : 梁下より0.5m程度 中段 : 上段より1.5m程度下 横間隔 : 1.5m程度 端部 : 1.5m以内	
④ スラブ	上端筋・下端筋それぞれ 1.3個/m ² 程度	
⑤ 梁	間隔 : 1.5m程度 端部 : 1.5m以内	側梁以外の梁は上または下に設置 側梁は側面に設置
⑥ 柱	上段 : 梁下より0.5m程度 中段 : 柱の中間の帯筋の位置 柱幅 : 1.0mまで2個 1.0m以上3個	

備考 : ②基礎梁、③壁・地下外壁、⑤梁、⑥柱のスパーサーは側面に限りプラスチック製でよい

7. 設備関係

- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
 床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ、5cm以上を原則とする。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
 特記仕様書、また図面に記載なき事項については『公共建築工事標準仕様書(H22年版)』及び『鉄筋コンクリート造配筋指針・解説(2010年版)』による。
 施行令129条の2の3の項目について構造安全性を確認した。

【建築物に設ける建築設備の構造方法 令129条の2の3】

- 建築設備の支持構造部及び緊結金物は腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
 給排水、その他の配管は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。
 貫通して配管する場合、配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずる。
 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手または可とう継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
 給湯設備はH12告示1388号第5に適合のこと。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
 標仕・・・『公共建築工事標準仕様書 (H22年版)』
 d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D・・・直径
 @・・・間隔 r・・・半径 e・・・中心線 R・・・部材間の内法距離 h・・・部材間の内法高さ
 st・・・あばら筋 HOOP・・・帯筋 S.HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	図	折曲げ内法直径 (D)		
		SD295A, SD295B, SD345	SD390	SD390
180°		D16以下	D19~D38	D19~D38
135°		3d以上	4d以上	5d以上
90°				
135°及び90° (幅止め筋)				

(注) 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

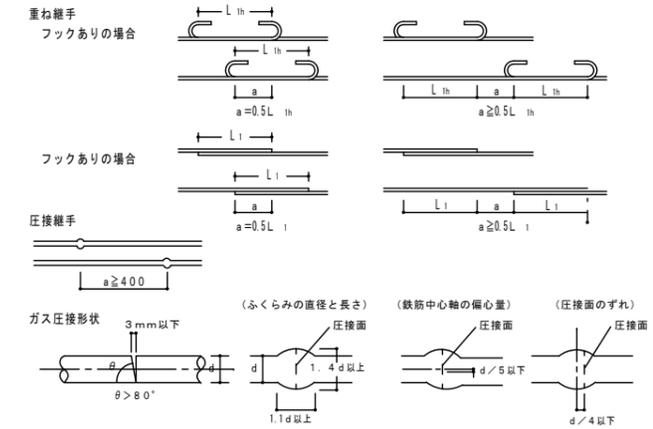
(2) 鉄筋の継手

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40dと下表の長さの大きい値とする。
- D19以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が5mmを超える場合は、圧接とはならない

鉄筋の種類	コンクリートの設計 基準強度F _c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L _{1h} (フックあり)
SD295A SD295B	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

- (注)
- L₁, L_{1h} : 重ね継手の長さ及びフックありの重ね継手の長さ
 - フックありの場合のL_{1h}は、フック部分l'を含まない。
 - 軽量コンクリートの場合は、+5dとする。

隣り合う継手の位置 (下図のいずれかとする)

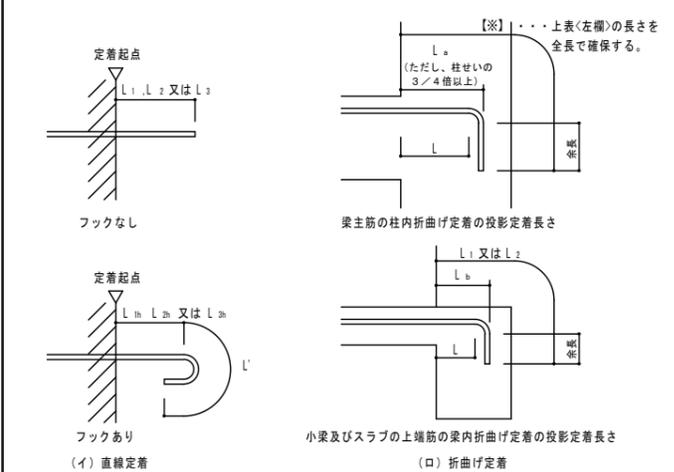


(3) 鉄筋の定着

仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、下表<左欄>のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を<右欄>に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを<右欄>に示す長さ (かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上) をのみ込ませる。

鉄筋の種類	コンクリートの設計 基準強度F _c (N/mm ²)	フックなし						フックあり			
		L ₁	L ₂	L ₃	L _{1h}	L _{2h}	L _{2h}	L _a	L _b		
SD295A SD295B	21	40d	35d		30d	25d		15d	15d		
	24, 27	35d	30d		25d	20d		15d	15d		
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d		15d	15d		
SD345	21	45d	35d	20d	30d	25d	10d	20d	20d		
	24, 27	40d	35d	10d	30d	25d	10d	20d	15d		
	30, 33, 36	35d	30d	10d	25d	20d	10d	15d	15d		
SD390	21	50d	40d		35d	30d		20d	20d		
	24, 27	45d	40d		35d	30d		20d	20d		
	30, 33, 36	40d	35d		30d	25d		20d	15d		

- (注)
- L₁, L_{1h} : 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 - L₂, L_{2h} : 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 - L₃ : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
 - L_{2h} : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
 - フックあり定着の場合はフック部分l'を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
 - L_a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)
 - L_b : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
 - 軽量コンクリートの場合は、+5dとする。



(4) かぶり厚さ

- ひびわれ誘発目地部など鉄筋の厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。
- 設計かぶり厚さは、最小かぶり厚さ+10とする。
- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。(D38以上注意)

部位	最少かぶり厚さ (mm)	
土に接しない部分	スラブ、耐力壁 仕上がりあり	20
	仕上がりなし	30
	柱、梁 耐力壁	30
	屋外 仕上がりあり	30
土に接する部分	屋外 仕上がりなし	40
	擁壁、耐圧スラブ	*40
	柱、梁、スラブ、壁 基礎、擁壁、耐圧スラブ	*40

- (注)
- *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用する。
 - 「仕上がりあり」とは、モルタル塗り等の仕上げとする。
 - 捨てコン厚はかぶり厚さには含まない。
 - 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
 - 高熱を受ける部分、塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

(5) 鉄筋のあき

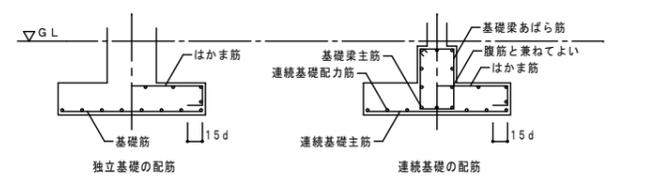
- 粗骨最大寸法の1.25倍
- 2.5mm
- 隣り合う鉄筋の平均径の1.5倍

(6) 鉄筋のフック (a~hに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける)

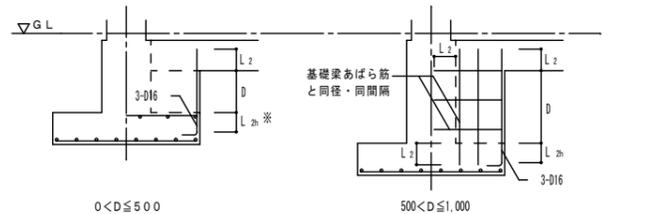
- 丸鋼
- あばら筋、帯筋及び幅止め筋
- 煙突の鉄筋
- 柱、梁 (基礎梁を除く) の出さみ部分の鉄筋 (右図参照)
- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
- 杭基礎のベース筋
- 単純梁の下端筋、先端荷重を受ける片持ち梁、片持ちスラブの先端
- その他、本配筋標準に記載する箇所

3. 基礎及び基礎梁の配筋

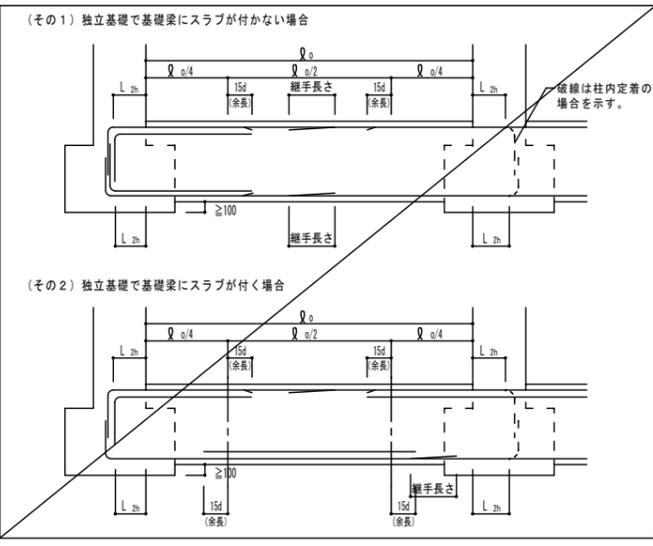
(1) 直接基礎の配筋



(2) 基礎接合部の補強配筋



(3) 基礎梁主筋の継手、定着、及び余長

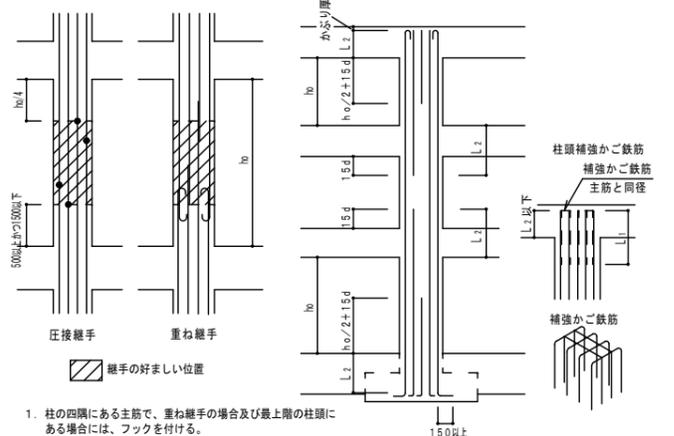


(4) 基礎梁のあばら筋

- あばら筋の組立及びフックの位置は後記による。ただし、梁の上下にスラブがつく場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は下図によることができる。
-

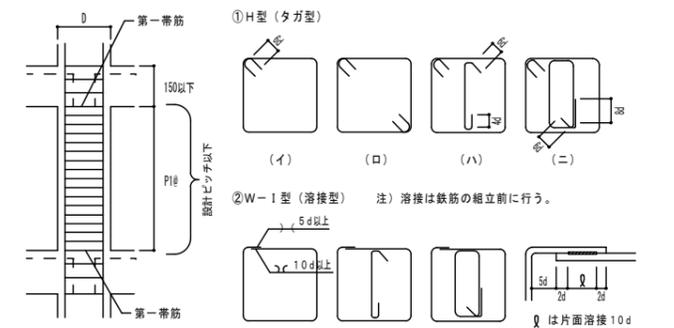
4. 柱

(1) 柱主筋の継手、定着及び余長



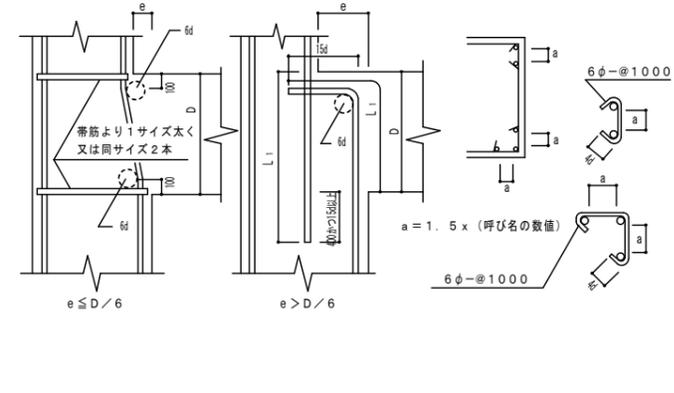
- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
- 隣り合う継手の位置は、標仕 (表5.3.3) による。

(2) 帯筋



- H型を標準とする。
- 溶接する場合の溶接長さsは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
- SP型において、柱頭及び柱脚の末端部は1.5巻き以上の添巻きを行う。
- H型の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I型とする。

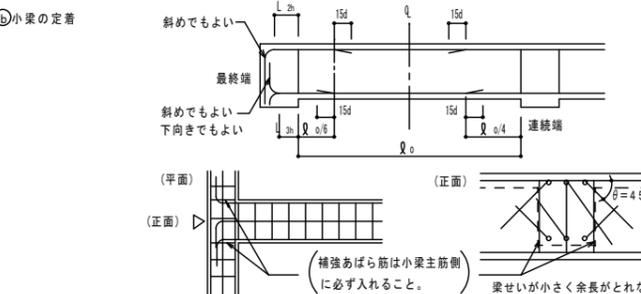
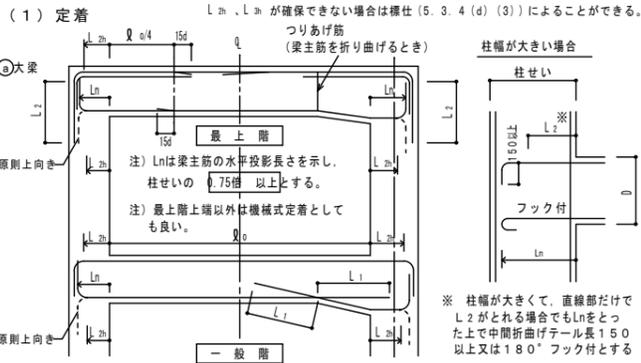
(3) 絞り



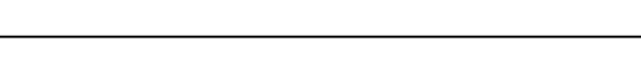
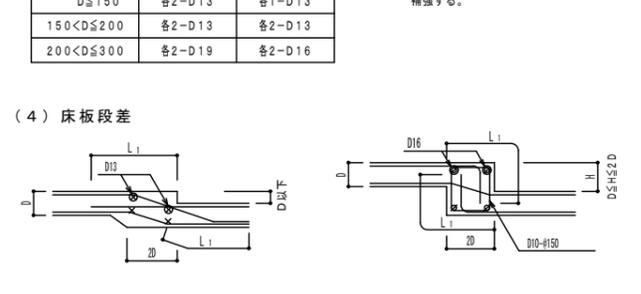
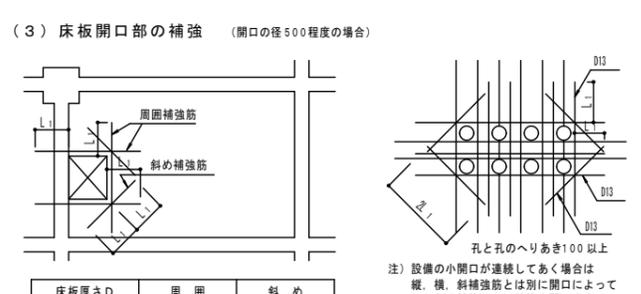
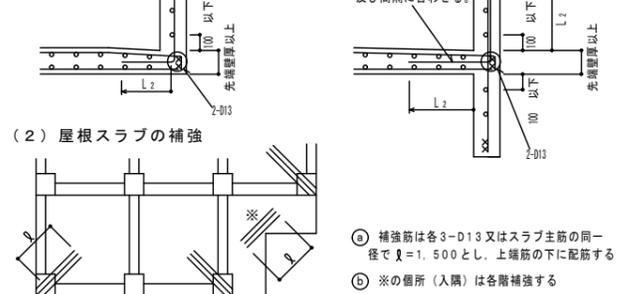
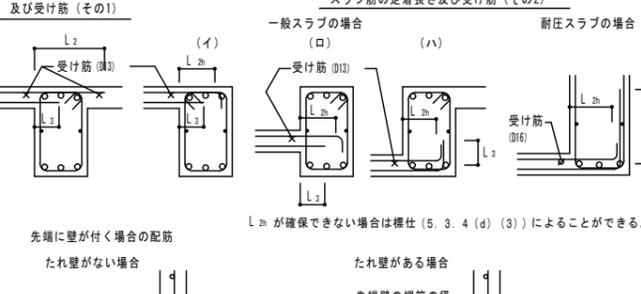
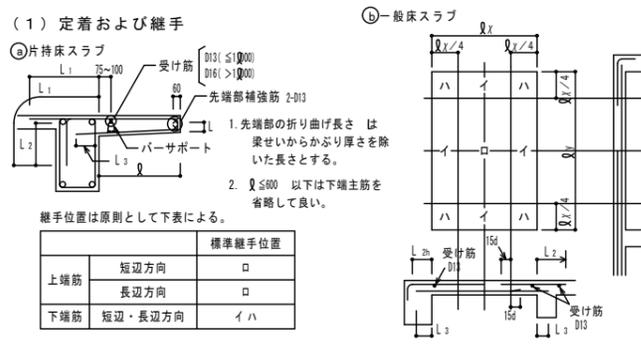
- 図示しない事項は大梁の項による。
- L_{2h} が確保できない場合は標仕 (5.3.4(d)(3)) によることができる。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

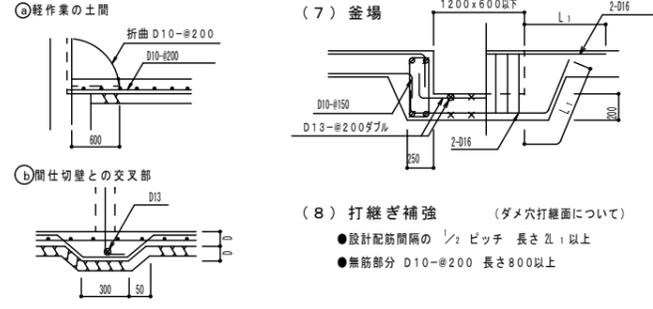
5. 大梁, 小梁, 片持梁



6. 床板



(5) 土間コンクリート



鉄骨構造標準図 (1)

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
 - (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。但し、ベースプレートの厚さは除く
 - (c) 社内検査結果の検査報告書には、溶接検査、鉄骨精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨制作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を作成する
 - (b) 鋼管部材の分岐継ぎ手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
 - (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締めを使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶接金属の性能を満足すること。
 - (b) 溶接技能者
 - 溶接技能者は施工する溶接に適合するJIS Z3801 (手溶接) 又は JIS Z3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
 - (c) 溶接機器
 - (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
 - (ロ) アークエアークラウジング機 (直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
 - (ハ) サーマリアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
 - (d) 溶接方法
 - アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
 - セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアークラウジング (AAG)
 - (e) 溶接姿勢
 - 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
 - (f) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
 - (イ) 仮付位置
 - 組立て溶接は溶接の始、終端、隅部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
 - (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
 - (g) 溶接施工
 - (イ) エンドタブ
 - I) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で開先形状のエンドタブを取り付ける
 - II) エンドタブの材質は溶接性に問題のない材質とする
 - III) エンドタブの長さは、35mm以上かつ2t以上とする
 - IV) 固形タブを使用する場合は、工場の実績を確認するとともに、溶接端部の品質確認を十分に行う
 - (ロ) 裏あて金
 - 溶接性に問題のない材質とし、厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
 - (ハ) スカラップ半径は30~35mmと、10mmのダブルアールとする。但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする
 - (ニ) ノンスカラップ工法
 - (ホ) 裏はつり
 - 完全溶込み溶接における両面溶接は原則として裏はつりを行なう。
 - 裏はつりで健全な溶着部分が見れるまではつり取った後、裏溶接を行なう
 - (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う
- (5) 塗装
- 高力ボルト接合の摩擦面、コンクリートで被覆される部分およびロックワール吹き付け面は塗装しない。

2. 溶接標準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位:mm)

(1) スミ肉溶接

		t ≤ 16mm					
t	5以下	6	7	8~10	11~13	14~16	
S	t	5	6	7	10	12	

- 直し片面溶接の場合はS=tとする
- tはt1, t2の小さな方とする
- 余盛は(1+0.1S)mm以下とする
- 軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所に注意)

D1 ≥ t/3 t/4 ≤ S ≤ 10mm t ≤ t1

t	t > 16mm
溶接姿勢	F, V

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

③

f = t/4

t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F, V

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する AAG

④

f = t/4

		MC	NGC	GC		
t mm	theta	G	t	L	theta	G
6 ≤ t < 12	35	7	6	5	35	7
12 ≤ t < 16	35	7	9	8	35	7
16 ≤ t	35	7	9	8	35	7

溶接姿勢 F, V

- 補強すみ肉溶接を付加する

⑤

f = t/4

T形突合せ継手余盛

のど厚 t mm	余盛りの高さ mm
t ≤ 4	1
4 < t ≤ 12	2
12 < t ≤ 19	3
t > 19	4

t	t ≥ 19mm
溶接姿勢	F, V

- AAG () 内はGCでF, Hの場合
- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

⑥

f ≥ 0.5mm (ただし、t ≥ 15mm のとき4mmとする)

a > 1mm の場合 平継手で板厚が異なるとき

t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F, V

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

⑦

f = t/4

		MC	NGC	GC		
t mm	theta	G	t	L	theta	G
6 < t < 12	35	7	6	5	35	7
12 ≤ t ≤ 19	35	7	9	8	35	7
t > 19	35	7	9	8	35	7

溶接姿勢 F, V

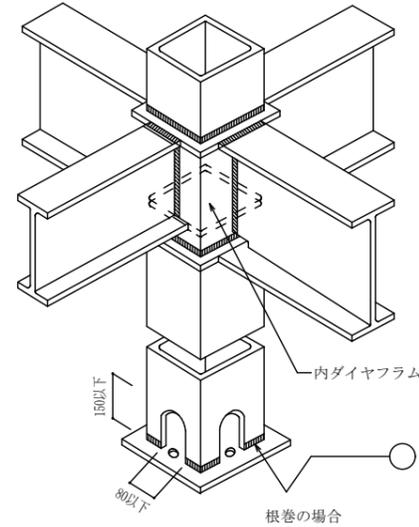
(4) フレー溶接

寸法 (mm)			
phi	B	S	
9	7	4	
13	8	4.5	
16	9	5	
19	10	6	
22	11	7	
25	12	8	

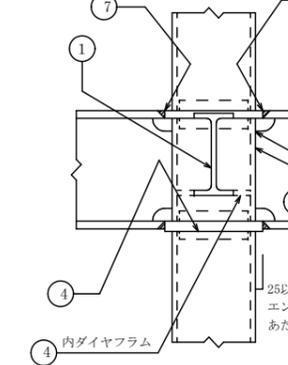
- フレー溶接長は、鋼板に接する全長とする
- 9mm~16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
- 溶接棒角度thetaは30~40とする

○ 溶接記号番号を ○中に記入のこと

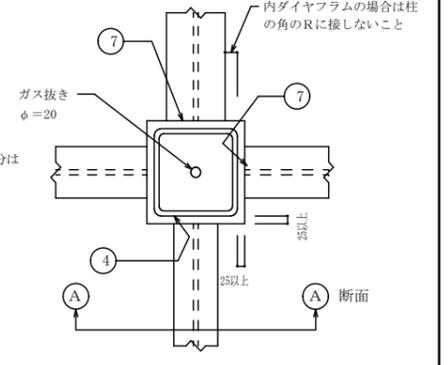
● BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



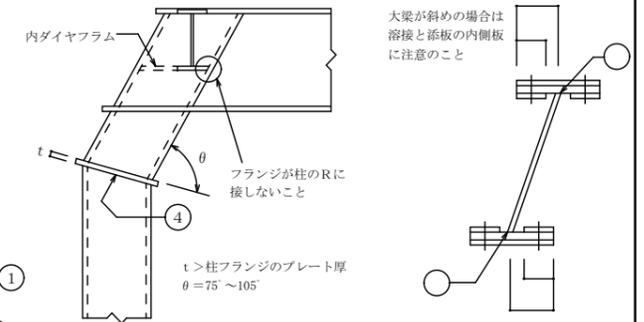
● B.H方式



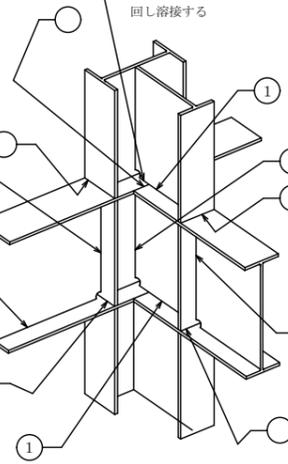
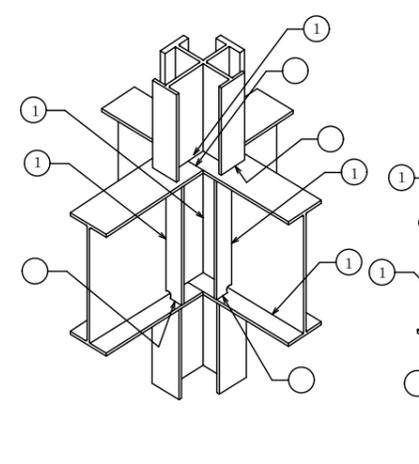
● 平面詳細



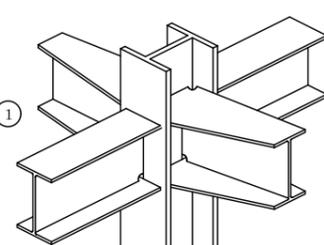
● 柱が途中で折れる場合及び梁成が異なる場合



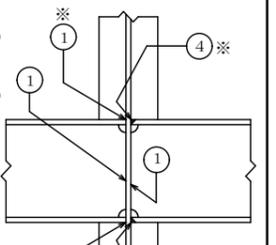
● H型



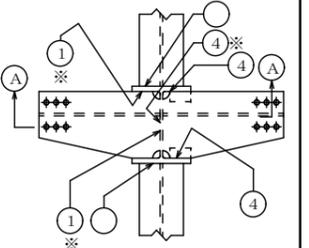
● B.H方式



● 平面詳細



● 平面詳細



※ 全周すみ肉溶接又は完全溶込み (裏あて金付)

1. 一般事項

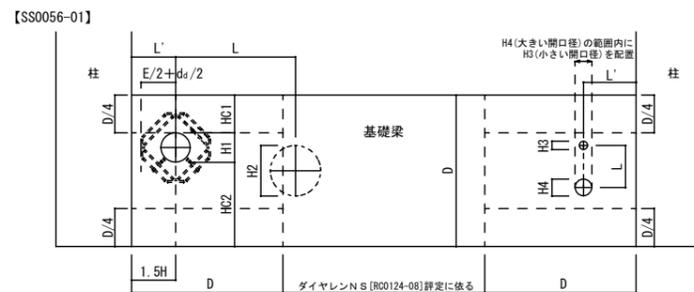
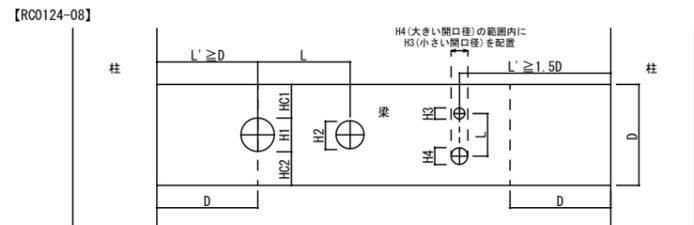
- 本仕様書は、ダイヤレンNSの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
- 本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、(一財)日本建築センター及び(一社)日本建築学会の関連する諸指針や諸規程、ダイヤレンNS技術マニュアルによる。

2. 使用材料・貫通孔の適用範囲

(1) 各評定の適用範囲

評定番号	ダイヤレンNS	ダイヤレンNSを用いた基礎梁端部小開口補強
[RC0124-08]		[SS0056-01]
対象とする部材	RC造及びSRC造の梁	有効な柱梁接合部に接続する非降伏のRC造の基礎梁
コンクリート	$f_c = 21N/mm^2 \sim 100N/mm^2$	$f_c = 21N/mm^2 \sim 45N/mm^2$
鉄筋	主筋 : 基準強度295~490N/mm ² のJIS鉄筋、490を超え685N/mm ² 以下の大臣認定品 あばら筋 : 基準強度295~490N/mm ² のJIS鉄筋、490を超え1275N/mm ² 以下の大臣認定品 ダイヤレンNS : KSS785-K (MSRB-0004)、MK785 (MSRB-0067)	主筋 : 基準強度295~490N/mm ² のJIS鉄筋、490を超え685N/mm ² 以下の大臣認定品 あばら筋 : 基準強度295~490N/mm ² のJIS鉄筋、490を超え1275N/mm ² 以下の大臣認定品 ダイヤレンNS : KSS785-K (MSRB-0004)、MK785 (MSRB-0067)
梁せい (D)	-	D ≥ 750mm
開口形状	円形または多角形とする (多角形の場合はその外接円を開口とみなす)	
開口径 (外径) (H)	H ≤ 750mm かつ H ≤ D/3	H < 350mm かつ H ≤ D/5
上下に複数開口を設ける場合の合計径 (ΣH)	ΣH ≤ D/3	ΣH ≤ D/3.75
柱際から開口中心までの距離 (L')	L' ≥ D	L' < D かつ L' ≥ 1.5H かつ L' ≥ E/2+d _a /2
隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離 (L)	隣接する開口径の平均値の3倍以上	
へりあき (HC1, HC2)	HC1, HC2 ≥ (E-H)/2+d _a /2+d _e +t _c	HC1, HC2 ≥ (E-H)/2+d _a /2+d _e +t _c かつ HC1, HC2 ≥ D/4

E: ダイヤレンNSの寸法
d_a: あばら筋の呼び径
d_e: ダイヤレンNSの鉄筋の呼び径
t_c: コンクリートのかぶり厚さ (40mm以上)

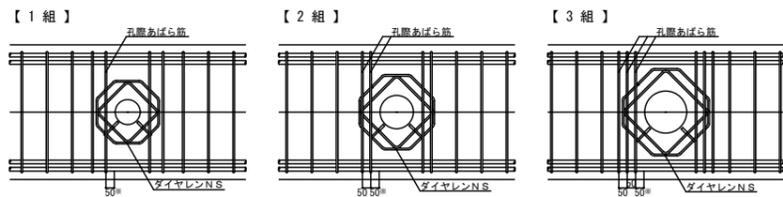


3. 開口部あばら筋の配筋要領

- 開口部に配筋されるあばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。
- 孔あばら筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とする。 [SS0056-01]
- 孔あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

【開口に対して片側に配置する孔あばら筋の標準組数】

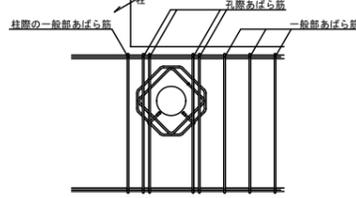
開口径	一般部あばら筋比 (p _a)	
	1%未満	1%以上
H < 150	1組	2組
150 ≤ H < 300	2組	3組
300 ≤ H	3組	3組



※必要なかぶり厚さを確保した位置とし、標準は50mmとする。

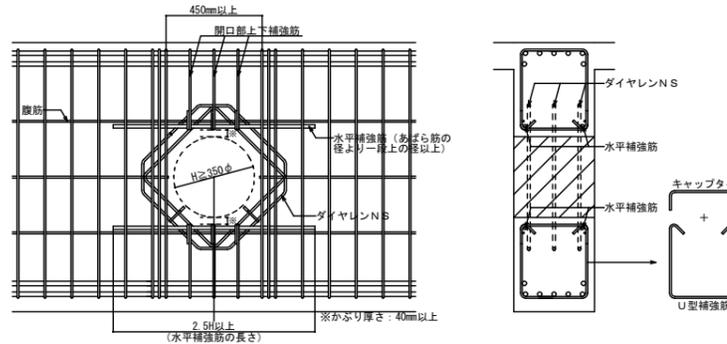
4. 仕様規定

- ダイヤレンNSの使用枚数は、開口1箇所当たり2枚以上とする。
- 柱際には、孔あばら筋の他、少なくとも1組の一般部あばら筋 (第一あばら筋) を配筋する。 [SS0056-01]



5. 開口部上下補強要領 (350φ以上の場合)

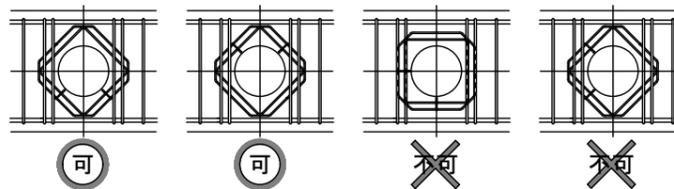
- 開口部の左右に配筋する1組目の孔あばら筋の間隔が梁せいの1/2以上または450mm以上 (開口径が350mm以上) になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。ただし、水平力による応力を負担しない梁 (小梁等) の場合は梁せいの1/2は考慮しなくともよい。
- 開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。(丸鋼及びインデントは不可)
- 形状にはコ型・U型・II型等があり、コ型補強筋の梁主筋側の重ね長さは「梁幅-2×かぶり厚さ」または35d以上とし、水平補強筋側 (梁内側) の重ね長さは12d以上とする。ただし、梁幅が400mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d (dは鉄筋の呼び径) 以下の場合は、U型またはII型の形状で補強を行う。
- 水平補強筋は、一般部あばら筋より1段上の径以上とし (SD295A程度)、開口径の2.5倍以上の長さとする。



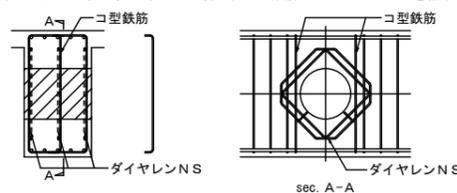
【開口上下部分の補強要領 (U型補強筋で補強する場合の例)】

6. 施工要領例

- 型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。
- 補強設計に必要な孔あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔あばら筋は、1組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。
- 孔あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋にすることができる。(束ね配筋は、2組までは束ねることができるが、3組以上は束ねてはならない。)
- ダイヤレンNSを左右の孔あばら筋の間から挿入し、孔あばら筋等に4か所以上結束する。
- スリーブをダイヤレンNSのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。
- 開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。



- 補強設計によって中子筋が無い梁に対して3枚以上のダイヤレンNSが必要になった場合は、下図のようにコ型鉄筋等を開口の左右にそれぞれ1本以上配筋し、この鉄筋にダイヤレンNSを結束して固定する。



8. ダイヤレンNS標準製品寸法表

(特記外単位: mm)

スリーブ径 (対応径)	型	サイズ	寸法						形状	重量 (kg/枚)	Ho
			A	B	C	D	E	F			
100φ (H≤115)	I	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204
	II	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205
	III	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206
	IV	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211
	V	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227
	V-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	292
125φ (H≤141)	I	6	230	140	127	45	325	45	①	0.60	222
	II	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223
	III	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227
	IV	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232
	V	16	240	110	183	65	339	50	③	3.57	234
	V-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	299
150φ (H≤166)	I	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239
	II	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240
	III	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245
	IV	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246
	V	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251
	V-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316
175φ (H≤191)	I	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257
	II	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258
	III	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263
	IV	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264
	V	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269
	V-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334
200φ (H≤216)	I	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275
	II	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276
	III	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280
	IV	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282
	V	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290
	V-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355
250φ (H≤270)	I	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314
	II	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315
	III	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316
	IV	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324
	V	16	370	210	226	80	523	50	③	5.31	326
	V-3R	16	370	276	292	80	683	50	⑤	9.11	406
300φ (H≤320)	I	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349
	II	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350
	III	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351
	IV	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359
	V	16	420	260	226	80	593	50	③	5.93	361
	V-3R	16	420	326	292	80	753	50	⑤	10.04	441
350φ (H≤370)	I	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384
	II	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385
	III	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386
	IV	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395
	V	16	470	310	226	80	664	50	③	6.55	396
	V-3R	16	470	376	292	80	824	50	⑤	10.98	476
400φ (H≤420)	I	8	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421
	II	10	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422
	III	13	520	390	183	65	735	50	②	4.48	430
	IV	16	530	370	226	80	749	55	③	7.31	439
	IV-3R	16	530	436	292	80	909	55	⑤	12.11	519
	450φ (H≤470)	I	8	560	470	127	45	791	45	①	2.10
II		10	560	450	155	55	791	45	②	2.73	457
III		13	570	440	183	65	806	50	②	4.88	466
IV		16	580	420	226	80	820	55	③	7.94	474
IV-3R		16	580	486	292	80	980	55	⑤	13.04	554
500φ (H≤520)		II	10	610	500	155	55	862	45	②	2.95
	III	13	620	490	183	65	876	50	②	5.28	501
	IV	16	630	470	226	80	890	55	③	8.56	509
	IV-3R	16	630	536	292	80	1050	55	⑤	13.98	589
	II	10	660	550	155	55	933	45	②	3.17	528
	III	13	670	540	183	65	947	50	②	5.68	536
550φ (H≤570)	IV	16	680	520	226	80	961	55	③	9.18	545
	IV-3R	16	680	586	292	80	1121	55	⑤	14.92	625
	II	10	720	610	155	55	1018	45	②	3.44	570
	III	13	730	600	183	65	1032	50	②	6.16	579
	IV	16	750	590	226	80	1060	60	③	10.07	594
	IV-3R	16	750	656	292	80	1220	60	⑤	16.24	674
650φ (H≤680)	II	10	770	660	155	55	1088	45	②	3.67	605
	III	13	780	650	183	65	1103	50	②	6.55	614
	IV	16	800	640	226	80	1131	60	③	10.69	630
	IV-3R	16	800	706	292	80	1291	60	⑤	17.17	710
	II	10	820	710	155	55	1159	45	②	3.89	641
	III	13	830	700	183	65	1173	50	②	6.95	649
700φ (H≤730)	IV	16	850	690	226	80	1202	60	③	11.32	665
	IV-3R	16	850	756	292	80	1362	60	⑤	18.11	745
	II	10	870	760	155	55	1230	45	②	4.11	676
	III	13	880	750	183	65	1244	50	②	7.35	685
	IV	16									

合成スラブの設計・施工は(一社)日本鋼構造協会編「デッキプレート床構造設計・施工規準」(一社)日本建築学会編「各種合成構造設計指針・同解説」...

1. 設計

Table with columns for Deck Plate (デッキプレート), Concrete (コンクリート), and Reinforcement (溶接金網または異形鉄筋). Includes material specifications and product codes.

Table for Deck Plate Shape and Dimensions (デッキプレート形状・寸法) and System Components (システム部品). Includes cross-section diagrams for E250 and E275.

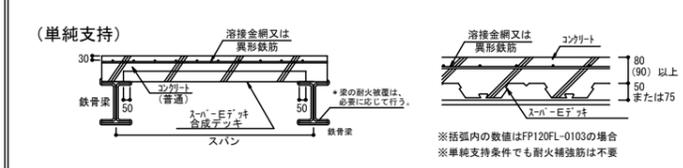
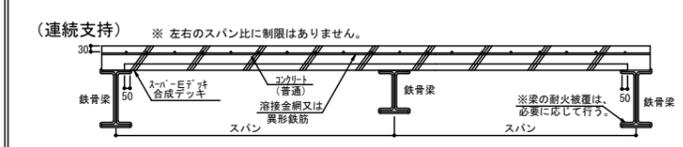
2. 耐火設計 (耐火補強筋不要仕様)

Table for Fire Design (耐火設計) with columns for Fire Resistance (耐火区分), Product Name (品名), and Certification Number (認定番号). Includes fire resistance test results.

Table for Fire Design (耐火設計) with columns for Fire Resistance (耐火区分), Product Name (品名), and Certification Number (認定番号). Includes fire resistance test results.

Table for Fire Design (耐火設計) with columns for Fire Resistance (耐火区分), Product Name (品名), and Certification Number (認定番号). Includes fire resistance test results.

Table for Fire Design (耐火設計) with columns for Fire Resistance (耐火区分), Product Name (品名), and Certification Number (認定番号). Includes fire resistance test results.

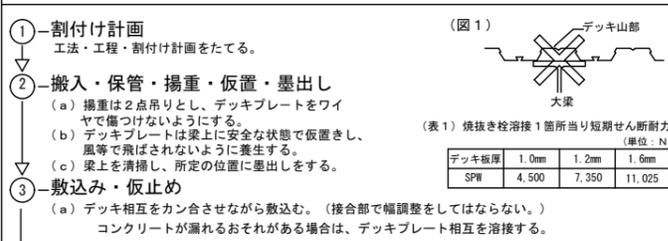


3. 施工時許容スパン (単位: m)

Table for Allowable Span (施工時許容スパン) with columns for Deck Plate Thickness (品名), Span (スパン), and Allowable Span (許容スパン).

Notes (※) regarding span calculations and fire resistance requirements for the deck plate.

4. 施工



Notes (※) regarding construction details, including the use of fire-resistant fasteners and the importance of proper installation.

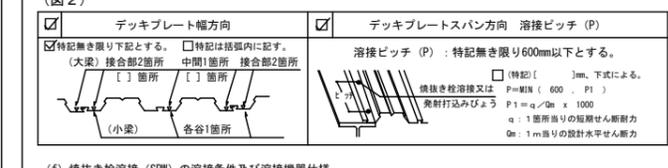
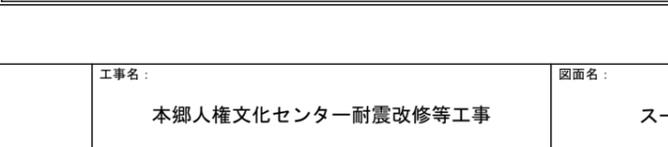
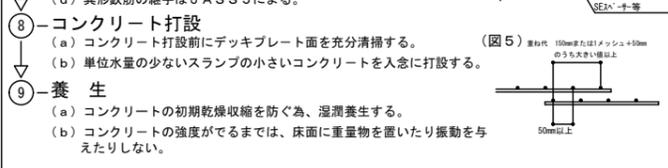
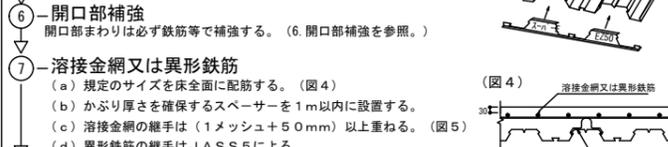
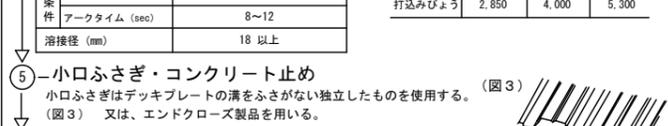
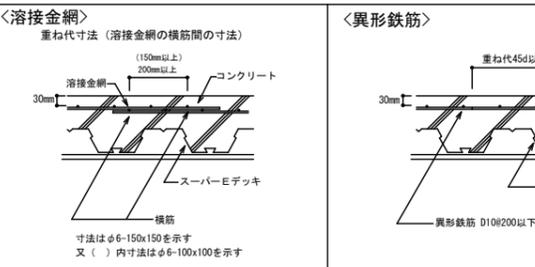


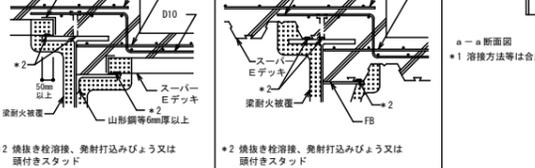
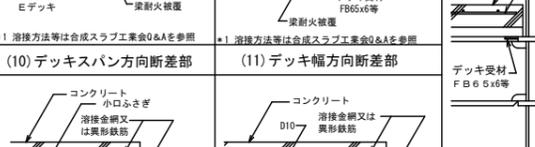
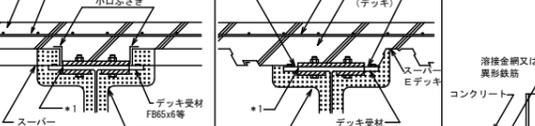
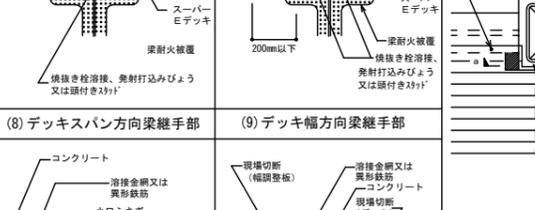
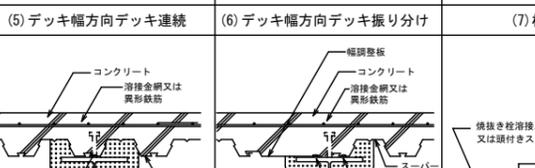
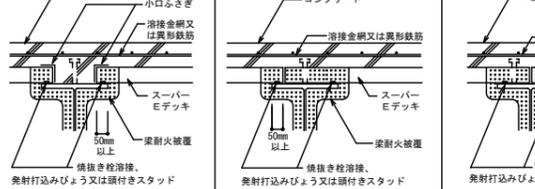
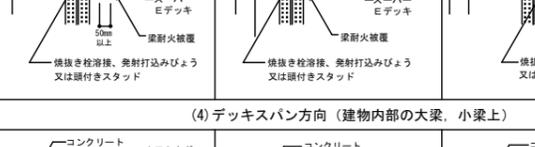
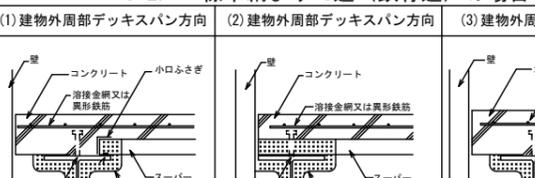
Table for Fire Design (耐火設計) with columns for Fire Resistance (耐火区分), Product Name (品名), and Certification Number (認定番号). Includes fire resistance test results.



5-1. 溶接金網又は異形鉄筋の納り(共通)

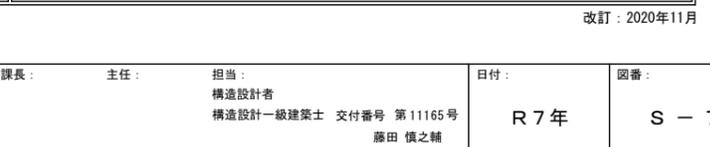
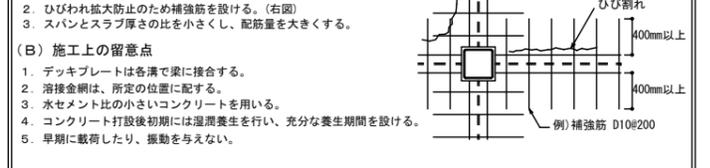
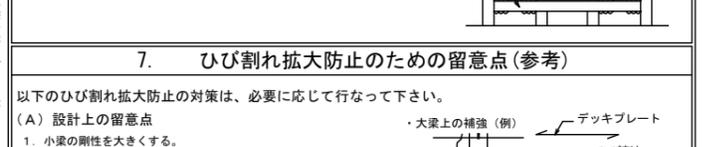
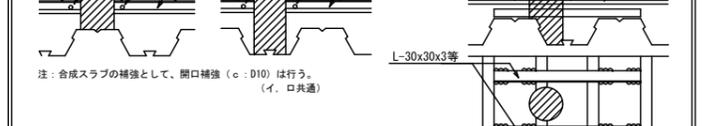
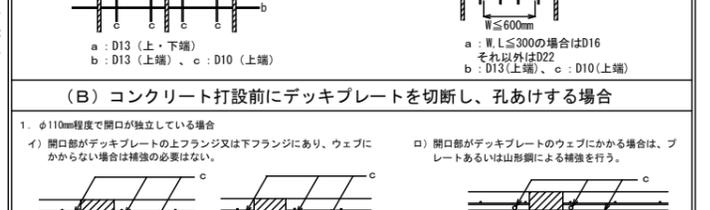
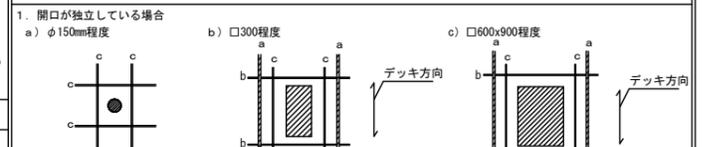
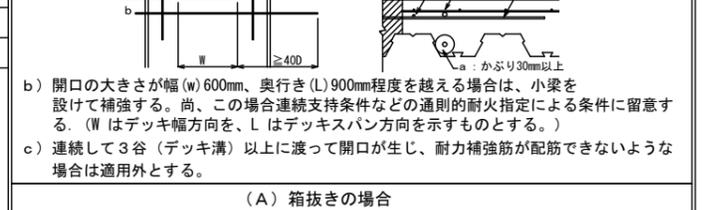


5-2. 標準納まり:S造(鉄骨造)の場合



6. 開口部補強(例)

Notes (※) regarding opening reinforcement (開口部補強) for the deck plate.



へーベル 外壁・間仕切壁《縦壁ロックング構法》 縦壁HDR構法(一般用) 設計施工標準図

I ALCパネル仕様

1 ALCパネル仕様

JIS A 5416 軽量気泡コンクリートパネル (ALCパネル) に適合するもの

2 ALCパネル使用部位およびパネル厚

■ 外壁 平パネル	■ 100厚	□ 間仕切壁	□ 75厚
	□ 125厚		□ 100厚
	□ 150厚		□ 125厚
			□ 150厚
□ 外壁 意匠パネル	□ 100厚		
	□ 125厚		
	□ 150厚		

※150厚は一部の納まりが異なるため、別途専用の設計施工標準図をご用意いたします。

3 ALC外壁仕様

(1) パネル取付け構法

- 縦壁構法
- 縦壁ロックング構法
- 縦壁HDR構法(一般用)
- その他 ()

(2) 設計風圧力

1階	~	2階	正 1202	負 1001	[N/m ²]
階	~	階	正	負	[N/m ²]
階	~	階	正	負	[N/m ²]
階	~	階	正	負	[N/m ²]

※意匠図による

(3) パネル特殊仕様

- 特記: 意匠パネル
- デザインパネル (表面に凹凸デザイン模様) ()
 - (特記:)
 - ジーファスパネル(岩肌調デザイン模様) ()
 - NCフリーデザイン(赤砂岩)パネルのパターン加工 ()
 - Canvasパネル (表面にプラスト模様) ()
 - スタンダード ()
 - オリジナル ()
 - アートミュール (工場下地処理+現場塗装) ()
 - デュアルウォール (金属仕上げパネル専用工法) ()
 - 下地処理済みパネル ()
 - SPパネル (表面にフィラー下地処理済み) ()
 - その他 ()
 - SIパネル (吸水性を抑えたパネル) ()
 - その他 ()

4 ALC間仕切壁仕様

(1) パネル取付け構法

- 縦壁構法
- 縦壁ロックング構法
- 縦壁HDR構法(一般用)
- その他 ()

(2) パネル特殊仕様

- (特記:)

※意匠図による

II 関連資材仕様

1 シーリング材 (ALCパネル間)

※モジュラスの低いもの (経年時の50%引張応力の値が0.3N/mm²以下) を選定 (JIS A 5758 に基づく耐久性区分)

(1) 種類

- ポリウレタン系 ———— □ 耐久性区分 8020
- 変成シリコン系 ———— □ 耐久性区分 8020
- 耐久性区分 9030
- その他 () ———— □ 耐久性区分 ()

(2) その他特記事項 (品名:)

2 耐火目地材

ロックウール保温板 (JIS A 9504) または 高温断熱ウールAESブランケット (JIS R 3311) 品質同等

3 防錆塗料 (ALC下地鋼材、開口部補強鋼材塗装用)

特記による ()

※意匠図による

III 内外装仕様

1 外装仕上げ

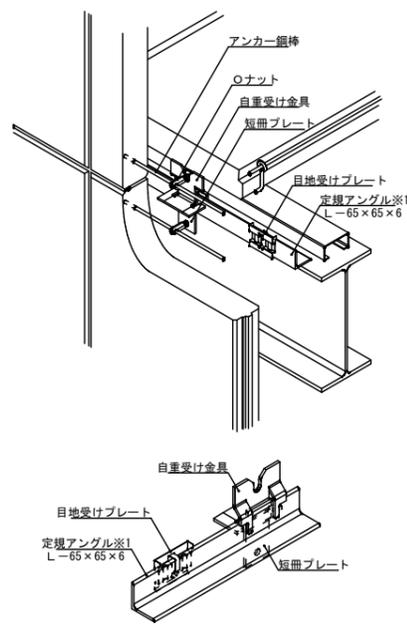
- 仕上塗材仕上げ特記: ()
- 複層仕上塗材 (JIS A 6909) ()
- 複層塗材 E (アクリルタイル) ()
- 複層塗材 CE (セメント系吹付タイル) ()
- 複層塗材 Si (シリカタイル) ()
- その他 ()
- 薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) ()
- その他 ()
- 厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) ()
- その他 ()

- 張り仕上げ ()
- その他 ()

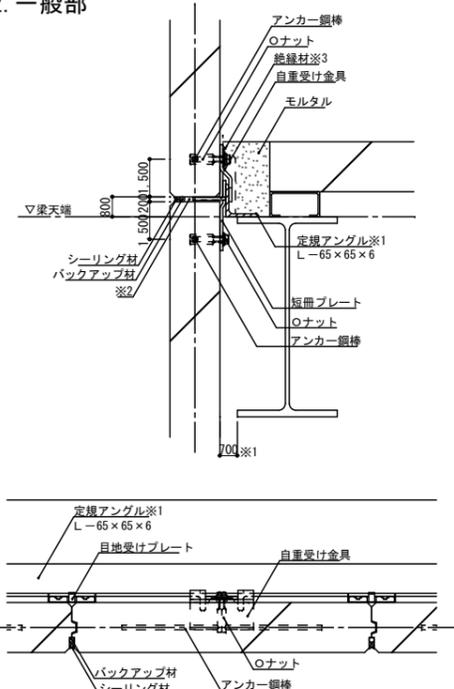
2 内装仕上げ

- 仕上塗材仕上げ (特記:) ()
- ペイント塗り (特記:) ()
- ボード仕上げ ———— □ 変形追従型工法 (特記:) ()
- その他 (特記:) ()

1. 構法概要 (縦壁HDR構法 (一般用))

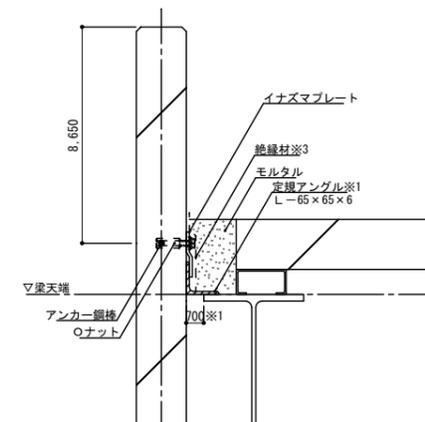


2. 一般部

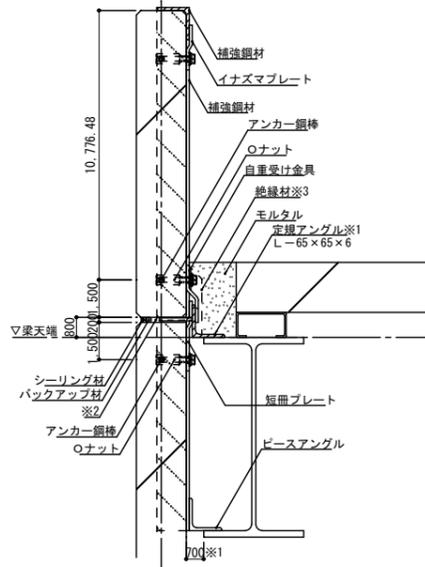


6. パラペット部

(1) はね出し寸法 6D 以下 □: パネル有効厚

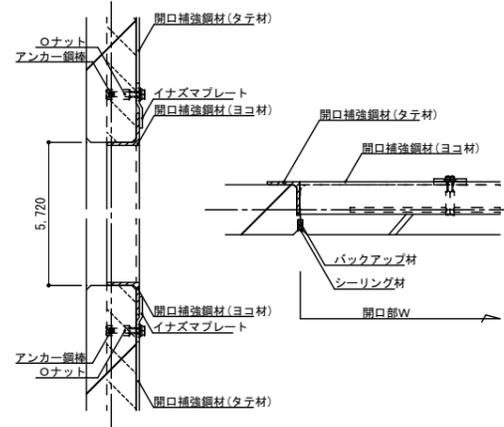


(2) はね出し寸法 6D 超

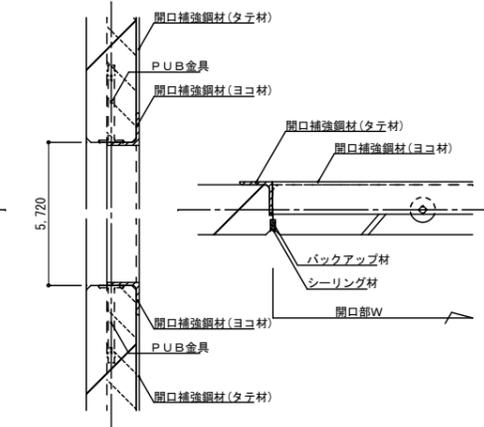


3. 開口部

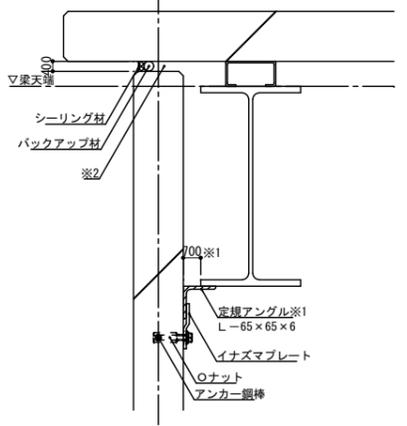
(1) Oナットを使用する場合



(2) PUB金具を使用する場合

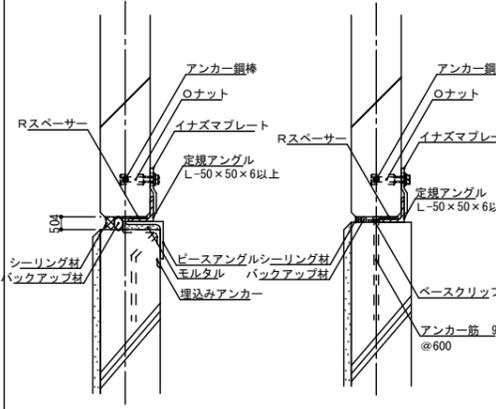


4. 軒先部

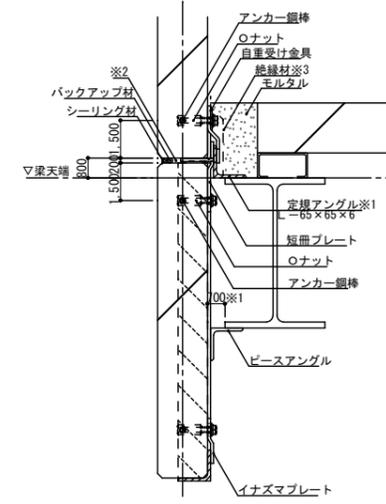


5. 布基礎部

(1) 埋込みアンカー仕様 (2) ベースクリップ仕様



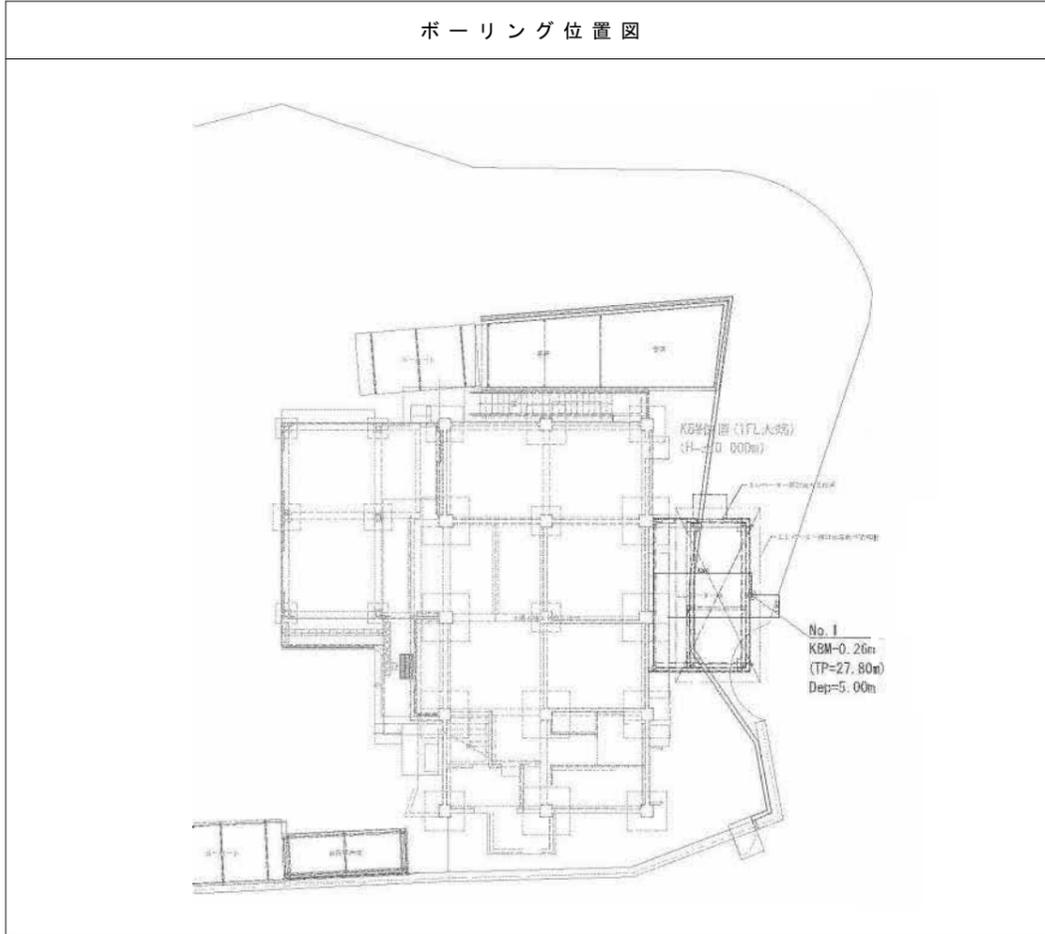
7. 下がり壁部



※1 平パネル厚さ150mmの場合、自重受け金具を取り付ける定規アングルなどはL-75×75×6を使用する。またパネルと躯体とのクリアランスは45~50mmとする。
 ※2 耐火目地材: 横目地、出隅、入隅部、伸縮目地や軒まわりなどの目地で、耐火構造・断熱など必要な場合は、指定された耐火目地材を充てる。
 ※3 絶縁材: 床取合い部では、モルタルがパネルのロックングを拘束しないように、パネルとモルタルの間に全長にわたって絶縁材を設ける。

ボーリング柱状図

ボーリング位置図



KBM = 1FL 天端 (設計 GL ± 500)

調査名 本郷人権文化センター耐震改修設計業務委託

ボーリングNo											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

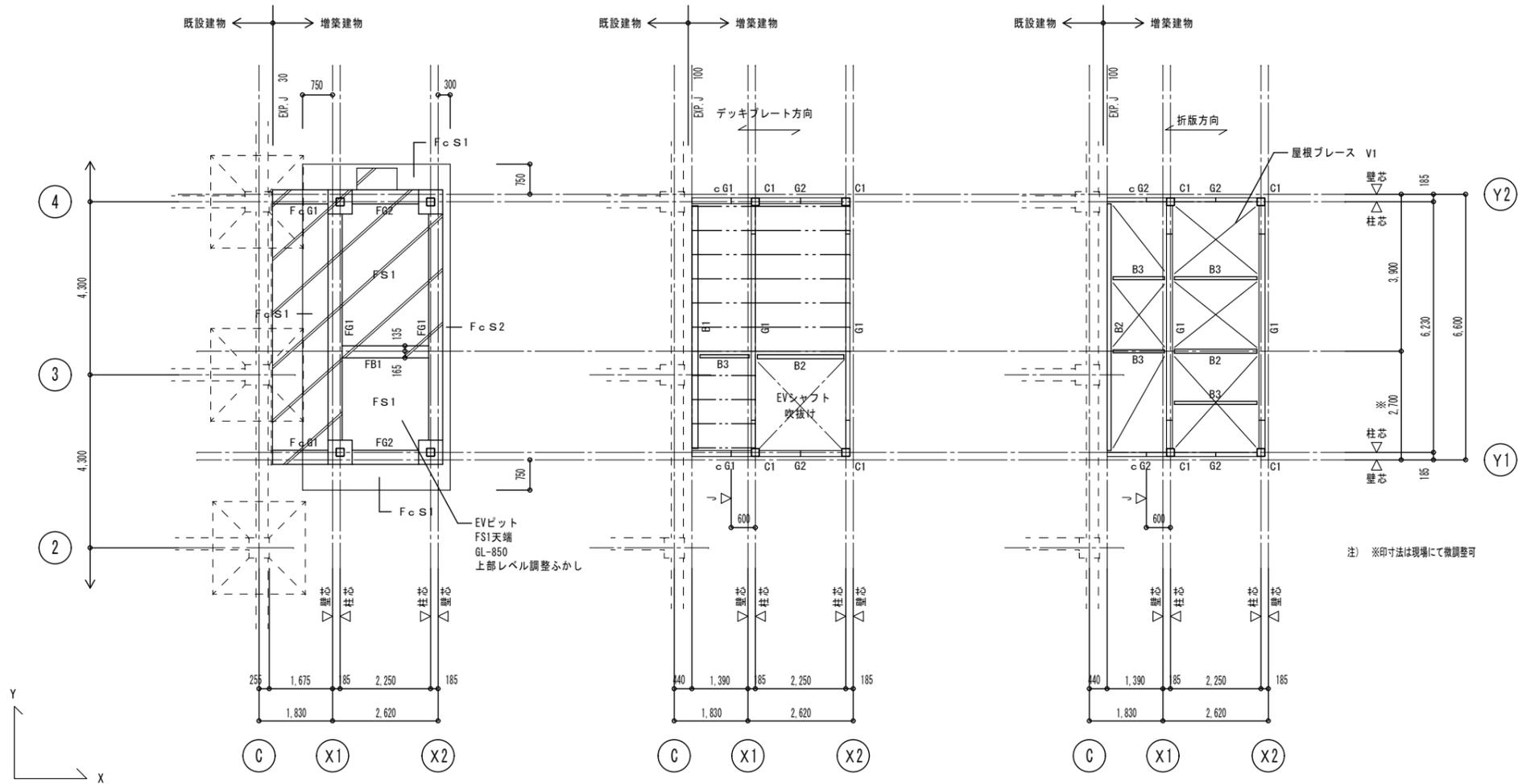
事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置	広島県三原市本郷北三丁目 地内			北緯	34° 24' 41.44"			
発注機関	広島県三原市			調査期間	2024年 9月 26日 ~ 2024年 9月 26日			東経	132° 59' 11.59"		
調査業者名	有限会社 元廣建築設計事務所 電話 (0848-23-3300)		主任技師	大廣 隆		現場代理人	桃谷 拓也		コピ定者	江見 長武	
ボーリング責任者	小田 英治		試錐機	東邦地下制 D1-C			ハンマー落下用具	半自動モンケン			
孔口標高	KBM -0.26m		角	180° 1. 90° 下 0°		方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南		地盤勾配	水平 0° 北西 90°	
総掘進長	6.00m		使用機種	エンジン			ヤンマー製 MFD-12型		ポンプ	東邦地下制 BG3	

標高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験				原位置試験 深さ (m)	試験名 および結果	試料採取 深さ (m)	採取方法	室内試験 ()	掘進 月日		
								深さ (m)	10cmゴアの 打撃回数	貫入量 (cm)	値								
-0.46	0.26	0.26	腐り砂	赤灰			腐り砂による腐り、10~20mm程度の腐り層を認め、	1.15	30	15	125								
1.27			赤風化花崗岩	赤	中	硬	花崗岩の風化帯、腐化を受け、塊状となる。赤風化帯は、10~20mm程度の腐り層を認め、	1.57	50	10	100								
2.29			赤風化花崗岩	赤	中	硬	花崗岩の風化帯、腐化を受け、塊状となる。赤風化帯は、10~20mm程度の腐り層を認め、	3.29	25	15	105								
3.31			赤風化花崗岩	赤	中	硬	花崗岩の風化帯、腐化を受け、塊状となる。赤風化帯は、10~20mm程度の腐り層を認め、	4.30	46	10	136								
4.31			赤風化花崗岩	赤	中	硬	花崗岩の風化帯、腐化を受け、塊状となる。赤風化帯は、10~20mm程度の腐り層を認め、	5.00	貫入不能	0									
6.00			赤風化花崗岩	赤	中	硬	花崗岩の風化帯、腐化を受け、塊状となる。赤風化帯は、10~20mm程度の腐り層を認め、	6.00	貫入不能	0									

設計GL



基礎伏図 1/100

1階柱2階梁床伏図 1/100

2階柱R階梁床伏図 1/100

特記なき限り下記による

- 基礎下端レベル GL-1200
- 地中梁・地中小梁天端レベル GL+125
- | | |
|--|------------------------|
| | 土間CON ①150 砂利①100 を示す。 |
| | D10-②200 シングルクロス |

土間CON下は十分転圧のこと。
土間CONレベルは仕上げにより調整の事。
- 既設建物ライン

特記なき限り下記による

- 梁天端レベルは FL-130
- 鉄骨継手は柱芯より 800 とする。
- スラブ天端レベル
2階床はDS1とする。

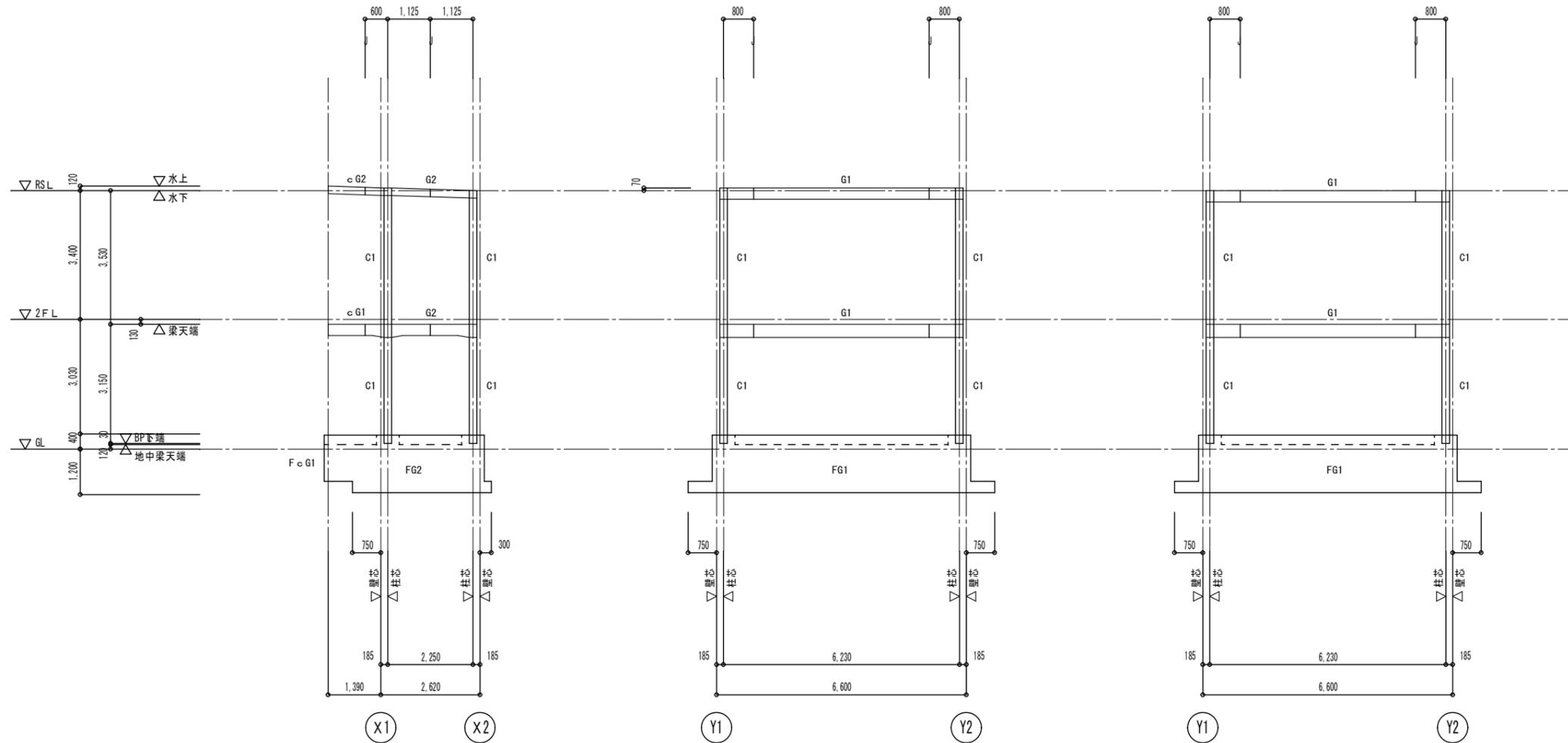
..... FL±0

特記なき限り下記による

- 梁天端レベルは FL+120~+70~±0
折版を受けるB2は大梁天+50とする。
- 鉄骨継手は柱芯より 800 とする。

X Y 方向主筋の上下関係 (同面の場合)

(FG-FG)
上筋 - Y方向主筋を上側とする
下筋 - X方向主筋を下側とする



Y1・Y2通り軸組図 1/100

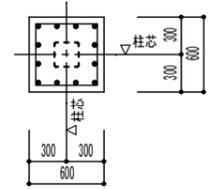
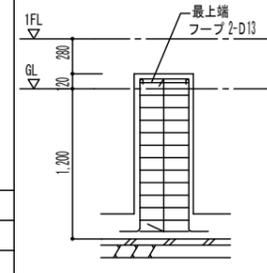
X1通り軸組図 1/100

X2通り軸組図 1/100

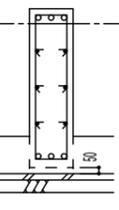
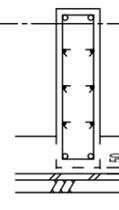
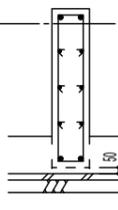
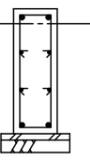
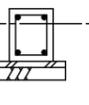
特記なき限り下記による。

1. 鉄骨継手は柱芯より 800 とする。
2. 平均地盤面 = GL±0
3. ※印寸法は参考寸法とし、施工図にて調整の事。

柱脚リスト 1/40

符号	C1	一般柱脚
断面		
寸法	600 x 600	
主筋	12 -φ 19	
帯筋	□-D 13 -φ 100	
備考		

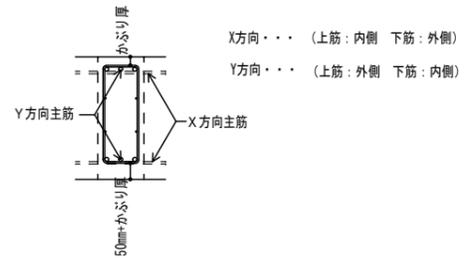
地中梁リスト 1/40 巾止め筋 D10-φ1000

符号	FG1	FG2		FB1		FcG1	
位置	全断面	全断面		全断面		基端	先端
断面							
寸法	350 x 1 270	350 x 1 270		300 x 1 270		350 x 1 270 ~ 420	
上端筋	3 -φ 22	2 -φ 22		2 -φ 19		2 -φ 19	2 -φ 19
下端筋	3 -φ 22	2 -φ 22		2 -φ 19		2 -φ 19	2 -φ 19
あばら筋	□-D 13 -φ 200	□-D 13 -φ 200		□-D 13 -φ 200		□-D 13 -φ 200	
腹筋	6 -φ 10	6 -φ 10		6 -φ 10		4 -φ 10	
備考						(X1通りから750までh=1 270)	

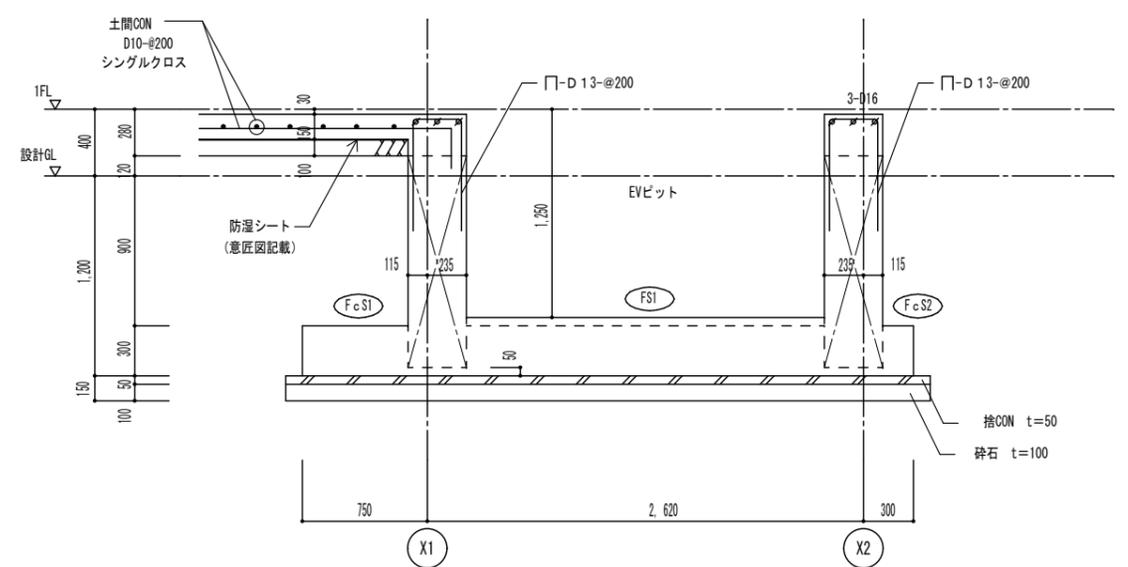
基礎スラブリスト

記号	スラブ厚	位置	主筋 (短辺方向)		配力筋 (長辺方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
FS1	300	上	D16 - φ200	←	D13 - φ200	←	ベタ基礎
		下	D16 - φ200	←	D13 - φ200	←	
FcS1・2	300	上	D13 - φ200	←	D13 - φ200	←	ベタ基礎はね出し
		下	D16 - φ200	←	D13 - φ200	←	

X・Y方向の梁天端・梁下端が共に同じ場合
 梁の主筋優先方向 (上・下位置) は原則として下記による
 (地中梁に適用)



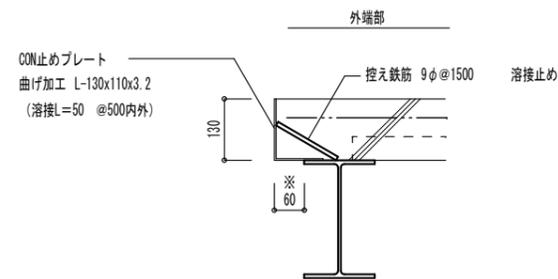
EVピット配筋図 1/30



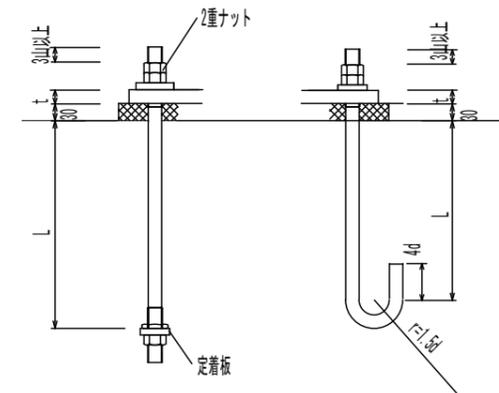
鉄骨リスト				特記なき限り 鉄骨材質 SS400 H・T・B S10T		▽は鉄骨継手リスト番号を示す。	
記号	部材	鉄骨継手		備考			
RG1	H - 300 x 150 x 6.5 x 9	フランジ ウェーブ	突合せ溶接 すみ肉溶接	J.N 2			
RG2	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	フランジ ウェーブ	突合せ溶接 すみ肉溶接	J.N 3			
2G1	H - 350 x 175 x 7 x 11	フランジ ウェーブ	突合せ溶接 すみ肉溶接	J.N 1			
2G2	H - 298 x 149 x 5.5 x 8	フランジ ウェーブ	突合せ溶接 すみ肉溶接	J.N 2			X1・X2端部ハンチ付
cG1	H - 298 x 149 x 5.5 x 8	フランジ ウェーブ	突合せ溶接 すみ肉溶接	J.N 2			端部ハンチ付
cG2	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	フランジ ウェーブ	突合せ溶接 すみ肉溶接	J.N 3			
B1	H - 298 x 149 x 5.5 x 8	GP-L9	3-M 20				
B2	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	GP-L6	2-M 20				
B3	H - 150 x 75 x 5 x 7	GP-L6	2-M 20				
V1	M16 タンバクル付	GP-L 9 羽子板 R - 6x56x160	1-M16 フレアー溶接 L=55				R階屋根ブレース
折版受け	C - 100 x 50 x 20 x 2.3		溶接止め				

柱リスト				特記なき限り 鉄骨材質 SS400		ダイヤフラムは SN490C とする。		1/30	
記号	C1								
断面									
階	2F	□ - 200 x 200 x 6 (BCR295)							
	1F	□ - 200 x 200 x 9 (BCR295)							
柱脚	A Bolt	4-M24 (SNR400B) Wナット L=500							
	B.P.L	350 x 350 x 25 (SN490B)							
	定着板	定着板: P L-16 x 75 x 75							
備考									
λ	λmax	X	58.3	Y	57.6				

スラブリスト			
記号	部材	断面	備考
DS1 合成床 2階床	スーパーデッキ EZ50 t=1.0 大梁継手部はデッキ受 R - 65 x 9 取付け		焼き抜き栓溶接 @300 内外



アンカーボルトのLは下記による



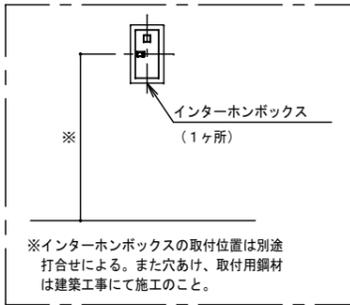
J.N 1 H-350×175×7×11		J.N 2 H-300×150×6.5×9 H-298×149×5.5×8		J.N 3 H-200×100×5.5×8		柱梁仕口取合図 (口型柱)
<p>上フランジ 1PL 9×175×290 2PL 9×70×290 HTB 8-M20</p> <p>ウエブ 2PL 6×260×170 HTB 6-M20</p> <p>下フランジも上フランジと同じ</p>		<p>上フランジ 1PL 9×150×290 2PL 9×60×290 HTB 8-M20</p> <p>ウエブ 2PL 6×200×170 HTB 4-M20</p> <p>下フランジも上フランジと同じ</p>		<p>上フランジ 1PL 16×100×290 HTB 8-M16</p> <p>ウエブ 2PL 6×140×170 HTB 4-M16</p> <p>下フランジも上フランジと同じ</p>		<p>ダイアフラム T1 T2 T3 T2' r=35 内蔵 ダイアフラム ダイアフラム 裏当て板 柱 梁</p>
H-298	H-200	H-150	M16 ブレース		リブプレート要領図	<p>※ ダイアフラムは取付く梁フランジ厚以上のプレートを使用する。 T2 = T1 より 1 サイズUP 以上 T3 = T1 より 2 サイズUP 以上 T2' = T1 と同サイズ以上</p>
<p>GPL-9 HTB 3-M20</p>	<p>GPL-6 HTB 2-M20</p>	<p>GPL-6 HTB 2-M20</p>	<p>GPL-9 HTB 1-M16 LP -6×56×160 (切板) 又は FB -6×50×160 (平鋼)</p> <p>※既製品フルブレース使用可</p>		<p>取り付く GPL 厚と同厚とする。</p>	

分類	仕様項目	01号機
基本仕様	機種名称	機械室レスエレベーター
	用途	乗用（車いす用）
	制御方式	可変電圧可変周波数制御（回生なし）
	操作方式	乗合全自動方式（1C-2BC）
	積載量	750kg
	定員	11名
	定格速度	45m/min
	戸閉方式	2枚戸両引き（CO）
	出入口幅	800mm
	出入口高さ	2100mm
	かご室内法開口	1400mm
	かご室内法奥行	1350mm
	かご室内法高さ	2300mm
	出入口方式	一方向出入口
	正面側停止数	2停止（1-2階）
	動力用電源	AC3φ-210V-60Hz
照明用電源	AC1φ-100V-60Hz	
その他基本仕様	耐震設計施工指針耐震クラス	クラスA14
	公共建築工事標準仕様 適用年版	令和4年版
	敷居間隔	10mm
	車いす仕様	制御機能付
乗場仕様	視覚障がい者対応仕様	あり
	地震時管制運転方式	P波+S波センサ付3段設定（普通級）
	停電時自動着床装置	あり
	乗場三方枠	大枠未広幕板なし 130mm~350mm 鋼板塗装（メーカー標準色）（1-2階）
	乗場戸	鋼板塗装（メーカー標準色）（1-2階）
	乗場敷居	アルミ製（1-2階）
	乗場インジケータ	メーカー標準仕様： 樹脂フレーム付ステンレス（1-2階）
	乗場インジケータ一体形ボタン	メーカー標準仕様： 抗ウイルス・抗菌コート（1-2階）
	乗場インジ運行表示灯1	休止表示
	車いす専用乗場ボタンプレート	一般用乗場ボタン連結取付：樹脂フレーム付ステンレス（1-2階）
かご室仕様	車いす専用乗場ボタン	メーカー標準仕様： 抗ウイルス・抗菌コート（1-2階）
	乗場休止スイッチ	あり
	乗場休止スイッチ取付位置	乗場インジ組込
	天井	メーカー標準仕様（フラット：白色） 天井面材：鋼板塗装（メーカー標準色）
	正面壁	化粧鋼板
	側面壁	化粧鋼板
	袖壁	ステンレスヘアライン
	出入口上板	化粧鋼板
	かご室戸	化粧鋼板
	巾木	アルミ製
	かご床	樹脂タイル：2mm
	かご室敷居	アルミ製 2枚戸両引き用
	かご操作盤タイプ	袖壁操作盤
	かご操作盤プレート	ステンレスヘアライン
	かごボタン	メーカー標準仕様： 抗ウイルス・抗菌コート
	インターホンボタン乱用防止カバー	あり
正操作盤インジケータタイプ	かご内液晶インジケータ（10.1インチ）	
かご操作盤液晶インジケータ表示言語	平常時（日英）、注意喚起（日英/中韓切替）、緊急時（日英/中韓）	
車いす専用かご操作盤	両側面 ステンレスヘアライン	
車いす専用正かご操作盤インジケータタイプ	メーカー標準仕様（橙色）	
車いす専用かごボタン	メーカー標準仕様： 抗ウイルス・抗菌コート	
車いす専用インターホンボタン乱用防止カバー	あり	
かご室換気	脱臭機能付きウイルス抑制装置+ファン	
かご室手すり	丸形（φ32）ステンレスヘアライン： 三面取付（正面+両側面） （端部ストレート ブラケット：φ28）	
かご室鏡	ステンレス鏡面フルハイト（巾500）	
キックプレート	ステンレスヘアライン（ビスなし）高さ：床面より350mm	
壁保護幕	磁石式（保護幕高さ標準：床面より上端まで1895mm）	
床保護マット	あり	

分類	仕様項目	01号機
その他仕様	挟まれ防止ドアセンサ	あり
	セーフティシュー	片側（多光軸ドアセンサー 付き）
	自動戸閉促進・乗場前検知挟まれ防止	あり
	点字名板取付方法	接着
	インターホン呼び出しボタン応答灯（聴覚障がい者対応仕様）	あり
	おもり非常止め	なし
	冠水時管制運転	あり
	インターホン型式	6V1周
	乗場インターホンボックスタイプ	ステンレスヘアライン（埋め込み形）
	かご内アナウンス	かご内4ヵ国語アナウンス （通常時：日英、緊急時：日英/中韓）
	かご室スピーカー	あり
	フェッシャープレート	エレベーター手配（標準品）（2階）
	レール支持方式	1フロア1ブラケット
	煙感知器点検ロスイッチ	正面側上部取付 【標準】
	仮設動力電源	1式

外部連絡装置（インターホン親機）設置上の注意点

エレベーターかご内のインターホンは、常に外部のインターホン親機と連絡できるようにすること。
 管理人室等に設置する場合は、24時間管理人が常駐する必要がある。
 （建築基準法施行令第129条の10第3項第三号）
 もしも管理人が常駐しない場合は、以下のいずれかの措置が必要となる。
 1. インターホン親機を共用部（エレベーターホールや廊下等）に設置する。
 2. 管理人室内のインターホン親機の鳴動を共用部から確認できるように設置し、鳴動を確認した者が対応できるように、シールや名板で鳴動時の緊急連絡先等の対応方法を明示する。
 3. 管理人不在時にはエレベーターを使えない状況にする。例えば営業時間内のみ管理人室等に管理人が常駐するならば営業時間外は建物を閉鎖する。



除外工事事項

- (1) 建築工事関係
- 昇降路の築造工事および各階出入口、インジケータ、押ボタン等の穴あけ工事（昇降路壁は5cm 辺り300Nの外力が作用した時に15mmを超える変形および塑性変形が生じない構造とすること）
 - 鉄骨構造階のファスナー、立柱及び中間ビーム（必要の場合）並びに敷居受材の設置工事
 - 鉄骨構造階の三方枠、インジケータ、押ボタン、ハンガーケース等の取付用鋼材設置工事
 - 鉄骨構造階の敷居取付材設置工事（敷居への作用荷重に対して、たわみは1mm以下となる部材を設置すること）
 - 鉄骨構造階の昇降路における鉄骨材の耐火処理工事及び乗場出入口廻りの耐火処理工事
 - 各階乗場出入口枠周囲のロックウール詰め工事
 - 乗場機器取付後の出入口廻りの段及び床の仕上工事
 - 昇降路頂部にエレベーター機器搬入用のフックまたはビームの設置工事（kN）/台
 - 通過階がある場合の非常出入口設置工事（かご敷居先端から125mm以下）
 - ピット内防水仕上工事（必要時は、排水設備工事含む）
 - ピット床下部使用の場合の建築対策工事
 - ピットが深い場合の埋め戻し・浅い場合ははつり工事
 - 段違いピット時のピット内保護柵工事（必要の場合）
 - 昇降路内の騒音・振動が居室に伝搬しないレイアウト及び各種防音・防振工事 ※居室への影響を検討の上、適切な防音・防振対策を行って下さい（対策例1）昇降路の壁（RC）を厚くする（200mm以上推奨）（対策例2）隣接居室内のボードや天井を、昇降路壁（RC）に直接接しない工法とする（対策例3）隣接居室内のボードに制振材（鉛板）、吸音材を貼付けする
 - その他建築に関する工事

- (2) 設備工事関係
- 動力用電源・照明電源・接地線の受電端子までの引込工事（架設込み工事含む）
 - インターホン取付位置より昇降路までの配管配線工事（0.9φ×10本）/台
 - 火報信号の昇降路より外部の配管配線工事
 - 遮煙ドア採用の場合
遮煙ドア設置階乗降ロビーに火災感知器または煙感知器の設置工事
 - エレベーター遠隔管理用配管配線工事（昇降路～最寄の電話中継室まで）
 - 建設設備運動に必要な接点供給工事
 - ピット内点検用コンセント設備工事（照明用AC100Vとは別系統）
 - 昇降路頂部の煙感知器設置工事（外部より点検可能なこと）平成20年国土交通省告示第1454号第一号により、点検口の戸は錠付（工具を必要とするネジでも可）とし、戸が開いた時にはエレベーターを停止させる必要がある
 - かご内TVカメラがある場合、かご内TVカメラ用配管配線工事（昇降路からモニター設置場所まで）・5C-2V同軸ケーブル
 - かご室スピーカーがある場合、放送用配管配線の昇降路制御室までの引込工事（非常放送がある場合3線式とすること）
 - 昇降路の換気設備工事（昇降路内温度40℃及び昇降路温度上昇7℃を超える場合、換気設備が必要になります）
発熱量；エレベーター駆動部（880W/1台）
 - 監視盤電源の監視盤までの引込工事及び配管配線工事
- (3) 仮設工事関係
- つぎの事項を、弊社で用意・対応する場合は別途見積となります。
- 据付工事用現場詰所及び材料置場
 - 据付工事用および試運転調整用電力、セメント、小石等
 - 据付工事用の仮設電源（本設電源と同じ電源仕様にて支給願います。）
 - 重量物の搬入に支障のない通路の確保
 - 重量物の搬入横引き距離は30m超
 - エレベーターシャフトが隣接する場合の落下物防止区画対策・安全対策（ネット等）
 - 安全柵の先行取付 *着工前、先行で取付た安全柵の管理も含む
 - 風圧用エレベーターの場合の施工時のガラス部分養生

エレベーターの工事使用に係る件

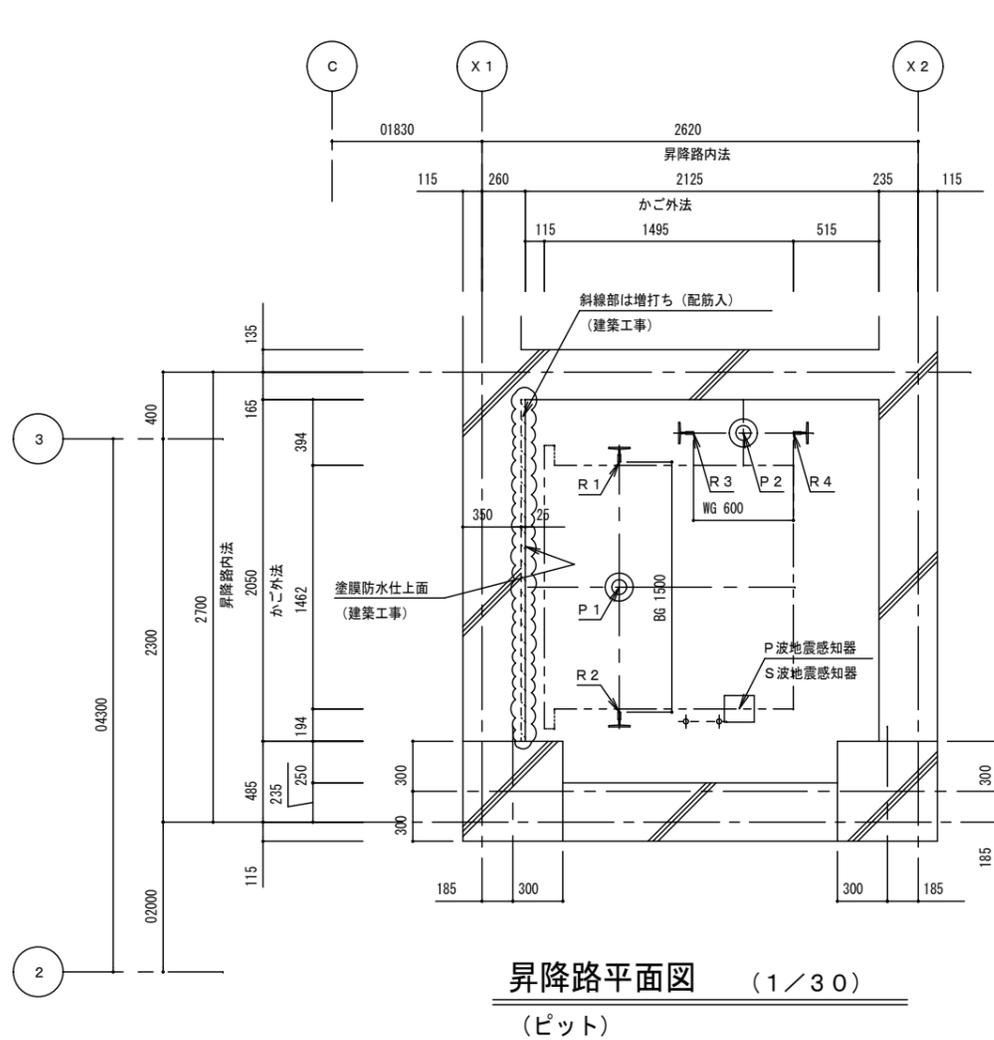
- エレベーターを工事に使用される場合は、別途契約が必要です。

工事関連事項

- 現場検査立会は、【完了検査】【引渡（施工）検査】の2回と致します。
- 乗場先行工事、多段階着工、他設備工事立会等、標準施工手順と異なる施工は本工事には含まれません。
- 施工写真撮影は本工事には含まれません。

注意事項

- 昇降路開口・奥行寸法は、昇降路全域（ピット底部から昇降路頂部まで）にわたり確保のこと
 - コンクリート強度は21N/mm 以上のこと
 - 電源電圧の変動は+5%~-10%以内、電圧不平衡率5%以内のこと
 - 本エレベーター所定の性能維持のため、下記条件とすること
 - 昇降路内の温度は-5℃~40℃以内、湿度は月平均：90%・日平均：95%未満、かつ急激な温度変化等で水結・結露しないこと
 - 金属を消耗または腐食したり電気接点の接触障害の原因となるような塵及び化学的有害ガス及び爆発性ガスのないこと
 - 腐食性ガス：硫化水素ガス、亜硫酸ガス、塩素ガス、過酸化窒素ガス、アンモニアガスおよび海岸地区における潮風
- ※昇降路標準環境の基準例
- 硫化水素ガス…H2S=0.005 [ppm] 以下
 亜硫酸ガス…SO2=0.01 [ppm] 以下
 塩化水素ガス…HCl=0.05 [ppm] 以下
 塩素ガス…Cl2=0.005 [ppm] 以下
 アンモニアガス…NH3=0.1 [ppm] 以下
 海岸地区における潮風…海岸より2km以上の地区
 （プールサイドの場合上記塩素ガスCl2基準値以下）
- ※海岸より2km未満、プールサイドの場合は昇降路内に潮風プールの方向からの風が入らず、乗場が屋外に露出しないようなレイアウトとすること
- 電気接点の接触障害となるもの：鉄粉、炭塵、化学工場における粉塵
 - 爆発性ガスまたは粉塵：メタン、石炭ガス、ブタン、ガソリン、アセチレン、水素、エーテル、炭塵、穀粉
 - エレベーターの電気信号に影響をおよぼす電磁波がないこと
電磁波の電界強度が10V/m以下の環境とすること
 - 原則、昇降路の設置場所は標高1000m以下の高さとすること
 - (1) 屋上等直接外気と接する乗場における雨水より設備により外部から風雨が侵入しないこと（ひさし・風除室・水勾配・グレーチング・防潮板等）
(2) センサ誤動作防止、および乗場戸熱変形防止のため、屋外または屋内ガラス越しから乗場および駆動・制御装置（制御盤、秤装置等）に直射日光が当たらない対策を実施のこと
 - 昇降路壁には電気・水道管の配管・器具を埋め込まないこと
 - 昇降路内には他の用途の配管・ダクト等が露出しないようにすること（建築基準法施行令第129条の2の4第1項第三号）
 - 遮断器はインバータ回線対応のものを使用すること
 - 輸送可能な適温積載車や台車などの重量物は250kg以下とすること
 - 換気設備を設置する場合は昇降路外部より保守可能な位置とし、設置環境により雨水或いは防水対策を実施のこと
 - エレベーターの保守・点検並びに緊急対応のため、外部階段等から最上階および最下階エレベーターホールへアクセスできる経路を確保すること（個人宅など占有部を經由しないこと）
 - エレベーターから発生する高周波漏洩電流と高周波ノイズにより他の設備に影響を受ける恐れがあるため、次の対策をお勧めします。
 - エレベーター動力と通信機器・OA機器等弱電機器の電源線・通信線を1m以上分離する
 - エレベーターを含む動力の電源トランスと通信機器・OA機器等弱電機器の電源トランスを分離する（エレベーター照明用電源は弱電機器のトランスと分離不要）
 - エレベーターを含む機器アース線と通信機器・OA機器等弱電機器のアース線の分離配線と接地極の分離を要する
 - 乗場壁へウレタン吹付けを行う場合は、乗場機器取付け後に施工する必要があります。乗場機器取付け前にウレタン吹付けを行うと、乗場機器取付け時の溶接の火花に引火する恐れがあります。昇降路内は不燃材もしくは難燃材（平12建告1402号で定められた材料又は国土交通大臣の認定を受けたもの）とする必要があります。
※法定のオーバヘッド寸法確保やドア装置取付に支障が無いが、施工範囲と厚みを昇降機担当へ連絡し問題ないことを確認ください。
 - 乗場に向かって強風が吹く場合には、防風対策（建築工事）を行うこと
風圧により乗場の戸が閉まらない恐れがあります。
 - 製品の検査は各規格に準じた社内基準にて行います。
電動機（巻上機・駆動機）：JEC-2110、2130、JIS C-4034-1
制御盤：JEM1021、1460
尚、電動機の温度上昇試験・負荷特性試験は型式試験結果です。
 - かごの内装デザイン等が別途工事の場合、品質保証（変色、はがれ、劣化等の外観変化）対象外となります。
また、昇降機保守対象外となります材質、構造等は以下を順守のこと
材質：不燃または難燃認定品
構造：裝飾品（鏡等含む）には、エレベーター非常止め作動時または緩衝器衝突時は4G（縦方向）、地震時は1G（横方向）相当の加速度が発生する可能性があるためそれに耐え、かつ接着固定による劣化を考慮した取付構造とすること
照度：かごの床面で50ルクス（乗用、乗合用以外では25ルクス）以上の照度とすること。建築用途と使用環境の違いにより、早期に寿命を迎えることがあります。
・かご照明の自動休止機能により、照明のON/OFF回数が多い
・かごの昇降による振動がある
 - 施工作業時間条件：月曜日～土曜日 8:00～17:00
尚、施工作業期間内「4週6休」就労をさせていただきます。



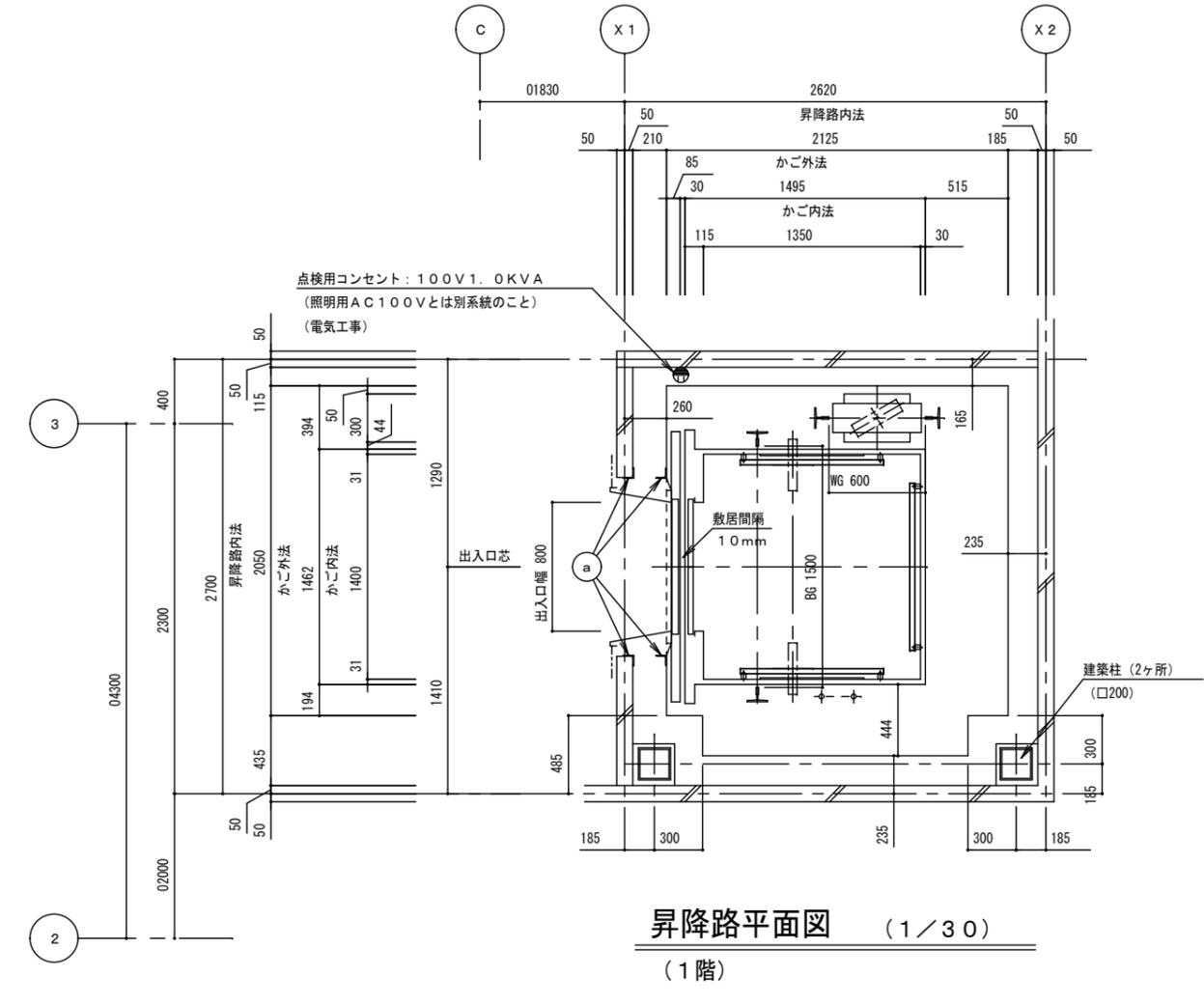
昇降路平面図 (1/30)
(ピット)

レール下端部荷重 (長期荷重)			
R 1 (kN)	R 2 (kN)	R 3 (kN)	R 4 (kN)
3.6	23.4	43.4	19.8

ピット荷重 (短期荷重)	
P 1 (kN)	P 2 (kN)
75.2	63.5

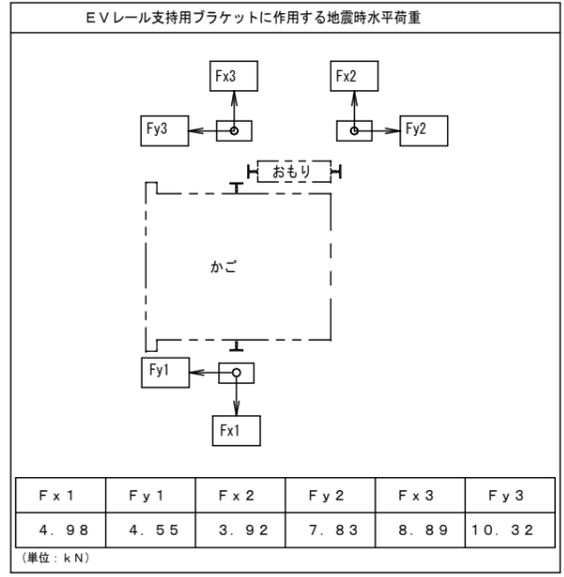
ブラケット取付のため、ピット内の壁または梁は最下階FL面まで立ち上げて下さい (建築工事)

昇降路機器はピット底面・側面・梁・壁 (コンクリートの場合) にあと施工アンカーにより取付を行います

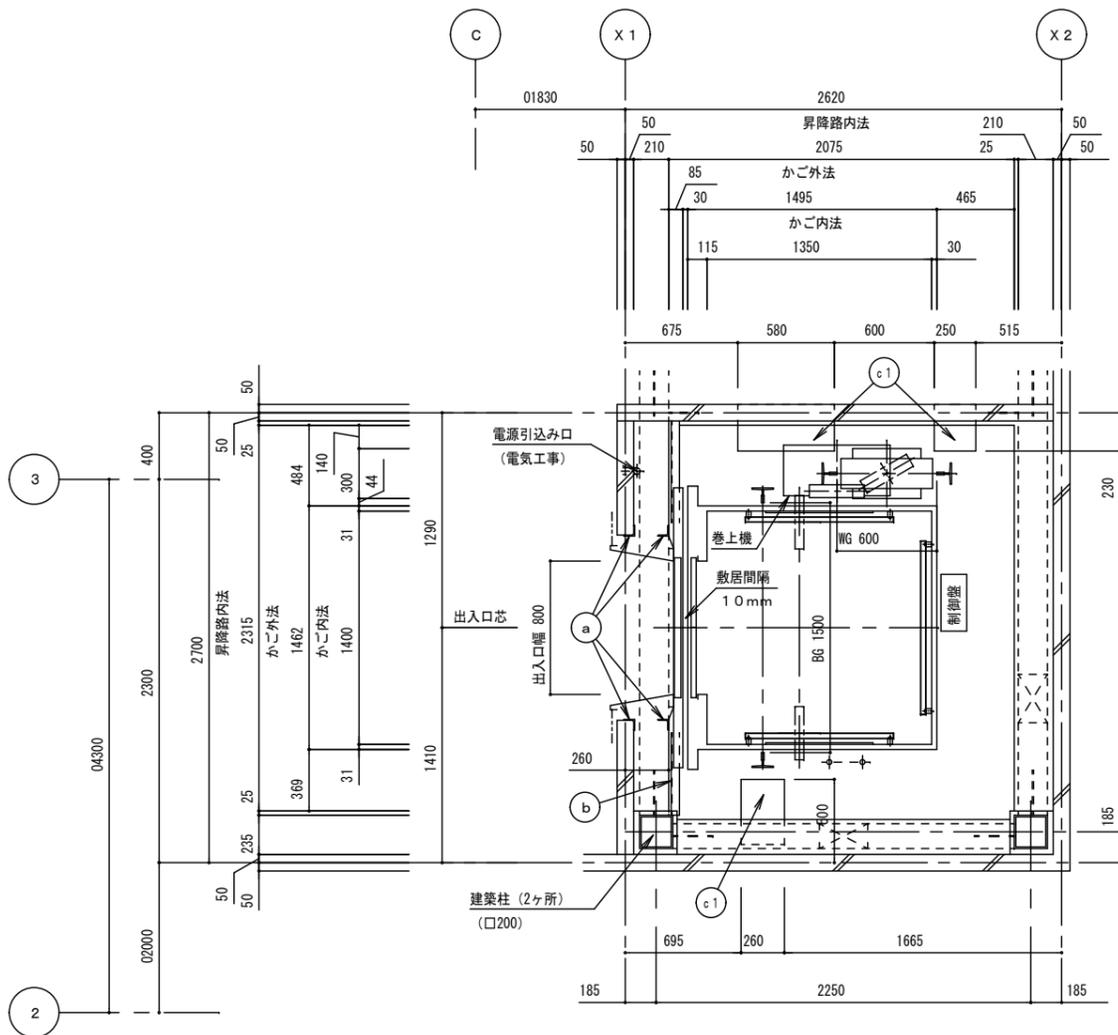


昇降路平面図 (1/30)
(1階)

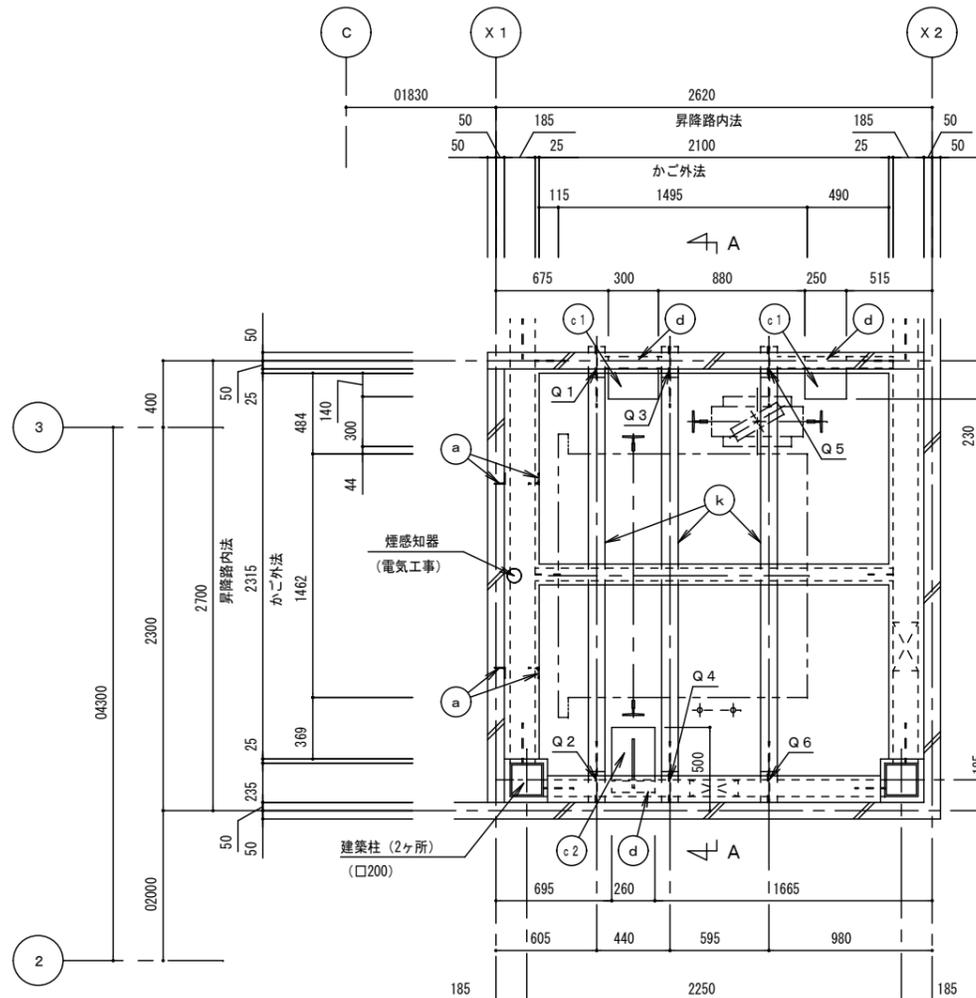
部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 (壁取付金物の昇降路内への突出不可)	L-65×65×6	建築工事



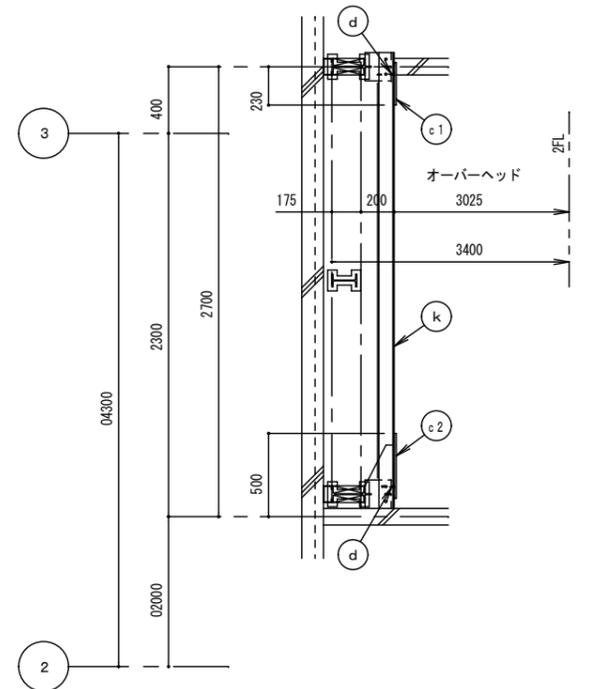
注: 上記矢印の地震時荷重により柱、梁などのたわみの合計が5mm以下となるよう部材を設計のこと。又、ねじれに対し強固に取付ること。



昇降路平面図 (1/30)
(2階)



昇降路平面図 (1/30)
(頂部)



昇降路頂部断面図 (1/30)
断面A-A

動力電源設備 (CV-T電線使用時)

(*) 電源側に漏電遮断器を設置する場合

電源引込み口 (昇降路頂部)

動力用: AC3φ-210V-60Hz

照明用: AC1φ-100V-60Hz

D種接地工事

電源線引出し長さ: 10500mm

(電気工事)

号機名	電動機容量	設備容量	電源側NF容量	感度電流値 動作時間 (*)	電線サイズ	接地線サイズ
O1	3.8kW	4kVA	40AT	100mA以上 0.2秒以上	8.2mまで 8mm ² 14.2mまで 14mm ² 21.6mまで 22mm ²	3.5mm ²

照明用電源 AC1φ-100V-60Hz (設備容量: 1kVA/台・電源側NF容量: 20AT/台)

揚重ビームに掛かる荷重 [kN]					
Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6
6.0	2.0	8.0	10.0	16.0	11.0

Q1~Q6はEV据付時に作用する

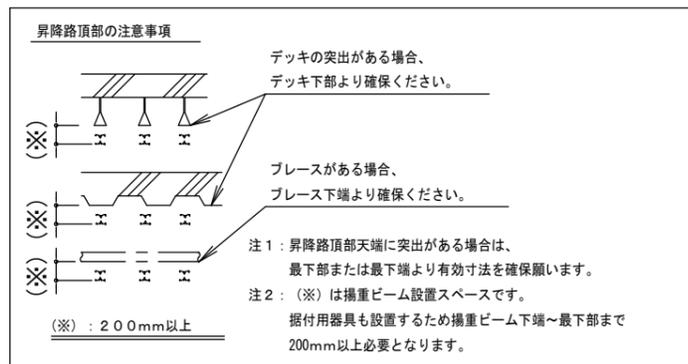
高調波対策 (高調波流出電流計算値)

高調波対策内容	機器名称	定格容量 (kVA)	台数	合計容量 Pi (kVA)	回路分類 細分No.	6パルス 換算係数 (Ki)	6パルス等価 容量 [Ki×Pi] (kVA)	機器最大 稼働率 (%)	基本電流に対する高調波電流発生率 In (%)							
									5次	7次	11次	13次	17次	19次	23次	25次
ノイズフィルタのみ (標準)	O1号機	4.8	1	4.8	31	3.4	16.2	25	65	41	8.5	7.7	4.3	3.1	2.6	1.8
DCリアクトル追加 (Ki=1.8相当)	(750kg-45m/min)				33	1.8	8.6	25	30	13	8.4	5	4.7	3.2	3	2.2

高圧または特別高圧需要家が高調波発生機器を新設、増設または更新する場合には「高圧または特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」への適用が求められます。ガイドラインではその需要家から流出する高調波電流の上限値を定めており、超過する場合には何らかの対策を求められます。

※ 各次数毎の高調波流出電流量は以下の計算により求めることができます。

$$\text{各次数毎の高調波流出電流量 (mA)} = \frac{\text{合計容量 } P_i \text{ (kVA)}}{\text{受電電圧 (kV)} \times \sqrt{3}} \times 10^3 \times \text{各次数毎の発生率 } I_n \text{ (\%)} \times \text{機器最大稼働率 } k \text{ (\%)}$$



部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 (壁取付金物の昇降路内への突出不可)	L-65×65×6	建築工事
b	敷居取付材	[-100×50×5×7.5	建築工事
c1	レールブラケット取付用ファスナー	PL-t12	建築工事
c2	レールブラケット取付用ファスナー	PL-t12 (リブ補強付)	建築工事
d	頂部ファスナー取付材	L形鋼	建築工事
k	揚重ビーム	H-100×100×6×8	建築工事

煙感知器（電気工事）

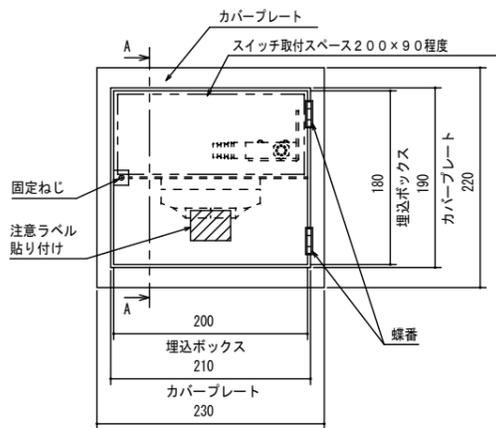
- ・外部より点検可能な構造として下さい
- ・雨水浸入が無い様配慮下さい
- ・EV連動スイッチ付（EV工事）
- ・煙感知器はかご投影面にかからない位置として下さい
- ・点検口は下記①または②として下さい

①EV昇降路専用品（スイッチ取付台座付き）（1）～（4）のいずれか

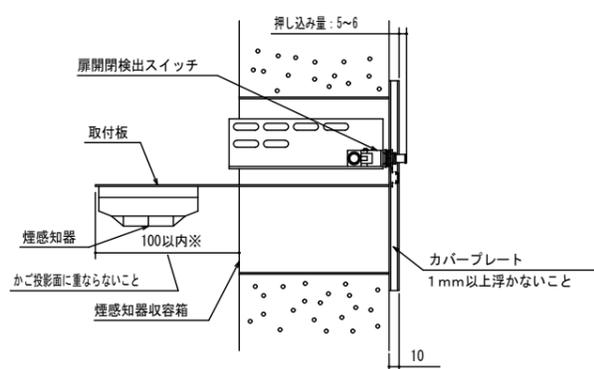
- （1）ホーチキ KUS-1C
- （2）能美防災 FXSJ001A-HU
- （3）ニッタン NID-T-G
- （4）パナソニック BV95351（BOX）+BV95381H（扉）

②以下2項目を満足する点検口 ～「煙感知器・点検ボックス（参考例）」参照

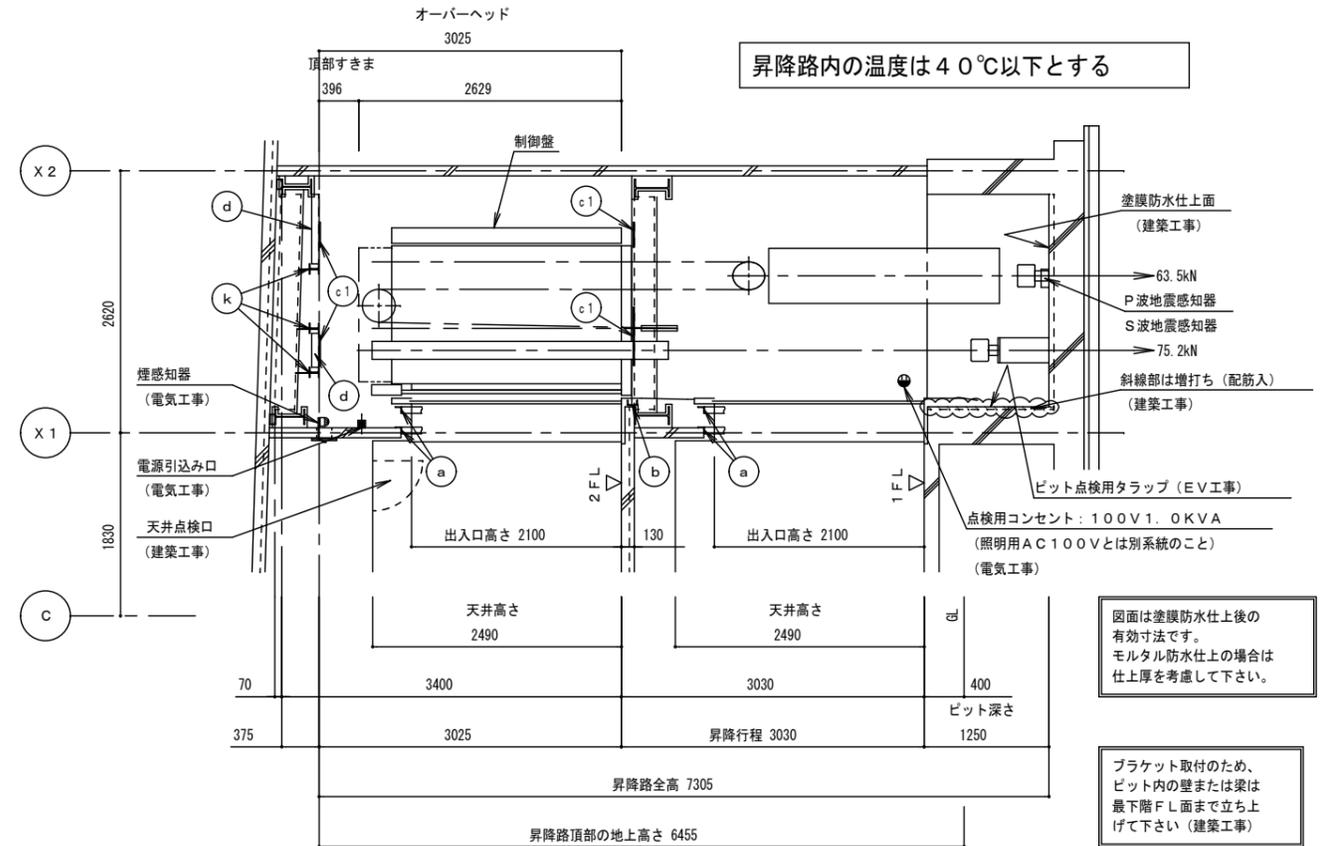
- （1）スイッチ取付スペース200×90程度確保できる。
- （2）錠付または工具を必要とするネジ付きの蓋で、1mm以上浮かないこと。



煙感知器・点検ボックス（参考例）

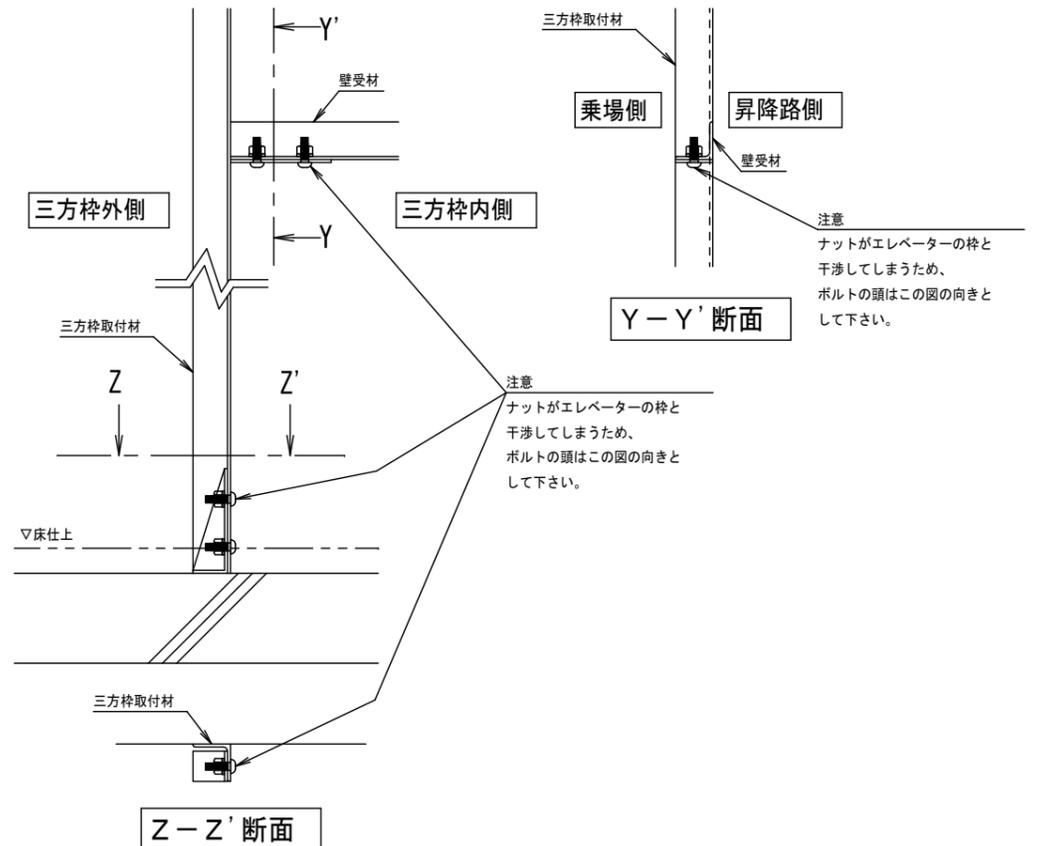
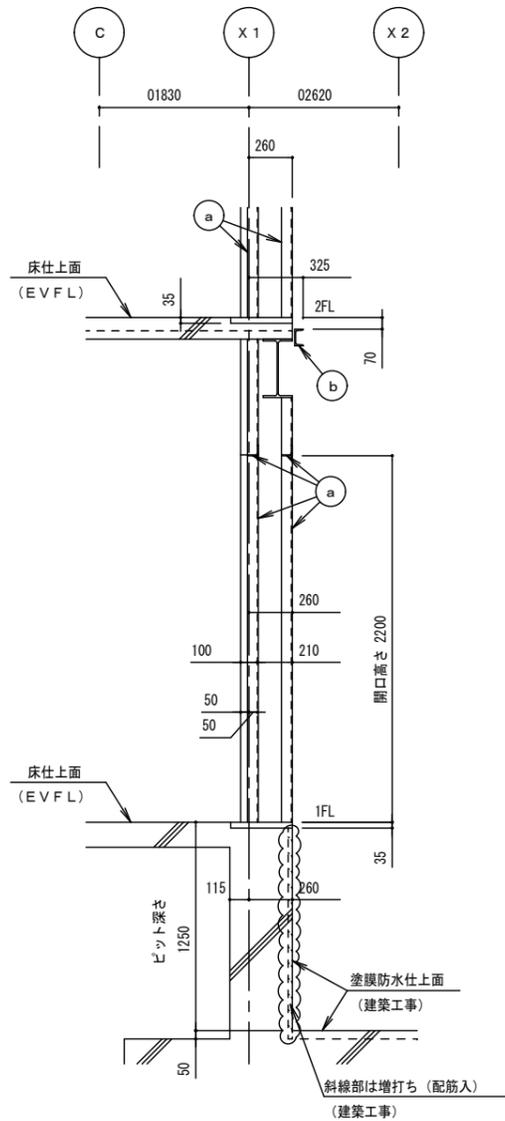
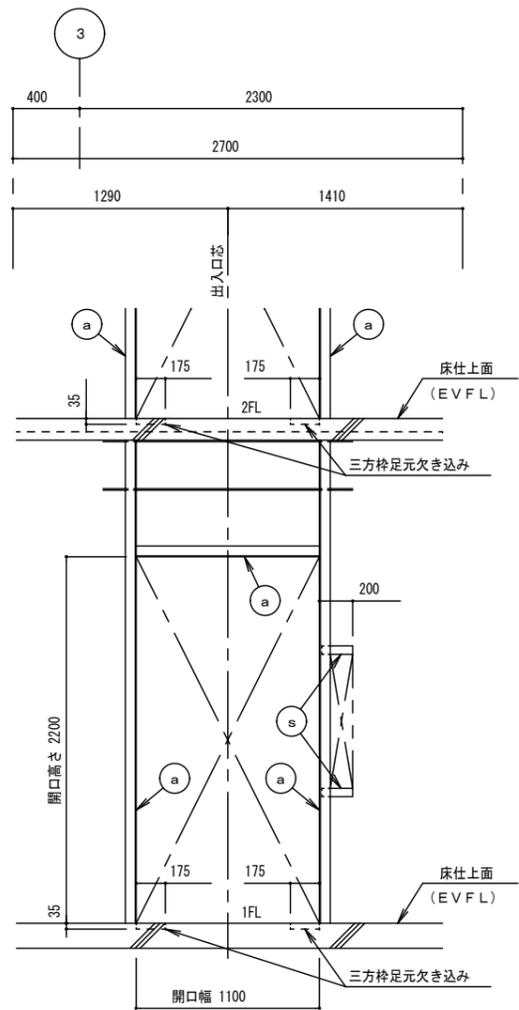
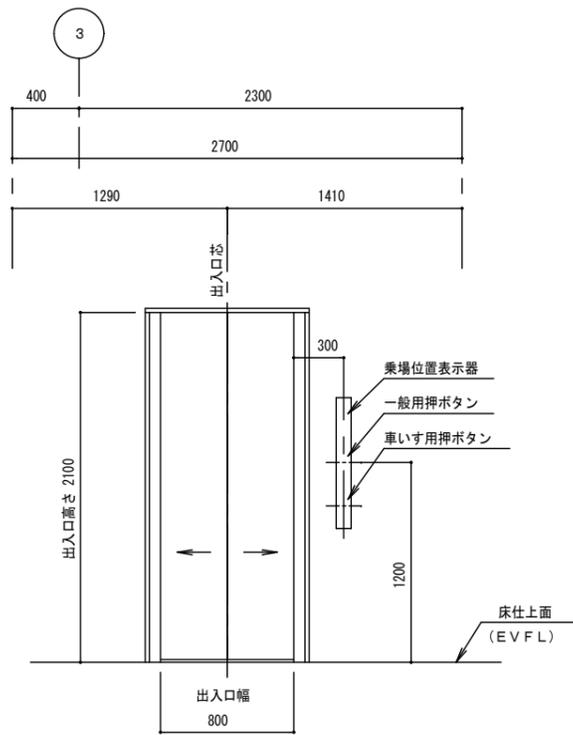


矢視A-A

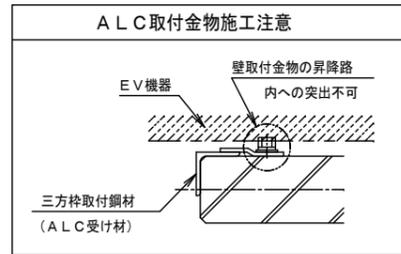


昇降路断面図 (1/50)

部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 (壁取付金物の昇降路内への突出不可)	L-65×65×6	建築工事
b	敷居取付材	[-100×50×5×7.5	建築工事
c1	レールブラケット取付用ファスナー	PL-t12	建築工事
d	頂部ファスナー取付材	L形鋼	建築工事
k	揚重ビーム	H-100×100×6×8	建築工事



部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 (壁取付金物の昇降路内への突出不可)	L-65×65×6	建築工事
b	敷居取付材	[-100×50×5×7.5	建築工事
s	インジケータ取付材	PL-t3.2	建築工事



参 考 数 量 書

工 事 名 称 本郷人権文化センター耐震改修等工事（建築主体工事）

工 事 場 所 三原市本郷北三丁目

[工 事 概 要]

用途、構造、面積	人権文化センター、鉄筋コンクリート造3階建て一部鉄骨造2階建て、床面積451.04㎡（内、今回増築床面積58.74㎡）	
工 事 範 囲	改修工事一式（建築主体工事）	
別 途 発 注 工 事	本郷人権文化センター耐震改修等工事（電気設備工事）、本郷人権文化センター耐震改修等工事（機械設備工事）、三原市・本郷人権文化センター舗装改修工事	
工 期	契約締結日の翌日 ～ 令和9年1月28日	
一 般 事 項		
《 工事予算内訳 》	合 計 金 額	
〈内 訳〉		
区 分	金 額	概 要
設 計 金 額		
消 費 税 額		
合 計 金 額		

工事費内訳

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
昇降機設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

建築工事 種目別内訳

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
エレベーター棟増築	1	式		
人権文化センター改修	1	式		
付属棟解体	1	式		
外構撤去	1	式		
外構撤去あと整備	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

建築工事 科目別内訳

エレベーター棟増築

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接仮設	1	式		
土工	1	式		
地業	1	式		
鉄筋	1	式		
コンクリート	1	式		
型枠	1	式		
鉄骨	1	式		
既製コンクリート	1	式		
防水	1	式		
屋根及びとい	1	式		
金属	1	式		
左官	1	式		
建具	1	式		
塗装	1	式		
内外装	1	式		

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		直接仮設				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(一般仮設)						
遣方	小規模	29.4	m ²			
墨出し	小規模 S造 地上階	58.7	m ²			
養生	小規模 S造 地上階	58.7	m ²			
整理清掃 後片付け	小規模 S造 地上階	58.7	m ²			
(内・外部足場)						
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 RC造標準日数 修理費含む 12m未満 2階建 建築面積 300m ²	130	m ²			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 RC造標準日数 修理費含む 建築面積 300m ²	18.7	m			
内部仕上足場	RC造標準日数 修理費含む 脚立足場 階高4.0m以下 転用数 1	44.6	m ²			
シフト内足場	RC造標準日数 修理費含む	14.1	m ²			
(災害防止)						
養生シート張り	防災性能 JIS A 8952 I類 RC造標準日数 修理費含む 2階建 建築面積 300m ²	130	m ²			
(仮設材運搬)						
仮設材運搬 (枠組本足場) (手すり先行方式)	建枠幅900(二枚布)	130	m ²			
仮設材運搬 (安全てすり)	枠組本足場用(手すり先行方式)	18.7	m			

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		鉄筋		躯体		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(材料費)						
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D10	0.26	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D13	1.22	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D16	0.55	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD345 D19	0.24	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD345 D22	0.4	t			
鉄筋スクラップ	H2	▲0.08	t			
(施工費)						
鉄筋加工組立	RCラーメン構造 階高3.5～4.0m程度 形状単純	2.56	t			
鉄筋運搬費	4 t 車 30km程度	2.56	t			
鉄筋ガス圧接	D22 -D22	12	か所			
溶接金網敷	径6.0 150×150	19.7	m ²			
計						

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		コンクリート		躯体		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(材料費)						
普通コンクリート	JIS A5308 FC=24 S15 粗骨材20	17.4	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S15 粗骨材20	5.3	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S15 粗骨材20	2.1	m3			
構造体強度補正		1	式			別紙 00-0001
(施工費)						
コンクリート打設手間	基礎部 ポンプ打設 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	17.4	m3			
コンクリート打設手間	土間 ポンプ打設 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	5.3	m3			
コンクリート打設手間	S造スラブ ポンプ打設 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	2.1	m3			
コンクリートポンプ 圧送	基本料金別途加算	17.4	m3			
コンクリートポンプ 圧送	基本料金別途加算	5.3	m3			
コンクリートポンプ 圧送	基本料金別途加算	2.1	m3			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金		2	回			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金		1	回			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金		1	回			

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		鉄骨		本体鉄骨		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(材料費)						
鋼材費 (BCR295)	□-200*200*9	0.67	t			
鋼材費 (BCR295)	□-200*200*6	0.53	t			
鋼材費 (SS400)	H-350*175*7*11	0.62	t			
鋼材費 (SS400)	H-300*150*6.5*9	0.46	t			
鋼材費 (SS400)	H-298*149*5.5*8	0.44	t			
鋼材費 (SS400)	H-200*100*5.5*8	0.38	t			
鋼材費 (SS400)	H-150*75*5*7	0.13	t			
鋼材費 (SS400)	H-100*100*6*8	0.15	t			
鋼材費 (SS400)	[-100*50*5*7.5	0.02	t			
鋼材費 (SS400)	L-65*65*6	0.09	t			
鋼材費 (SSC400)	C-100*50*20*2.3	0.14	t			
鋼材費 (SS400)	RB-16 φ	0.04	t			
鋼材費 (SS400)	PL-16	0.03	t			
鋼材費 (SS400)	PL-12	0.07	t			

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		鉄骨		本体鉄骨		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
鋼材費 (SS400)	PL-9	0.18	t			
鋼材費 (SS400)	PL-6	0.13	t			
鋼材費 (SS400)	PL-3.2	1	単位kg			
鋼材費 (SN490C)	PL-16	0.07	t			
鋼材費 (SN490C)	PL-19	0.08	t			
鋼材費 (SN490B)	PL-25	0.09	t			
鉄骨スクラップ	H2	▲0.22	t			
高力ボルト (S10T)	M20 (L=60)	200	組			
高力ボルト (S10T)	M20 (L=50)	62	組			
高力ボルト (S10T)	M20 (L=45)	6	組			
高力ボルト (S10T)	M20 (L=40)	42	組			
高力ボルト (S10T)	M16 (L=50)	67	組			
高力ボルト (S10T)	M16 (L=45)	17	組			
高力ボルト (S10T)	M16 (L=40)	46	組			
アンカーボルト (材料費)	(SNR400B) M24 (L=500) Wナット ★定着板: PL-16*75*75共	16	組			

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		鉄骨		本体鉄骨		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(施工費)						
鉄骨工場加工組立	既製コラム	4	t			
鉄骨工場溶接	半自動(すみ肉6mm換算)	191	m			
鉄骨工場錆止め 塗料塗り	JIS K5621又はJIS K5622(2回塗り) 素地C種	117	m ²			
鉄骨現場建方	低層(標準) 建方機械別途	4	t			
トルア形 高力ボルト締付け	ビル鉄骨 1,000本未満 施工手間含む	422	本			
鉄骨建方機械		1	式			
軽量鉄骨加工 ・組立	母屋. 胴縁の類 一般 普通ボルト締共	0.13	t			
鉄骨運搬	6t車	4.13	t			
超音波探傷試験	工場(第三者試験)	15	か所			
床デッキプレート敷き (材工共)	スーパーEデッキ(EZ50 厚1.0) ★焼き抜き栓溶接@300内外	19.7	m ²			
デッキコンクリート止めプレート(材工共)	(H=130)曲げ加工L-130*110*3.2(溶接L=50@500内外)控え鉄筋9φ@150 0溶接止め	20.7	m			
デッキ受け金物 (材工共)	大梁継手部(PL-65*9取付け)	8	か所			
アンカーボルト埋込み (B種)	径22~25(支柱) 取付手間	16	本			

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		既製コンクリート		外部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ALCパネル(外壁)	厚100(フラット)縦張りA種	88	m ²			
ALCパネルコーナー(外壁)	厚100(300*300)	13	m			
ALC受け金物	下部RC取合(定規L-50*50*6)	13.7	m			
ALC受け金物	上部鉄骨取合(定規L-65*65*6)	14.8	m			
ALC受け金物	中間部鉄骨取合(定規L-65*65*6)	14.8	m			
ALCコーナーパネル受け金物	鉄骨柱取合(FB-65*6+ヒール(L-65*65*6L=100)*2列)	13	m			
ALC開口補強金物	縦方向(L-65*65*6)	11.6	m			
ALC開口補強金物	横方向(L-50*50*6)	3.1	m			
耐火目地材(ALC端部)	コーナーパネル(ALC+ALC取合)	25.9	m			
耐火目地材(ALC端部)	下部(ALC+RC取合)	13.7	m			
耐火目地材(ALC端部)	中間部(ALC+ALC取合)	14.8	m			
計						

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		屋根及びとい		外部		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
折板葺き(はげ締め形)	山高≒90(塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)(厚0.8) 裏張り断熱材(厚5)共	28.5	m ²			
水下尾垂れ加工	山高≒90	6.7	m			
タイトフレーム	山高≒90	20.1	m			
タイトフレーム(けらば用)	山高≒90	8.5	m			
軒先見切り面戸	山高≒90	6.7	m			
水上面戸	山高≒90(シール共)	6.7	m			
水上雨押さえ	屋根同材(糸100+300+250)程度 ★エプロン付	6.7	m			
けらば包み	屋根同材(W=345程度)	8.5	m			
鋼板水切り (ALCパネル+根廻り)	(塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)(厚0.8)(厚0.5)D=200	14.5	m			
軒樋	硬質塩化ビニル雨とい(角(前高)型) 【W=150】受け金物共	6.7	m			
集水器	塩化ビニル製(カー)150角用	2	か所			
硬質ポリ塩化ビニル管とい(カー)	径100	13.5	m			
同上豎樋エルボ	径100用	4	か所			
計						

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		金属		内部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りなし @300	24.6	m ²			
軽量鉄骨壁下地	50形 下地張りなし @300	51.7	m ²			
軽量鉄骨壁下地	50形 下地張りなし @300	5.4	m ²			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 扉等三方補強 1800×2000mm程度	1	か所			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 扉等三方補強 1200×2000mm程度	2	か所			
軽鉄胴縁開口補強	50形	8.6	m			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @225 インサート別途	38.1	m ²			
軽量鉄骨下がり壁 下地	19形(屋内) H300～500程度	3.1	m			
軽量鉄骨下がり壁 下地	19形(屋内) H250程度	2.1	m			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) ホート等切込み共	1	式			別紙 00-0002
天井インサート	デッキ用	38.1	m ²			
天井廻縁	塩化ビニル製	52.3	m			
下り壁見切縁	アルミ製	5.5	m			
くつずり	ステンレス製 厚さ2.0 幅40	5.4	m			
天井点検口	一般タイプ アルミ製 内外枠共額縁 600角	1	か所			

建築工事 細目別内訳

エレベーター棟増築		内外装		内部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ビニル床タイル	厚さ2.0 コンポジションビニル床タイルKT 一般床 -	6.6	m ²			
ビニル床シート	マーブル 厚さ2.0 複層ビニル床シートFS 一般床 熱溶接工法 -	34.1	m ²			
誘導用及び 注意喚起用床材	点字ブロック 塩化ビニル製 300×300	0.4	m ²			
ビニル幅木	高さ75	40.4	m			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付けV目地 -	69.4	m ²			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 継目処理 -	17.2	m ²			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 RC、CB直張り 突付けV目地 -	1	m ²			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 RC、CB直張り 継目処理 -	8	m ²			
壁紙張り (材工共)	壁 プラスチック程度 ボード面 素地B種 接着剤 2種1号	22.4	m ²			
壁紙張り (材工共)	壁 プラスチック程度 モルタル面 素地B種 接着剤 2種1号	4.4	m ²			
天井 化粧 せっこうボード 張り (GB-D)	厚 9.5 不燃 (スクエア)	38.1	m ²			
天井下がり 化粧 せっこうボード 張り (GB-D)	厚 9.5 不燃 (スクエア)H=900以下	0.6	m ²			
天井下がり 化粧 せっこうボード 張り (GB-D)	厚 9.5 不燃 (スクエア)H=300以下	1	m ²			
ボード出隅		17.7	m			
計						

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		直接仮設		外部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(一般仮設)						
墨出し(外壁改修)	タイル・モルタル塗替等 一般	14.2	m ²			
養生 (屋上防水改修)	露出防水・簡易防水(塗膜・シート)	366	m ²			
養生(外壁改修)		140	m ²			
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水・簡易防水(塗膜・シート)	366	m ²			
整理清掃後片付け (外壁改修)		140	m ²			
(外部足場)						
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 修理費含む 12m未満 2階建 【損料30日】撤去のみ	60.1	m ²			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 修理費含む 12m未満 2階建 【損料120日】撤去+改修	500	m ²			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 600×1700 布枠500×1枚 修理費含む 12m未満 2階建 【損料120日】撤去+改修(内側2重)	120	m ²			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 修理費含 【損料30日】撤去のみ	7.9	m			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 修理費含 【損料120日】撤去+改修	87.7	m			
単管本足場	基本料 修理費含む 10m未満 【損料120日】撤去+改修 (内側2重階段部分)	31.1	m ²			
外部仕上足場 (改修)	階高4.0m以下 脚立足場 塗装塗替え程度 既存塗膜の除去有り	38.1	m ²			
(災害防止)						

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		直接仮設		外部		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
養生シート張り	防災性能 JIS A 8952 I 類 修理費含む 2階建 【損料90日】改修のみ	500	m ²			
防音シート張り	修理費含む 2階建 【損料30日】撤去のみ	560	m ²			
(仮設材運搬)						
仮設材運搬 (枠組本足場) (手すり先行方式)	建枠幅900(二枚布)	560	m ²			
仮設材運搬 (枠組本足場) (手すり先行方式)	建枠幅600	120	m ²			
仮設材運搬 (安全てすり)	枠組本足場用(手すり先行方式)	95.6	m			
仮設材運搬 (単管本足場)		31.1	m ²			
仮設材運搬 (内部仕上足場 脚立足場)	2階建	38.1	m ²			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		500	m ²			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		560	m ²			
計						

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		直接仮設		内部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(一般仮設)						
墨出し(内部改修)	複合改修	334	m ²			
養生(内部改修)	複合改修	334	m ²			
整理清掃後片付け (内部改修)	複合改修	334	m ²			
(内部足場)						
内部仕上足場 (改修)	階高4.0m以下 脚立足場 一般	322	m ²			
内部階段仕上足場	修理費含む【損料60日】	11.7	m ²			
(仮設材運搬)						
仮設材運搬 (内部仕上足場 脚立足場)	2階建	322	m ²			
仮設材運搬 (内部階段 仕上足場)		11.7	m ²			
計						

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		防水改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(2F事務所屋根)						
改質アスファルトシート防水(床面)	(AS-J1工法)	49.3	m ²			
改質アスファルトシート防水(立上り面)	(AS-J1工法)	6.7	m ²			
既存下地の補修及び処置(床面)	改質アスファルトシート防水下地 (既設シート防水撤去あと) (既設ALC面)	49.3	m ²			
既存下地の補修及び処置(立上り面)	改質アスファルトシート防水下地 (既設シート防水撤去あと) (既設ALC面)	6.7	m ²			
既設E xp. j金物取外し再取付	アルミ製(W=400)	12.3	m			
既設アルミ笠木取外し再取付	アルミ製(W=150)	21	m			
改修用ドレン	75φ(横型用)	2	か所			
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15×10	3.9	m			
(RF屋根)						
塗膜防水(屋根)	(X-2H)	269	m ²			
塗膜防水(笠木・立上り)	(X-2H)	42.3	m ²			
既存下地の補修及び処置(床面)	塗膜防水下地 (既設シート防水撤去あと) (既設モルタル面)	269	m ²			
既存下地の補修及び処置(立上り面)	塗膜防水下地 (既設シート防水撤去あと) (既設モルタル面)	42.3	m ²			
硬質ポリ塩化ビニル管とい(カー)	径100	0.3	m			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		防水改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
同上 樋エルボ ^ホ	径100用	1	か所			
(南/北バルコニー)						
塗膜防水(笠木・立上り)	(X-2工法)南バルコニー立上り新設部	0.2	m ²			
塗膜防水(床面)	(X-2工法)	25.6	m ²			
塗膜防水(笠木・立上り)	(X-2工法)	17.6	m ²			
既存下地の補修及び処置(床面)	塗膜防水下地 (既設塗膜防水撤去あと) (既設モルタル面)	25.6	m ²			
既存下地の補修及び処置(立上り面)	塗膜防水下地 (既設塗膜防水撤去あと) (既設モルタル面)	17.6	m ²			
手摺笠木モルタル塗り	金ごて 糸幅200	0.9	m			
壁モルタル塗り	金ごて 外壁 厚25	0.2	m ²			
太陽光架台基礎 ^ホ ベース金物	(非断熱)	36	か所			
計						

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		外壁改修		撤去		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
鉄骨躯体解体 (1F女子トイレ)	集積共	0.11	t			
屋根ALCパネル撤去 (1F女子トイレ)	集積共(厚100)	6.2	m ²			
屋根スレート瓦撤去 (1F女子トイレ)	集積共	6.2	m ²			
屋根水切り撤去 (1F女子トイレ)	集積共(鋼板(厚0.4)糸300程度)	3.2	m			
外壁ALCパネル撤去 (1F女子トイレ)	集積共(厚100)	15.1	m ²			
軒どい撤去	集積共(硬質塩ビ製半丸100φ)	2.5	m			
たてどい撤去	VP管 集積共	11	m			
養生管	集積共(SGP125A H=2000)	1	本			
CB撤去(2F南バルコニー)	集積共(H100*D60*L770程度)	1	か所			
床モルタル・床人研ぎ 撤去	集積共	1.2	m ²			
壁モルタル・プラスター 撤去	集積共	6.7	m ²			
カッター入れ	モルタル面 厚さ20~30mm	36.1	m			
既設バルコニー手摺一部 撤去(南バルコニー)	集積共(鋼製H=1100)	7.6	m			
旗用ポール撤去 (2F北バルコニー)	集積共(60φ L=7000)	1	本			
計						

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		外壁改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(既製コンクリート)						
ALCパネル(外壁)	厚100(フラット)縦張りA種	7.1	m ²			
ALC受け金物	下部既設RC取合(定規L-50*50*6+ネコ(あと施工アンカー))	3.4	m			
ALC受け金物	上部既設RC取合(定規L-50*50*6+ネコ(あと施工アンカー))	3.4	m			
ALC開口補強金物	縦方向(L-65*65*6)	11.1	m			
ALC開口補強金物	横方向(L-50*50*6)	3.7	m			
耐火目地材 (ALC端部)	下部(ALC+既設RC取合)	3.4	m			
耐火目地材 (ALC端部)	上部(ALC+既設RC取合)	3.4	m			
耐火目地材 (ALC端部)	縦方向(ALC+既設RC取合)	5.6	m			
(防水)						
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 10×10	3.4	m			
シーリング	一般部 ポリウレタン系(PU-2) 20×10	8.9	m			
蹴上げタイル張り (スロープ 足洗い場撤去あと補修)	一般床タイル張 I類 無ゆう 150mm角 下地モルタル別途	0.5	m ²			
(屋根・金属)						
鋼板水切り (ALCパネル+根廻り)	(塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき 鋼板及び鋼帯)(厚0.8)(厚0.5)D=160	3.4	m			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		外壁改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
既設バルコニー手摺撤去あと補修(南バルコニー)	(鋼製H=1100)小口塞ぎPL-1.2新設(48.6φ*2か所)	1	式			
(左官・吹付)						
施工数量調査(外壁改修)	タイル・モルタル塗替改修	283	m ²			
施工数量調査(外壁改修)	打放し面・仕上塗材改修	125	m ²			
施工数量調査(外壁改修)	ALC面・仕上塗材改修	55	m ²			
壁モルタル塗り	金ごて 外壁 厚25	6.3	m ²			
蹴上げモルタル塗り(スロープ足洗い場撤去あと補修)	木ごて 一般タイル下地 厚37	0.5	m ²			
均しモルタル塗り	ALC [°] 祢下部(W=170程度)	3.4	m			
複層塗材 E	ALC [°] 祢面 凹凸状 吹付け アクリル系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費別途	7.1	m ²			
下地調整費	ALC [°] 祢面 屋外 C-1	7.1	m ²			
外装薄塗材 E	モルタル面 砂壁状 吹付け 下地調整費別途	4.3	m ²			
下地調整費	モルタル面 屋内外	4.3	m ²			
複層塗材E吹替え(外壁)	既設ALC [°] 祢面 凹凸状 吹付け アクリル系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費別途	55	m ²			
外装薄塗材E吹替え(外壁)	既設モルタル面 砂壁状 吹付け 下地調整費別途	283	m ²			
外装薄塗材E吹替え(外壁)	既設RC面 砂壁状 吹付け 下地調整費別途	26.2	m ²			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		外壁改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
外装薄塗材E吹替え(軒天)	既設RC面 砂壁状 吹付け 下地調整費別途	98.9	m ²			
既存塗膜等の除去(外壁)	既設モルタル面【サング-工法】	283	m ²			
既存塗膜等の除去(外壁)	既設RC面【サング-工法】	26.2	m ²			
既存塗膜等の除去	既設RC面【サング-工法】	98.9	m ²			
下地調整材(外壁)	既設ALC [®] 祢面	55	m ²			
下地調整材(外壁)	既設モルタル面	283	m ²			
下地調整材(外壁)	既設RC面	26.2	m ²			
下地調整材(軒天)	既設RC面	98.9	m ²			
水洗い清掃(床面)		15.8	m ²			
水洗い清掃(根廻り)		19.2	m ²			
(その他)						
外部洗い流し新設	(W1000*D800)土間CON厚120 D10@200シングル/端部D13 ★(カーテンハン設備工事)	1	か所			
計						

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		建具改修		撤去		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
アルミ製建具撤去 (AD-1)	集積共(W*H)3780*1800/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AD-2)	集積共(W*H)800*2000/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AD-3)	集積共(W*H)3670*1800/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AD-3-1)	集積共(W*H)3670*1800/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AD-4)	集積共(W*H)700*1700/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AD-5)	集積共(W*H)650*1700/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AD-7)	集積共(W*H)1800*1800/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AW-3)	集積共(W*H)1700*370/枠共	2	か所			
アルミ製建具撤去 (AW-5)	集積共(W*H)700*560/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AW-6)	集積共(W*H)3670*1550/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AW-7)	集積共(W*H)3670*1550/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AW-8)	集積共(W*H)1800*580/枠共	1	か所			
アルミ製建具撤去 (AW-11-1)	集積共(W*H)3470*2900/枠共	2	か所			
鋼製建具撤去 (SD-3)	集積共(W*H)450*600/枠共	1	か所			
鋼製建具撤去 (SD-4)	集積共(W*H)1110*2000/枠共	1	か所			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		建具改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 10×10	151	m			
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 15×10	33.8	m			
木製建具枠 (WD-2)	(W*H) 1800*2000	1	か所			
木製建具枠 (WW-1)	(W*H) 1500*900	1	か所			
建具周囲防水 モルタル充填	外部建具	13.5	m			
WD-2 (引違いフラッシュ戸)	(W*H) 1800*2000/建具金物共 ★SUSレール共	1	か所			
WW-1 (引違いガラス窓)	(W*H) 1500*900/建具金物共 ★SUS(フラット)レール共	1	か所			
運搬費	木製建具	1	式			
取付調整費	木製建具	1	式			
AD-10 (引違いガラス窓)	(W*H) 700*1820/建具金物共 ★SUS沓摺・アルミ額縁3方共	1	か所			
AW-13 (引違いガラス窓)	(W*H) 930*1000/建具金物共 ★水切り・アルミ額縁・網戸共	1	か所			
AW-14 (引違いガラス窓)	(W*H) 930*1350/建具金物共 ★水切り・アルミ額縁・網戸共	1	か所			
AW-4, 10 (らんま:外倒しガラス窓)	アルミハネル (W*H) 865*340*5枚	1	式			
運搬費	アルミ製建具	1	式			
取付調整費	アルミ製建具	1	式			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		建具改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
LD-1 (片引きフラッシュ戸)	(W*H)1010*1950/建具金物共 ★SUS沓摺・自動閉鎖式・鋼製ガラリ共	4	か所			
LD-1-1 (片引きフラッシュ戸)	(W*H)1010*1950/建具金物共 ★SUS沓摺・自動閉鎖式・鋼製ガラリ共	1	か所			
LD-2 (片引きフラッシュ戸)	(W*H)1010*1950/建具金物共 ★SUS沓摺・自動閉鎖式・鋼製ガラリ共	1	か所			
LD-3 (片引きフラッシュ戸)	(W*H)1010*1800/建具金物共 ★SUS沓摺・自動閉鎖式・鋼製ガラリ共	1	か所			
LD-4 (片開きフラッシュ戸)	(W*H)800*2000/建具金物共 ★SUS沓摺・鋼製ガラリ共	2	か所			
LD-5 (片開きフラッシュ戸)	(W*H)740*1800/建具金物共 ★SUS沓摺・鋼製ガラリ共	1	か所			
運搬費	鋼製軽量建具	1	式			
取付調整費	鋼製軽量建具	1	式			
フロント板ガラス	厚さ5 特寸 2.18㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	4.6	㎡			
型板ガラス	厚さ4 特寸 2.18㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	2.7	㎡			
ガラスとめ(シーリング) (両面)	シリコン 1成分形 SR-1 ガラス規格2.18㎡以下	7.2	㎡			
ガラス清掃		7.2	㎡			
UVフィルム張り	清掃共 (硝子)	68.2	㎡			
SOP塗り	鋼製建具面 - 塗料1種 錆止別途	54	㎡			
錆止め塗料塗り	鋼製建具面(屋内外) 工程A種 塗料A種 現場2回目 1回目別途	54	㎡			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		撤去		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
CB撤去	コンクリートブレイカ 集積共	1.1	m ³			
床タイル撤去	下地モルタル共 集積共	0.8	m ²			
タイル幅木撤去	集積共(H=60)	7.6	m			
壁タイル撤去	下地モルタル共 集積共	13.3	m ²			
床モルタル・床人研ぎ撤去	集積共	9.9	m ²			
壁モルタル・プ ラスター撤去	集積共	9.6	m ²			
天井モルタル撤去	集積共(梁下共)	1.4	m ²			
ライニング 面台撤去	集積共(みかげ石)	7.6	m			
カッター入れ	コンクリート面 厚さ20～30mm	20.4	m			
カッター入れ	モルタル面 厚さ20～30mm	165	m			
壁下地撤去	集積共	46.9	m ²			
天井下地撤去	集積共	280	m ²			
ビニル床シート撤去	集積共	124	m ²			
木製幅木撤去	集積共	7.9	m			
壁クロス撤去	集積共	100	m ²			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		撤去		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
天井合板・ボード撤去	一重張り 一般 集積共	14.4	m ²			
天井廻縁撤去	集積共(塩ビ製)	250	m			
トレブラス撤去	集積共	12.6	m ²			
可動間仕切撤去	集積共(鋼製)	46.2	m ²			
ガラス撤去	集積共(可動間仕切のガラス)	7.4	m ²			
窓下戸棚撤去 (1F小会議室)	集積共(W*D*H)3760*400*800	1	か所			
窓下戸棚撤去 (1F図書資料室)	集積共(W*D*H)3950*400*800	1	か所			
戸棚撤去 (1F図書資料室)	集積共(W*D*H)3960*380*2370	1	か所			
木製棚撤去 (1Fシャワー室)	集積共(W*D*H)915*315*485	1	か所			
黒板撤去 (1F図書資料室)	集積共(W*H)2700*1200	1	か所			
ブラインドBOX1撤去 (1F調理/小会議/ 図書資料室)	集積共(木製W150*H120)	15.4	m			
ブラインドBOX2撤去 (1F多目的利用室)	集積共(木製W100*H100)	1	m			
ブラインドBOX3撤去 (2F大会議室)	集積共(木製W180*H130)	7.5	m			
ブラインドBOX5撤去 (2F大会議室)	集積共(木製W150*H140)	4	m			
ステージ前幕撤去	集積共(W8810*H3805)	1	張り			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		撤去		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ステージ後幕撤去	集積共(W8810*H3955)	1	張り			
カーテンレール撤去	集積共(シングル)	1.9	m			
Exp. j金物撤去 (内部壁・天井)	集積共(アルミ製クリアランス50)	12.3	m			
手摺撤去	集積共(木製34φ)	4.8	m			
キャットウォーク手摺撤去 (2F大会議室)	集積共(鋼製H=1100)	8.8	m			
キャットウォーククラブ撤 (2F大会議室)	集積共(鋼製W400*H2150程度)	1	か所			
既設手摺一部撤去 (2F階段ホール)	集積共(鋼製H=1100)	4.1	m			
天井点検口撤去	集積共	13	か所			
室名札撤去	集積共(平付け型アクリル板250*50)	8	か所			
ピクトグラフ撤去	集積共(平付け型アクリル板200*200)	4	か所			
便所補助手摺撤去	集積共	8	か所			
階段昇降機撤去	集積共	1	式			
(アスベスト撤去)						
ビニル床タイル撤去 (階段)	石綿含有 集積共	14.3	m ²			
ビニル床タイル撤去	石綿含有 集積共	51.6	m ²			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(床改修)						
くつずり	ステンズ製 厚さ2.0 幅40	0.9	m			
床モルタル塗り	金ごて ビニル系床材下地 厚28	37.3	m ²			
階段ビニル床タイル	厚さ2.0 コンポジションビニル床タイルKT	14.3	m ²			
階段ケレン清掃	ビニル系床材下地	14.3	m ²			
ビニル床タイル	厚さ2.0 コンポジションビニル床タイルKT 一般床 -	31.3	m ²			
ビニル床シート	マーブル 厚さ2.0 複層ビニル床シートFS 一般床 熱溶接工法 -	130	m ²			
防滑性ビニル床シート 張り	厚2.5(耐水工法)	29.1	m ²			
誘導用及び 注意喚起用床材	点字ブロック 塩化ビニル製 300×300	2	m ²			
床ケレン清掃	ビニル系床材下地	155	m ²			
(壁改修)						
木製幅木	H=175	0.5	m			
壁普通合板張り	厚12(1類)	9.7	m ²			
軽量鉄骨壁下地	90形 下地張りなし @300	9.7	m ²			
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りなし @300	23	m ²			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りあり @450	114	m ²			
軽量鉄骨壁下地	50形 下地張りなし @300	12.8	m ²			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 扉等三方補強 1800×2000mm程度	1	か所			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 扉等三方補強 1200×2000mm程度	7	か所			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 扉等三方補強 900×2000mm程度	2	か所			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 窓等四方補強 1500×900mm程度	1	か所			
軽量鉄骨壁下地	50形 下地張りなし @300	8.8	m ²			
軽鉄胴縁開口補強	50形	8.4	m			
間仕切壁受け金物	C-100*50*20*2.3(L=1670程度)	1	か所			
壁モルタル塗り	金ごて 内壁 厚20	23.8	m ²			
梁型モルタル塗り	金ごて 厚20	2.5	m ²			
ビニル幅木	高さ75	178	m			
壁 シーリング せっこうボード 張り (GB-S)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード 下地張り 下張GB-S 厚12.5共	62.6	m ²			
壁 シーリング せっこうボード 張り (GB-S)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード 下地 下地張り - -	5.8	m ²			
壁 シーリング せっこうボード 張り (GB-S)	厚12.5 不燃 RC、CB直張り 下地張り - -	33.3	m ²			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地張り 下張GB-R 厚12.5共	31.1	m ²			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付けV目地 下張GB-R 厚12.5共	14.2	m ²			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 継目処理 下張GB-R 厚12.5共	112	m ²			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付けV目地 -	33	m ²			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 継目処理 -	24	m ²			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 RC、CB直張り 継目処理 -	8.8	m ²			
ボード出隅		25.9	m			
壁紙張り (材工共)	壁 プラスチック程度 ボード面 素地B種 接着剤 2種1号	139	m ²			
壁紙張り (材工共)	壁 プラスチック程度 モルタル面 素地B種 接着剤 2種1号	10.5	m ²			
壁紙張替え (材工共)	壁 プラスチック程度 既設モルタル面 下地調整RB種 接着剤 2種1号	41.6	m ²			
壁紙張替え (材工共)	壁 プラスチック程度 既設ボード面 下地調整RB種 接着剤 2種1号	33.8	m ²			
壁紙張り (材工共)	移動間仕切り プラスチック程度 鋼板面	19	m ²			
壁化粧ケイカル板張り	厚6	91.7	m ²			
化粧ケイカル板出隅		22.7	m			
化粧ケイカル板端部見 切り (1FSKの上部)	化粧ケイカル板とビニルクロスの見切り	2.4	m			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
壁ケル清掃	ビニル幅木下地	3.2	m ²			
(天井改修)						
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) 1.5m以上3.0m未満 下地張りなし @225	47.4	m ²			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @225	164	m ²			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) 1.5m以上3.0m未満 下地張りなし @300	18.7	m ²			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @300	53.4	m ²			
軽量鉄骨下がり壁 下地	19形(屋内) H810程度	24	m			
軽量鉄骨下がり壁 下地	19形(屋内) H300~500程度	12.4	m			
軽量鉄骨下がり壁 下地	19形(屋内) H250程度	18.1	m			
軽量鉄骨下がり壁 下地	19形(屋内) H150程度	4.4	m			
軽量鉄骨天井下地 振止め補強加算	ふところ高1.5~3.0m	66.1	m ²			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) ホード等切込み共	1	式			別紙 00-0003
天井インサート	あと施工アンカー	284	m ²			
天井廻縁	塩化ビニル製	360	m			
下り壁見切縁	アルミ製	63.3	m			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
天井点検口	一般タイプ アルミ製 内外枠共額縁 450角	28	か所			
天井モルタル塗り	金ごて 内壁 厚20	0.1	m ²			
内装薄塗材E吹替え(天井)	既設RC面 砂壁状 吹付け 下地調整費共	8.9	m ²			
天井化粧 せっこうボード 張り(GB-D)	厚 9.5 不燃 (スクエア)	211	m ²			
天井下がり化粧 せっこうボード 張り(GB-D)	厚 9.5 不燃 (スクエア)H=900以下	20.9	m ²			
天井下がり化粧 せっこうボード 張り(GB-D)	厚 9.5 不燃 (スクエア)H=300以下	5.1	m ²			
天井 けい酸 カルシウム板張り	タイプ2(ノアス)0.8FK 厚 6 目透かし	72	m ²			
天井下がり けい 酸カルシウム板張り	タイプ2(ノアス)0.8FK 厚 6 目透かし	3.6	m ²			
天井裏既設ガラスワ ール取外し再取付	厚100	46.5	m ²			
(その他改修)						
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 10×10	1.4	m			
E xp. j金物 (内壁用)	アルミ製(クリアランス50)	7.3	m			
E xp. j金物 (内壁コーナー用)	アルミ製(クリアランス50)	2.4	m			
E xp. j金物 (内部天井用)	アルミ製(クリアランス50)	7.2	m			
E xp. j金物 (内部天井コーナー用)	アルミ製(クリアランス50)	0.3	m			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
間仕切り上部笠木 (1F階段)	アルミニウム板(厚1.5)加工(下地PL-2.3) 【W=135程度】	1.6	m			
ささら隙間塞ぎ (1F階段)	アルミニウム板(厚1.5)加工(下地C-100*50 *20*2.3)【W=150程度】	2.1	m			
ささら隙間塞ぎ (1F階段)	鋼板(厚2.3)加工(下地C-60*30*10*2 .3)【W=220程度】	2.3	m			
手摺(1F廊下(南))	(壁付)半硬質樹脂二層成形 34φ	5	m			
自動ドア用保護柵 (1F玄関)	【W=950程度】 JIS A 4722対応	2	か所			
既設手摺撤去あと 補修(2F階段ホール)	(鋼製H=1100)小口塞ぎPL-1.2新設 (48.6φ*1か所)	1	式			
受付カウンター (1F玄関ホール側)	【W1550*D455程度】	1	か所			
受付カウンター (1F事務室側)	【W1550*D555程度】	1	か所			
ブラインドBOX1	木製(W150*H120)	7.9	m			
ブラインドBOX2	木製(W100*H100)	1	m			
ブラインドBOX3	木製(W180*H130)	1.1	m			
ブラインドBOX5	木製(W150*H140)	4	m			
ベネシアブラインド	スラット幅25 横型ギア式 アルミ製	1.6	m ²			
ベネシアブラインド 取 外し再取付		39.8	m ²			
ロールスクリーン(2F物置)	合成・天然繊維製/チェン式 (W1685*H1995程度)	1	か所			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ステージ前幕 (2F大会議室)	(W8810*H3805程度)	1	張り			
ステージ後幕 (2F大会議室)	(W8810*H3955程度)	1	張り			
移動間仕切り(材料費) (1F多目的室)	二方向移動式(手動式)厚60/鋼板 (W3900*H2440程度)★仕上げ別途	1	か所			
移動間仕切り 取付費	(W3900*H2440程度)	1	式			
トイレース(材料費) (1FSK)	メラミン樹脂系化粧板(幅木タイプ) (L=885)*H1900程度	1	か所			
トイレース(材料費) (1F女子便所)	メラミン樹脂系化粧板(幅木タイプ) (L=1480)*H1900程度	1	か所			
トイレース(材料費) (1F女子便所)	メラミン樹脂系化粧板(幅木タイプ) (L=1635)*H1900程度	1	か所			
トイレース(材料費) (1F男子便所)	メラミン樹脂系化粧板(幅木タイプ) (L=1525+805)*H1900程度	1	か所			
トイレース(材料費) (1F男子便所)	メラミン樹脂系化粧板(幅木タイプ) (L=750)*H1900程度	1	か所			
運搬費	トイレース	1	式			
取付調整費	トイレース	1	式			
ライニング面台 (1F多目的便所1)	メラミン樹脂系化粧板 【D=410】L=860/450程度(台形) 小口無し	1	か所			
ライニング面台 (2F多目的便所2)	メラミン樹脂系化粧板 【D=210】L=1685程度 片側小口有り	1	か所			
ライニング面台 (1F多目的便所1)	メラミン樹脂系化粧板 【D=185】L=370程度 片側小口有り	1	か所			
ライニング面台 (1F女子便所)	メラミン樹脂系化粧板 【D=125】L=910程度 片側小口有り	1	か所			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ライニング面台 (1F男子便所)	メラミン樹脂系化粧板 【D=110】L=2440程度 両側小口有り	1	か所			
ライニング面台 (1F多目的便所1)	メラミン樹脂系化粧板 【D=110】L=1010程度 片側小口有り	1	か所			
ライニング面台 (1FSK)	メラミン樹脂系化粧板 【D=110】L=885程度 小口無し	1	か所			
流し台	W1200*D550*H800	1	台			
吊戸棚	W1200*D365*H700	1	か所			
流し台水切り小口 塞ぎ	(D150*H900程度) LGS50+GBR12.5+壁紙	1	か所			
流し上部水切り	ステンレス製 (L=1200)	1	か所			
吊戸棚受け木下地	(W1200*D150*H400程度)	1	か所			
消火器	ABC10型(ステッカー共)	3	か所			
掲示板	枠アルミ製 塩ビ発泡シート張り 900×1800	2	か所			
室名札(平付け型)	アクリル板(250*50)UV印刷	12	か所			
ビクトグラフィ(平付け 型)	アクリル板(200*200)UV印刷	8	か所			
ビクチャーレール	アルミ製 ホワイト 天井埋込みタイプ ボート厚 9.5	10.5	m			
スチールラック(中軽量棚) (K-1)	(W940*D450*H1803) 【金剛(株):BLM 361-455SOR同等】	1	台			
スチールラック(中軽量棚) (K-2)	(W2140*D450*H1803) 【金剛(株):BLM(361+461)-455SOR同等】	1	台			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		塗装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(外部)						
SOP塗り改修仕様	鉄鋼面 工程B種 塗料1種 錆止工程C塗料A(鉛・ crom7-1種) 下地RB種(塗替え面)	22.4	m ²			
SOP塗り改修仕様	鉄鋼面 工程B種 塗料1種 錆止工程C塗料A(鉛・ crom7-1種) 下地RB種(塗替え面)	21.7	m ²			
SOP塗り改修仕様(養生管)	亜鉛めっき鋼面 工程B種 塗料1種 錆止工程C 下地RB種(塗替え面)	12	m			
DP塗り改修仕様(縦樋)	塩ビ管 1級 下地RB種(塗替え面)	38.3	m			
EP-G塗り改修仕様	けい酸カルシウム板面 工程B種(見上) 下地調整RB種(塗替え面)	4.5	m ²			
(内部)						
SOP塗り	木部 工程B種 塗料1種 素地A種(屋内)	8.3	m ²			
SOP塗り(糸幅300mm以下)	鉄鋼面 工程B種 錆止現場1回共	2.3	m			
SOP塗り(糸幅300mm以下)	木部 工程B種(屋内) 素地A種	0.5	m			
EP-G塗り	モルタル面 工程B種(一般) 素地B種	14.5	m ²			
EP-G塗り	ポर्ट面 工程B種(一般) 素地B種	47.2	m ²			
EP-G塗り	けい酸カルシウム板面 工程B種(一般) 素地B種	3.6	m ²			
EP-G塗り	モルタル面 工程B種(見上) 素地B種	0.7	m ²			
EP-G塗り	けい酸カルシウム板面 工程B種(見上) 素地B種	72	m ²			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		耐震（躯体）改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
砂利地業	再生切込砕石	2.7	m ³			
砂地業	(土間下)	0.8	m ³			
床下防湿層敷き	ポリエチレンフィルム 厚0.15	27.3	m ²			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S15 粗骨材20	4.2	m ³			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=24 S15 粗骨材20	0.4	m ³			
構造体強度補正		1	式			別紙 00-0004
コンクリート打設手間	土間 ポンプ打設 50m ³ /回程度 S15～S18 - 圧送費、基本料別途	4.2	m ³			
コンクリート打設手間	小型構造物 人力打設 工作物の基礎等 S15～S18 - -	0.4	m ³			
コンクリートポンプ 圧送	30m ³ 以上 50m ³ /回未満 基本料金別途加算	4.2	m ³			
コンクリートポンプ 基本料金	30m ³ 以上 50m ³ /回未満	1	回			
型枠	普通合板型枠 - 基礎部 -	0.9	m ²			
型枠	普通合板型枠 ラーメン構造 地上軸部 階高2.8m程度	5.5	m ²			
型枠運搬費	4 t 車 30km程度 往復	6.4	m ²			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D10	0.2	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D13	0.01	t			

建築工事 細目別内訳

人権文化センター改修		環境配慮改修		撤去		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(直接仮設)						
単管一本足場 (壁隔離シート用)	基本料 修理費含む 10m未満 【損料30日】(運搬共)	10.6	m ²			
単管一本足場 (天井隔離シート用)	基本料 修理費含む 10m未満 【損料30日】(運搬共)	24.7	m ²			
養生フィルム貼り (床面)	(厚0.15mm)二重張り・隔離シート	31.5	m ²			
養生フィルム貼り (壁面)	(厚0.08mm)一重張り・隔離シート	124	m ²			
養生フィルム貼り (天井面)	(厚0.08mm)一重張り・隔離シート	29.3	m ²			
整理清掃片付け		31.5	m ²			
(アスベスト除去)						
外装薄塗材撤去 (1F外壁)	(アスベスト含有材)ALC面、泡噴出・集じん装置付き湿式ペイストライナー工法とする。	55	m ²			
粉じん飛散抑制剤 吹付(湿潤化用)	除去面	55	m ²			
専用機器損料	運搬・設置・解体・発電機・コンプレッサー共	1	式			
消耗品	手袋・マスク	1	式			
粉塵濃度測定	作業中2点,作業後2点	1	式			
除去石綿処理	密封処理(二重梱包)	0.3	m ³			
除去石綿処理	密封処理(二重梱包)(養生フィルム)	0.8	m ³			

建築工事 細目別内訳

付属棟解体		カーポート解体				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(直接仮設)						
単管一本足場	基本料 修理費含む 10m未満 【損料10日】	18	m ²			
防音シート張り	修理費含む【損料10日】	18	m ²			
仮設材運搬 (単管一本足場)		18	m ²			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		18	m ²			
(全解体)						
RC造建物解体 基礎コンクリート解体	大型ブレーカー・圧砕機併用	0.4	m ³			
鉄筋切断	集積共	0.4	m ³			
地業とりこわし	集積・積込み共	0.1	m ³			
カーポート上屋解体	(アルミ製)鋼材量8.6kg/m ² 程度 人力機械併用(鉄骨カッター主体) ★屋根共	10.8	床m ²			
とりこわし機械 運搬 (ベームマシン, ハックホウ)	排出ガス対策型 油圧式クローラ型0.5m ³	1	往復			
計						

建築工事 細目別内訳

付属棟解体		車庫倉庫解体				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(直接仮設)						
単管一本足場	基本料 修理費含む 10m未満 【損料10日】	62	m ²			
内部仕上足場	修理費含む 脚立足場 階高4.0m以下 【損料10日】	17.3	m ²			
防音シート張り	修理費含む【損料10日】	62	m ²			
仮設材運搬 (単管一本足場)		62	m ²			
仮設材運搬 (内部仕上足場 脚立足場)	平家建	17.3	m ²			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		62	m ²			
(全解体)						
RC造建物解体 上部躯体解体	地上からの解体 圧砕機主体	0.5	m ³			
RC造建物解体 基礎コンクリート解体	大型ブレーカー・圧砕機併用	0.7	m ³			
土間コンクリート解体	大型ブレーカー・圧砕機併用	4.6	m ³			
鉄筋切断	集積共	5.7	m ³			
地業とりこわし (捨てコンクリート)	集積共	0.2	m ³			
地業とりこわし	集積・積込み共	4.1	m ³			
S造建物上屋解体	鋼材量3.4kg/m ² 程度 人力機械併用(鉄骨カッター主体) ★屋根・外壁共	31.8	床m ²			

建築工事 細目別内訳

付属棟解体		ほんごう子ども広場棟解体				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
単管一本足場	基本料 修理費含む 10m未満 【損料10日】	85.5	m ²			
防音シート張り	修理費含む【損料10日】	85.5	m ²			
仮設材運搬 (単管一本足場)		85.5	m ²			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		85.5	m ²			
木造建物基礎解体	有筋 手こわし併用機械解体 積込み共	18.5	m ²			
木造建物上屋解体	住宅程度 手こわし併用機械解体 積込み共	18.5	m ²			
照明器具 撤去	直付蛍光灯(逆富士型) FL20W×2 処分共	2	個			
とりこわし 発生材運搬★	(がれき類)	5.8	m ³			
とりこわし 発生材運搬★	(ガラス・陶磁器屑)	0.1	m ³			
とりこわし 発生材運搬★	(廃プラスチック)	0.3	m ³			
とりこわし 発生材運搬	(再生木材)ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m ³ 木材類 DID区間有り 7.0km以下	9.7	m ³			
とりこわし 発生材運搬★	アスベスト含有材(その他建材) スレートボード・大平板	1.1	m ³			
とりこわし 発生材処分★	がれき類	5.8	m ³			
とりこわし 発生材処分★	ガラス・陶磁器屑	0.1	m ³			
とりこわし 発生材処分★	廃プラスチック	0.3	m ³			

建築工事 細目別内訳

発生材処理		発生材処理		運搬		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
発生材積込み	コンクリート類 人力	42.3	m3			
発生材積込み	ボード・木材類 人力	7.9	m3			
とりこわし 発生材運搬	(砕石)ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 土砂 DID区間有り 3.0km以下	10.4	m3			
とりこわし 発生材運搬	(再生コンクリート)ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 3.5km以下	18.8	m3			
とりこわし 発生材運搬	(がれき類)ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 27.0km以下	12.6	m3			
とりこわし 発生材運搬	(ガラス・陶磁器屑)ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 27.0km以下	0.5	m3			
とりこわし 発生材運搬	(廃プラスチック)ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 石こうボード類 DID区間有り 27.0km以下	1.3	m3			
とりこわし 発生材運搬	(再生木材)ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 木材類 DID区間有り 7.0km以下	0.7	m3			
とりこわし 発生材運搬	(可燃物)ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 木材類 DID区間有り 27.0km以下	2.5	m3			
とりこわし 発生材運搬	アスベスト含有材(廃プラスチック) ダンプトラック 2t積級 人力積込 石こうボード類 DID区間有り 23.0km以下	0.2	m3			
とりこわし 発生材運搬	アスベスト含有材(その他建材) スレートボード・大平板 ダンプトラック 2t積級 人力積込 石こうボード類 DID区間有り 23.0km以下	0.4	m3			
とりこわし 発生材運搬	アスベスト含有材(石膏ボード) ダンプトラック 2t積級 人力積込 石こうボード類					

建築工事 細目別内訳

発生材処理		発生材処理		処分		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
とりこわし発生材処分	砕石	10.4	m3			
とりこわし発生材処分	再生コンクリート	44.2	単位 t			
とりこわし発生材処分	がれき類	12.6	m3			
とりこわし発生材処分	ガラス・陶磁器屑	0.5	m3			
とりこわし発生材処分	廃プラスチック	1.3	m3			
とりこわし発生材処分	再生木材	0.7	m3			
とりこわし発生材処分	可燃物	2.5	m3			
とりこわし発生材処分	アスベスト含有材(廃プラスチック)	0.2	m3			
とりこわし発生材処分	アスベスト含有材(その他建材) スレートボード・大平板	0.4	m3			
とりこわし発生材処分	アスベスト含有材(石膏ボード)	2.8	m3			
スクラップ	鉄屑(H2)	▲0.89	t			
スクラップ	鉄屑(H3)	▲3.38	t			

建築工事 別紙明細

人権文化センター改修		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) ホ-ト`等切込み共	1	式			別紙 00-0003
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 1300× 750mm程度 ホ-ト`等切込み共	2	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 1300× 700mm程度 ホ-ト`等切込み共	6	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 1000×1000mm程度 ホ-ト`等切込み共	3	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 639× 639mm程度 ホ-ト`等切込み共	16	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 500× 500mm程度 ホ-ト`等切込み共	4	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 350× 350mm程度 ホ-ト`等切込み共	3	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 320× 320mm程度 ホ-ト`等切込み共	2	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 300× 300mm程度 ホ-ト`等切込み共	7	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 250× 250mm程度 ホ-ト`等切込み共	1	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 220×1235mm程度 ホ-ト`等切込み共	14	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 450× 450mm程度 ホ-ト`等切込み共	28	か所			
計						

